Print Server N01

Version 6.0

ユーザーズガイド 運用編

FUJI Xerox

プリンターで紙幣を印刷したり、有価証券などを不正に印刷すると、その印刷物を使用するかどうかにかかわらず、法律に違反し罰せられます。

万一本体の記憶媒体（ハードディスク等）に不具合が発生した場合、受信したデータ、蓄積されたデータ、設定登録されたデータ等が消失することがあります。データの消失による損害については、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

コンピューターウイルスや不正侵入などによって発生した障害については、弊社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

ご注意
①本書の内容の一部または全部を無断で複製・転載・改編することはおやめください。
②本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
③本書に、ご不明な点、誤り、記載もれ、乱丁、落丁などがありましたら弊社までご連絡ください。

Microsoft Corporationの許可を得て画面写真を使用しています。

はじめに

このたびは、Print Server N01をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

Print Serverは、PostScript®を使用して、高品質のカラープリントを実現するためのプリントサーバーです。

本書は、ご使用のOS環境の基本的な知識や操作方法、およびPrint Serverの基本的な操作を習得されていることを前提に、色の調整やプリントの設定など、Print Serverをより高度に使いこなすための設定方法や情報を記載しています。

Print Serverの基本的な操作については、『ユーザーズガイド 導入編』をお読みください。

Print Serverの性能を十分に発揮させ、効果的にご利用いただくために、Print Serverをご使用になる前に本書を必ずお読みのうえ、正しくご利用ください。また、カラープリンターの機能や操作については、ご使用のカラープリンターに付属のマニュアルをお読みください。なお、弊社の保証範囲は、本製品の標準構成とそのオプション商品に限ります。

本書は、読み終わったあとも必ず保管してください。Print Serverをご使用中に、操作でわからないことや不具合が出たときに読み直してご活用いただけます。

富士ゼロックス株式会社

Contents

はじめに 3
Contents 4
マニュアル体系 9
本書の使い方 10
本書の表記 11
商標について 12

1 さまざまな機能を使用してのプリント 13
1.1 印刷前に画像を確認する 14
1.1.1 分版出力の合成（色分版の合成） 14
1.1.2 2色印刷シミュレーション 16
1.1.3 画像警告機能 19
1.1.4 プリフライト 25
1.1.5 ファイルの保存とイメージの確認 27
1.2 さまざまな割り付け方法でプリントする 30
1.2.1 小冊子作成 30
1.2.2 2アッププリント 35
1.2.3 リピートプリント 36
1.2.4 差込印刷 39
1.3 ワークフローと連携する 44
1.3.1 ホットフォルダを使用したプリント 44

2 色の調整と管理 47
2.1 カラーマネージメントについて 48
2.1.1 カラーマネージメント 49
2.1.2 カラーマネージメントのワークフロー 52
2.2 キャリブレーションで色を補正する 53
2.2.1 キャリブレーションの設定 54
2.2.2 キャリブレーションの実施 55
2.2.3 キャリブレーションファイルの設定 59
2.2.4 キャリブレーションターゲットファイルの設定 64
2.2.5 i1_Readerと測色器 67
2.3 RGB用ICCプロファイルを設定する 78
2.3.1 RGB色補正プロファイルの設定 78
2.3.2 RGB出力プロファイルの設定 81
2.4 CMYKプロファイルを設定する 86
2.4.1 測色データの作成 87
2.4.2 CMYKプロファイルへの変換 90
2.4.3 CMYKプロファイルの設定 91

2.5 特色補正プロファイルを設定する 93
2.6 ユーザー調整カーブを設定する 95
2.7 濃度調整カーブを設定する 99
2.8 特色を設定する 103
2.8.1 特色の設定 103
2.8.2 特色パレット 106
2.8.3 特色チャートのプリント 109
2.9 カラーを置き換える 112

3 ServerManagerでできるジョブ操作 115
3.1 ServerManagerについて 116
3.1.1 ServerManagerウィンドウ 116
3.1.2 クライアントコンピューターからの接続 123
3.1.3 ServerManagerのメニュー 126
3.1.4 システムメニュー 130
3.1.5 ジョブメニュー 131
3.1.6 表示メニュー 136
3.1.7 ヘルプメニュー 136
3.2 サムネールでジョブを編集する 137
3.3 ジョブを連結する（ビルドジョブ） 143
3.3.1 ビルドジョブの作成 143
3.3.2 ビルドジョブのプリントオプション 146
3.4 Raster Image Viewerを使用する 154
3.4.1 Raster Image Viewerの起動方法 154
3.4.2 Raster Image Viewerウィンドウ 155
3.4.3 Raster Image Viewerのメニュー 161
3.5 ファイルを送受信する、転送する 165
3.5.1 ボックスの環境設定 166
3.5.2 ファイルの送信（メール添付） 171
3.5.3 ファイルの受信 172
3.5.4 通信履歴の確認 175
3.5.5 送信ジョブの管理 178
3.5.6 アドレス帳の管理 179
3.5.7 ファイルの転送 183

4 プリントの設定 189
4.1 ジョブを編集する（プリントオプション項目） 190
4.1.1 現在の設定 192
4.1.2 基本設定 193
4.1.3 RIP 194
4.1.4 カラー 195
4.1.5 画質 205
4.1.6 用紙/ページ 210
4.1.7 出力方法 220
4.1.8 排出/フィニッシング/両面 226
4.1.9 プリフライト 228
4.1.10 グラフィックス 229
4.1.11 その他（セキュリティ） 230
4.1.12 ジョブ情報 232
4.1.13 ユーザー情報 234
4.2 プリントオプション項目について 235
4.2.1 プリンタードライバーのプリントオプション 235
4.3 プリント時に使用する各種設定を登録する 237
4.3.1 通信設定、表示単位の変更 237
4.3.2 ウォーターマークの設定 239
4.3.3 ページ番号設定ファイル 242

5 Print Serverのソフトウェア 253
5.1 DropUtility 254
5.1.1 DropUtilityの操作（Macintoshクライアント） 255
5.1.2 DropUtilityの操作（Windowsクライアント） 257
5.1.3 DropUtilityの設定 259
5.2 WebManager 265
5.2.1 ［状態］タブ 266
5.2.2 ［ジョブと履歴］タブ 267
5.2.3 ［ログイン］タブ 271
5.2.4 ［プリファレンス］タブ 272
5.2.5 ［アップロード］タブ 273
5.2.6 ［ダウンロード］タブ 275
5.3 Easy Magnifier 278
5.4 Printer Status Monitor 281
5.4.1 Print Serverへの接続 281
5.4.2 Printer Status Monitorのメニュー 282
5.4.3 Printer Status Monitorのウィンドウ 283

6 Print Serverの情報とエラー表示 285
6.1 Print Serverの情報を確認する 286
6.1.1 プリント履歴 286
6.1.2 フォント情報 288
6.1.3 スタートアップページ 294
6.1.4 エラー履歴の収集 295
6.1.5 ジョブ検索 295
6.1.6 データの完全消去 297
6.2 エラーダイアログボックスについて 299
6.3 エラージョブメッセージについて 300
6.3.1 RIPエラー 300
6.3.2 コントローラーボードエラー 309
6.3.3 プリンターエラー 309
6.3.4 データベースエラー 313
6.3.5 受信時エラー 315
6.3.6 メール送受信、ファイル転送時エラー 315
7 Appendix 317
7.1 RIP処理に関する設定 318
7.1.1 グレースケールのシャドウ部の設定 318
7.1.2 RGB画像警告の設定 319
7.1.3 特色警告の設定 320
7.1.4 インキ総量警告の設定 321
7.1.5 ヘアライン警告色の設定 322
7.1.6 オーバープリント警告の設定 324
7.1.7 コンポジットオーバープリントの設定 327
7.1.8 Kオーバープリントの設定 328
7.1.9 EPS（JPEGエンコーディング）画像の扱い 329
7.1.10 メモ書きの変更 329
7.2 プリントに関する事項 333
7.2.1 TCP/IPからのプリント使用制限の設定 333
7.2.2 PDFプリンタードライバーに対する制限事項 334
7.2.3 アプリケーションに対する制限事項 336
7.2.4 RIPの種類に対する制限事項 340
7.2.5 フォントに対する制限事項 341
7.2.6 解消できるプリントエラー 342
7.2.7 カスタムサイズの用紙へのプリント 342
7.3 セキュリティーに関する設定 344
7.3.1 管理者のパスワード 344
7.3.2 フォルダーの共有 345
7.3.3 FTPの匿名アクセス 346

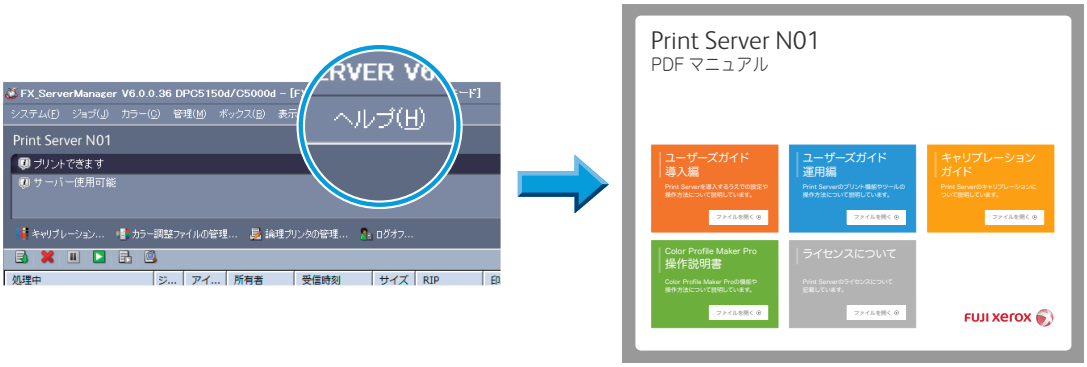
7.4 RGB画像警告機能 348
7.5 Q & A、用語集 351
7.5.1 Q & A 351
7.5.2 用語集 353
Index 356

マニュアル体系

Print Serverには、以下のマニュアルが用意されています。使用目的に合わせてご利用ください。

■PDFマニュアル

ServerManagerの［ヘルプ］メニューから表示できます。



補足　『Color Profile Maker Pro操作説明書』を除き、アプリケーションUSBメモリーの「Document」フォルダーにも格納されています。
（『Color Profile Maker Pro操作説明書』は、「ClientWindows」→「CPMP」フォルダー）

参照　クライアントコンピューターのServerManagerで表示する方法については、「3.1.7 ヘルプメニュー」（P.136）を参照してください。

- **ユーザーズガイド 導入編**
  Print Serverを導入するうえでの設定や操作方法について説明しています。
- **ユーザーズガイド 運用編　＜本書＞**
  Print Serverのプリント機能、色の調整の仕方、プロファイルの割り当てやツールの操作方法について説明しています。
- **キャリブレーションガイド**
  Print Serverのキャリブレーションについて説明しています。
- **Color Profile Maker Pro操作説明書**
  Color Profile Maker Proの機能や操作方法について説明しています。
- **ライセンスについて**
  Print Serverのライセンスについて記載しています。

■紙マニュアル

- **ユーザーズガイド セットアップ編**
  Print Serverを安全にご利用いただくために、Print Serverを使用する前に知っておいていただきたいことと、Print Serverのセットアップ方法について説明しています。
- **Print Serverに関する補足情報**
  Print Serverの追加補足情報について説明しています。

参照　プリントに関する制限については、補足情報とあわせて、「7.2　プリントに関する事項」（P.333）を参照してください。

本書の使い方

本書は、Print Serverのいろいろな機能や操作方法を記載しています。

本書の構成

本書の構成は、以下のとおりです。

■1 さまざまな機能を使用してのプリント（P.13）

Print Server のさまざまなプリント機能（小冊子作成、差込印刷など）、ワークフローとの連携について説明しています。

■2 色の調整と管理（P.47）

プリンターのキャリブレーション方法とカラープロファイルの作成方法、およびプロファイルを使用したシミュレーションの流れについて説明しています。

■3 ServerManagerでできるジョブ操作（P.115）

ServerManagerから行うジョブの操作（ビルドジョブやRaster Image Viewerなど）、ファイルの送受信について説明しています。

■4 プリントの設定（P.189）

プリントオプション項目（[ジョブ編集] ダイアログボックス）、その他のプリント時の設定について説明しています。

■5 Print Serverのソフトウェア（P.253）

アプリケーションを開かないでプリントできるDropUtility、クライアントコンピューターのWebブラウザーでジョブの管理ができるWebManagerなどについて説明しています。

■6 Print Serverの情報とエラー表示（P.285）

Print Serverで確認できる情報、エラージョブメッセージについて説明しています。

■7 Appendix（P.317）

画像に対する警告値とメモ書きの設定などについて説明しています。

本書の表記

本文中では、説明する内容によって、以下のマークを使用しています。

補足　補足事項を記載しています。

参照　参照先を記載しています。

本文中では、以下の記号を使用しています。

「　」　フォルダー、ファイル、アプリケーション、CD/DVD/USB、機能などの名称や入力文字などです。また、マニュアル内にある参照先です。

『　』　参照するマニュアルです。

[　]　コンピューターのメニュー、コマンド、画面（ウィンドウやダイアログボックス）とそれらに表示されるタブ、ボタン、メニュー、項目などの名称です。

→　メニュー、フォルダーの選択順序です。[{メニュー名}] → [{メニュー名}]（フォルダーの場合は、「{フォルダー名}」→「{フォルダー名}」）のように記載しています。

>　プリントオプションの表示順序です。[{項目名}] > [{項目名}] のように記載しています。プリントオプションについては、「4.1 ジョブを編集する（プリントオプション項目）」（P.190）を参照してください。

{　}　ユーザーやサーバーの名称など、任意の文字を表します。ユーザー名を表すときは、{ユーザー名}のように記載しています。

〈　〉　キーボードのキーです。

 　フォルダーを表します。

 　ファイルを表します。

本文中では、以下の文章表現を使用しています。

・「＊」は任意の数字です。

・OS が Mac OS Classic（9. ＊）のクライアントコンピューターを「Mac OS Classic クライアント」、OS X、およびmacOSのクライアントコンピューターを「macOSクライアント」と記載しています。「Mac OS Classicクライアント」と「macOSクライアント」を合わせて、「Macintoshクライアント」と記載しています。

・OSがMicrosoft® Windows®のクライアントコンピューターを「Windowsクライアント」と記載しています。

・特に注釈がない限り、シアンは「C」、マゼンタは「M」、イエローは「Y」、ブラックは「K」、レッドは「R」、グリーンは「G」、ブルーは「B」と記載しています。

本書では、Microsoft Windows 10の画面で説明しています。ご使用のOSによっては、メニューや項目などの名称が異なることがあります。

本書では、一部を除いてデフォルトの画面で説明しています。説明のために、デフォルトでない画面を使用している場合は、補足で明記しています。

本書に記載されている画面や Print Server のイラストは一例です。ご使用の機種やソフトウェア、OS のバージョンによって異なることがあります。

本書の内容は、本書の制作時点のものです。本書に記載されている画面やイラスト、お問い合わせ先の窓口、Webサイトのアドレスなどは、将来予告なしに変更されることがあります。あらかじめご了承ください。

参照　わからない用語があったときは、「7.5.2 用語集」（P.353）を参考にしてください。

商標について

・Apple、AppleTalk、ColorSync、Macintosh、macOS、OS X、QuickDraw、Safari、および TrueType は、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。

・Adobe、Acrobat、Adobe PDF、Adobe PDF Print Engine、ATM、Distiller、FreeHand、Illustrator、InDesign、PageMaker、Photoshop、PostScript、PostScript 3、PostScriptロゴ、およびReaderは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。

・Microsoft、Excel、Internet Explorer、OpenType、PowerPoint、Windows、および Windows Server は、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

・中ゴシックBBBは、株式会社モリサワとアドビシステムズ社が共同開発したフォントで承認外の複製は禁止しており、それらの書式名は株式会社モリサワの商標です。

・X-Riteは、X-Rite社の米国、およびその他の国における登録商標であり、Eye-One、i1 ロゴ・i1 はX-Rite社の商標です。

・Quark、およびQuarkXPressは、Quark Software Inc.とQuark関連会社の米国およびその他各国における商標または登録商標です。

・Netscapeは、AOL Inc.の登録商標です。

・Firefoxは、Mozilla Foundationの登録商標です。

・UNIXは、The Open Groupの米国、およびその他の国における登録商標です。

・字識人、JTCウインは、株式会社ニィスの登録商標です。

・QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

・PANTONEは、Pantone LLCの登録商標です。

・接続するプリンターのソフトウェアには、Independent JPEG Group で作成されたコードの一部を利用しています。

・その他の社名、または商品名等は各社の登録商標または商標です。

・Xerox、Xeroxロゴ、およびFuji Xeroxロゴは、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。

・DocuPrintは、富士ゼロックス株式会社の登録商標または商標です。

1

さまざまな機能を使用してのプリント

Print Serverのさまざまなプリント機能（小冊子作成、差込印刷など）、ワークフローとの連携について説明しています。

1.1 印刷前に画像を確認する 14
1.1.1 分版出力の合成（色分版の合成） 14
1.1.2 2色印刷シミュレーション 16
1.1.3 画像警告機能 19
1.1.4 プリフライト 25
1.1.5 ファイルの保存とイメージの確認 27
1.2 さまざまな割り付け方法でプリントする 30
1.2.1 小冊子作成 30
1.2.2 2アッププリント 35
1.2.3 リピートプリント 36
1.2.4 差込印刷 39
1.3 ワークフローと連携する 44
1.3.1 ホットフォルダを使用したプリント 44

1.1 印刷前に画像を確認する

Print Serverには、印刷用データを確認するときに、印刷をシミュレートしたり、印刷に適さないデータを検出して警告するなど、印刷用データの確認に役立つさまざまな機能が搭載されています。

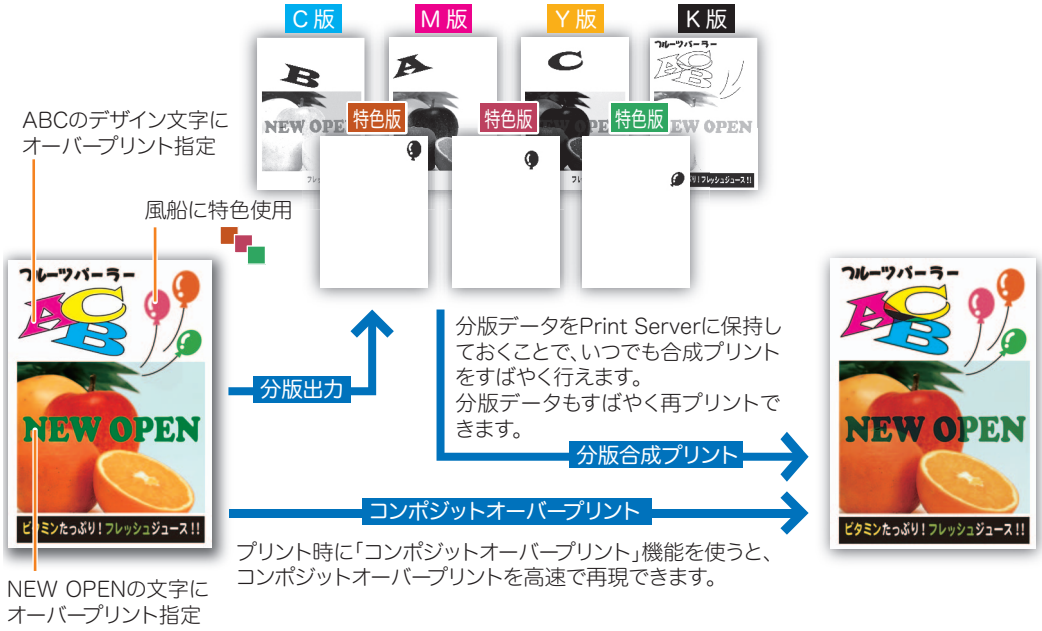
1.1.1 分版出力の合成（色分版の合成）

各色に分版されたデータが合成してプリントされます。

Adobe® Illustrator®、QuarkXPress®、またはAdobe InDesign®などのレイアウトアプリケーションで提供されている色分版機能は、フィルム出力するイメージセッター用です。それぞれのページは１枚以上（通常４枚）のグレースケールのページに変換されて出力されます。色分版の合成機能を持たないプリンターでこのページをプリントすると、オリジナルの１ページごとに、使われている色数と同じ枚数がグレースケールでプリントされます。

この機能を使うと、これらのページを１枚のカラーページに合成してプリントできます。この機能で作成した色校正は、フィルムから作成した色校正の代わりになります。オーバープリントを再現できるので、トラッピングの結果も確認できます。

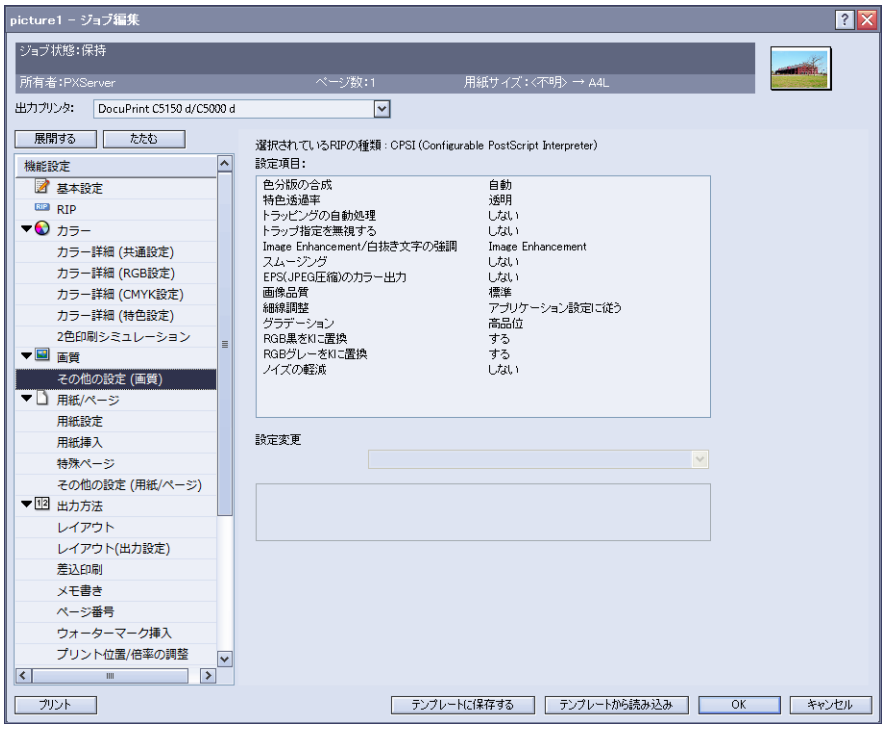
■色分版の合成



1. プリントオプションを表示させます。

   プリントオプションは、ServerManagerにあるジョブから［ジョブ編集］ダイアログボックスを開くか、クライアントコンピューターのファイルから［印刷］（または［プリント］）→［Print Server N01］→［詳細設定］をクリックするなどして表示させます。

2. 左側の機能設定ツリーから［画質］>［その他の設定（画質）］を選択します。



設定項目が表示されます。

3. ［色分版の合成］を選択し、表示されたメニューで、各色の版を合成するスタイルを選択します。

通常は［自動］を選択します。

プリントオプションの設定（その他の設定（画質）-色分版の合成）

各色の版を合成するスタイルを選択します。

- ・自動
- ・しない
- ・コンポジット分解
- ・QuarkXPress-4 Style
- ・QuarkXPress-3 Style
- ・PageMaker Style
- ・FreeHand Style
- ・Canvas Style
- ・Illustrator Style
- ・InDesign Style

［自動］の場合、特色版の合成にも対応できます。対応している特色は、DIC、TOYO、PANTONE® です。また、ユーザーが任意に作成した特色（「CUSTOM」）にも対応しています。

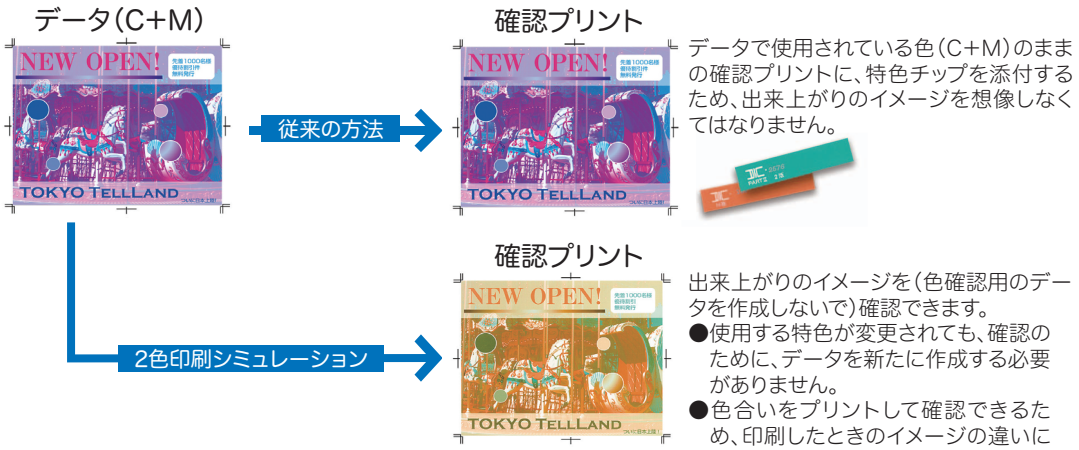
補足

- ・QuarkXPress 6. * /8 からの分版合成プリント時には、［自動］、または［QuarkXPress-4 Style］を選択してください。
- ・［自動］を選択しても、Adobe Photoshop® の分版ジョブを自動合成できません。分版合成する場合は、［Illustrator Style］にしてください。
- ・［カラー］>［カラーモード］が［グレースケール（K）］の場合は、色分解の合成は無効です。
- ・ビルドジョブでは、［コンポジット分解］を選択すると、正しくプリントされません。

1.1.2　2色印刷シミュレーション

使用する色版（C、M、Y、K）の入力と置き換える特色名、またはCMYK色を入力します。
この機能を使うと、チラシなどのような特色を使用した2色印刷を再現できます。（特色以外も入力できます）

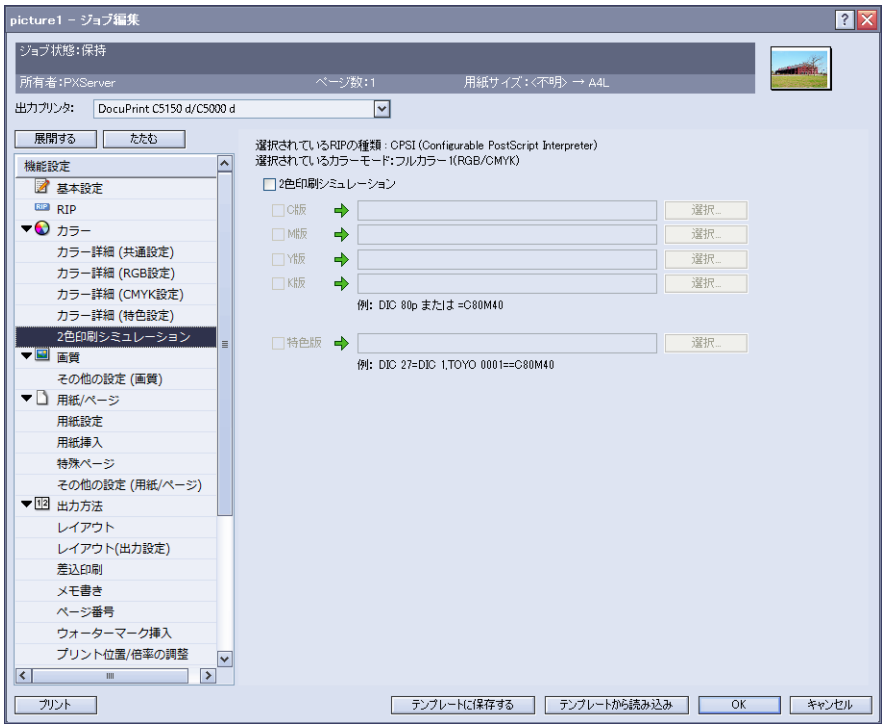
■2色印刷シミュレーション



1. プリントオプションを表示させます。

   プリントオプションは、ServerManagerにあるジョブから［ジョブ編集］ダイアログボックスを開くか、クライアントコンピューターのファイルから［印刷］（または［プリント］）→［Print Server N01］→［詳細設定］をクリックするなどして表示させます。

2. 左側の機能設定ツリーから［カラー］＞［2色印刷シミュレーション］を選択します。



   設定項目が表示されます。

3. ［2色印刷シミュレーション］にチェックマークを付けます。

4. 使用する色版にチェックマークを付け、置き換える特色名、または色の数値を入力します。

・Print Serverに登録されている特色名、または書式に従った色の数値を入力します。
・CMYK色は64バイト、特色は512バイトで入力します。
・［選択］をクリックしても、CMYK色、または特色を選択できます。

プリントオプションの設定（2色印刷シミュレーション）

［2色印刷シミュレーション］にチェックマークを付けると、レイアウトのCMYK、特色を置き換える特色名、またはCMYK色をテキストボックスに入力できます。

特色名は、Illustratorなどのアプリケーションで使用する名称と同じです。また、CMYK色を入力する場合は、「=」に続けて、色とパーセント数値を入力します。

［選択］をクリックしても、色を選択できます。

テキストボックスが空欄の場合は、設定した色版がそのままの色でプリントされます。

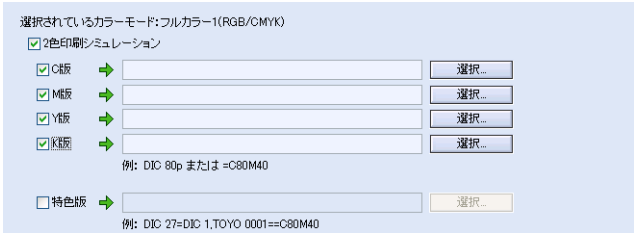
◆入力例）

CMYK＋特色2色（DIC 1とDIC 10）が使用されているファイルに対して、以下の設定でプリントできます。

例1

特色版全部をプリントしない

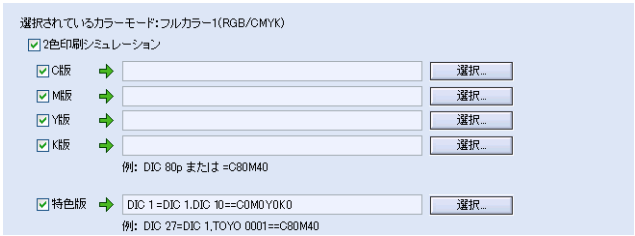
・［C版］、［M版］、［Y版］、［K版］にチェックマークを付けて、テキストボックスは空欄にする。
・［特色版］のチェックマークを外す。



例2

特色版はDIC 1だけプリントし、DIC 10はプリントしない

・［C版］、［M版］、［Y版］、［K版］にチェックマークを付けて、テキストボックスは空欄にする。
・［特色版］にチェックマークを付けて、テキストボックスに「DIC 1=DIC 1,DIC10==C0M0Y0K0」と入力する。

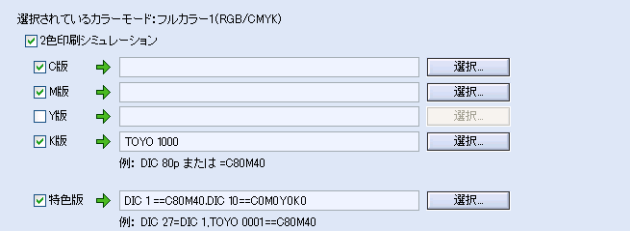


例3

C版、M版はプリント、Y版はプリントしない、K版をTOYO 1000に置き換え、DIC 1をC80%/M40%に置き換え、DIC 10はプリントしない

・［C版］、［M版］にチェックマークを付けて、テキストボックスは空欄にする。
・［Y版］のチェックマークを外す。
・［K版］にチェックマークを付けて、テキストボックスに「TOYO 1000」と入力する。

・［特色版］にチェックマークを付けて、テキストボックスに「DIC 1==C80M40,DIC10==C0M0Y0K0」と入力する。



補足

・CMYKのうち、チェックマークが外れている色のオブジェクトをプリントしようとしても、そのオブジェクトはプリントされませんが、プリントされる色部分にはそのオブジェクトのノックアウト効果による白い影ができます。

・［プリフライト］＞［画像警告］＞［ヘアライン警告］が［抽出］、または［オーバープリント警告］が［抽出］のとき、抽出すべきオブジェクトの色のチェックマークが外れている場合は、そのオブジェクトの抽出結果はプリントされません。

・分版ジョブに対して、プリントオプションの［画質］＞［その他の設定（画質）］＞［色分版の合成］が［しない］の場合は、Kだけのプリントになります。このときに、2色印刷シミュレーションを実行した場合は、Kがプリントされない設定になっていると、白紙がプリントされます。

・特色が使われているジョブをコンポジットプリントしたときに、2色印刷シミュレーションを実行した場合は、特色をCMYKで表現した値に対して2色印刷シミュレーションが行われるため、特色とは異なる色になります。

・2色印刷シミュレーションでは、特色を使用しないように設定するか、または分版プリントを行ってください。

・分版プリントでは、2色シミュレーションでも、特色は特色のシミュレーションが行われてプリントされます。

・InDesign 1.0のコンポジットプリントでは、トンボは単色Kでプリントされるので、トンボをプリントするにはK版をプリントするように設定してください。

・InDesign 2.0やIllustrator 9.0/10.0のコンポジットプリントでは、レジストレーションカラーが使用されたオブジェクト（トンボも含む）は、2色印刷シミュレーションの対象になりません。この場合、［画質］＞［コンポジットオーバープリント］が［プロセスカラー］、または［プロセスカラー＋特色］のとき、2色印刷シミュレーションが行われます。

・PDF®内のオーバープリントが使用されているオブジェクトは、2色印刷シミュレーションの対象になりません。（Separationカラースペースが設定されるため）
この場合、［画質］＞［コンポジットオーバープリント］が［プロセスカラー］、または［プロセスカラー＋特色］のとき、2色印刷シミュレーションが行われます。

・［カラー］＞［カラーモード］が［フルカラー 1（RGB/CMYK）］で、2 色印刷シミュレーションを実行した場合、RGB色補正が適用されません。

1.1.3　画像警告機能

画像警告機能は、警告するように設定した要素がファイル内にある場合、要素を含むオブジェクトを警告表示してプリントする機能です。

この機能を使うと、印刷時にトラブルとなる危険性のあるオブジェクトが検出、警告され、プリント時に確認できます。

画像警告機能は、ServerManager の［システム］→［プリントジョブの設定］の［画像警告指定］が［無視しない］の場合に有効になります。

補足

・警告が複数ある画像の警告優先順位は、以下のとおりです。
- コンポジットプリント時は、「特色」、「ヘアライン」、「オーバープリント」、「RGB 画像 / インキ総量」の順です。（インキ総量警告を有効にすると、RGB画像警告は実施されません）
- 分版プリント時は、「ヘアライン」、「インキ総量」、「特色」の順です。（分版プリント時は、オーバープリント警告、RGB画像警告は実施されません）

・ServerManager の［システム］→［プリントジョブの設定］の［画像警告指定］が［エラーにする］の場合、画像警告が設定されているジョブの処理時には、「画像警告プリントオプションエラー（282）」になります。

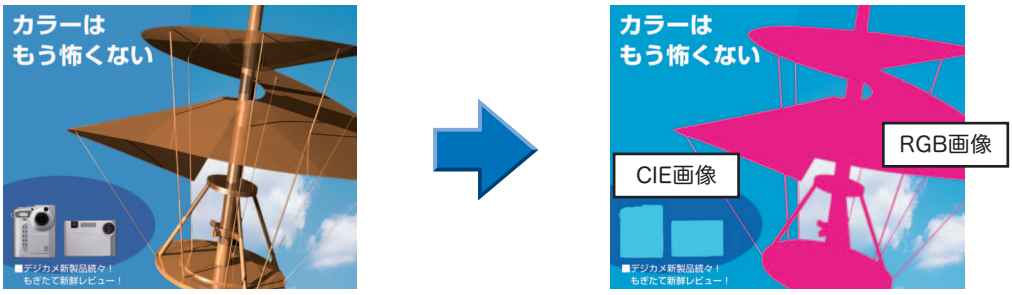
■RGB画像警告

RGB画像警告は、RGB画像やCIE画像をプリント時に検出して、印刷時のトラブルを防止するための機能です。

RGB画像データは、印刷用分版出力時に、K版で出力されることがあります。このため、コンポジットプリンターへのプリントではカラーでプリントされても、オフセット印刷などのための分版出力では白黒で印刷されることがあります。

印刷データとして不適当なRGB、およびCIE画像が警告色でプリントされます。

RGBイメージやRGBオブジェクトなどのRGB画像はマゼンタで、CIE画像はシアンの警告色でプリントされます。



通常プリント　　警告オンでプリント

補足

・RGB 画像警告は、プリントオプションの［2 色印刷シミュレーション］を設定している場合、コンポジットプリント時は、2色印刷シミュレーションの設定にかかわらず、有効になります。
分版プリント時は、2 色印刷シミュレーションで警告色の色版が設定されている場合にだけ、有効になります。

・プリントオプションの［カラー］＞［カラーモード］が［グレースケール（K)］の場合は、RGB画像警告機能は無効になります。

・RGB 画像警告機能は、コンポジットプリントのジョブに対して有効です。アプリケーションから分版プリントしている場合は、アプリケーションが RGB や CIE 画像を K だけの画像などにしてプリントするので、イメージセッターなどに色分版出力している場合と同様のプリントになります。

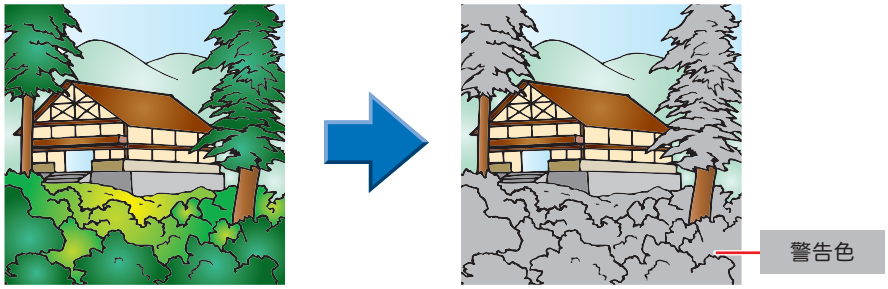
・RGB画像警告機能が有効の場合は、プリントオプションの［カラー］＞［カラー詳細（RGB設定)］＞［RGB色補正］の設定は無効になります。

・CIE画像とは、CIE色空間で色が記述されている画像のことです。たとえば、Photoshop でポストスクリプトカラーマネージメント機能を有効にすると、RGB 画像は自動で CIE 画像に変換されます。また CMYK 画像は、カラープロファイルを埋め込んだ形で CIE 画像に変換されます。

・Macintoshクライアントでは、CMYK画像を扱えるアプリケーションからプリントすると、RGB画像警告が有効になります。RGB画像しか扱えないアプリケーションからプリントすると、RGB画像警告は無効になります。
・RGB画像警告が有効になるアプリケーションを変更できます。
変更の方法は、「警告の対象になるアプリケーションの変更」(P.319) を参照してください。
なお、RGB 画像警告が有効になる以下のアプリケーションが、あらかじめ登録されています。
- Illustrator、InDesign、PageMaker®、QuarkXPress

■特色警告

特色が使用されている部分が警告色でプリントされます。データ再利用時などに意図しないで特色を使用してしまった場合でも、事前に検出でき、オフセット印刷時に CMYK 版以外の版が生成されることを防ぎます。



通常プリント　　警告オンでプリント

補足

・特色警告は、プリントオプションの［カラー］＞［2色印刷シミュレーション］の設定にかかわらず、有効になります。
・プリントオプションの［カラー］＞［2色印刷シミュレーション］が設定されているときに、以下のプリントオプションを設定すると、特色警告は無効になります。
- 分版合成 /In-RIP セパレーションに対して、［カラー］＞［カラーモード］が［グレースケール（K)］の場合
- 分版プリントされているジョブに対して、プリントオプションの［画質］＞［その他の設定（画質)］＞［色分版の合成］が［しない］の場合
- コンポジットプリントされているジョブに対して、プリントオプションの［画質］＞［その他の設定（画質)］＞［色分版の合成］が［コンポジット分解］の場合

■インキ総量警告

ファイル内に、設定した数値以上のインキ総量を持つオブジェクトが存在する場合、そのオブジェクトは警告色でプリントされます。



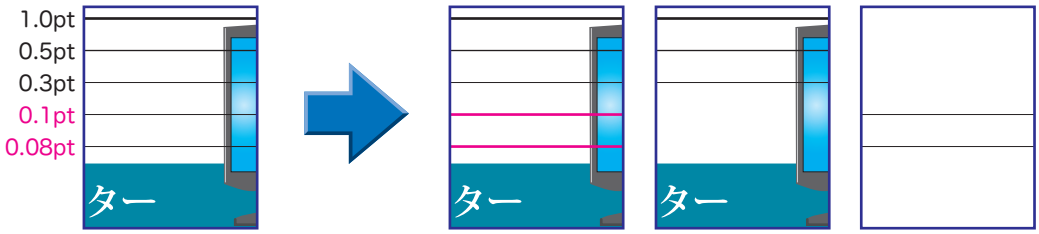
通常プリント　　警告オンでプリント

補足

・インキ総量警告は、プリントオプションの［カラー］＞［2色印刷シミュレーション］が有効の場合、2色印刷シミュレーションの設定にかかわらず、無効になります。
・プリントオプションの［カラー］の［ラスター色補正モード］のチェックマークが外れている場合、インキ総量警告は、CMYK/RGB/CIE画像だけに適用されます。チェックマークが付いている、または［画質］＞［コンポジットオーバープリント］が［プロセスカラー］、［プロセスカラー+特色］の場合、インキ総量警告は、すべてのオブジェクトに適用されます。
・分版合成/In-RIPセパレーションでは、全面（すべてのオブジェクト）に対して適用されます。ただし、プリントオプションの［カラー］＞［カラーモード］が［グレースケール（K）］の場合は無効です。

■ヘアライン警告

警告幅よりも細い線が抽出、消去、または警告色でプリントされます。オフセット印刷で消えてしまったり、かすれてしまったりする可能性のある線を検出できます。検出する線幅は、［警告幅］で設定します。



補足

・線ではなく四角オブジェクトを作って塗りにしたものは、警告されません。
・Illustratorなどで作成したEPSファイルを縮小して割り付けた場合、縮小後の線幅もヘアライン警告で検出できます。
・PageMakerは、線幅の設定をデバイスの1ピクセル幅単位にまるめてプリントするので、600 dpiのプリンターでは0.12 ptよりも細い線がプリントされません。
このため、PageMakerで作成した描画オブジェクトには、ヘアライン警告機能が正しく適用されません。
なお、PageMakerに割り付けたEPSファイルに含まれる細線には、正しく適用されます。
・InDesign 1.0/2.0 で、鉛筆ツールや楕円形ツールで描いた曲線にグラデーションで塗りを使用したオブジェクトは、ヘアライン警告機能では検出できません。
・Illustratorで、曲線にパターンで塗りを使用したオブジェクトにはヘアライン警告は有効ですが、警告色の場合は、警告幅での曲線は外形がギザギザになります。
・Illustrator 9.0/10.0で、「コンポジットプリントでのオーバープリントを無視」を無効にしてプリントすると、Illustratorが線オブジェクトを塗り図形オブジェクトに変換するため、ヘアラインが警告されないことがあります。「コンポジットプリントでのオーバープリントを無視」を有効にすると、レイアウトした線はそのままプリントされるので、ヘアラインが警告されます。
・Illustrator 9.0は、EPS作成時に線オブジェクトが塗り図形オブジェクトに変換されることがあります。この場合、Illustrator 9.0.2を使用してください。
・プリントオプションの［カラー］＞［2色印刷シミュレーション］が有効の場合、
  - コンポジットプリント時は、2色印刷シミュレーションの設定にかかわらず、ヘアライン警告は有効になります。
  - 分版プリント時は、2色印刷シミュレーションで警告色の色版が設定されている場合にだけ、ヘアライン警告は有効になります。
・ヘアライン警告機能は、線に有効であり、イメージや図形には無効です。
・下地がある場合のヘアライン警告の消去
警告されるオブジェクトの下地に別のオブジェクトが存在する場合は、ヘアラインオブジェクトを消去したうえで、下地のノックアウト（下地への白い線の描画）も行わないようにしています。これは、下地に対する細い白抜きはつぶれてしまい再現されないという現象をシミュレーションするものです。
・ヘアライン警告機能は、コンポジットプリントだけではなく、分版合成プリントでも有効です。

■オーバープリント警告

モニターや通常のプリントで確認が困難なオーバープリントや、トラッピングが設定されているオブジェクトを抽出、または警告色でプリントして確認できます。



通常プリント



警告オンでプリント(警告色)



コンポジット再現プリント



警告オンでプリント(抽出)

グレースケールモードでも設定できます。グレースケールモードで警告色を設定した場合は、K70%でプリントされます。

補足

- オーバープリント警告は、アプリケーションからコンポジットプリントを設定した版にだけ有効です。
- 分版合成 /InRIP セパレーションでは、オーバープリントやトラッピングが設定どおりにプリントされるため、オーバープリント警告機能は無効になります。
- 白オブジェクト（C=0,M=0,Y=0,K=0）にオーバープリント、トラッピング（スプレッド）が設定されているときは、オーバープリント警告は無効になります。
  有効にする方法については、「7.1 RIP処理に関する設定」(P.318)を参照してください。
- Illustrator 9.0/10.0は、オーバープリントをシミュレーションしてプリントするため、オーバープリント警告機能は無効になります。
- PageMaker、およびInDesignでは、紙白に対してオーバープリント警告機能が無効になります。これは、オーバープリントと紙白を設定してプリントすると、白のノックアウトのPostScriptコードが必ず出力されるためです。
- InDesign 2.0には、オーバープリント設定にした場合と同様の結果になる「オーバープリント処理」モードがあります。この場合、アプリケーションからはオーバープリントを行ったように見えるコンポジットプリントのオブジェクトがプリントされるので、オーバープリント警告機能は無効になります。
- QuarkXPress 3.3Jで、プリンターの設定ファイルとしてPPDファイルを使用しているときには、オーバープリント警告機能は無効になります。
- オーバープリント警告は、プリントオプションの［カラー］>［2色印刷シミュレーション］の設定にかかわらず、有効になります。

参照

警告色や対象とするアプリケーションを変更する方法については、「7.1 RIP処理に関する設定」(P.318)を参照してください。

■QRコードを検出する

QRコード®の数を確認できます。(QRコード自体の解析は行われません)

以下のように、検出された数と色が印字されます。

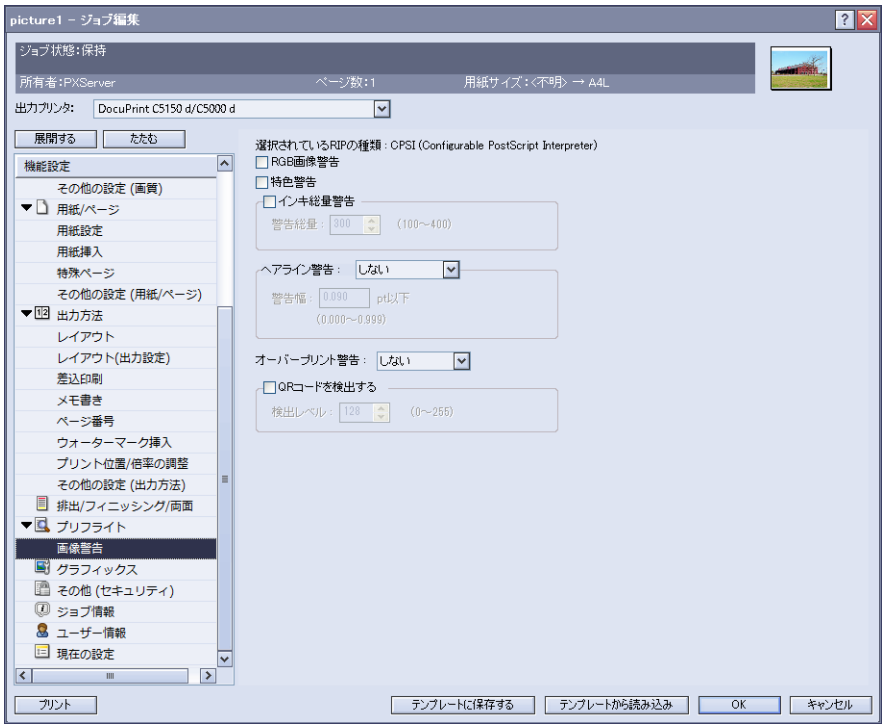
- 検出数が0個のとき：「QRコードチェック済み」
- 検出数が1個のとき：「QRコードが検出されました（カラー)」
- 検出数が2個以上のとき：「＊個のQRコードが検出されました（グレー＊個，反転＊個，カラー＊個：CM)」

画像警告の設定

1. プリントオプションを表示させます。

   プリントオプションは、ServerManagerにあるジョブから［ジョブ編集］ダイアログボックスを開くか、クライアントコンピューターのファイルから［印刷］（または［プリント］）→［Print Server N01］→［詳細設定］をクリックするなどして表示させます。

2. 左側の機能設定ツリーから［プリフライト］＞［画像警告］を選択します。



   設定項目が表示されます。

3. 警告する項目にチェックマークを付けます。

プリントオプションの設定（画像警告）



補足　警告色などの各画像警告機能のデフォルトの設定を変更できます。
詳細は、「7.1　RIP処理に関する設定」（P.318）を参照してください。

- **RGB画像警告**

  チェックマークを付けると、RGB画像警告されます。

- 特色警告

  チェックマークを付けると、特色警告されます。

- インキ総量警告

  チェックマークを付けると、インキ総量警告されます。

  警告総量

  [インキ総量警告]にチェックマークを付けると、警告するインキの総量を入力できます。入力した総量の値以上の部分が警告色でプリントされます。入力範囲は、100～400です。

- ヘアライン警告

  - しない

    ヘアライン警告されません。

  - 警告色

    デフォルト：マゼンタ：100%/3 pt幅、グレースケールモード：60%/20 pt幅

    細線が警告のための色と太さでプリントされます。

    Illustratorや InDesignなどで作成できる幅のない直線「fill」は、警告のための色と鎖線パターンでプリントされます。

  - 消去

    細線が消去されてプリントされます。

  - 抽出

    ファイルから細線だけが抜き出されてプリントされます。細線がない場合は、白紙でプリントされます。

  警告幅

  [しない]以外の場合、警告する線の幅を入力します。入力した幅の値以下の部分が警告色でプリントされます。

  入力範囲は、0.000～0.999 ptです。

- オーバープリント警告

  - しない

    オーバープリント警告されません。

  - 警告色

    デフォルト：シアン：30%/マゼンタ：70%/イエロー：30%、グレースケールモード：70%

    オーバープリントが使用されている部分が警告色でプリントされます。

  - 抽出

    ファイルがオーバープリント指定している部分だけを抜き出して、プリントされます。設定している部分がない場合は、白紙でプリントされます。

    補足 白いオーバープリントオブジェクトは、そのままの色では抽出したことがわからないので、K20%で抽出描画するようになっています。

    描画色を変更する方法については、「7.1 RIP処理に関する設定」(P.318)を参照してください。

- QRコードを検出する

  チェックマークを付けると、QRコードの総数が印字されます。

  検出レベル

  QRコード検出時の2値化処理に使用する、しきい値を入力します。入力範囲は、0～255です。

1.1.4　プリフライト

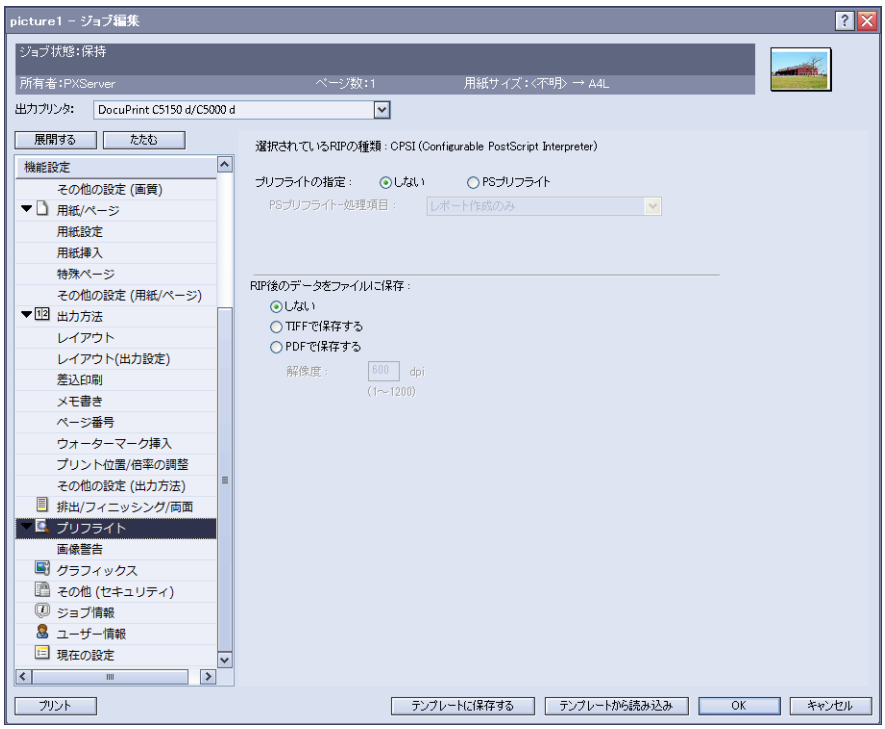
プリフライトによって、使用されているフォントや色空間などが適正であることを印刷する前に確認できます。

プリフライトの設定

1. プリントオプションを表示させます。

   プリントオプションは、ServerManagerにあるジョブから［ジョブ編集］ダイアログボックスを開くか、クライアントコンピューターのファイルから［印刷］（または［プリント］）→［Print Server N01］→［詳細設定］をクリックするなどして表示させます。

2. 左側の機能設定ツリーから［プリフライト］を選択します。

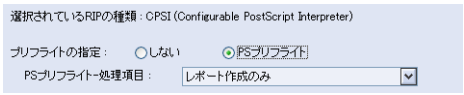


   設定項目が表示されます。

   補足　ServerManagerの［ジョブ］→［PSプリフライトレポート］→［作成］を選択しても、プリントオプションを表示できます。

3. ［プリフライトの指定］を選択します。

プリントオプションの設定（プリフライト - プリフライトの指定）



■しない

プリフライトをしません。

■PSプリフライト

PSファイル、またはPDFファイルに対して、ジョブにエラーがないか、使用フォントやカラーが適正であるかなど、印刷前に確認する機能です。

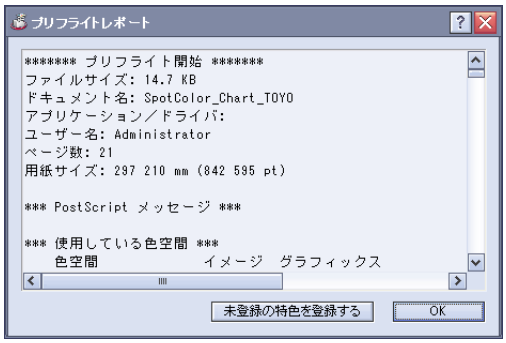
- **PSプリフライト-処理項目**

参照 プリフライトレポートについては、「PSプリフライトレポート」（P.26）を参照してください。

- **レポート作成のみ**
  PSプリフライトが実行され、レポートが作成されます。
- **レポート作成とレポート印刷**
  PSプリフライトが実行され、レポート作成後にプリントされます。

プリフライトレポート

■PSプリフライトレポート



PSプリフライトでチェックされる主な項目は、以下のとおりです。

ファイルサイズ
ファイルの容量が表示されます。

ドキュメント名
ファイルの名称が表示されます。

アプリケーション／ドライバ
ファイルを作成したアプリケーション、プリンタードライバーが表示されます。

ユーザー名
ファイルを作成したコンピューターのユーザー名が表示されます。

ページ数
ファイルのページ数が表示されます。

用紙サイズ
　ファイルの用紙サイズが表示されます。
PostScriptメッセージ
　ファイルのエラー内容などが表示されます。
使用している色空間
　使用されている色空間のリストが表示されます。PostScript カラー管理されているオブジェクトがないかを確認できます。
使用しているフォント
　使用されているフォント名が表示されます。
使用しているスポットカラー（特色）
　使用されている特色のリストが表示されます。未登録の特色がないかを確認できます。
例外ページ
　ページごとに用紙設定の記述があるファイルの場合、用紙設定の記述の内容が表示されます。

- 未登録の特色を登録する

　管理者モードでPSプリフライトを実行した結果、登録されていない特色が検出されたときは、[プリフライトレポート] ダイアログボックスの［未登録の特色を登録する］が有効になります。
　［未登録の特色を登録する］をクリックすると、検出された未登録の特色をPrint Serverに登録できます。

補足
- 特色名にmacOSの機種依存文字が含まれる場合、Print Serverでは特色名が文字化けすることがあります。
- ダブルトーンで特色が使用されているファイルの場合、検出された未登録の特色は、本来の色とは異なる値で登録されることがあります。特色を登録したあと、ServerManagerの［カラー］→［特色の管理］で、［CUSTOM］に登録された該当の特色の値を変更してください。
- 分版ジョブの場合、検出された未登録の特色は、本来の色とは異なる値で登録されます。特色を登録したあと、ServerManagerの［カラー］→［特色の管理］で値を変更してください。

参照　特色の登録については、「2.8.1 特色の設定」（P.103）を参照してください。

1.1.5　ファイルの保存とイメージの確認

プリントオプションの［プリフライト］＞［RIP後のデータをファイルに保存］＞［TIFFで保存する］、または［PDFで保存する］を選択してジョブをTIFFファイル、またはPDFファイルで保存できます。

Print Serverと接続しているクライアントコンピューターから、保存されているファイルに対して、以下の操作ができます。

- ファイルの取得
- ファイルの一覧表示
- Print Serverに保存されているファイルの削除

取得したファイルは、プリント結果を確認できます。

WebManagerを使用して、Webブラウザーから同様の操作もできます。

補足　Print Serverで作成したファイルは、RIP後のイメージとしてだけ使用できます。

参照
- WebManagerを使用したWebブラウザーからのファイルの確認、操作方法については、「ファイルのダウンロード」（P.269）を参照してください。
- ジョブをファイルで保存する操作手順については、「RIP後のデータをファイルに保存」（P.228）を参照してください。

macOSクライアント

ファイルを取得するには、AFP（Apple Filing Protocol）サービスを使用します。

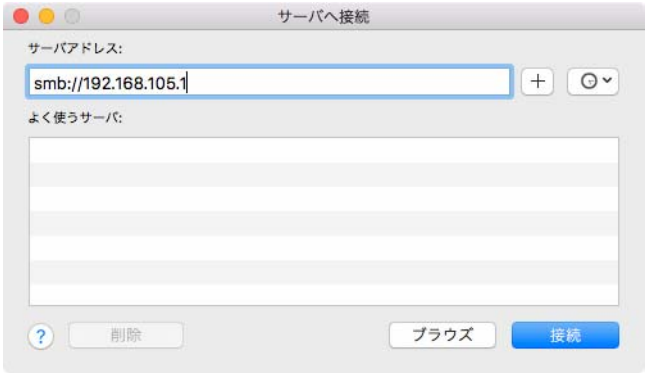
macOS 10.12を例に説明します。

補足 AFP サービスを使用してファイルを取得するには、TCP/IP プロトコルとフォルダーの共有設定が必要です。詳細は、『ユーザーズガイド 導入編』の「1.3 AppleTalk設定ツールについて」を参照してください。

1. プリントオプションの［プリフライト］>［RIP後のデータをファイルに保存］>［TIFFで保存する］、または［PDFで保存する］を選択し、ジョブを実行します。

   参照 ファイルの保存方法については、「RIP後のデータをファイルに保存」（P.228）を参照してください。

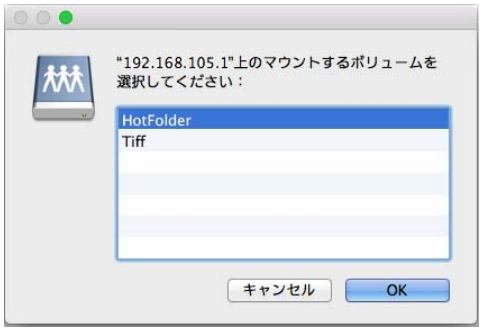
2. ［移動］→［サーバへ接続］を選択します。
3. ［サーバアドレス］にPrint ServerのIPアドレスを入力し、［接続］をクリックします。



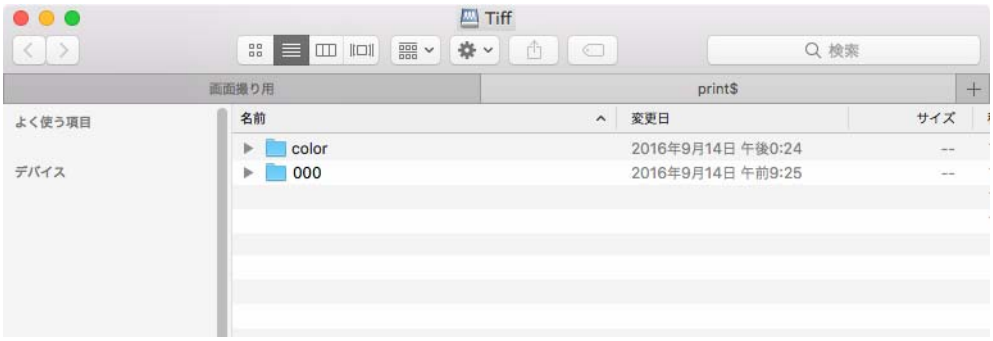
4. ［ゲスト］を選択し、［接続］をクリックします。

   補足 名前とパスワードによる認証には対応していません。AppleTalk設定ツールの［共有設定］でゲストアクセスを許可してください。
   共有設定については、『ユーザーズガイド 導入編』の「1.3 AppleTalk 設定ツールについて」を参照してください。

5. ［Tiff］を選択し、［OK］をクリックします。



6. ファイルが格納されているフォルダーを選択します。



7. アプリケーションを使ってファイルを開きます。

Windowsクライアント

ファイルを取得するには、Microsoftネットワーク共有機能を使用します。

参照　共有設定については、「7.3.2 フォルダーの共有」（P.345）を参照してください。

1. プリントオプションの［プリフライト］＞［RIP後のデータをファイルに保存］＞［TIFFで保存する］、または［PDFで保存する］を選択し、ジョブを実行します。

   参照　ファイルの保存方法については、「RIP後のデータをファイルに保存」（P.228）を参照してください。

2. クライアントコンピューターのデスクトップにある、［ネットワーク］アイコンをダブルクリックします。

3. Print Serverがあるドメイン、またはワークグループをダブルクリックします。

   「Tiff」フォルダーが表示されます。

   補足　ファイルが保存されているフォルダーについては、ネットワーク管理者に確認してください。

4. 「Tiff」フォルダーをダブルクリックします。

   保存されているファイルが表示されます。

5. アプリケーションを使ってファイルを開きます。

1.2 さまざまな割り付け方法でプリントする

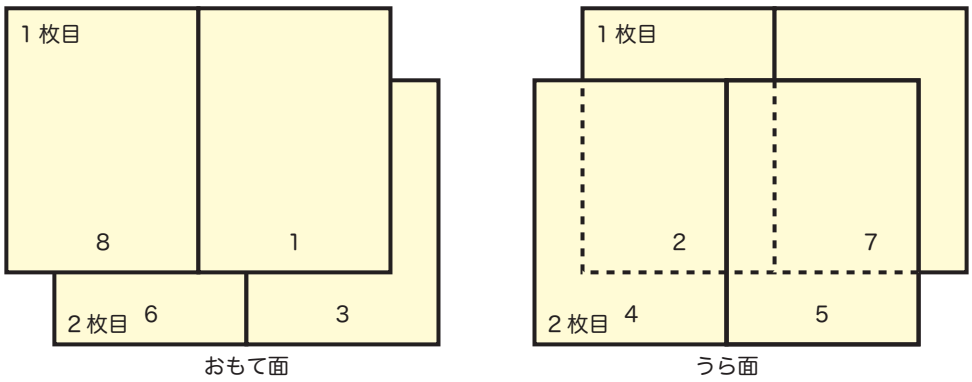
プリント時に使うさまざまな割り付け機能について説明します。

1.2.1 小冊子作成

ServerManager、またはプリントオプションで小冊子プリントを選択すると、プリントされた用紙をまとめて中央で二つ折りしてとじたとき、小冊子の形になるようにプリントできます。プリントするときは、ページ番号が順番に並ぶように自動で調整しながら、両面印刷されます。

補足
- 小冊子作成機能を使用すると、以下のプリントオプションの設定は無効になります。
  - ［出力方法］、［排出/フィニッシング/両面］＞［両面］
  - ［プリント位置/倍率の調整］
  - ［プリフライト］＞［RIP後のデータをファイルで保存］＞［TIFFで保存する］
- ビルドジョブを小冊子作成すると、プリントオプションの設定が変更になることがあります。
- 中とじ以外のとじ方には、対応していません。

例）A4サイズ8ページ分のファイルを左とじでA3にプリントした場合



● ジョブの1ページの用紙サイズ

小冊子作成ができるジョブの用紙サイズは、ジョブの用紙サイズの長さ方向（用紙の排出方向）を2倍した値が、プリンターの最大用紙サイズを超えない大きさです。

クライアントコンピューターのプリンタードライバーからブックレット専用の用紙サイズを選択すると、のどあき部分（ページの余白）にもイメージをプリントできます。

補足 A4など定型サイズの用紙を選択した場合は、のどあき部分に8 mmの余白が付いてプリントされます。

● 仕上がりの用紙サイズ

プリントされる用紙サイズは、プリントオプションの［出力方法］＞［レイアウト（出力設定）］＞［出力用紙サイズ］が［自動］の場合、もとのサイズの2倍の大きさになります。

たとえば、A4サイズのジョブは、A3サイズでプリントされます。

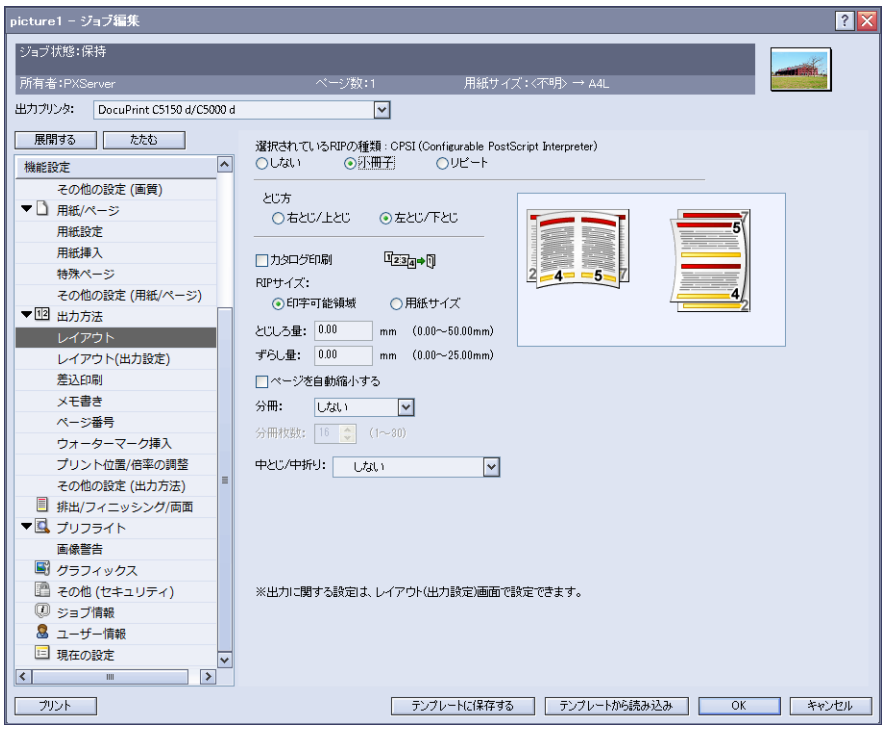
補足
- A5ブックレットサイズのジョブを小冊子作成する場合は、トレイにA4用紙をセットしてください。A4L用紙では、正しくプリントされません。
- B6ブックレットサイズのジョブを小冊子作成する場合は、トレイにB5用紙をセットしてください。
- プリントされる用紙サイズによっては、ポイントとピクセルの変換誤差で、わずかに用紙中央部分の画像が欠けることがあります。

1. プリントオプションを表示させます。

   プリントオプションは、ServerManagerにあるジョブから［ジョブ編集］ダイアログボックスを開くか、クライアントコンピューターのファイルから［印刷］（または［プリント］）→［Print Server N01］→［詳細設定］をクリックするなどして表示させます。

2. 左側の機能設定ツリーから［出力方法］＞［レイアウト］を選択します。

3. ［小冊子］を選択します。

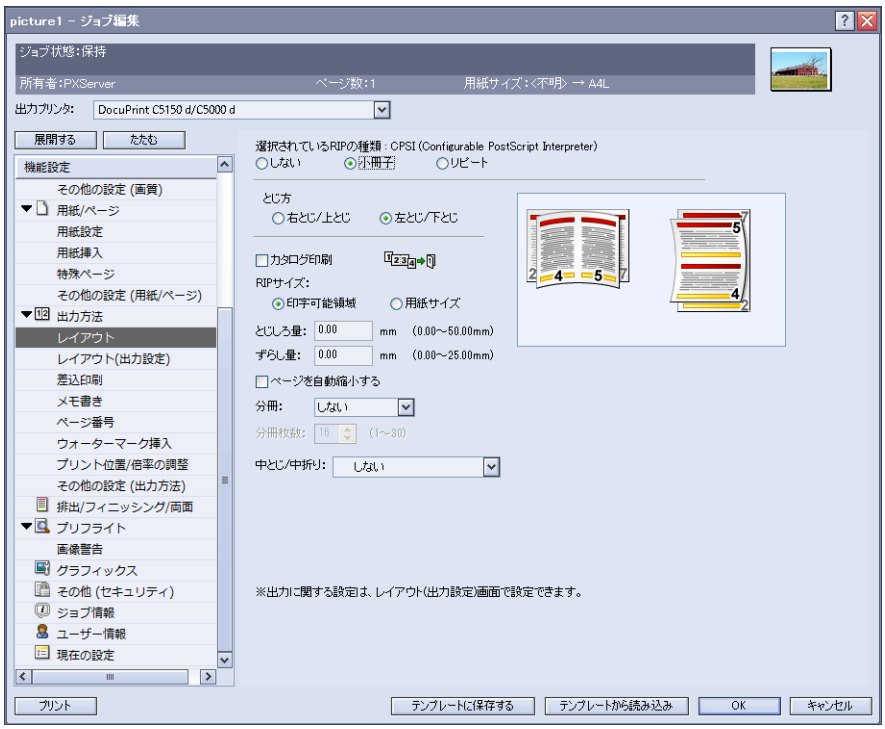


設定項目が表示されます。

補足　ServerManagerの［ジョブ］→［小冊子作成］を選択しても、プリントオプションを表示できます。

・1枚の用紙の両面に、それぞれ2ページずつプリントされます。
・プリントされた用紙を重ね合わせて中央で二つ折りにすると、正しいページ順序になり、そのまま小冊子のようにとじることができます。

プリントオプションの設定（レイアウト-小冊子）



- とじ方

  とじ方を選択します。小冊子の状態にしたときに、ページを開く方向を選択します。

  - 右とじ/上とじ

    たて向き原稿の場合は右側をとじるように、よこ向き原稿の場合は上側をとじるようにプリントされます。

  - 左とじ/下とじ

    たて向き原稿の場合は左側をとじるように、よこ向き原稿の場合は下側をとじるようにプリントされます。

- カタログ印刷

  チェックマークを付けると、用紙サイズが混在しているファイルから小冊子が作成されます。

  たとえば、A4-A3-A3-A4という混在ファイルから小冊子が作成されます。

  補足　ジョブの用紙サイズがカスタムサイズの場合、カタログ印刷はできません。

- RIPサイズ

  原稿をRIP処理する場合の処理範囲を選択します。

  - 印字可能領域

    印字可能領域でRIP処理され、イメージの周りに余白が付きます。

  - 用紙サイズ

    各ページは原稿の用紙サイズでRIP処理されます。

- とじしろ量

  二つ折りにした場合の折り部分のとじしろ量を入力します。入力範囲は、0.00～50.00 mmです。

● ずらし量

二つ折りにした場合に、小冊子の一番外側の用紙から一番内側の用紙に向かって生じる、各用紙内のページのずれを抑えることができます。

合計のずらし量を入力します。入力範囲は、0.00～25.00 mmです。

● ページを自動縮小する

チェックマークを付けると、とじしろ量を入力することによって、狭くなった印字領域内に画像が収まるように、自動で縮小されます。

● 分冊

分冊にしないで用紙をすべて重ねて小冊子にするか、分冊にして小冊子にするかを選択します。

・しない　・自動分冊　・枚数指定

［自動分冊］は、1冊の枚数が均等になるように複数の小冊子が作成されます。

1冊あたりの最大枚数は、［中とじ/中折り］が［しない］の場合は16枚、［中とじ（2-15枚）］の場合は15枚、［中折り（1-5枚）］の場合は5枚です。

分冊枚数

［分冊］が［枚数指定］の場合に入力します。入力された枚数で複数の小冊子が作成されます。

入力範囲は、1～30です。

ただし、［中とじ/中折り］が［中とじ（2-15枚）］の場合は2～15枚、［中折り（1-5枚）］の場合は1～5枚の範囲で枚数を入力します。

たとえば、原稿が10ページで［分冊枚数］が4の場合、それぞれ4、4、2枚の小冊子に分けてプリントされます。

● 中とじ/中折り

小冊子の仕上がりを選択します。

・しない　・中とじ（2-15枚）　・中折り（1-5枚）

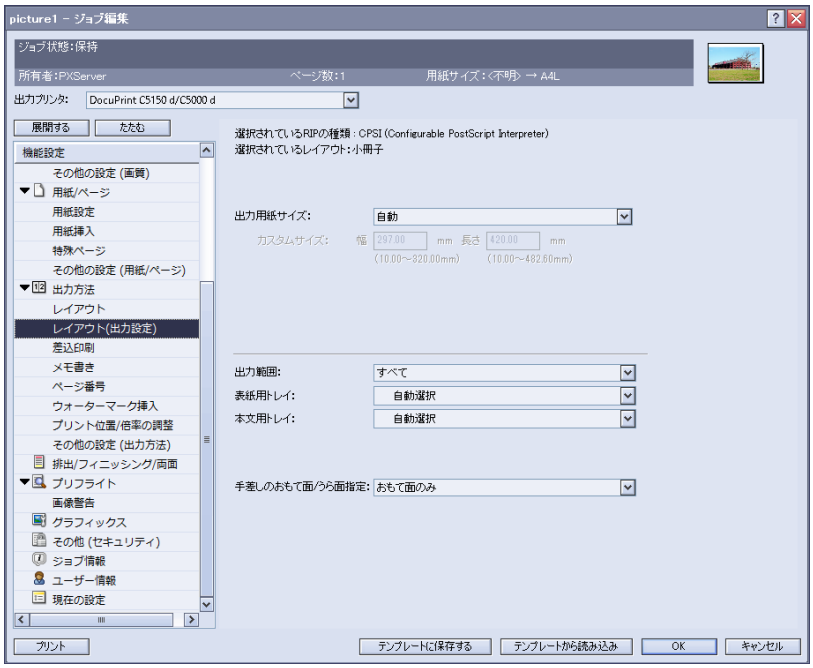
［中とじ（2-15 枚)］または［中折り（1-5 枚)］の場合、［分冊］および［分冊枚数］の設定に従って、中とじまたは中折りで小冊子が作成されます。

補足

・オプション装置の中とじフィニッシャーC3 が装着されている場合にだけ、中とじ/ 中折りができます。
・［分冊］が［しない］の場合、［中とじ（2-15枚)］では、プリント枚数が16枚以上のとき、ジョブはキャンセルされ、エラーになります。
・［分冊］が［しない］の場合、［中折り（1-5 枚)］では、最大5 枚単位で中折りが行われます。分冊の必要がない場合は、プリント後に手動で並べ替えてください。
・排出先の設定にかかわらず、フィニッシャーに排出されます。

プリントオプションの設定（レイアウト（出力設定））-選択されているレイアウト：小冊子

機能設定ツリーから［レイアウト（出力設定）］を選択すると、出力に関する設定ができます。



- **出力用紙サイズ**

  プリントする用紙サイズを選択します。

  ［自動］の場合、イメージが収まる印字エリアを持つ用紙サイズのうち、用紙トレイにセットされている最小の用紙が選択されます。イメージが収まる印字エリアを持つ用紙サイズが用紙トレイにセットされていない場合は、用紙トレイにセットされている最大の用紙が選択されます。

  カスタムサイズ

  ［出力用紙サイズ］が［カスタム］の場合に入力します。入力範囲は、幅10.00～320.00 mm/長さ10.00～482.60 mmです。

  補足　プリンターで使用できる範囲のサイズを入力してください。

- **出力範囲**

  プリントする用紙の範囲を選択します。［表紙のみ］、［本文以降］は、表紙だけ厚紙などにする場合に選択します。

  - **すべて**

    すべての用紙がプリントされます。

  - **表紙のみ**

    小冊子になったときの表紙の用紙だけがプリントされます。

    たとえば、8 ページの原稿の場合、1、2、7、8 ページが印字された用紙がプリントされます。

  - **本文以降**

    小冊子になったときの本文以降の用紙がプリントされます。

    たとえば、8 ページの原稿の場合、3、4、5、6 ページが印字された用紙がプリントされます。

- **表紙用トレイ**

  表紙用（1枚目）の用紙に使用する用紙トレイを選択します。

● 本文用トレイ

本文用（2枚目以降）の用紙に使用する用紙トレイを選択します。

補足　［本文用トレイ］で用紙トレイを選択した場合は、［表紙用トレイ］でも同じサイズになるように、用紙トレイを選択してください。

● 手差しのおもて面/うら面指定

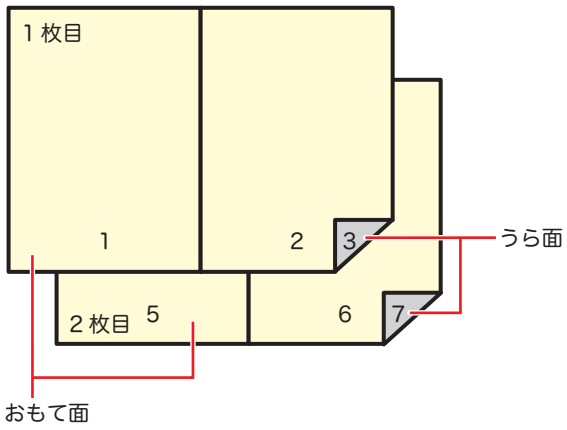
手差しトレイからプリントする場合の印字面を指定します。

・自動両面　・おもて面のみ　・うら面のみ

1.2.2　2アッププリント

ServerManagerで2アッププリントを選択すると、複数ページのファイルが1枚の用紙に2ページずつ割り付けてプリントされます。

例）A4サイズ8ページ分のファイルをA3に両面でプリントした場合



● ジョブの1ページの用紙サイズ

2アップができるジョブの用紙サイズは、ジョブの用紙サイズの長さ方向（用紙の排出方向）を2倍した値が、プリンターの最大用紙サイズを超えない大きさです。

● 仕上がりの用紙サイズ

プリントされる用紙サイズは、もとのサイズの2倍の大きさになります。

たとえば、A4サイズのジョブは、A3サイズでプリントされます。

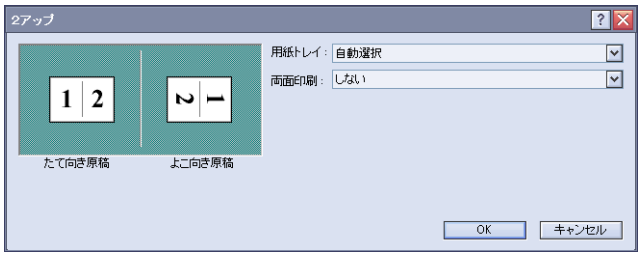
補足
・2アッププリントが選択できるのは、ServerManagerの［ジョブ］メニューだけです。
・2アッププリント時は、以下のプリントオプションは無効になります。
- ［レイアウト］＞［小冊子］、［リピート］
- ［用紙/ページ］＞［用紙トレイ］
- ［出力方法］（または［排出/フィニッシング/両面］）＞［両面］
- ［出力方法］＞［RIP済みデータの保存］
- ［排出/フィニッシング/両面］＞［最終ページから印刷］
- ［プリフライト］＞［RIP後のデータをファイルに保存］＞［TIFFで保存する］、［PDFで保存する］

1. ServerManagerの保持リストから2アッププリントをするジョブを選択します。

検索結果リスト、またはエラーリストからも選択できます。

2. ［ジョブ］→［2アップ］を選択します。

3. ［用紙トレイ］を選択します。



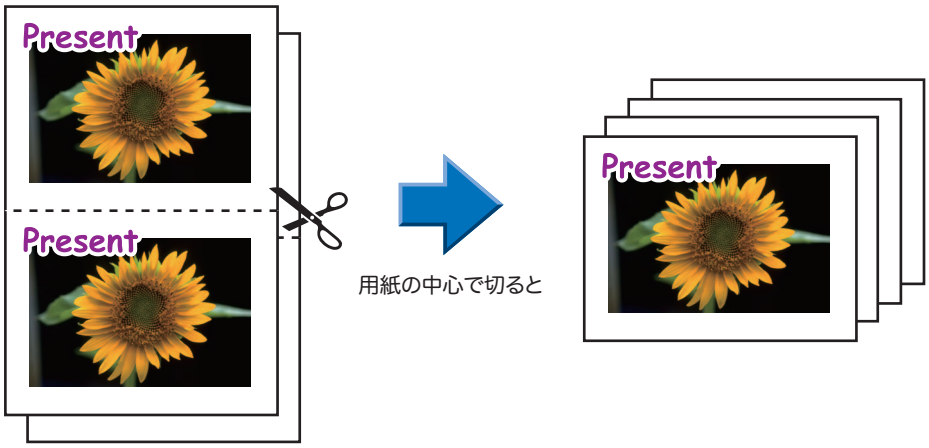
4. 両面プリントする場合は、［両面印刷］で［短辺とじ］、または［長辺とじ］を選択します。

5. ［OK］をクリックします。

1.2.3　リピートプリント

ServerManager、またはプリントオプションでリピートプリントを選択すると、原稿イメージが1枚の用紙に繰り返してプリントされます。

プリント後に、用紙を断裁すると、1枚の用紙から複数枚の印刷物を作成できます。



● 原稿イメージの枚数

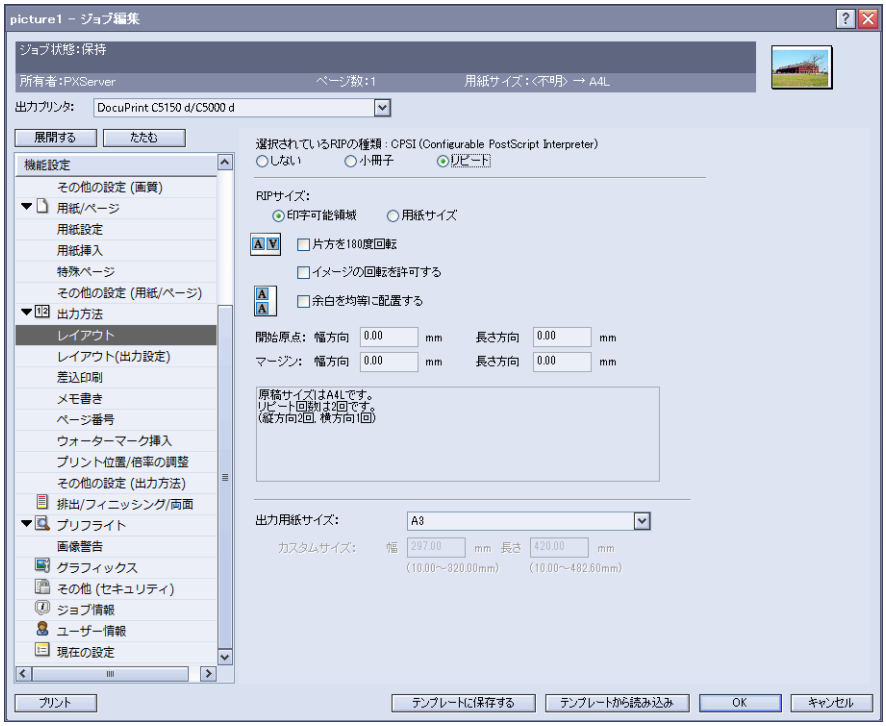
原稿イメージがリピートされる回数は、選択した用紙サイズと原稿イメージサイズから算出した最大数になります。

1. プリントオプションを表示させます。

プリントオプションは、ServerManagerにあるジョブから［ジョブ編集］ダイアログボックスを開くか、クライアントコンピューターのファイルから［印刷］（または［プリント］）→［Print Server N01］→［詳細設定］をクリックするなどして表示させます。

2. 左側の機能設定ツリーから［出力方法］＞［レイアウト］を選択します。

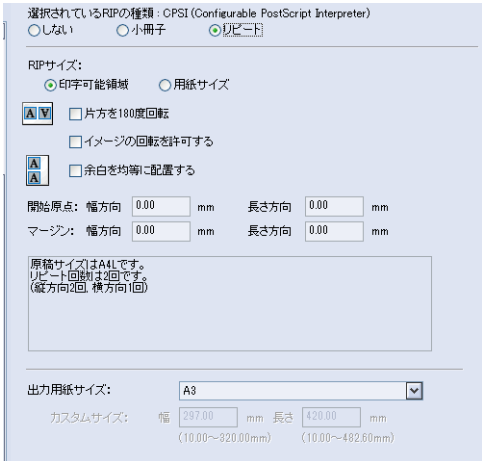
3. ［リピート］を選択します。



設定項目が表示されます。

補足　ServerManager の［ジョブ］→［リピートプリント］を選択しても、プリントオプションを表示できます。

プリントオプションの設定（レイアウト-リピート）



- RIPサイズ

  原稿をRIP処理する場合の処理範囲を選択します。

  - 印字可能領域

    印字可能領域でRIP 処理されます。

  - 用紙サイズ

    原稿の用紙サイズでRIP処理されます。

● 片方を180度回転

チェックマークを付けると、リピート回数が2 回の場合に、片方のイメージが180°回転してプリントされ、断裁面が統一されるようになります。

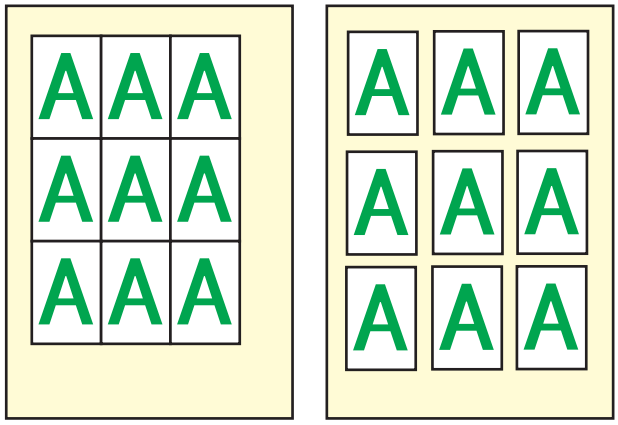
● イメージの回転を許可する

チェックマークを付けると､イメージの向きと出力用紙の向きからリピート回数が多くなるように自動でリピートイメージが回転されます。

補足　イメージのリピート回数が自動で算出されない場合は、［イメージの回転を許可する］を設定できません。

● 余白を均等に配置する

チェックマークを付けると、出力用紙の印字可能領域と、リピートイメージサイズからできるリピートイメージ間の余白が均等になるように、リピートイメージが配置されてプリントされます。



余白を均等に配置しない　　余白を均等に配置する

補足　リピート回数が1の場合は、両端からの余白は自動で均等に配置されます。

● 開始原点

［余白を均等に配置する］のチェックマークが外れている場合に入力します。

リピートの開始位置を入力します。入力範囲は、0.00～241.30 mmです。

用紙の印字可能位置（原点）からのオフセット値になります。

● マージン

［余白を均等に配置する］のチェックマークが外れている場合に入力します。

リピートイメージの間隔を入力します。入力範囲は、0.00～241.30 mmです。

● 出力用紙サイズ

プリントする用紙サイズを選択します。

カスタムサイズ

［出力用紙サイズ］が［カスタム］の場合に入力します。入力範囲は、幅10.00～320.00 mm/長さ10.00～482.60 mmです。

補足　プリンターで使用できる範囲のサイズを入力してください。

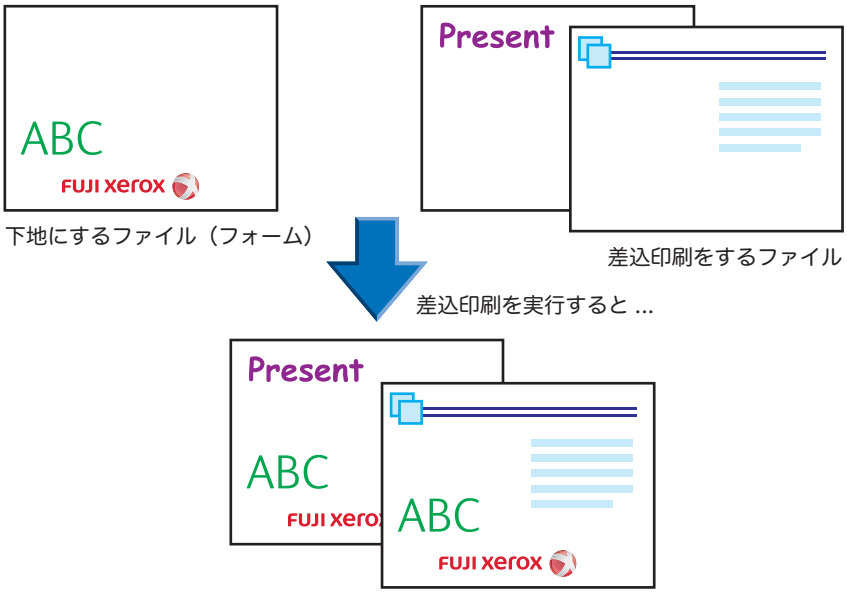
1.2.4　差込印刷

差込印刷とは、1 つのファイルをフォームとして使用し、ほかのファイルの内容を重ねてプリントする機能です。

差込印刷用のフォームは、500件まで登録できます。

フォームを使用すると、すべてのページに同じイメージやテキストを配置する必要がないので、ファイルサイズを小さくできます。

フォーム用ファイルの RIP 処理が 1 回で済むので、複数ページをプリントするときにプリント処理が速くなります。



補足

- フォーム用のファイルとフォームの上に差込印刷をするファイルのイメージが重なる場合、フォーム用のファイルは差込印刷をするファイルのイメージに上書きされます。
- ServerManager の保持リストで複数のジョブを選択した場合は、メニューで直接［差込印刷］を選択できません。複数のジョブを一括して差込印刷を選択する場合は、プリントオプションから選択してください。
- 複数ページのジョブも、フォームとして登録できます。フォームの最終ページまで使用されると、先頭ページに戻ります。また、プリントオプションで、あらかじめページ範囲を設定すると、設定したページだけをフォームとして使用することもできます。

差込印刷ができるジョブの条件は、以下のとおりです。

● ファイルフォーマット

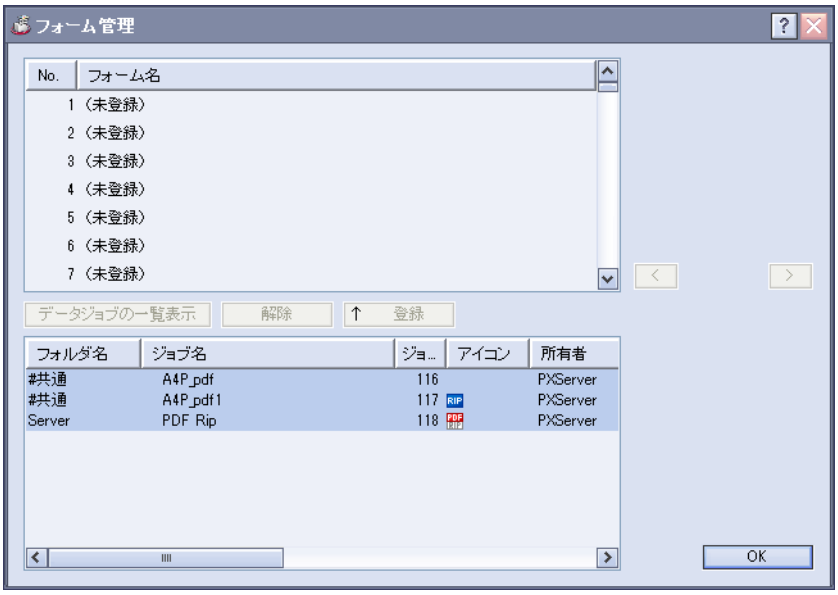
- PostScript
- PDF

● 用紙サイズ

- A6L
- A6
- A5L
- A5
- A4L
- A4
- A3
- B6
- B5L
- B5
- B4
- 8×10L
- 8×10
- 8.5×11L
- 8.5×11
- 8.5×13
- 8.5×14
- 11×17
- 12×18
- SRA3
- はがき
- 往復はがき
- 4連はがきL
- 4連はがき
- 封筒長形3号
- 封筒角型2号
- 封筒C4
- 封筒C5
- A6ブックレット
- A5ブックレット
- A4ブックレット
- B6ブックレット
- B5ブックレット
- 8.5×11ブックレット
- カスタム

フォームの登録

1. 下地としてフォームに登録するジョブとその上に重ねるジョブを ServerManager の保持ジョブに保存します。
2. ［管理］→［フォーム管理］を選択します。
3. 下段のリストからフォームとして登録するジョブを選択し、［登録］をクリックします。



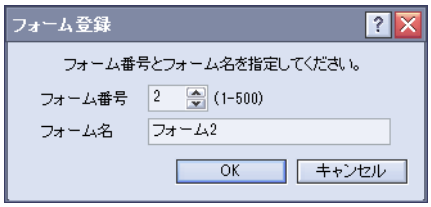
・上段は、フォームとして登録済みのジョブのリストです。
・下段は、ServerManagerに保存されている、未登録のジョブのリストです。

補足

・下段のジョブリストは、ServerManagerのジョブリストと同じ色の文字で表示されます。
・下段のジョブリストは、ファイルタイプがPS、またはPDFのときに表示されます。また、プリントオプションの［RIP］＞［RIPの種類］が［APPE］のジョブは表示されません。
・下段のジョブを上段の登録する番号にドラッグ＆ドロップしても、フォームとして登録できます。
・上段のリストからフォームを選択してダブルクリックすると、ジョブに関する情報が確認できます。



4. フォーム番号を選択し、フォーム名を確認して［OK］をクリックします。



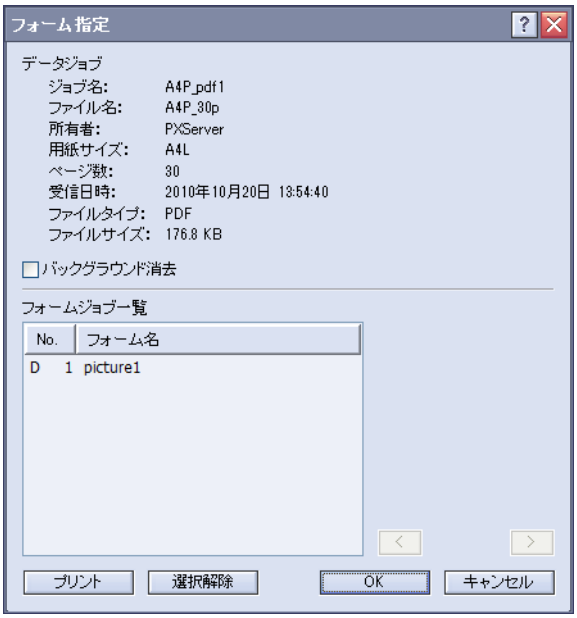
5. ［フォーム管理］ダイアログボックスで、［OK］をクリックします。
6. RIP済みデータの作成が必要な場合は、RIP済みデータを作成するダイアログボックスが表示されるので、［はい］をクリックします。
   - ［いいえ］をクリックすると、RIP済みデータは作成されません。
   - RIP済みデータを持たないフォームを使ってクライアントコンピューターから差込印刷をすると、ジョブがエラーになります。

補足　一般ユーザーモードでは、設定したジョブが RIP 済みデータを持っていなくても、RIP 済みデータを作成するためのダイアログボックスは表示されません。

差込印刷の設定

■［ジョブ］メニュー

1. ServerManagerの保持リストからフォームの上に重ねるジョブを選択します。
   - 保持リストの別々のフォルダーからも選択できます。
   - 検索結果リスト、またはエラーリストからも選択できます。
2. ［ジョブ］→［差込印刷］を選択します。
3. ［フォームジョブ一覧］から使用するフォームを選択します。



［フォームジョブ一覧］には、フォームとして登録済みのジョブが表示されます。

● バックグラウンド消去

チェックマークを付けると、フォームの上に重ねるファイルをMicrosoft PowerPoint®などのアプリケーションで作成した場合に、白色の背景が下地のイメージを塗りつぶすことを防ぎます。

補足

以下のジョブはグレーで表示され、フォームとして使用できません。
・下地の上に合成するジョブと、用紙サイズやプリンターモードの設定が異なるジョブ
・プリントできないエラージョブ

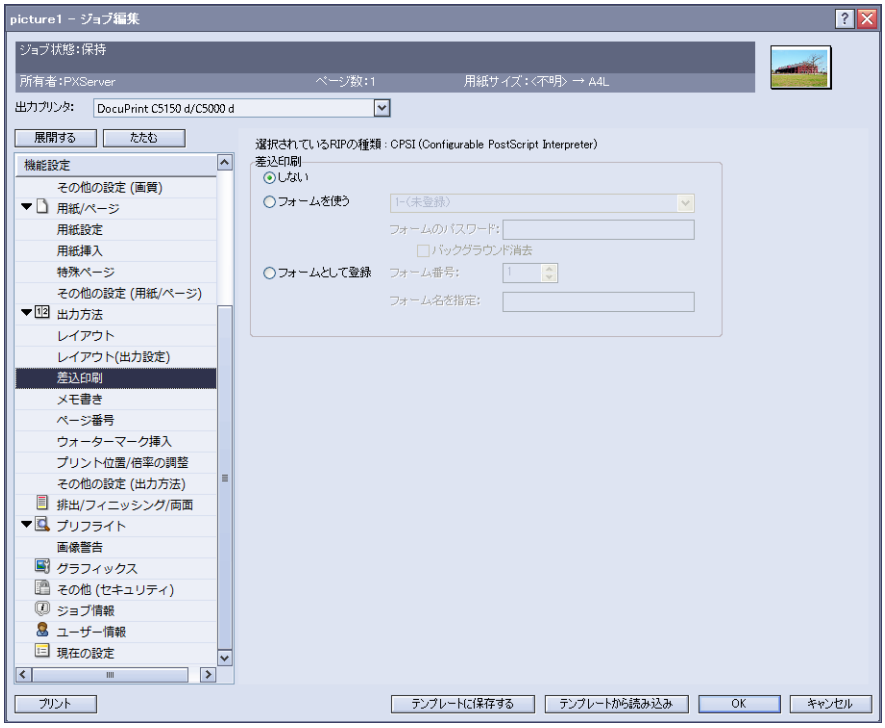
■プリントオプション

プリントオプションを使って差込印刷、およびフォームの登録ができます。

1. プリントオプションを表示させます。

プリントオプションは、ServerManagerにあるジョブから［ジョブ編集］ダイアログボックスを開くか、クライアントコンピューターのファイルから［印刷］（または［プリント］）→［Print Server N01］→［詳細設定］をクリックするなどして表示させます。

2. 左側の機能設定ツリーから［出力方法］＞［差込印刷］を選択します。



設定項目が表示されます。

プリントオプションの設定（差込印刷）

● しない

差込印刷をしません。

● フォームを使う

あらかじめPrint Serverに登録してあるフォームの番号を選択して、差込印刷をします。

プリントオプションの［出力方法］＞［RIP済みデータの保存］にチェックマークを付けた場合は、フォームと合成後にRIP済みデータが保存されます。

フォームのパスワード

フォームジョブにパスワードが設定されている場合は、パスワードを半角英数字5～31バイトで入力します。

バックグラウンド消去

チェックマークを付けると、フォームの上に重ねるファイルをMicrosoft PowerPointなどのアプリケーションで作成した場合に、白色の背景が下地のイメージを塗りつぶすことを防ぎます。

- フォームとして登録

プリントオプションを開いているジョブがフォームとしてPrint Serverに登録されます。

補足　プリントしないでフォームの登録だけをする場合は、[出力方法] > [スプールオプション]を[プリントせずに保存する]にしてください。

フォーム番号

フォームを登録する番号を選択します。

フォーム名を指定

フォームの登録名をジョブ名から変更する場合は、新しいフォーム名を255 バイト以内で入力します。

強制上書き

補足　プリンタードライバーやDropUtilityで、ジョブをフォームとして登録する場合に選択します。



[差込印刷] の [フォーム番号] で選択したフォーム番号がすでに登録済みの場合、チェックマークを付けると、登録されていたフォームの差込印刷を解除し、選択したフォームを登録し直します。

チェックマークが外れている場合、選択したフォーム番号がすでに登録済みのときは登録できません。ジョブはエラーリストに移動します。

フォーム登録の解除

1. [フォーム管理] ダイアログボックス内の上段のリストから解除するジョブを選択し、[解除] をクリックします。
2. RIP済みデータの削除を確認するダイアログボックスが表示された場合は、[はい] をクリックします。

登録が解除され、登録されていたフォーム番号が「未登録」に戻ります。

1.3 ワークフローと連携する

各種の機能やツールを使ってプリントする場合に対応しているアプリケーションやファイルフォーマットなどについて説明します。

1.3.1 ホットフォルダを使用したプリント

FTP、Windows共有フォルダ、またはAFPサービスを使用してホットフォルダにファイルを送信することで、Print Serverにプリントできます。

デフォルトのホットフォルダのほかに、サブフォルダーを100まで設定できます。ただし、同時に起動できるのは、すべての論理プリンタで合計50までです。

補足

- デフォルトでは、AFP over TCPで使用するポート番号「548」は閉じています。
  AFP over TCPを使用する場合は、Windowsに管理者権限のあるユーザーでサインインし、Windowsの［スタート］→［Windows システムツール］→［コントロールパネル］→［Windows ファイアウォール］→［Windowsファイアウォールを介したアプリまたは機能を許可］で、［設定の変更］をクリックし、［ファイルとプリンターの共有］と［Fuji Xerox AFP Service］の［プライベート］にチェックマークを付けてください。
- Print ServerにFTP接続するときのユーザー名、およびパスワードは、ネットワーク管理者に確認してください。
- この機能を使用するには、あらかじめPrint ServerのOSにユーザーを登録しておく必要があります。

参照 「anonymous」で使用する場合は、「7.3.3 FTPの匿名アクセス」（P.346）を参照してください。

● ファイルフォーマット

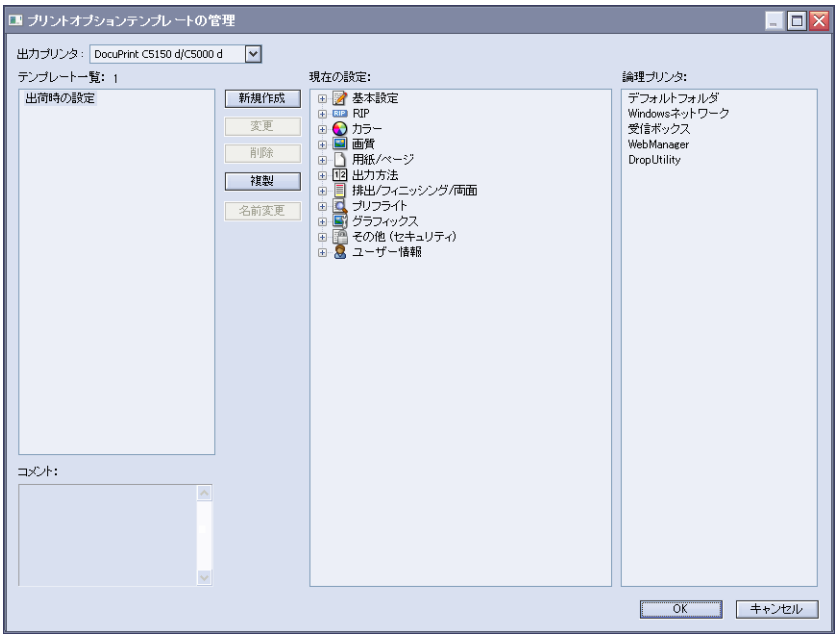
プリントできるファイルフォーマットは、以下のとおりです。

- PostScript
- EPS
- TIFF
- PDF
- JPEG

● プリントオプション

ホットフォルダに送信したファイルに対するプリントオプションは、プリントオプションテンプレートの設定項目が適用されます。

［プリントオプションテンプレートの管理］ダイアログボックスでは、論理プリンタごとに設定できます。



補足　［論理プリンタ］にホットフォルダが表示されない場合は、ServerManagerの［管理］→［論理プリンタの管理］を選択し、［論理プリンタの管理］ダイアログボックスで［ホットフォルダ］にチェックマークが付いていること、サブフォルダーが割り当てられていることを確認してください。

参照　論理プリンタの管理、およびホットフォルダの設定については、『ユーザーズガイド 導入編』の「1.5.1 プリントオプションテンプレートの設定」を参照してください。

- **転送モード**

  ファイルをFTP送信にするときの転送モードは、Binary（バイナリー）です。

- **データを格納するフォルダー**

  ファイルを格納するフォルダーは、「/folder1」です。

  サブフォルダーは、「/folder1/{サブフォルダー名}」です。

2

色の調整と管理

プリンターのキャリブレーション方法とカラープロファイルの作成方法、およびプロファイルを使用したシミュレーションの流れについて説明しています。

2.1 カラーマネージメントについて 48
2.1.1 カラーマネージメント 49
2.1.2 カラーマネージメントのワークフロー 52
2.2 キャリブレーションで色を補正する 53
2.2.1 キャリブレーションの設定 54
2.2.2 キャリブレーションの実施 55
2.2.3 キャリブレーションファイルの設定 59
2.2.4 キャリブレーションターゲットファイルの設定 64
2.2.5 i1_Readerと測色器 67
2.3 RGB用ICCプロファイルを設定する 78
2.3.1 RGB色補正プロファイルの設定 78
2.3.2 RGB出力プロファイルの設定 81
2.4 CMYKプロファイルを設定する 86
2.4.1 測色データの作成 87
2.4.2 CMYKプロファイルへの変換 90
2.4.3 CMYKプロファイルの設定 91
2.5 特色補正プロファイルを設定する 93
2.6 ユーザー調整カーブを設定する 95
2.7 濃度調整カーブを設定する 99
2.8 特色を設定する 103
2.8.1 特色の設定 103
2.8.2 特色パレット 106
2.8.3 特色チャートのプリント 109
2.9 カラーを置き換える 112

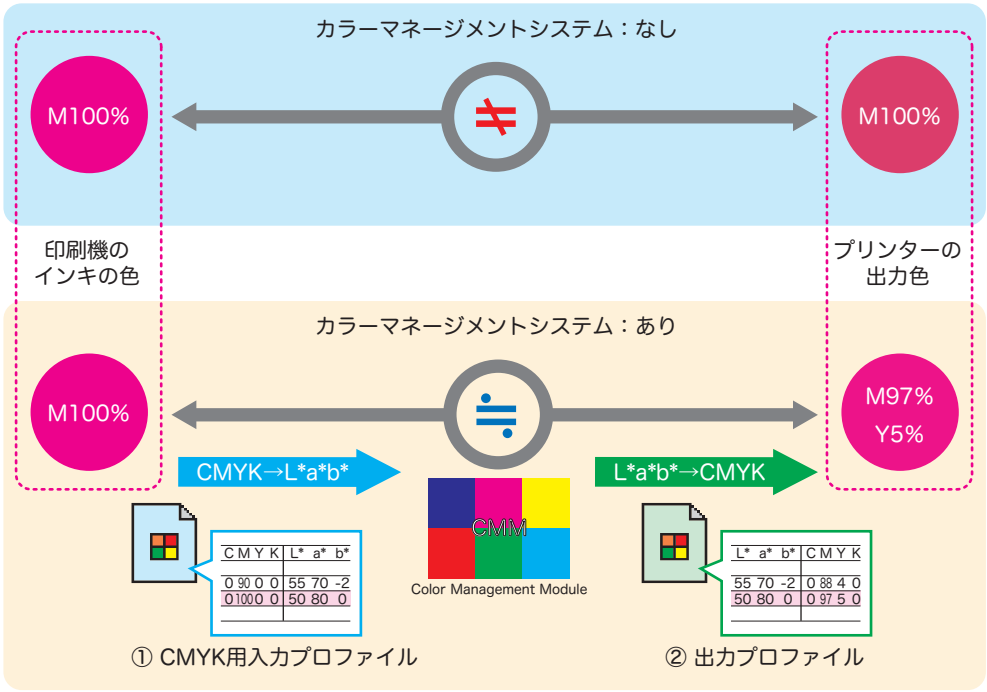
2.1 カラーマネージメントについて

広い意味で、色を管理することを「カラーマネージメント」といいます。カラーマッチング処理（色合わせ）やキャリブレーションなどのカラーマネージメントシステムで、色の調整と管理を行います。

カラーマッチング処理（色合わせ）

オフセット印刷機、カラープリンター、またはモニターなどのデバイスは、それぞれ色再現の範囲が異なり、同じ画像でも、オフセット印刷、カラープリント、およびモニター表示では違う色に見えてしまいます。しかし、これでは工程の中で一貫した色を取り扱うのには不便です。そこで、測色データ、ICCプロファイル、またはJapan Colorなどの標準印刷データを使用し、デバイスに依存していない色を介して、プリントするプリンターのデバイス色に変換することによって、異なるデバイス特性の色をプリンターで表現します。

デバイスに依存しない色（デバイスインディペンデントカラー）として使用されるのが、CIE L*a*b*です。



キャリブレーション

キャリブレーションとは、使用環境やプリント枚数による色の変動を補正する機能です。キャリブレーションをすると、安定した色再現を得ることができます。

参照 キャリブレーションについては、「2.2 キャリブレーションで色を補正する」（P.53）を参照してください。

目標の色（ターゲット色）

カラーマネージメントでは、まず、出力結果を何に合わせるかという目標の色を明確にする必要があります。

- 作業を行うモニターに色を合わせる
- ほかのプリンターに色を合わせる
- 最終的に印刷する印刷機や色校正機に色を合わせる

・以前に同じプリンターで出力した色に合わせる
・同じ機種で別のプリンターで出力した色に合わせる

この目標の色のことを「ターゲット（ターゲット色）」と呼びます。目標の色が決まったら、その色に合わせてカラーマネージメントを行います。

2.1.1　カラーマネージメント

Print Serverには、カラーマネージメントを行うための、さまざまな機能が搭載されています。

● RGBカラープロファイルの読み込み

モニターで使用したICCプロファイルをPrint Serverのカラープロファイルとして登録できます。RGB出力プロファイルに印刷環境用のICCプロファイルを登録すると、印刷環境に近い色味でプリントできます。また、「RGB出力プロファイルの作成」機能を使用して、sRGBやAdobeRGBを想定した、プリンター出力向けのプロファイルを作成できます。

参照　詳細は、「2.3　RGB用ICCプロファイルを設定する」（P.78）を参照してください。

● CMYKプロファイルの作成

Color Profile Maker Proを使用して、印刷物をターゲットとして印刷シミュレーションをするための、より精度の高いCMYKプロファイルを作成できます。作成には、ICCプロファイルも使用できます。

補足
・Color Profile Maker Proは、単独でクライアントコンピューターにインストールしても使用できます。
インストールについては、『Color Profile Maker Pro操作説明書』を参照してください。
・クライアントコンピューターにServerManagerがインストールされている場合は、ServerManagerを使ってPrint Serverにプロファイルを割り当てることができます。
詳細は、「2.4.3 CMYKプロファイルの設定」（P.91）を参照してください。
・クライアントコンピューターにServerManagerがインストールされていない場合は、作成したプロファイルをPrint Serverに複製する必要があります。
詳細は、『Color Profile Maker Pro操作説明書』を参照してください。

参照　詳細は、「2.4　CMYKプロファイルを設定する」（P.86）を参照してください。

● CMYKカラープロファイルを使った印刷シミュレーション

CMYKプロファイル作成機能で作成したプロファイル、または標準で用意されているプロファイルを設定して、オフセット印刷の色味をシミュレーションできます。

印刷会社、デザイン会社や依頼先など環境が違っても、それぞれをPrint Serverに登録しておくと、切り替えて色味をシミュレーションできます。

参照　詳細は、「4.1.4 カラー」（P.195）を参照してください。

● ユーザー調整カーブ

ユーザー調整カーブを作成すると、CMYKそれぞれの色の濃度を自由に調整できます。

参照　詳細は、「2.6　ユーザー調整カーブを設定する」（P.95）を参照してください。

● プリント結果を安定させるキャリブレーション

プリント枚数による色再現性の劣化を補正する、キャリブレーション機能があります。

参照　詳細は、「2.2.2 キャリブレーションの実施」（P.55）を参照してください。

- **キャリブレーションファイル**

  プリントするときは、ジョブごとにキャリブレーションファイルの読み込みと割り当てができます。また、用紙トレイに割り当てることもできます。

  参照 詳細は、「作成したキャリブレーションファイルの操作」（P.59）を参照してください。

- **濃度調整**

  濃度調整カーブは、カラーマネージメントの範囲を超えて、直感的に濃度を調整するときに使用します。

  参照 詳細は、「2.7 濃度調整カーブを設定する」（P.99）を参照してください。

色調整のヒント

期待どおりのプリント結果が得られなかったときや、ワークフローを見直すときの参考にしてください。

- **印刷会社との打ち合わせ**

  プロセス校正や印刷物のような CMYK 印刷では、紙質やインキ、印刷方法、環境要素によって、色再現の領域が変化します。また、印刷機ごとに、使用すべきスクリーン線数や角度、網点などの設定は異なります。印刷会社との十分な打ち合わせをお勧めします。

- **ICCプロファイルと、その他のプロファイル**

  必ずしもICCプロファイルを使う必要はありませんが、使用するとカラーマネージメントが簡単になります。より厳密なカラーシミュレーションを行う場合は、測色データの作成をお勧めします。

- **ユーザー調整カーブの活用**

  ユーザー調整カーブは、CMYKそれぞれの色の濃度を調整できます。ユーザー調整カーブや明るさ調整を操作すると、明るさや色調を自由に変えられます。

- **入力デバイスと出力デバイスの補正**

  モニター、およびプリンターの性能は、時間が経つと変化しますので、デバイスのキャリブレーションは、色の調整で重要なプロセスの 1 つです。アプリケーションの操作を始める前に、必ずキャリブレーションを行います。

- **アプリケーションとプリントオプションの設定**

  プリントオプションが正しく設定されていることを確認します。また、アプリケーションのRGB、CMYK、およびICCプロファイル設定情報に誤りがないか、アプリケーションのマニュアルを参照し、もう一度確認します。

- **測色をするときの注意**

  測色器自体のキャリブレーションや測色方法は、カラーシミュレーションの精度に大きく影響します。「測色をするときの注意点」（P.68）をお読みのうえ、正しくご利用ください。

- **色パッチの確認**

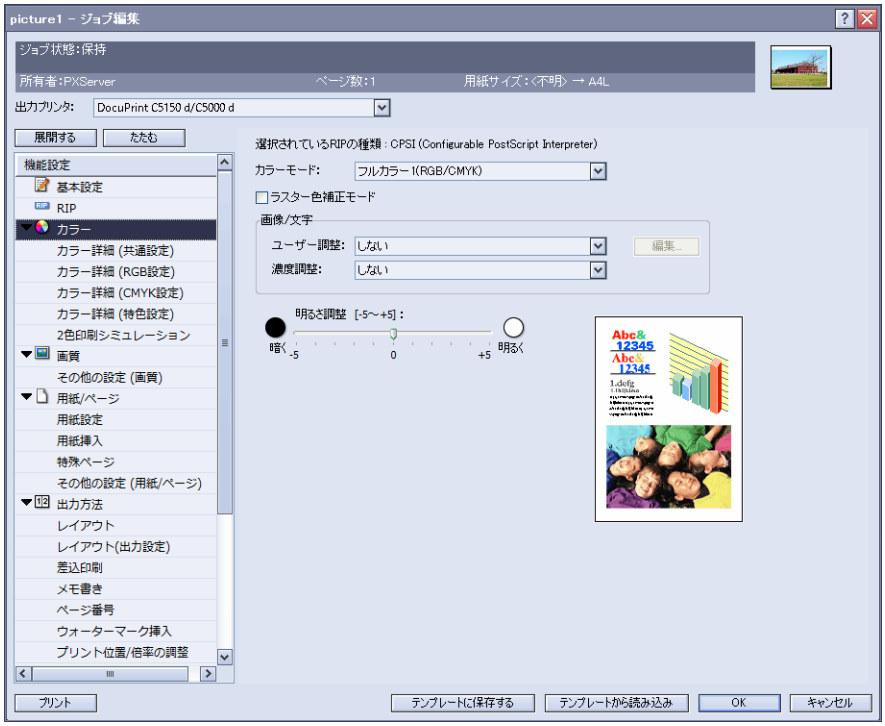
  印刷された各パッチに、汚れや色ムラがないことを確認します。汚れなどがあった場合は、印刷会社に再度印刷を依頼してください。

カラーモードの設定

1. プリントオプションを表示させます。

   プリントオプションは、ServerManagerにあるジョブから［ジョブ編集］ダイアログボックスを開くか、クライアントコンピューターのファイルから［印刷］（または［プリント］）→［Print Server N01］→［詳細設定］をクリックするなどして表示させます。

2. 左側の機能設定ツリーから［カラー］を選択します。



設定項目が表示されます。

3. ［カラーモード］で、［フルカラー 1（RGB/CMYK)］、または［グレースケール（K)］を選択します。

4. RGBデータをプリントする場合は、機能設定ツリーから［カラー詳細（RGB設定)］を選択し、各項目を設定します。
CMYKデータをプリントする場合は、機能設定ツリーから［カラー詳細（CMYK設定)］を選択し、各項目を設定します。

補足　プリントオプションで設定できる項目は、カラーモードによって異なります。

2.1.2　カラーマネージメントのワークフロー

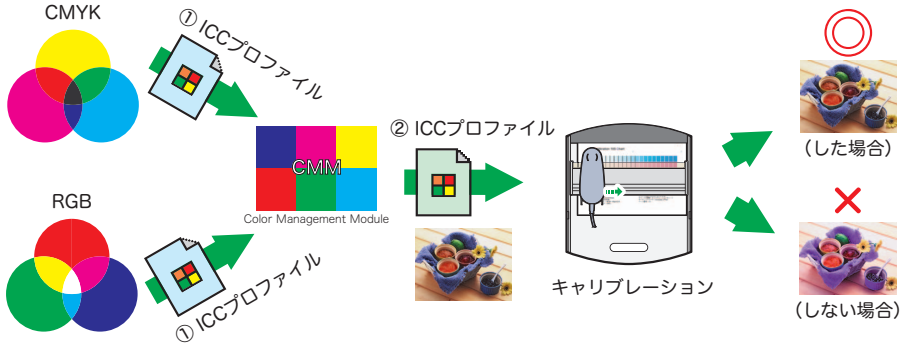


2.2 キャリブレーションで色を補正する

キャリブレーションとは、モニター、カラープリンターなどの色再現変動を補正し、常に安定した再現を得るための機能です。

同じモニターでも、個体差によって色再現性が異なることがあります。また、設置環境や経時劣化によって、色再現が変動することがあり、カラープリンターもモニターと同様に色再現が変動し、出力結果が予想と異なることがあります。

このように色再現が変動している状態で、カラーマッチング処理をしても正確な色再現は得られません。
カラーマッチングの前処理として、モニター、カラープリンターのデバイスごとにキャリブレーションで色を補正することが必要です。



補足
- ICCプロファイルは、使用できるプロファイルの一例です。
- キャリブレーションは、管理者モードのときに操作できます。

キャリブレーション

プリンターは、使用環境やプリント枚数などによって、プリントされる色が変化します。プリンターでも、変化を補正する機能を持っていますが、Print Serverでは、さらに精度の高いキャリブレーションができます。

Print Serverのキャリブレーションでは、キャリブレーションファイルを作成し、以下の方法でプリントに反映させることができます。

- 任意の用紙トレイ（必要に応じて原稿タイプ）にキャリブレーションファイルを割り当てる
- カラー調整ファイルの管理でキャリブレーションファイル1～100に割り当ててPrint Serverに登録し、プリントオプションで設定する

補足
- あらかじめ割り当てられているキャリブレーションの標準ファイルは、キャリブレーション効果を持ちません。必ずキャリブレーションを実施し、キャリブレーションファイルの割り当てを行ってください。
- より良いプリント結果を得るには、少なくとも毎日一度はキャリブレーションをしてください。使用頻度が高い場合は、必要に応じて、一日に何度もキャリブレーションをしても問題ありません。
- キャリブレーション中は、受信ジョブはRIP処理されません。
- 夏季や冬季に空調設備を始動した直後は、室内環境が急激に変化するため、プリントされる色が変化することがあります。このようなときは、室内環境が安定してからキャリブレーションを実施し、プリントを開始してください。
- プリントされる色は、用紙そのものの色味の違いや、用紙表面の加工処理の違いに影響されます。使用する用紙を切り替える場合や、同じ用紙銘柄を使用するときでも、一定期間後に再プリントするジョブの場合、キャリブレーションを実施すると、より厳密な色の安定と再現につながります。
- 印刷、またはほかのプリンターとの色合わせのため、プロファイルを作成する場合には、プロファイル作成用チャートのプリント前にキャリブレーションを実施します。また、プロファイルを適用したプリント前にもキャリブレーションを実施すると、プロファイルが狙う色を再現できます。
- 標準搭載のプロファイルを適用したプリントで、再プリントを予定している場合には、最初のプリント前にキャリブレーションを実施します。再プリント時にはキャリブレーションを実施してからプリントすると、再プリント時の色の変動を抑えることができます。

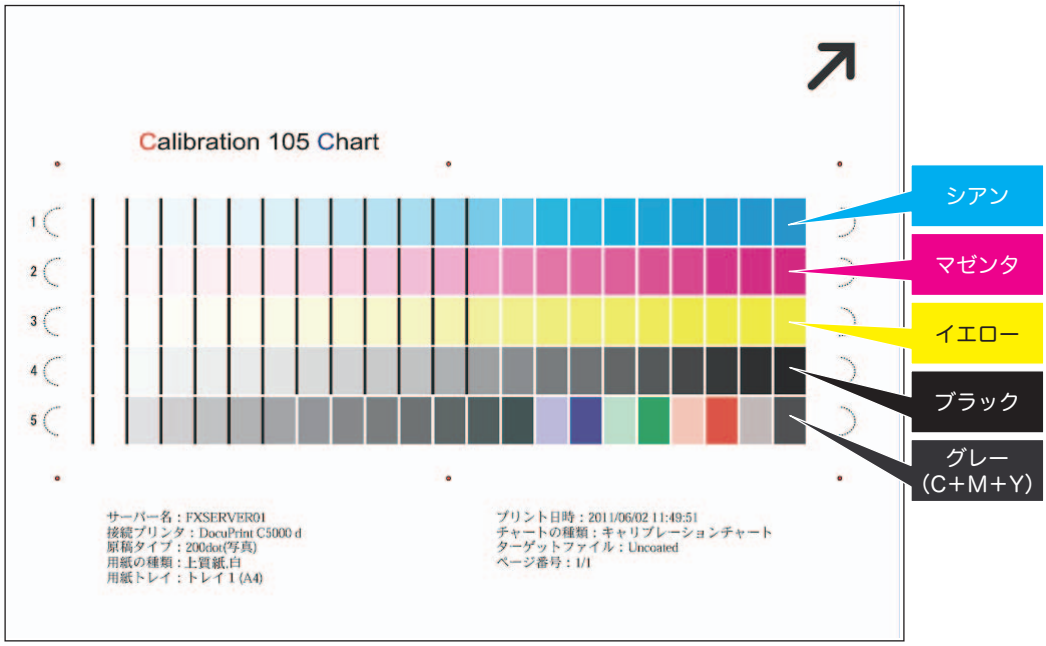
2.2.1　キャリブレーションの設定

■キャリブレーションチャート

キャリブレーションを実施するための測色用チャートをキャリブレーションチャートと呼びます。

● Calibration 105 Chart

CMYKがそれぞれ21分割に等間隔で並べられ、グレーはCMYで13分割に等間隔で重ねたものが並べられています。



■キャリブレーション方法

● 単色キャリブレーション

単色階調の変動に応じて標準状態に補正するキャリブレーションです。

Calibration 105 Chartを使用して、キャリブレーションを実施します。

以下のスクリーン線数、および形状の場合は、単色キャリブレーションができます。

・150dot　　・200dot（写真）　　・300dot（地図）

■キャリブレーションの種類

● 測色器キャリブレーション

測色器を使用して、キャリブレーションチャートの測色をする方法です。キャリブレーションファイルの作成、割り当て、結果確認用サンプルのプリントなどができます。また、キャリブレーション用のターゲットファイルの作成もできます。

補足　・測色器キャリブレーションでは、オプションの測色器が必要です。
・i1と記載した場合は、i1Proとi1Pro 2の両方を表します。

2.2.2　キャリブレーションの実施

キャリブレーションを実施する手順について説明します。

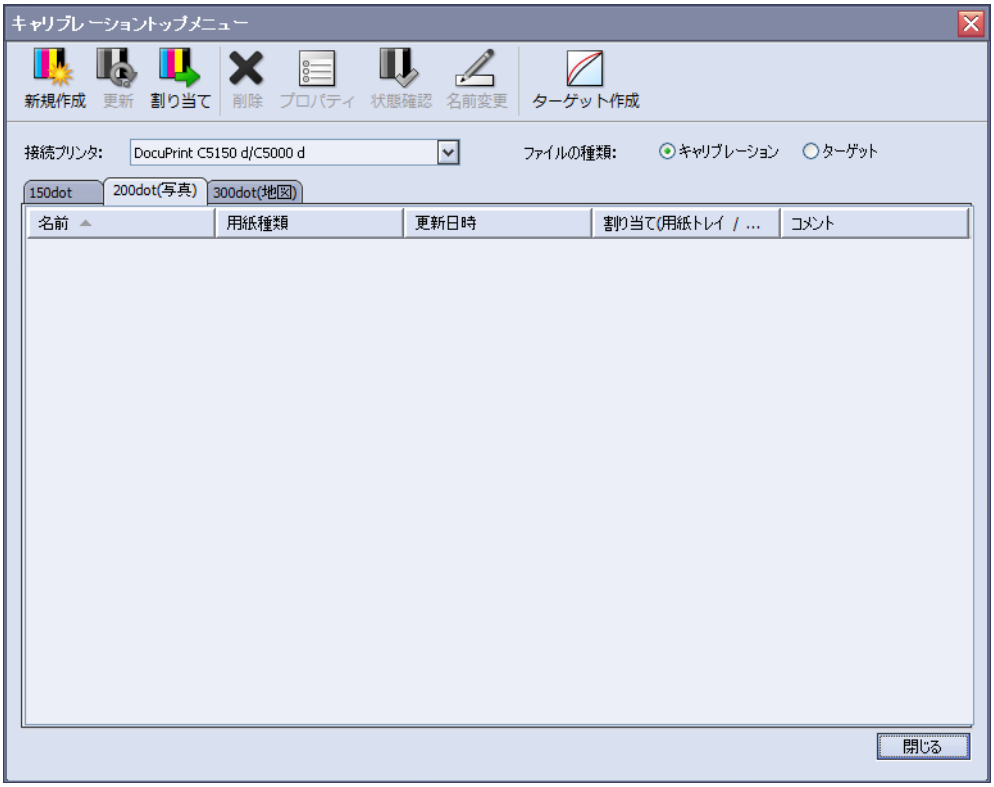
補足　キャリブレーションチャートをプリントするため、用紙トレイに A4 サイズ以上の用紙をあらかじめセットしておいてください。

キャリブレーションファイルの作成

1. ServerManagerの［キャリブレーション］をクリックします。

補足　［カラー］→［キャリブレーション］を選択しても、［キャリブレーショントップメニュー］ダイアログボックスを表示できます。

2. ［新規作成］をクリックします。



［キャリブレーションファイル新規作成］ダイアログボックスが表示されます。

3. [ステップ1：キャリブレーション条件指定] で、各項目を設定します。



- **読み取り装置**

  i1+i1_Reader

  i1_Readerを使用して、キャリブレーションファイルを作成します。

  補足　測色器（i1）はオプションです。

  i1iO+MeasureTool

  i1iO+MeasureToolを使用して、キャリブレーションファイルを作成します。

- **原稿タイプ**

  スクリーン線数を選択します。

  [キャリブレーショントップメニュー] ダイアログボックスで [新規作成] をクリックしたときに、選択されていたタブと同じ原稿タイプが表示されます。

  ・150dot　・200dot（写真）　・300dot（地図）

- **キャリブレーションターゲット**

  非コート紙用のキャリブレーションターゲットです。[i1+i1_Reader] を選択してキャリブレーションするときは [Uncoated]、[i1iO+MeasureTool] を選択してキャリブレーションするときは、[Uncoated_i1iO] を選択します。

  補足
  ・キャリブレーションターゲットはJ紙で82g/㎡を想定しています。
  ・独自のキャリブレーションターゲットを作成して登録している場合は、それらのキャリブレーションターゲットも選択できます。

  参照　キャリブレーションターゲットの設定方法については、「2.2.4 キャリブレーションターゲットファイルの設定」（P.64）を参照してください。

● 用紙トレイ

プリントする用紙のある用紙トレイを選択します。
［手差しトレイ］を選択した場合は、［用紙サイズ］を入力し、［用紙種類］、［色］を選択します。
キャリブレーションでは、以下の用紙種類を使用できます。

- ・上質紙
- ・うら紙
- ・厚紙1（106～169g/㎡）
- ・厚紙1［A］（106～169g/㎡）
- ・厚紙2（170～256g/㎡）
- ・厚紙2［A］（170～256g/㎡）
- ・厚紙3（257～280g/㎡）
- ・コート紙1（106～169g/㎡）
- ・コート紙2（170～256g/㎡）
- ・普通紙
- ・再生紙
- ・厚紙1（106～169g/㎡）うら面
- ・厚紙1［A］（106～169g/㎡）うら面
- ・厚紙2（170～256g/㎡）うら面
- ・厚紙2［A］（170～256g/㎡）うら面
- ・厚紙3（257～280g/㎡）うら面
- ・コート紙1（106～169g/㎡）うら面
- ・コート紙2（170～256g/㎡）うら面

補足　「厚紙１［A］（106～169g/㎡）」、「厚紙１［A］（106～169g/㎡）うら面」、「厚紙２［A］（170～256g/㎡）」、および「厚紙2［A］（170～256g/㎡）うら面」は、［自動トレイ］を選択した場合に使用できます。「厚紙３（257～280g/㎡）」、および「厚紙３（257～280g/㎡）うら面」は、［手差しトレイ］を選択した場合に使用できます。

4. キャリブレーションチャートをプリントする場合は、［ステップ 2：チャート出力指定］の［部数］を入力し、［印刷］をクリックします。

補足
- ・最後にプリントされたキャリブレーションチャートの各パッチに、汚れや色ムラがないことを確認してください。汚れなどがあった場合は、再度プリントしてください。
- ・プリントする部数は、プリントを安定させるために3部以上をお勧めします。

5. ［ステップ3：測色データの読み込み］で、各項目を設定します。
［測色ファイルを使用する］を選択したときは、［参照］をクリックして、測色ファイルを選択します。

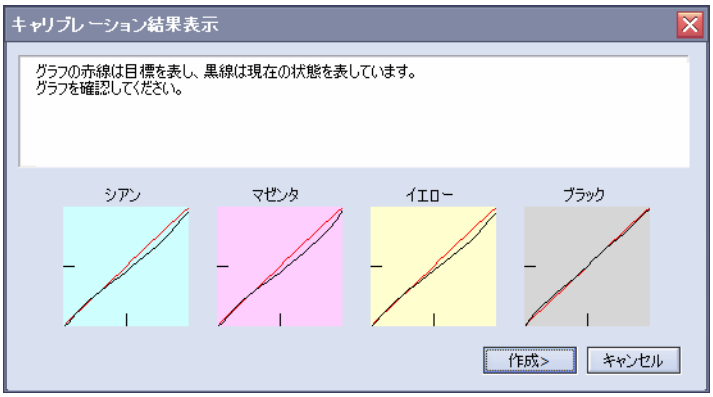
補足
- ・［i1iO+MeasureTool］を選択したときは、［i1_Reader を使って測色する］を選択することはできません。
- ・i1_Readerを起動して測色中の場合は、i1_Readerを終了してから［i1_Readerを使って測色する］を選択してください。

6. ［測色開始］をクリックします。
［i1_Readerを使って測色する］を選択したときは、i1_Readerが起動します。
［測色ファイルを使用する］を選択したときは、測色ファイルが読み込まれます。

補足　A4サイズ以上でキャリブレーションチャートをプリントすると、そのままでは測定用バックアップボードとチャート測定用ルーラーを使った測色ができません。キャリブレーションチャートを破線で切り取ってから測色してください。

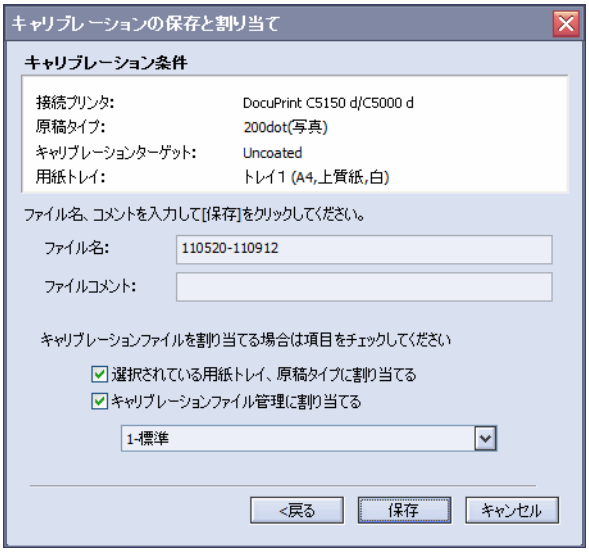
参照　測色方法については、「2.2.5 i1_Readerと測色器」（P.67）を参照してください。

7. 表示された結果に問題がないときは、[作成] をクリックします。



補足 グラフの赤線はキャリブレーションの目標を表し、黒線は現在の状態を表しています。

8. キャリブレーションファイル名と必要に応じてファイルコメントを入力し、[保存] をクリックします。



補足
- キャリブレーションファイルを作成しただけではプリントに反映されません。プリントにキャリブレーションを反映させるには、用紙トレイ（必要に応じて原稿タイプ）、およびカラー調整ファイルの管理で、キャリブレーションファイル1 ～ 100にキャリブレーションファイルを割り当てる必要があります。キャリブレーションファイルを割り当てる項目にチェックマークを付けてください。
- [キャリブレーションファイル管理に割り当てる] にチェックマークを付けた場合は、プルダウンメニューで、割り当てるキャリブレーションファイルを選択します。このとき、必要なキャリブレーションファイルに割り当てて、変更しないように注意してください。

2.2.3　キャリブレーションファイルの設定

作成したキャリブレーションファイルの操作

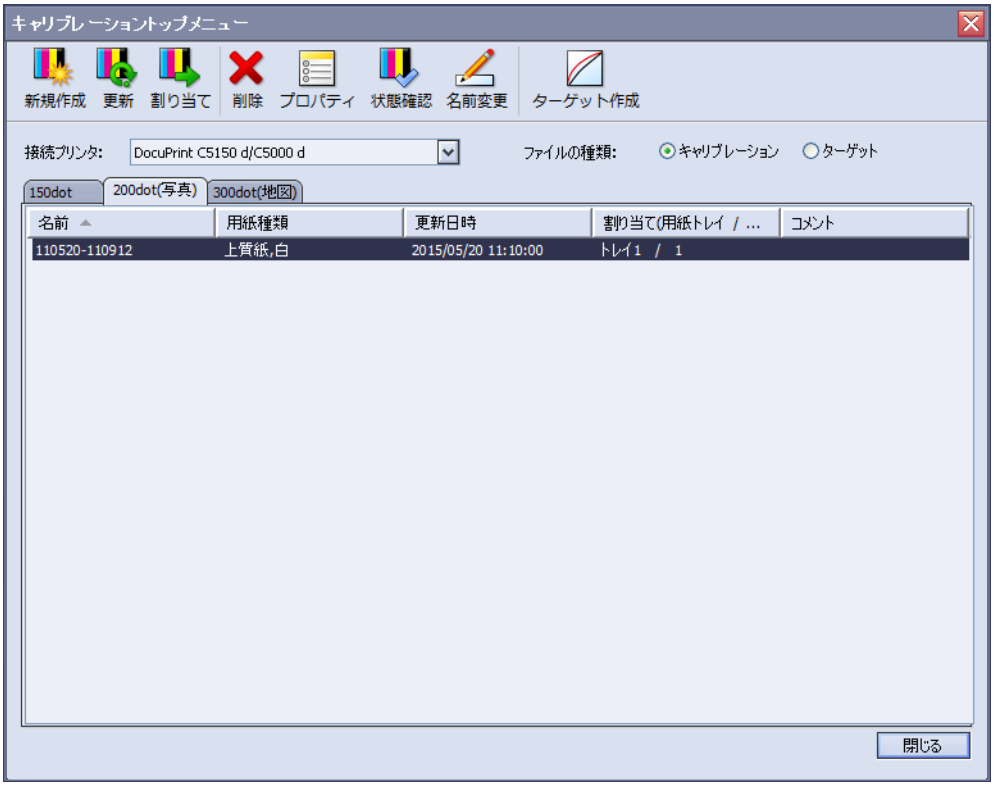
■割り当て

キャリブレーションファイルを用紙トレイに割り当てます。

1. ServerManagerの[キャリブレーション]をクリックします。

> **補足**　[カラー]→[キャリブレーション]を選択しても、[キャリブレーショントップメニュー]ダイアログボックスを表示できます。

2. [割り当て]をクリックします。



3. 割り当てる原稿タイプを選択したあと、用紙トレイのプルダウンメニューからキャリブレーションファイルを選択し、[OK] をクリックします。



- **全ての原稿タイプで作成したキャリブレーションファイルを選択可能にする**

  チェックマークを付けると、すべての原稿タイプで、すべてのキャリブレーションファイルが割り当て可能になります。

  チェックマークを外すと、ほかの原稿タイプで作成されたキャリブレーションファイルが割り当てられている用紙トレイには、「標準」が割り当てられます。

- **選択した用紙トレイのキャリブレーションファイルを全ての用紙トレイに割り当てる**

  チェックマークを付けると、選択している用紙トレイに割り当てられているキャリブレーションファイルがすべての用紙トレイに割り当てられます。

補足 [全ての原稿タイプで作成したキャリブレーションファイルを選択可能にする]、[選択した用紙トレイのキャリブレーションファイルを全ての用紙トレイに割り当てる]にチェックマークを付けると、選択されているタブだけでなく、すべてのタブに反映されます。

■プロパティ

キャリブレーションファイルを作成したときの状態を確認できます。

キャリブレーションを適用したサンプルをプリントして、キャリブレーションの効果を確認できます。

1. [キャリブレーショントップメニュー] ダイアログボックスで、確認するキャリブレーションファイルを選択し、[プロパティ] をクリックします。

   キャリブレーションファイルを作成したときの状態が表示されます。

2. キャリブレーションを適用したサンプルをプリントする場合は、[確認印刷] をクリックします。



3. 用紙トレイ、および出力チャートを選択し、[印刷]をクリックします。



キャリブレーション適用前と適用後のサンプルがプリントされます。

参照
- ServerManager の保持リストにあるジョブの、適用前後の確認プリントもできます。詳細は、「キャリブレーションの確認印刷」(P.135)を参照してください。
- 用紙トレイについては、「用紙トレイ」(P.57)を参照してください。

■更新

キャリブレーションファイル名や作成条件を変更しないで、キャリブレーションを再度実施して、ファイルを更新します。

[キャリブレーショントップメニュー]ダイアログボックスで、更新するファイルを選択し、[更新]をクリックします。

参照
- キャリブレーションファイルを作成したときの作成条件は変更できません。ただし、用紙トレイにセットされている用紙が変更になったときのため、用紙トレイだけが変更できます。用紙トレイについては、「用紙トレイ」(P.57)を参照してください。
- 更新するための手順は、「キャリブレーションファイルの作成」(P.55)の手順4以降と同じです。ただし、キャリブレーションファイルの新規作成はできません。

■状態確認

キャリブレーションの結果がターゲットに対してどれだけ一致しているかを確認できます。

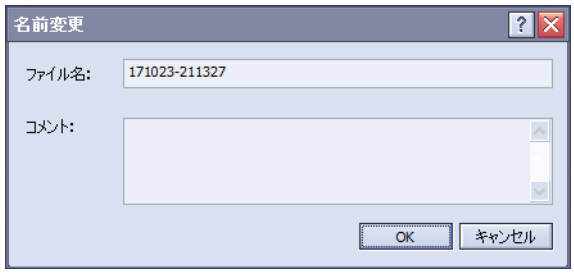
[キャリブレーショントップメニュー]ダイアログボックスで、確認するキャリブレーションファイルを選択し、[状態確認]をクリックします。

補足
確認するための手順は、「キャリブレーションファイルの作成」(P.55)の手順2～5と同じです。ただし、キャリブレーションファイルの作成はできません。

■名前変更

選択したキャリブレーションファイルの名前を変更します。

1. [キャリブレーショントップメニュー]ダイアログボックスで、名前を変更するキャリブレーションファイルを選択し、[名前変更]をクリックします。
2. [名前変更]ダイアログボックスで新しい名前と必要に応じてコメントを入力し、[OK]をクリックします。



■削除

選択したキャリブレーションファイルを削除します。

1. [キャリブレーショントップメニュー]ダイアログボックスで、削除するキャリブレーションファイルを選択し、[削除]をクリックします。
2. 確認のダイアログボックスで、[はい]をクリックします。

補足
- 割り当てられているキャリブレーションファイルを削除した場合、「標準」が割り当てられます。
- 〈Delete〉キー、または〈Back Space〉キーでも削除できます。

カラー調整ファイルの管理でのキャリブレーションファイルの割り当て

作成したキャリブレーションファイルをPrint Serverに登録すると、プリント時にプリントオプションから選択できます。

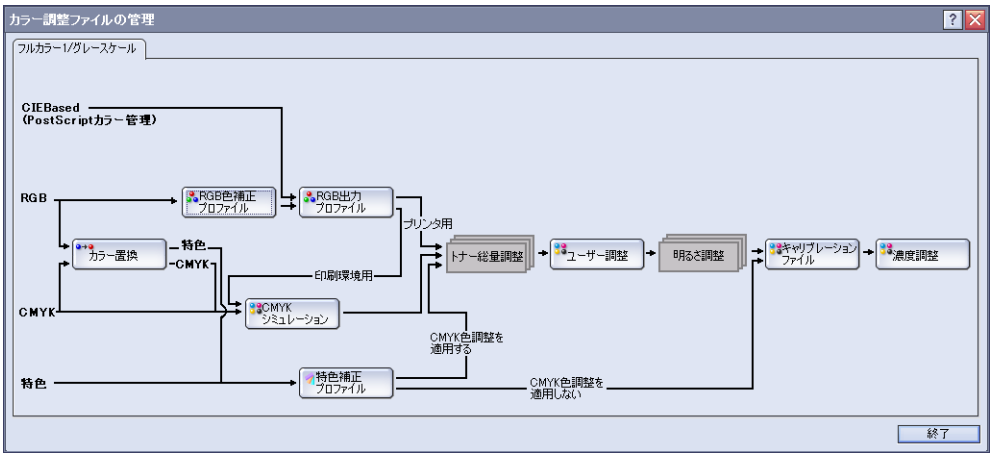
補足
- キャリブレーションを実施しただけではプリントに適用されません。[カラー調整ファイルの管理]ダイアログボックスで割り当てを行い、プリントオプションの[画質]>[キャリブレーション]でキャリブレーションファイルを選択してください。
- [画質]>[キャリブレーション]で[自動]が選択されている場合、キャリブレーション作成時や[キャリブレーション]ダイアログボックスの[割り当て]で、用紙トレイと原稿タイプに割り当てられたキャリブレーションファイルが使用されます。
- [画質]>[キャリブレーション]で1 ～ 100のどれかが選択されている場合、キャリブレーション作成時や[カラー調整ファイルの管理]ダイアログボックスで、該当番号に割り当てたキャリブレーションファイルが使用されます。
- 割り当てられたキャリブレーションファイルは、[キャリブレーショントップメニュー]ダイアログボックスに青字で表示されます。

参照 キャリブレーションファイルの作成については、「2.2.2 キャリブレーションの実施」(P.55)を参照してください。

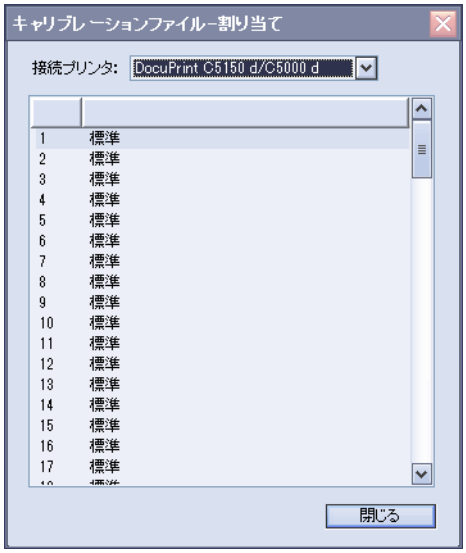
1. ServerManagerの  [カラー調整ファイルの管理]をクリックします。

補足 [カラー]→[カラー調整ファイルの管理]を選択しても、[カラー調整ファイルの管理]ダイアログボックスを表示できます。

2. [カラー調整ファイルの管理] ダイアログボックスで、[キャリブレーションファイル] をクリックします。



3. 1 ～ 100 の中から割り当てる番号のキャリブレーションファイル名が表示されている箇所をクリックし、プルダウンメニューでキャリブレーションファイルを選択します。



4. [閉じる] をクリックします。

補足

・割り当てたキャリブレーションファイルをプリントに適用するときは、プリントオプションの［画質］>［キャリブレーション］からキャリブレーションファイルを選択します。詳細は、「4.1.5 画質」(P.205) を参照してください。
・あらかじめ割り当てられているキャリブレーションの標準ファイルには、キャリブレーションの効果はありません。

2.2.4 キャリブレーションターゲットファイルの設定

プリントで使用する用紙専用にカスタマイズしたキャリブレーションターゲットファイルを作成できます。

作成したターゲットファイルは、キャリブレーションファイルを作成するときに、［キャリブレーションターゲット］で選択できます。

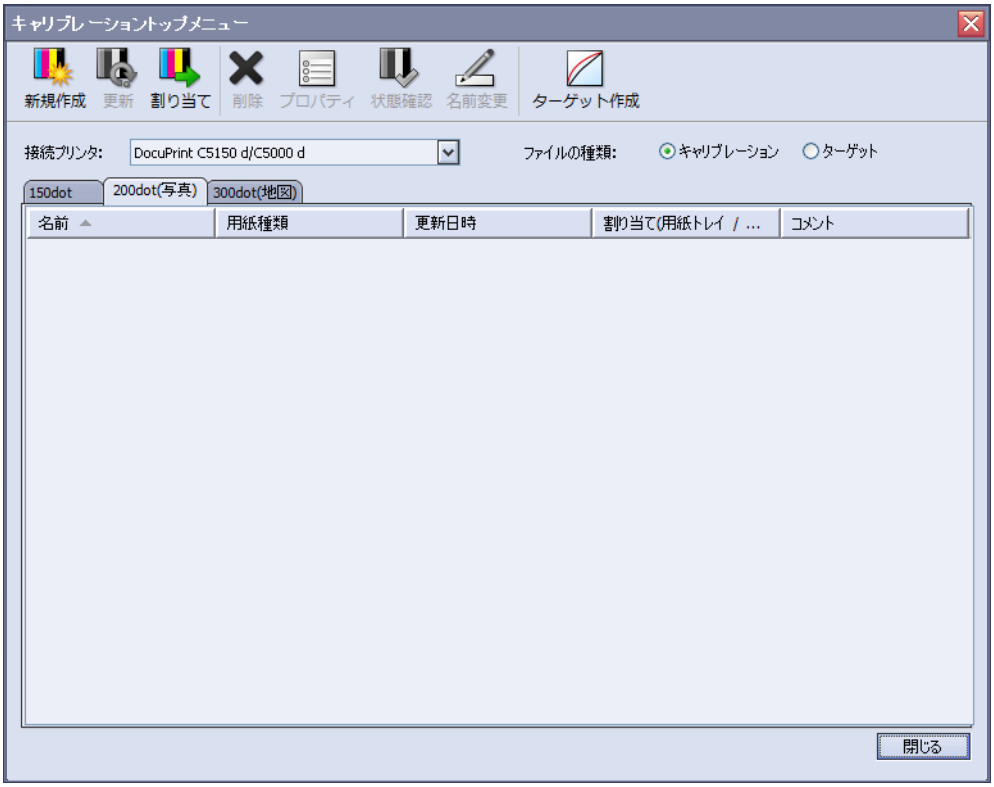
補足
・非コート紙用のキャリブレーションターゲットファイルを標準で用意しています。
・キャリブレーションターゲットファイルを作成するためには、オプションの測色器（i1）が必要です。

キャリブレーションターゲットファイルの作成

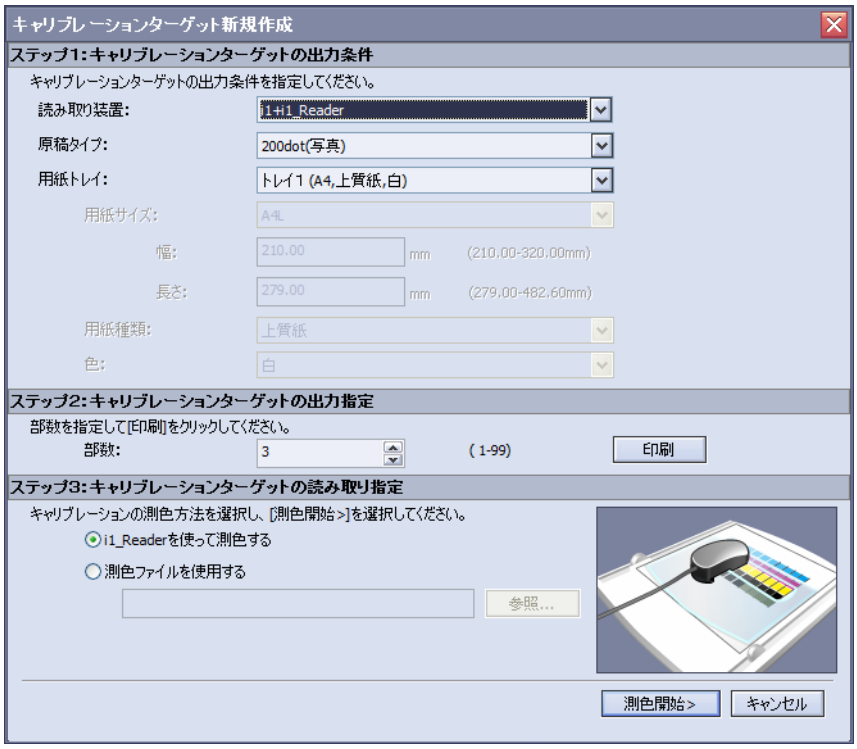
1. ServerManagerの［キャリブレーション］をクリックします。

補足 ［カラー］→［キャリブレーション］を選択しても、［キャリブレーショントップメニュー］ダイアログボックスを表示できます。

2. ［ターゲット作成］をクリックします。



3. [ステップ1：キャリブレーションターゲットの出力条件]で、各項目を設定します。



- **読み取り装置**

  i1+i1_Reader

  i1_Readerを使用して、キャリブレーションターゲットファイルを作成します

  補足　測色器（i1）はオプションです。

  i1iO+MeasureTool

  i1iO+MeasureToolを使用して、キャリブレーションターゲットファイルを作成します。

- **原稿タイプ**

  スクリーン線数を選択します。

  ・150dot　・200dot（写真）　・300dot（地図）

- **用紙トレイ**

  プリントする用紙のある用紙トレイを選択します。

  [手差しトレイ]を選択した場合は、[用紙サイズ]を入力し、[用紙種類]、[色]を選択します。

4. ターゲット作成用チャートをプリントする場合は、[ステップ 2：キャリブレーションターゲットの出力指定]の[部数]を入力し、[印刷]をクリックします。

補足
- プリントする部数は、プリントを安定させるために3部以上をお勧めします。
- 最後にプリントされたキャリブレーションターゲット作成用チャートに、汚れや色ムラがないことを確認してください。汚れなどがあった場合は、再度プリントしてください。

5. [ステップ3：キャリブレーションターゲットの読み取り指定]で、ターゲット作成用チャートの測色方法を選択します。
[測色ファイルを使用する]を選択したときは、[参照]をクリックし、あらかじめ保存した測色ファイルを選択します。

補足　[i1iO+MeasureTool]を選択したときは、[i1_Reader を使って測色する]を選択することはできません。

6. [測色開始] をクリックします。

[i1_Readerを使って測色する] を選択したときは、i1_Readerが起動します。
[測色ファイルを使用する] を選択したときは、測色ファイルが読み込まれます。

補足 A4 サイズ以上でターゲット作成用チャートをプリントすると、そのままでは測定用バックアップボードとチャート測定用ルーラーを使った測色ができません。ターゲット作成用チャートを測定用バックアップボードに入る大きさに切り取ってから測色してください。

参照 測色方法については、「2.2.5 i1_Readerと測色器」(P.67) を参照してください。

7. ターゲットファイル名と必要に応じてファイルコメントを入力し、[保存] をクリックします。



キャリブレーションターゲットファイルの削除

1. [キャリブレーショントップメニュー] ダイアログボックスの [ファイルの種類] で、[ターゲット] を選択します。
2. 削除するキャリブレーションターゲットファイルを選択し、[削除] をクリックします。
3. 確認のダイアログボックスで、[はい] をクリックします。

補足
- キャリブレーションの作成や更新で使うキャリブレーションターゲットファイルを削除しないように注意してください。
- 〈Delete〉キー、または〈Back Space〉キーでも削除できます。

2.2.5　i1_Readerと測色器

キャリブレーションチャートやデバイスリンクプロファイル、特色の作成時の測色には、X-Rite社の「i1」が使用できます。測色器として、「i1Pro 2」を使用した場合の測色方法について説明します。

測色には、i1_Readerというアプリケーションを使用します。i1_Readerは、USB接続ができるPrint Serverのソフトウェアが対応しているOS（ただし、Mac OS 9.2.2を除く）で使用できます。

補足
- i1Pro、およびi1Pro 2はオプションです。
- i1は精密機器です。i1を使用したあとは、損傷やほこりによる影響を避けるため、専用のケースで保管してください。

参照
- Print Serverのソフトウェアの対応OSについては『ユーザーズガイド 導入編』の「2.1.1 クライアントコンピューターの動作環境」を参照してください。
- Color Profile Maker Proの詳細については、『Color Profile Maker Pro操作説明書』を参照してください。

インストールと設定

■インストール

インストール方法は、クライアントコンピューターのOSによって異なります。

● macOSクライアント

1. アプリケーションUSBメモリーの以下のファイルをクライアントコンピューターに複製します。

   Client/OS X/i1_Reader.dmg

2. 複製した「i1 Reader.dmg」をダブルクリックします。
3. i1_Readerアプリケーションを含むフォルダーが展開されるので、アプリケーションだけを任意のフォルダーに複製します。

● Windowsクライアント

1. アプリケーションUSBメモリーの以下のフォルダーをクライアントコンピューターに複製します。

   Print Server N01 V6.0¥ClientWindows¥Client¥i1 Reader

2. フォルダー内の「i1_Reader.msi」をダブルクリックします。
3. 表示される画面に従って、i1_Readerをインストールします。

■Print Serverの設定

オーディオケーブルが接続されていないPrint Serverでは、測色の開始や終了などを知らせるビープ音が出ません。ビープ音が出ないときは、必要に応じて、画面で測色の進行状態が通知されるように設定します。

1. Windowsの［スタート］→［Windowsシステムツール］→［コントロールパネル］→［コンピューターの簡単操作］→［コンピューターの簡単操作センター］→［サウンドの代わりにテキストまたは画像を使用します］を選択します。
2. ［サウンドの代わりにテキストまたは画像を使用します］ダイアログボックスで、［サウンドを視覚的な通知へ置き換えます（サウンド表示）］にチェックマークを付け、［アクティブ ウィンドウを点滅させます］を選択します。

補足 ［デスクトップを点滅させます］を選択すると、エラーが発生したときに画面全体が点滅する設定に変更します。
ただし、［デスクトップを点滅させます］を選択すると、i1 の測色以外の操作でも画面全体が点滅します。

3. ［OK］をクリックします。

■測色をするときの注意点

- 測色をするときは、i1 に付属のチャート測定用ルーラーと測定用バックアップボードを必ず使用してください。フリーハンドで測色をすると、正しい測色結果にならないことがあります。
- 測色をするときは、チャートと測色器の間に光が入らないように平らな場所で行ってください。
- 測色器の調整に使用する白色板と測色器は、1対1の組み合わせになっています。白色板を紛失すると、測色器が使用できませんので、白色板を紛失しないように注意してください。
- ほかの測色器のパッケージに付属の白色板を使用しても、正確な調整ができません。必ず、使用する測色器のパッケージに付属の白色板を使用してください。

i1_Readerによる測色

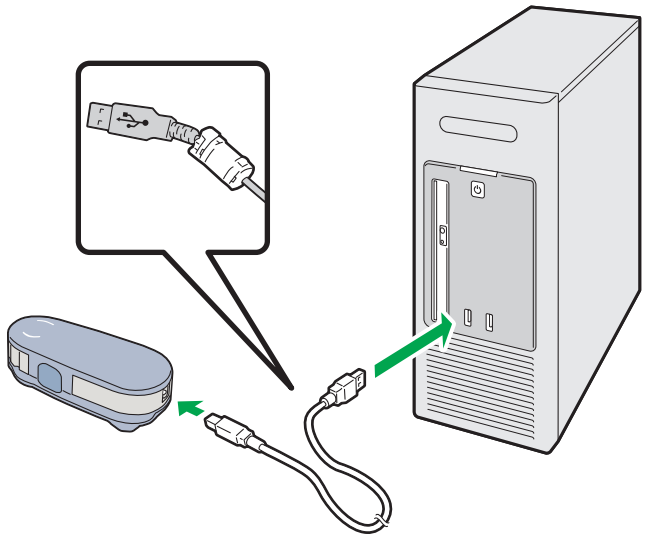
測色器にi1Pro 2を使用する操作を例に説明します。

測色をするときは、測色ボタンを押し、アプリケーションのメッセージに合わせて操作します。

■i1Pro 2での測色

1. Print Serverの背面、または前面のUSBコネクターに、測色器を接続します。

   正面の USB コネクターに測色器などのケーブル機器を接続するときは、同梱のフェライトコアを取り付けてください。



■初回接続時の注意点

- 出荷時には、測色器の下側のスライド速度センサーにシールが貼ってあります。このシールをはがしてから測色してください。
- i1Pro 2を接続したときに、ドライバーインストールのダイアログボックスが表示されますので、指示に従って「i1_Reader」フォルダーの以下のファイルを選択してください。

  driver¥EyeOne¥i1.inf

2. i1_Readerを起動します。

補足
・キャリブレーションで測色をする場合は、[キャリブレーションの新規作成]ダイアログボックスで［測色開始］をクリックすると、i1_Readerが起動します。
・キャリブレーションから i1_Reader を起動させた場合には、測色パッチパターン、照明条件、測色データ形式はあらかじめ適切に設定された状態です。

参照 キャリブレーションの新規作成については、「キャリブレーションファイルの作成」(P.55) を参照してください。

■アプリケーションからの起動方法

◆macOSクライアント

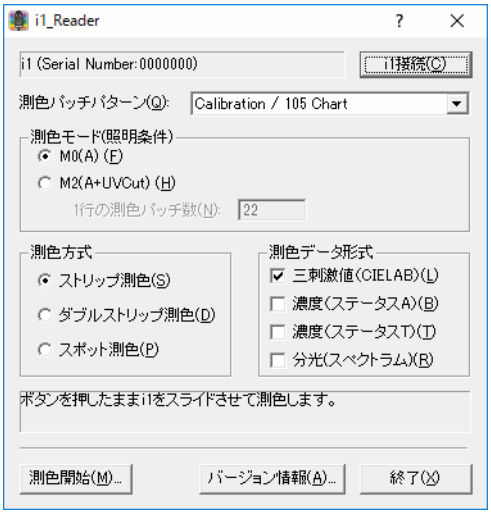
複製したi1_Readerのフォルダー内の「i1_Reader」をダブルクリックします。

◆Windowsクライアント

Windowsの［スタート］→［Fuji Xerox］→［i1_Reader］を選択します。

補足 インストールした場合は、デスクトップのアイコンをダブルクリックすると起動します。

3. 各項目を設定し、［測色開始］をクリックします。



補足 ［キャリブレーションの新規作成］ダイアログボックスで［測色開始］をクリックして、i1_Readerを起動させたときは、［測色方式］以外の項目は設定できません。

- 測色パッチパターン

  測色に使用するチャートのパターン画像セットは、以下の種類があり、それぞれ画像ファイルが用意されています。用途や使用条件に応じて選択してください。

  - 指定なし
  - PrintServer Series 1188 Chart

    このパターンは使用できません。
  - CPMP / FULL 1584 Chart

    測色データを作成するための Full セット 1584 パッチのチャートです。測色データは、Color Profile Maker Proを使用してカラープロファイルを作成するときに使用します。
  - CPMP / Standard 1188 Chart

    測色データを作成するための1188パッチのスタンダードチャートです。測色データは、Color Profile Maker Proを使用してカラープロファイルを作成するときに使用します。
  - CPMP / DRAFT 256 Chart

    Color Profile Maker Proでプロファイルを作成する場合に使用するパターン画像セットです。

- Calibration / 100 Chart
  このパターンは使用できません。
- Calibration / 120 Chart
  このパターンは使用できません。
- Calibration / 105 Chart
  キャリブレーション用測色チャート、またはキャリブレーションターゲット作成用チャートです。
- Calibration / 170 Chart
  このパターンは使用できません。
- Calibration / 252 Chart
  このパターンは使用できません。

補足
- 「PrintServer Series 1188 Chart」、「Calibration / 100 Chart」、「Calibration / 120 Chart」、「Calibration / 170 Chart」、および「Calibration / 252 Chart」は、Print Server N01 では使用しません。
- ［指定なし］は専用チャート以外のチャートの測色をする場合に選択します。
- 測色は［終了］をクリックするまで続きます。［終了］をクリックすると、データを保存するためのダイアログボックスが表示されます。

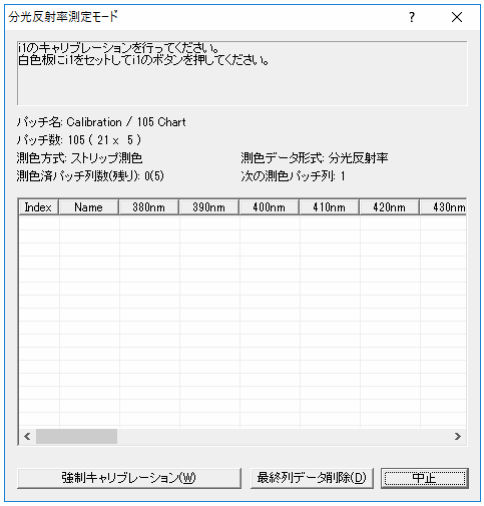
- 測色モード（照明条件）
  - M0(A)
    UV成分をカットしない測色をするときのモード（M0測色モード）です。
    キャリブレーションをするときは、必ずこのモードを選択してください。キャリブレーションファイル作成時に［i1_Reader を使って測色する］から i1_Reader を起動すると、自動で選択されます。
    アプリケーションから起動したときも、必ずこのモードを選択してください。
  - M2(A+UV Cut)
    UV成分をカットした測色をするときのモード（M2測色モード）です。
    Print Server N01 では使用しません。
  - 一行の測色パッチ数
    ［測色パッチパターン］で［指定なし］を選択した場合に入力します。
- 測色方式
  - ストリップ測色
    横一列の色をi1Pro 2に付属のチャート測定用ルーラーを使って、測色器を横にスライドさせて測色します。
    右端の色までスライドさせたら、横一列の測色は終了です。
  - ダブルストリップ測色
    横一列の色をi1Pro 2に付属のチャート測定用ルーラーを使って、測色器を横にスライドさせて測色します。
    右端の色までスライドさせたら、左端の色まで測色器を再度スライドさせて測色します。往復で測色し、その平均値を測色値として使うため、ストリップ測色よりも精度が向上します。
  - スポット測色
    色を1つずつ測色します。

補足
測色方式は、「ストリップ測色」、または「ダブルストリップ測色」をお勧めします。

- 測色データ形式
  ・三刺激値（CIELAB）　・濃度（ステータスA）　・濃度（ステータスT）　・分光（スペクトラム）

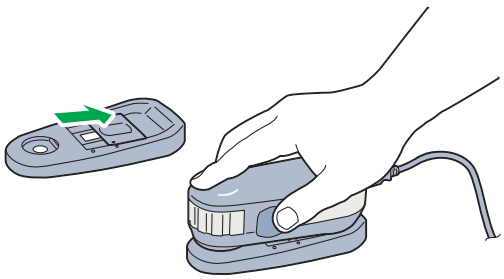
補足
- キャリブレーションで使用する場合には、必ず［分光（スペクトラム）］を選択してください。
- CMYKプロファイル、またはColor Profile Maker Proで使用する場合は、必ず［三刺激値（CIELAB）］を選択してください。

4. 測色器をキャリブレーションします。



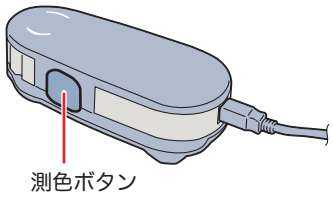
◆i1Pro 2のキャリブレーション

1. 付属の白色板の保護カバーを開け、白色板にi1Pro 2をセットします。
測色器の調整に使用する白色板と測色器は、1対1の組み合わせになっています。



補足　保護カバーが閉じたままではi1Pro 2のキャリブレーションができません。

2. 測色ボタンを押します。
終了メッセージが表示されたら、キャリブレーションは終了です。

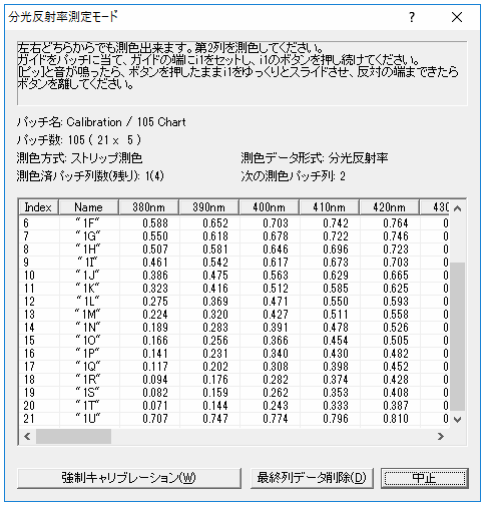


補足　終了メッセージが表示されるまで、i1Pro 2を動かさないでください。

5. チャートを測色します。

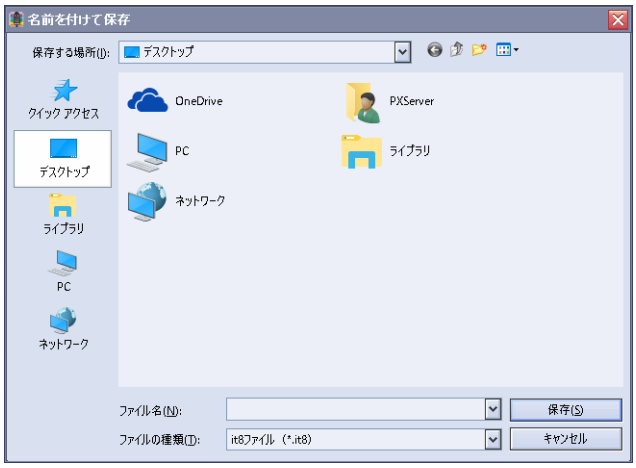
ダイアログボックス上部に表示されるメッセージに従って、チャートを測色します。

測色時の裏写りを防ぐため、チャートの下に、チャートと同じサイズの白紙を5枚以上敷いて測色します。



チャートの測色に失敗すると、ダイアログボックス上部にメッセージが表示されます。再度測色を実行してください。

6. ファイル名を入力し、[保存]をクリックします。



[キャンセル]をクリックした場合は、[終了]をクリックして、測色を終了します。

キャリブレーションチャートの測色

キャリブレーションチャートの測色を例に、i1Pro 2のM0モードを使用してi1_Readerで測色をする場合の測色方法について説明します。測色方法には、以下の3つがあります。

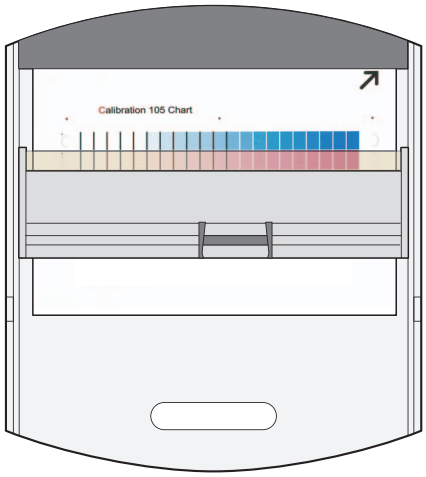
- **ストリップ測色**
  チャートの左から右へ、片道スキャンになります。
- **ダブルストリップ測色**
  チャートの左から右へ、1往復スキャンになります。
- **スポット測色**

測色は、CMYKの色をC→M→Y→K→グレーの順に、一番薄い色から濃い色の順に作業を進めます。

参照　キャリブレーションチャートについては、「キャリブレーションチャート」（P.54）を参照してください。

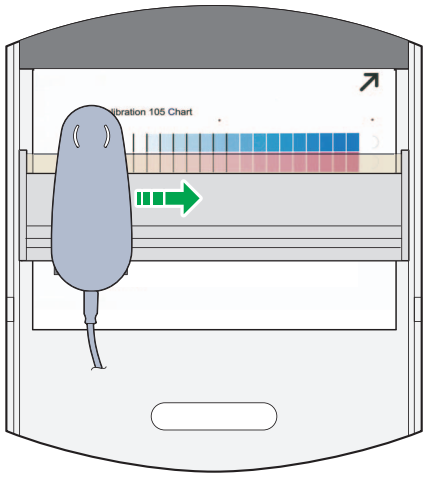
Calibration 105 Chartの測色をする場合を例に説明します。

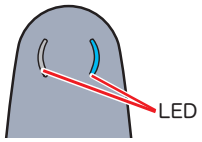
1. 測定用バックアップボードの中心にキャリブレーションチャートをセットし、その上にチャート測定用ルーラーをのせます。



補足
- 測色をするときは、測色をするチャートの下に、チャートと同じサイズの白紙を5枚以上敷いてください。
- キャリブレーションチャートをA4サイズ以上でプリントした場合は、バックアップボードにのせるために破線で切り取ってください。

2. チャート測定用ルーラーを測定第1列目のシアンパッチの破線に合わせるように、水平移動します。
シアンから測定します。
3. チャート測定用ルーラーにi1Pro 2をセットし、i1Pro 2を左端破線の位置に移動します。

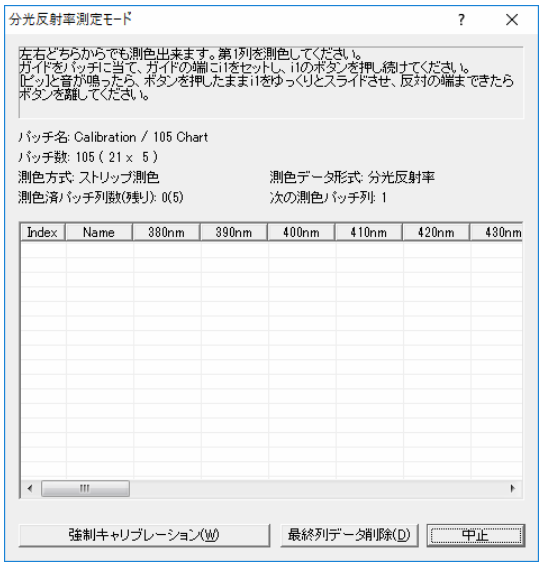




測色前には、LED表示の右側が青で点滅します。

補足　測色中に一定時間を経過すると、「i1 のキャリブレーションを行ってください。」というメッセージが出て、測色ができなくなります。
「i1Pro 2のキャリブレーション」（P.71）を参照して測色器のキャリブレーションを行ってください。

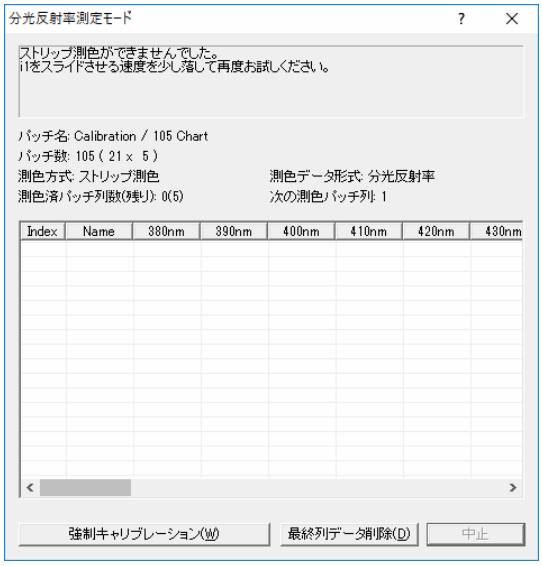
4. 測色ボタンを押し、ボタンから指を離さずに左から右へとi1Pro 2を移動します。



補足 移動速度は、6パッチ/秒を目安にしてください。以下の場合は、測定に失敗することがあります。

- 移動速度が速すぎる、または遅すぎる
- 移動途中にボタンから指を離した

5. 一番右まで移動したら、ボタンから指を離します。
測定に失敗した場合は、以下のエラーダイアログボックスが表示されるので、手順３からやり直してください。



ストリップ測色の場合、測色に成功すると、LED表示が緑で2回点滅します。



ダブルストリップ測色の場合、測色に成功すると、LED表示の左側が青で点滅します。



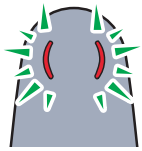
測色に失敗すると、LED表示が赤で2回点滅します。



6. ダブルストリップ測色の場合、測色ボタンを押し、ボタンから指を離さずに右から左へとi1Pro 2を移動し、一番左まで移動したら、ボタンから指を離します。
測色に成功すると、LED表示が緑で2回点滅します。



測色に失敗すると、LED表示が赤で2回点滅します。



7. 同様に他の色も順に測定します。
測色器用のチャートはマゼンタ、イエロー、ブラック、グレーの順に測定します。
途中で測定に失敗した場合には、失敗した色の列の最初からやり直してください。

■i1iO+MeasureToolでの測定方法

1. アプリケーションUSBメモリー内の以下のファイルを、MeasureToolのインストールフォルダーに複製します。

- 複製するファイル

¥etc¥CalibChart for MeasureTool¥Calib105Chart_MeasureTool.txt

- MeasureToolのインストールフォルダー（デフォルトの場合）

C:Program Files¥GretagMacbeth¥ProfileMaker Professional¥Reference Files¥Printer¥EyeOne_iO

2. MeasureToolの［テストチャートの測定］ダイアログボックスで、テストチャートの一覧から「Calib105Chart_MeasureTool.txt」を選択します。

3. ［ファイル］→［別名で保存］で、測定後のデータを「.txt」ファイルで保存します。

補足　［Labの書き出し］はしないでください。

4. キャリブレーションの［測色ファイルを使用する］の［参照］をクリックして、保存した「.txt」ファイルを選択します。

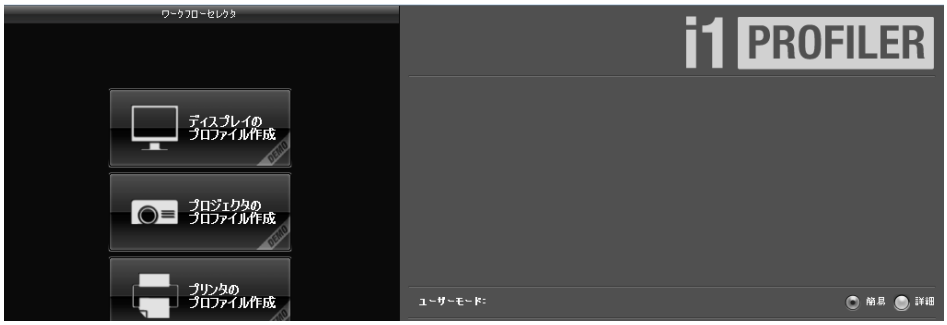
■i1iO 2+i1Profilerでの測定方法

1. アプリケーションUSBメモリー内の以下のファイルを、任意のフォルダーに複製します。ファイルは、MeasureToolと共通です。

   ● 複製するファイル

   ¥etc¥CalibChart for MeasureTool¥Calib105Chart_MeasureTool.txt

2. i1Profilerの［詳細］ラジオボタンをクリックします。



3. 左側の［ワークフローセレクタ］から［プリンタ］の［装置の選択］をプルダウンし、［CMYKプリンタ］を選択します。



4. ［チャート測定（リファレンス付）］をクリックします。

5. 右側の［チャートの定義］で［ロード］をクリックします。



6. チャートの一覧から、手順1で複製したファイルを選択し、［開く］をクリックします。

7. ［装置の設定］で測色器を選択したあと、［測定］をクリックし、画面の指示に従って、測定します。

補足　チャート測色は、［シングルスキャン］を選択してください。

8. ［保存］の［保存種類］で、「i1 Profiler CGATS分光」を選択してファイルを保存します。

補足　保存データには、CMYKとL*a*b*、分光（380～730nm）を含めるようにしてください。

9. キャリブレーションの［測色ファイルを使用する］の［参照］をクリックして、保存した「.txt」ファイルを選択します。

i1_Readerの便利な使い方

- **最終列データ削除**

  チャート測定用ルーラーにそってスライドさせているときに測色器が少しでも浮くと、精度低下の原因となります。測色が完了し、i1_Readerから次の列の測色を促されても、測色し直すことをお勧めします。

  ［最終列データ削除］をクリックして、最後の１列分の測色を削除してから、データを測色し直してください。

- **エラーメッセージ表示時間の短縮**

  i1_Readerは、測色のスライド速度が速いなどのエラーが発生した場合に、エラーメッセージが7秒間表示されます。7秒間は、メッセージを読みとるために十分な長さとして設定されたものですが、i1_Readerの操作に慣れ、この時間を短縮したい場合は、エラーメッセージが表示されているときに、i1のボタンを軽くクリックしてください。エラー表示がキャンセルされ、次の測色がすぐにできるようになります。

2.3 RGB用ICCプロファイルを設定する

モニターに使用したICCプロファイルをプリントに適用すると、プリント結果の色味をより近づけることができます。

ICCプロファイルをPrint Serverに読み込み、［カラーモード］を［フルカラー 1（RGB/CMYK）］にすると、プリントに反映できます。

以下の2種類のRGB用ICCプロファイルをPrint Serverに読み込み、プリントに反映できます。

・モニター用RGB色補正プロファイル

・プリンターや印刷環境用のプリント用RGBプロファイル

補足　ICCプロファイルは、管理者モードのときに操作できます。一般ユーザーモードでは、閲覧だけできます。

2.3.1 RGB色補正プロファイルの設定

RGB色補正プロファイルの読み込み/割り当て

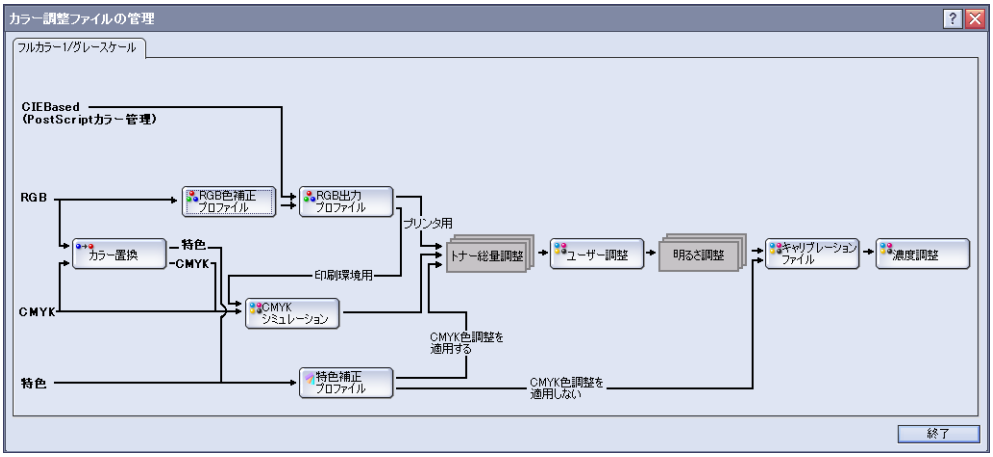
プリントに適用するRGB色補正プロファイルの読み込みと割り当てを行います。

読み込んだRGB色補正プロファイルをPrint Serverに登録すると、プリント時にプリントオプションから選択できます。

1. ServerManagerの［カラー調整ファイルの管理］をクリックします。

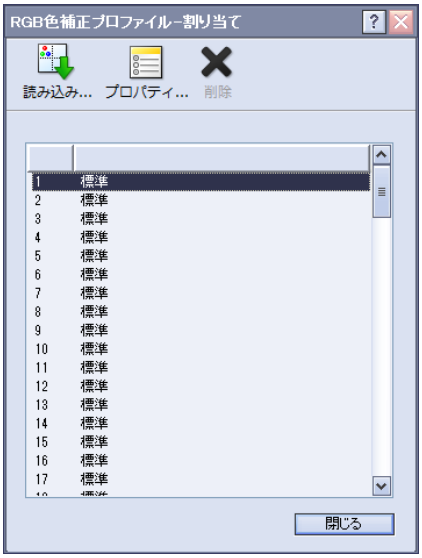
補足　［カラー］→［カラー調整ファイルの管理］を選択しても、［カラー調整ファイルの管理］ダイアログボックスを表示できます。

2. ［RGB色補正プロファイル］をクリックします。

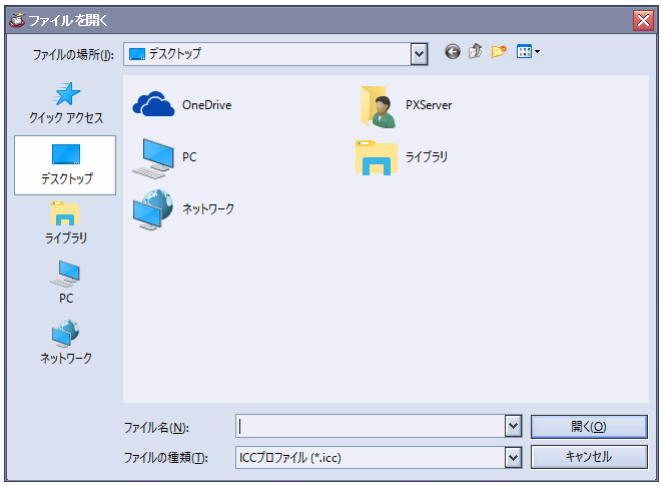


補足　クライアントコンピューターのServerManagerで実行した場合は、［ファイルを開く］ダイアログボックスが表示される前に、読み込み元（Print Serverのファイル、またはクライアントコンピューターのファイル）を選択するダイアログボックスが表示されます。

3. ［読み込み］をクリックします。

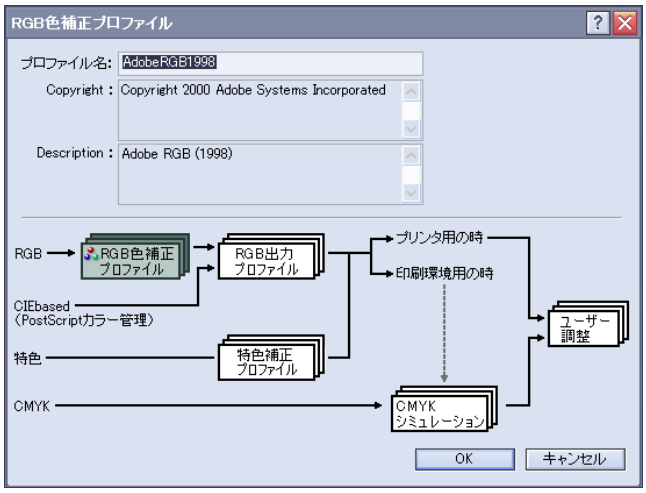


4. 読み込むICCプロファイルを選択し、［開く］をクリックします。



補足　サポートしているICCプロファイルは、Ver.2とVer.4です。

5. 必要に応じてプロファイル名を変更し、[OK] をクリックします。



プロファイルがPrint Serverに読み込まれ、一覧に表示されます。

補足
- [RGB色補正プロファイル-割り当て] ダイアログボックスの一覧で番号を選択した場合は、選択した番号へのプロファイルの割り当てを確認するダイアログボックスが表示されます。[はい] をクリックすると、選択された番号にプロファイルが割り当てられます。
- 「標準」、「fxsRGBCSA」、「fxaRGB1998」、および読み込み済みのプロファイルと同じ名前は、プロファイル名に使用できません。

6. 1～100の中から、割り当てる番号のプロファイル名が表示されている箇所をクリックし、プルダウンメニューでプロファイルを選択します。

7. [閉じる] をクリックします。

補足 割り当てたプロファイルをプリントに適用するときは、プリントオプションの [カラー] > [カラー詳細 (RGB設定)] > [RGB色補正] でプロファイルを選択します。
詳細は、「4.1.4 カラー」の「カラー詳細 (RGB設定)」(P.199) を参照してください。

RGB色補正プロファイル名の変更

1. [RGB色補正プロファイル-割り当て] ダイアログボックスで、変更するプロファイルを選択して [プロパティ] をクリックします。

2. [プロパティ] ダイアログボックスで名前を変更し、[OK] をクリックします。

RGB色補正プロファイルの削除

1. [RGB色補正プロファイル-割り当て] ダイアログボックスで、削除するプロファイルを選択し、[削除] をクリックします。

2. 確認のダイアログボックスで、[はい] をクリックします。

補足 割り当てられているプロファイルを削除した場合は、「標準」が割り当てられます。

2.3.2　RGB出力プロファイルの設定

RGB出力プロファイルの作成/読み込み/割り当て

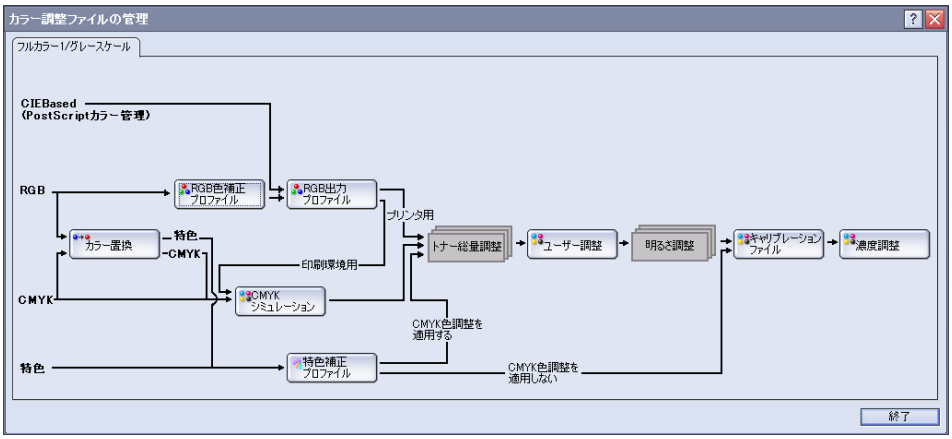
プリントに適用する RGB 出力プロファイルの作成、または ICC プロファイルの読み込みと割り当てを行います。

読み込んだ RGB 出力プロファイルを Print Server に登録すると、プリント時にプリントオプションから選択できます。

1. ServerManagerの  [カラー調整ファイルの管理]をクリックします。

   補足　[カラー]→[カラー調整ファイルの管理]を選択しても、[カラー調整ファイルの管理]ダイアログボックスを表示できます。

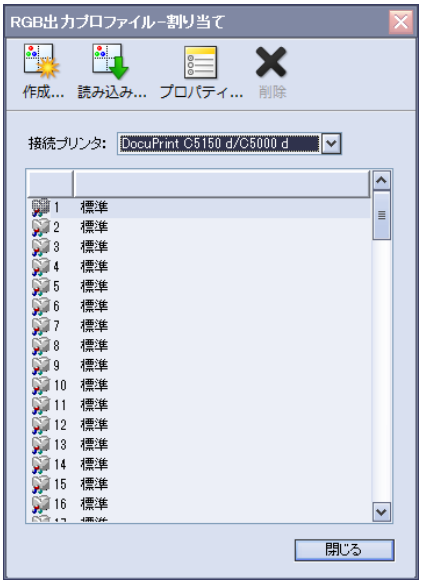
2. [RGB出力プロファイル]をクリックします。



・RGB出力プロファイルの作成を行う場合は、手順3に進んでください。

・作成済みのRGB出力プロファイルの読み込みを行う場合は、手順7に進んでください。

3. RGB出力プロファイルを作成する場合は、[作成]をクリックします。

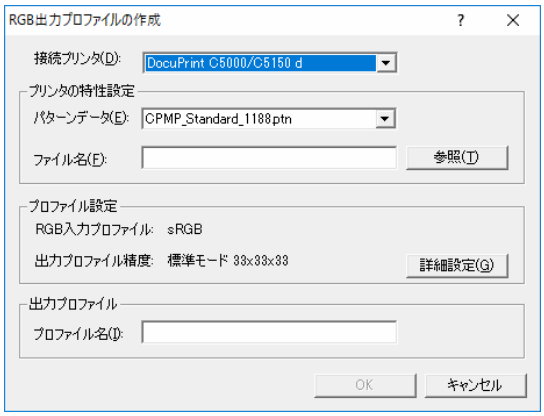


RGB 出力プロファイルを作成する場合は、事前にパターン画像セットをプリンターでプリントし、測色をしておく必要があります。

補足
・パターン画像セットのうち、「ドラフトセット」はRGB出力プロファイルの作成には使用できません。
・［標準］が選択されている場合、RGB色補正プロファイルで［AdobeRGB（1998）］を選択すると、RGB 出力プロファイルは「AdobeRGB（1998）」用に切り替わります。ただし、RGB出力プロファイルで読み込んだプロファイルが選択されている場合には、「AdobeRGB（1998）」用のプロファイルに切り替わらずに、選択されたRGB出力プロファイルが使用されます。
そのため、RGB 色補正プロファイルで、［AdobeRGB（1998）］を選択し、RGB 出力プロファイルで「AdobeRGB（1998）」を想定していないプロファイルを選択した場合には、意図したプリント結果にならないことがあります。

参照 詳細は、「2.4.1 測色データの作成」（P.87）を参照してください。

4. 各項目を設定し、［OK］をクリックします。



● 接続プリンタ

［DocuPrint C5000/C5150 d］を選択します。

● プリンタの特性設定

プリンターの特性データを設定します。

パターンデータ

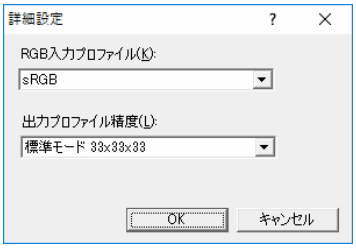
測色データの作成に使用したパターン画像セットと同じものを選択します。

ファイル名

ファイル名を直接入力するか、[参照]をクリックして表示されるダイアログボックスで測色データのファイルを選択します。

● プロファイル設定

［詳細設定］をクリックして、RGB入力プロファイルと出力プロファイルの精度を設定します。



RGB入力プロファイル

RGB出力プロファイルを作成するときに、RGB入力で想定される入力プロファイルを設定します。このRGB入力プロファイルの特性に合わせてRGB出力プロファイルの作成を最適化します。

● sRGB

デジタルカメラ・モニターなどの標準的なソース色空間です。

- **AdobeRGB（1998）**
  Adobe社指定のソース色空間です。標準的なモニターよりかなり広域な色空間です。

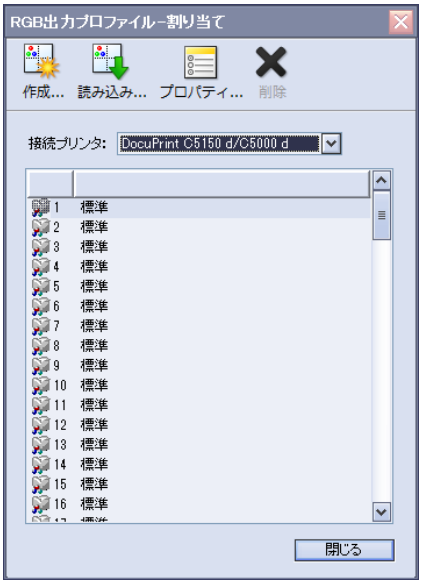
補足
・［Adobe RGB（1998）］を選択した場合、プリントオプションの［カラー］＞［カラー詳細（RGB設定）］の［RGB色補正］を［Adobe RGB（1998）］にしてください。［Adobe RGB（1998）］以外の場合、意図したプリント結果にならないことがあります。
・［Adobe RGB（1998）］を選択した場合、［RGB出力インテント］の設定を変更しても同じプリント結果になります。

出力プロファイル精度
作成するプロファイルの精度を選択します。

- **高速モード21 x 21 x 21**
  21 x 21 x 21の格子点のプロファイルを作成します。格子点数が少ないので、短い時間でプロファイルを生成できます。
- **標準モード33 x 33 x 33**
  33 x 33 x 33の格子点のプロファイルを作成します。格子点数が多いので、高精度なシミュレーションができます。

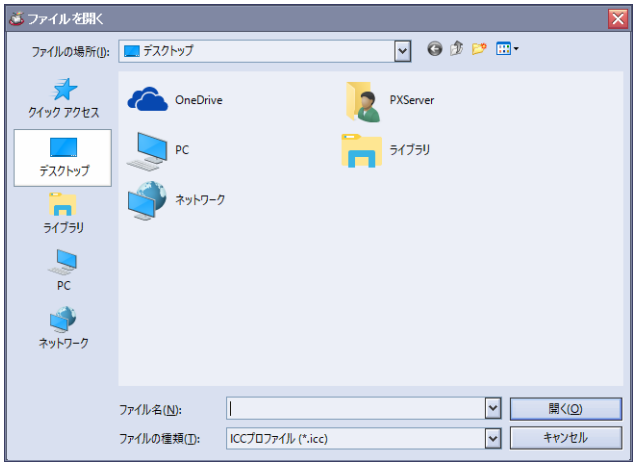
- **出力プロファイル**
  作成するプロファイル名を入力します。

5. ［はい］をクリックします。
6. ［OK］をクリックします。
   RGBプロファイルの作成を行った場合は、手順9に進んでください。
7. 作成済みのRGB出力プロファイルを読み込む場合は、［読み込み］をクリックします。



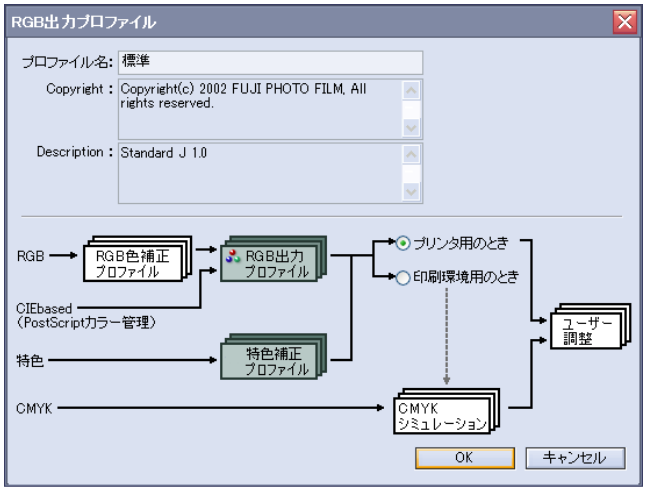
補足
クライアントコンピューターのServerManagerで実行した場合は、［ファイルを開く］ダイアログボックスが表示される前に、読み込み元（Print Serverのファイル、またはクライアントコンピューターのファイル）を選択するダイアログボックスが表示されます。

8. 読み込むICCプロファイルを選択し、［開く］をクリックします。



補足　サポートしているICCプロファイルは、Ver.2とVer.4です。

9. RGBプロファイルの出力形態を設定します。



読み込んだICCプロファイルに合わせて、［プリンタ用のとき］、または［印刷環境用のとき］を選択します。

10. 必要に応じてプロファイル名を変更し、［OK］をクリックします。

プロファイルがPrint Serverに読み込まれ、一覧に表示されます。

補足
- ［RGB 出力プロファイル - 割り当て］ダイアログボックスの一覧で番号を選択した場合は、選択した番号へのプロファイルの割り当てを確認するダイアログボックスが表示されます。［はい］をクリックすると、選択された番号にプロファイルが割り当てられます。
- 標準で用意されているプロファイル名、および読み込み済みのプロファイルと同じ名前は、プロファイル名に使用できません。

11. 1～100の中から、割り当てる番号のプロファイル名が表示されている箇所をクリックし、プルダウンメニューからプロファイルを選択します。

12. ［閉じる］をクリックします。

補足　割り当てたプロファイルをプリントに適用するときは、プリントオプションの［カラー］>［カラー詳細（RGB設定）］>［RGB出力プロファイル］からプロファイルを選択します。詳細は、「4.1.4 カラー」の「カラー詳細（RGB設定）」（P.199）を参照してください。

RGB出力プロファイルの名前変更

1. ［RGB出力プロファイル-割り当て］ダイアログボックスで、変更するプロファイルを選択し、［プロパティ］をクリックします。
2. ［プロパティ］ダイアログボックスで名前を変更し、［OK］をクリックします。

RGB出力プロファイルの削除

1. ［RGB出力プロファイル-割り当て］ダイアログボックスで、削除するプロファイルを選択し、［削除］をクリックします。
2. 確認のダイアログボックスで、［はい］をクリックします。

補足　割り当てられているプロファイルを削除した場合、「標準」が割り当てられます。

2.4 CMYKプロファイルを設定する

CMYKプロファイルの作成には、シミュレーションする印刷環境とPrint Serverから、パターン画像セットをプリントして測色したそれぞれの測色データを使用します。各測色データの代わりに、ICCプロファイルも使用できます。

測色には、以下の測色器と測色ソフトウェアの組み合わせを使用できます。

・X-Rite社の測色器「i1Pro 2」と、測色ソフトウェア「i1_Reader」

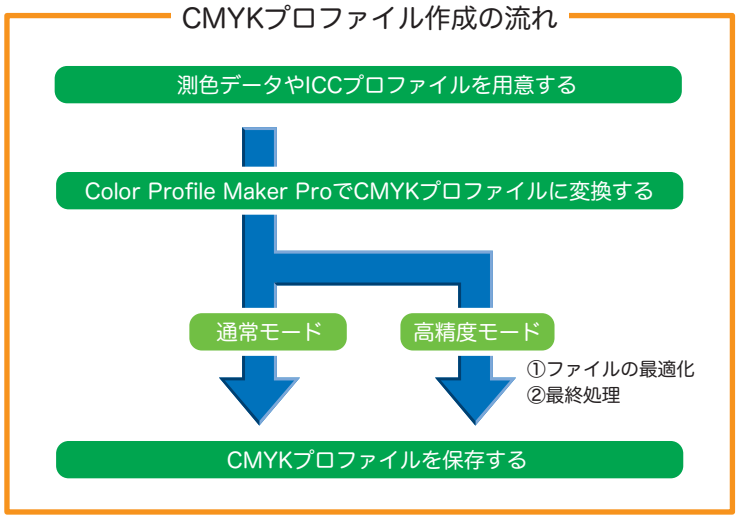
・X-Rite社の測色器「i1iO」、「i1iO 2」、「i1iSis」、または「i1iSis 2」と、測色ソフトウェア「MeasureTool」、または「i1Profiler」（「MeasureTool互換モード」を選択してください）

参照 ・測色時の注意については、『Color Profile Maker Pro操作説明書』を参照してください。
・X-Rite社の製品については、同製品のマニュアルを参照してください。

◆ICCプロファイルをCMYKプロファイルに変換する方法

ICCプロファイルを作成できるアプリケーションで作成されたICCプロファイルを、Print Serverで使用できるCMYKプロファイルに変換できます。

変換方法には、通常モードと高精度モードがあります。



CMYKプロファイルをPrint Serverに読み込み、プリントに反映できます。

用意されているカラープロファイル

以下のカラープロファイルが、用紙ごとに用意されています。以下のプロファイルは、CMYKプロファイルの読み込みを実行しなくても使用できます。

補足 カラープロファイルは、J紙で82g/㎡を想定して作成されています。

JapanColor2007(アート紙)

社団法人日本印刷学会発行の「Japan Color 色再現印刷 2007」のアート紙（ISO 規格用紙タイプ 1）印刷をシミュレーションできるプロファイルです。

JapanColor2007(コート紙)

社団法人日本印刷学会発行の「Japan Color 色再現印刷 2007」のコート紙（ISO 規格用紙タイプ 3）印刷をシミュレーションできるプロファイルです。

JapanColor2007(マット紙)

社団法人日本印刷学会発行の、「Japan Color色再現印刷2007」のマットコート紙（ISO規格用紙タイプ2）印刷をシミュレーションできるプロファイルです。

JapanColor2001(アート紙)

社団法人日本印刷学会発行の「Japan Color 色再現印刷 2001」のアート紙（ISO 規格用紙タイプ 1）印刷をシミュレーションできるプロファイルです。

JapanColor2001(コート紙)

社団法人日本印刷学会発行の「Japan Color 色再現印刷 2001」のコート紙（ISO 規格用紙タイプ 3）印刷をシミュレーションできるプロファイルです。

JapanColor2001(マット紙)

社団法人日本印刷学会発行の、「Japan Color色再現印刷2001」のマットコート紙（ISO規格用紙タイプ2）印刷をシミュレーションできるプロファイルです。

JapanColor2002(新聞)

新聞用Japan Color2002（JCN2002）をシミュレーションできるプロファイルです。

雑誌広告基準カラー V2(2004)

雑誌広告基準カラー（JMPAカラー）Version2をシミュレーションできるプロファイルです。

2.4.1　測色データの作成

CMYKプロファイルを作成するときに必要となる印刷物の測色データ、およびプリンターの測色データを作成します。

補足

- オフセット印刷の特性がICCプロファイルで提供される場合には、測色値の代わりにICCプロファイルも使用できます。ただし、より厳密な印刷シミュレーションを行う場合は、測色データの作成をお勧めします。
- 代用できるICCプロファイルは、CMYKのアウトプットプロファイルに対応しているものだけです。それ以外のICCプロファイルは、処理できません。
- SpectroChartには、測定パターンを作成する機能があるため、任意のパターン画像セットを測定できます。

■パターン画像セット

パターン画像セットは、Print Serverの以下のフォルダーにあります。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥bin¥CMYKProfiler¥Chart folder¥EPS

測色に使用する測色器の種類によってファイルが異なります。

◆MeasureTool、またはi1Profilerを使用する場合

MeasureToolを使用して測色をする場合は、パターン画像セットが用意されているフォルダーに、パターンデータを用意しています。用意されているパターン画像セット以外を使用しても、プロファイルを作成できます。ただし、主要な色を含み、パッチ数が多いパターン画像セット（IT8.7/3やECI2002など）をお勧めします。主要な色を含まなかったり、パッチ数が少ない場合、プロファイルの精度が低下したり、ターゲット調整機能を使用できないことがあります。

◆SpectroScanを使用する場合

フォルダー	パターン画像セット	対応するパターンデータファイル	測色ソフトウェア	
			SpectroChart	MeasureTool
for SpectroScan and SpectroChart	CMYK_Gretag.eps	PrintServer_Series_1188.ptn	○	
for SpectroScan and MeasureTool	CPMP_Full_Lino_MeasureTool_[1-2].eps	CPMP_Full_1584.ptn		○

○：使用可能な組み合わせです。

SpectroChartを使用して測色する場合、以下にパターンデータファイルが用意されています。

Macintoshクライアント用

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥bin¥CMYKProfiler¥GretagMacbeth SpectroChart Support¥Mac chart pattern file

Windowsクライアント用

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥bin¥CMYKProfiler¥GretagMacbeth SpectroChart Support¥Win chart pattern file

補足 SpectroChartはMac OS Xには対応していません。Mac OS XでSpectroScanを使用する場合は、MeasureToolを使って測色を行ってください。

◆i1とi1_Readerを使用する場合

フォルダー	パターン画像セット	対応する測色パターンデータファイル
for i1 Ruler Board	CPMP_Draft_eye-one.eps	CPMP_Draft_256.ptn
	CPMP_Standard_eye-one_[1-3].eps	CPMP_Standard_1188.ptn
	CPMP_Full_eye-one_[1-4].eps	CPMP_Full_1584.ptn

補足
- 「CPMP_Draft_eye-one.eps」、「CPMP_Standard_eye-one_[1-3].eps」、および「CPMP_Full_eye-one_[1-4].eps」は、i1に付属の測定用バックアップボードの使用を想定しているので、測定用バックアップボードについているクリップで挟みやすいように上部に余白のある配置になっています。
- 測定用バックアップボードが付属されていないi1を使用する場合は、下部に余白があった方が測色しやすいので、下部に余白がある配置の異なるパターン画像が「for i1 Ruler」フォルダーに同一ファイル名で用意されています。

◆i1iOとMeasureTool、またはi1Profilerを使用する場合

フォルダー	パターン画像セット	対応する測色パターンデータファイル
for i1iO and MeasureTool	CPMP_Full_i1iO_MeasureTool_[1-2].eps	CPMP_Full_1584.ptn

◆i1iSisとMeasureTool、またはi1Profilerを使用する場合

フォルダー	パターン画像セット	対応する測色パターンデータファイル	i1iSis のタイプ	
			i1iSis	i1iSis XL
for i1iSis and MeasureTool	CPMP_Full_iSis_MeasureTool_[1-2].eps	CPMP_Full_1584.ptn	□	□
for i1iSisXL and MeasureTool	CPMP_Full_iSisXL_MeasureTool.eps	CPMP_Full_1584.ptn		■

□：A4サイズ用です。A4よりも大きい用紙にプリントしたときは、実線で切り取ってください。
■：A3サイズ用です。

測色データの作成

1. 以下のフォルダー内の任意のパターン画像セットを複製します。
   パターン画像セットは、測色に使用する測色器の種類によってファイルが異なります。

   D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥bin¥CMYKProfiler¥Chart folder¥EPS

2. 手順1で複製したパターン画像セットを印刷会社や印刷工場などに提供し、印刷を依頼します。

   補足　測色用の印刷物をプリントした印刷環境と実際の印刷物で使われる印刷環境が異なっていた、という問題を避けるために、印刷会社や印刷工場（製版部門、印刷部門）の担当者に、目的を知らせる、または打ち合わせを行うことをお勧めします。

3. 手順1で複製したパターン画像セットをPhotoshopやIllustratorなどのCMYKを扱えるアプリケーションで、Print Serverを使用し、プリンターからプリントします。

   補足
   - 測色用の印刷物には、パターン画像セットのパッチのほかに、皮膚の色やハイライトなど、目立つ、またはよく使う種類の画像を一緒に配置しておくことをお勧めします。
   - パターン画像セットをプリントする前に、プリンターのキャリブレーションを行ってください。キャリブレーションについては、「2.2　キャリブレーションで色を補正する」（P.53）を参照してください。
   - パターン画像セットのプリント時、プリントオプションを以下のとおりに設定してください。
     - ［カラー］＞［カラーモード］：［フルカラー 1（RGB/CMYK）］、または［フルカラー（RGB/CMYK）］
     - ［カラー］＞［カラー詳細（CMYK設定）］＞［CMYK色補正］：チェックマークなし
     - ［カラー］＞［ユーザー調整］：［しない］
     - ［カラー］＞［濃度調整］：［しない］
     - ［カラー］＞［カラー詳細（共通設定）］＞［トナー総量調整］：［標準］
     - ［カラー］＞［明るさ調整］：［0］
     - ［画質］＞［その他の設定（画質）］＞［Image Enhancement/白抜き文字の強調］：しない
   - Print Serverの［ジョブ読み込み］機能を使用してもプリントできます。［ジョブ読み込み］機能については、「ジョブ読み込み」（P.133）を参照してください。
   - プリントされた各パッチに、汚れや色ムラがないことを確認してください。汚れなどがあった場合は、再度プリントしてください。
   - Photoshop でプリントする場合、Photoshop のポストスクリプトカラーマネージメントはオフにしてください。Photoshopのポストスクリプトカラーマネージメントをオンにして、プリント、またはEPSファイルを作成すると、Photoshopの［カラー設定］の［CMYK設定］のカラープロファイル情報で色補正が行われます。（ICC プロファイルが埋め込まれます）
   - Color Profile Maker Pro で作成したプロファイルを使用してプリントする場合も、ポストスクリプトカラーマネージメントをオフにして、ICCプロファイルが埋め込まれないようにして、PhotoshopからDeviceCMYKでプリントしてください。
   - Photoshop のバージョンによって、「PostScript カラー管理」、または「ポストスクリプトカラーマネージメント」というように表示が異なります。

4. 測色器を使って、手順2で入手した印刷結果と手順3のプリント結果を番号順に測色し、それぞれの測色データを作成します。

   補足
   - 測色器の違いによる誤差を避けるため、同じ測色器と測色条件で、測色データを作成してください。
   - 測色時の裏写りを防ぐため、測色するときには測色対象の下に、測色する用紙と同じ用紙の白紙を5枚以上重ねてください。

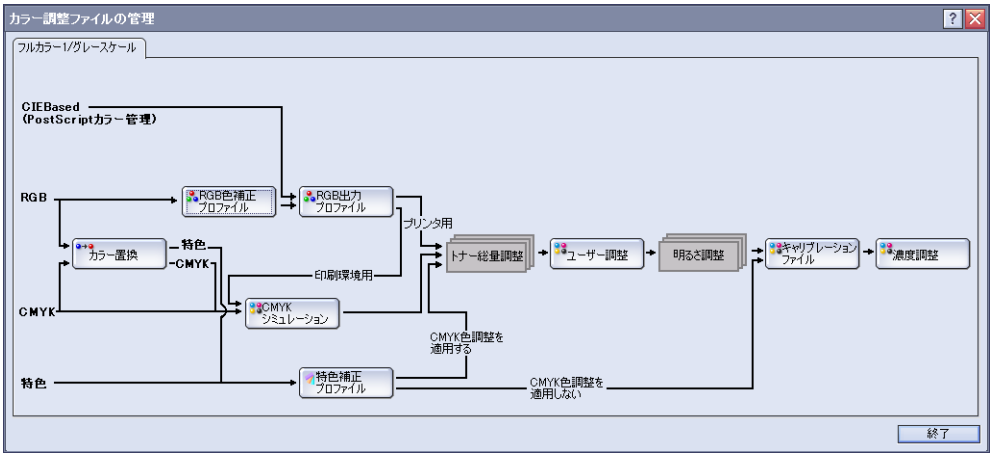
2.4.2 CMYKプロファイルへの変換

作成した測色データをCMYKプロファイルに変換します。

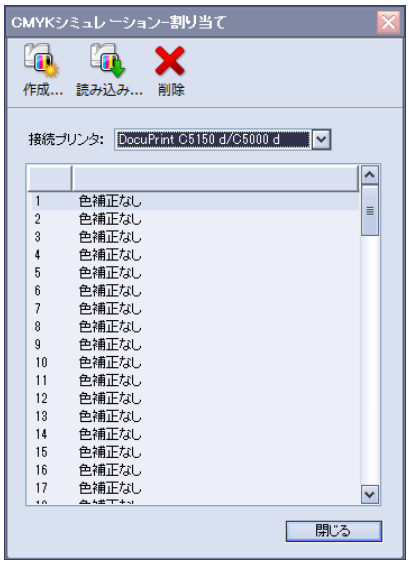
1. ServerManagerの  [カラー調整ファイルの管理]をクリックします。

   補足 [カラー]→[カラー調整ファイルの管理]を選択しても、[カラー調整ファイルの管理]ダイアログボックスを表示できます。

2. [CMYKシミュレーション]をクリックします。



3. [作成]をクリックします。



Color Profile Maker Proが起動します。

Color Profile Maker Pro

印刷物をターゲットとしてPrint Serverで印刷シミュレーションするための、色変換パラメーター（CMYKプロファイル）を生成するアプリケーションです。

生成には、ICC（International Color Consortium）プロファイルも使用できます。

参照 Color Profile Maker Proの詳細については、『Color Profile Maker Pro操作説明書』を参照してください。

2.4.3　CMYKプロファイルの設定

CMYKプロファイルの読み込み/割り当て

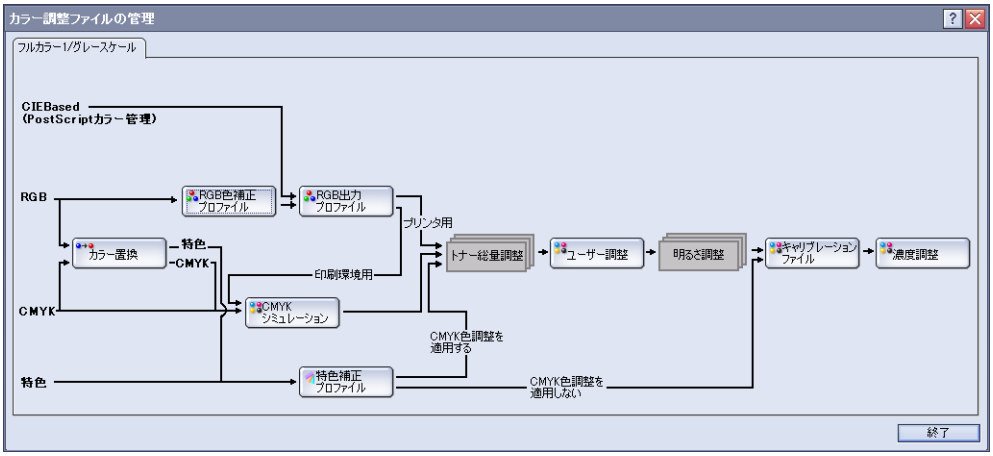
プリントに適用するCMYKプロファイルの読み込みと割り当てを行います。

読み込んだCMYKプロファイルをPrint Serverに登録すると、プリント時にプリントオプションから選択できます。

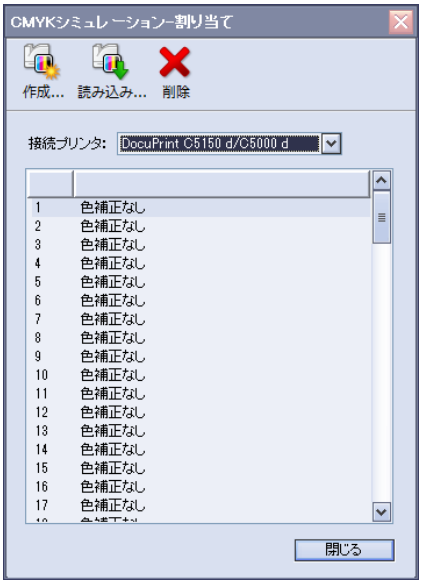
1. ServerManagerの［カラー調整ファイルの管理］をクリックします。

補足　［カラー］→［カラー調整ファイルの管理］を選択しても、［カラー調整ファイルの管理］ダイアログボックスを表示できます。

2. ［CMYKシミュレーション］をクリックします。

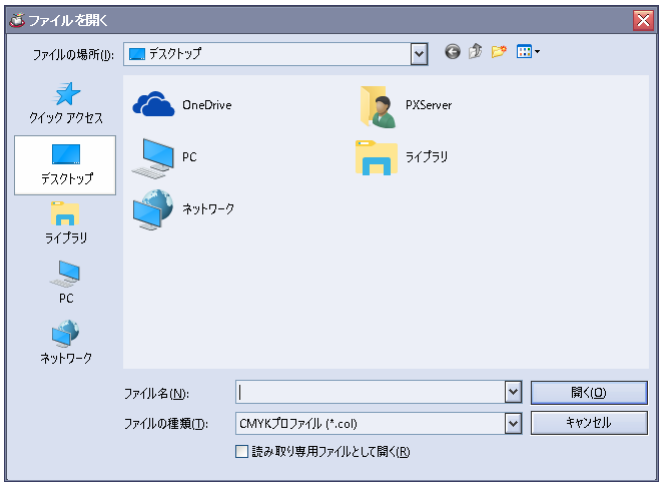


3. ［読み込み］をクリックします。



補足　クライアントコンピューターのServerManagerで実行した場合は、［ファイルを開く］ダイアログボックスが表示される前に、読み込み元（Print Serverのファイル、またはクライアントコンピューターのファイル）を選択するダイアログボックスが表示されます。

4. 読み込むCMYKプロファイルを選択し、[開く]をクリックします。



プロファイルがPrint Serverに読み込まれ、一覧に表示されます。

補足
- [CMYKシミュレーション-割り当て]ダイアログボックスの一覧で番号を選択した場合は、選択した番号へのプロファイルの割り当てを確認するダイアログボックスが表示されます。[はい]をクリックすると、選択された番号にプロファイルが割り当てられます。
- 読み込み済みのプロファイルと同じ名前は、プロファイル名に使用できません。

5. 1～100の中から、割り当てる番号のプロファイル名が表示されている箇所をクリックし、プルダウンメニューでプロファイルを選択します。

参照 カラープロファイルの種類については、「用意されているカラープロファイル」(P.86)を参照してください。

6. 割り当てるプロファイルを選択し、[閉じる]をクリックします。

補足 割り当てたプロファイルをプリントに適用するときは、プリントオプションの[カラー]>[カラー詳細(CMYK設定)]>[CMYK色補正]にチェックマークを付けて、[CMYKシミュレーション]でプロファイルを選択します。
詳細は、「カラー詳細(CMYK設定)」(P.202)を参照してください。

CMYKプロファイルの削除

1. [CMYKシミュレーション-割り当て]ダイアログボックスで、削除するプロファイルを選択し、[削除]をクリックします。
2. 確認のダイアログボックスで、[はい]をクリックします。

補足 割り当てられているプロファイルを削除した場合、「色補正なし」が割り当てられます。

2.5 特色補正プロファイルを設定する

特色を補正するプロファイルの管理について説明します。

特色補正プロファイルの読み込み/割り当て

プリントに適用する特色補正プロファイルの読み込みと割り当てを行います。

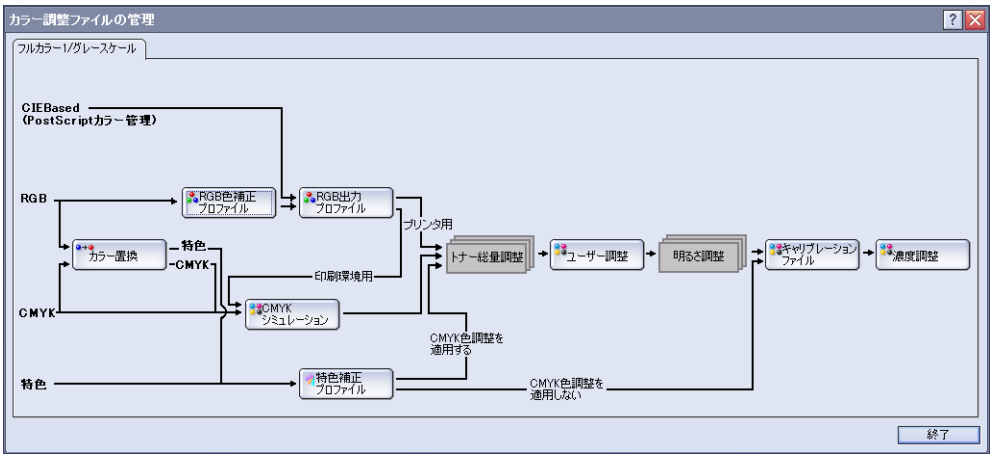
読み込んだ特色補正プロファイルをPrint Serverに登録すると、プリント時にプリントオプションから選択できます。

標準で用意されている特色補正プロファイル以外にも、個別に読み込んで登録できます。

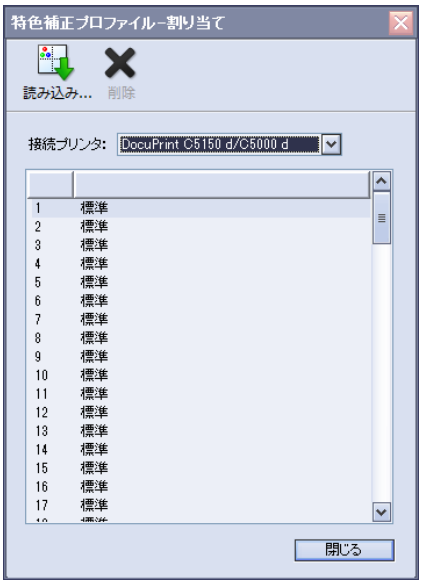
1. ServerManagerの  [カラー調整ファイルの管理]をクリックします。

   補足　[カラー]→[カラー調整ファイルの管理]を選択しても、[カラー調整ファイルの管理]ダイアログボックスを表示できます。

2. [特色補正プロファイル]をクリックします。

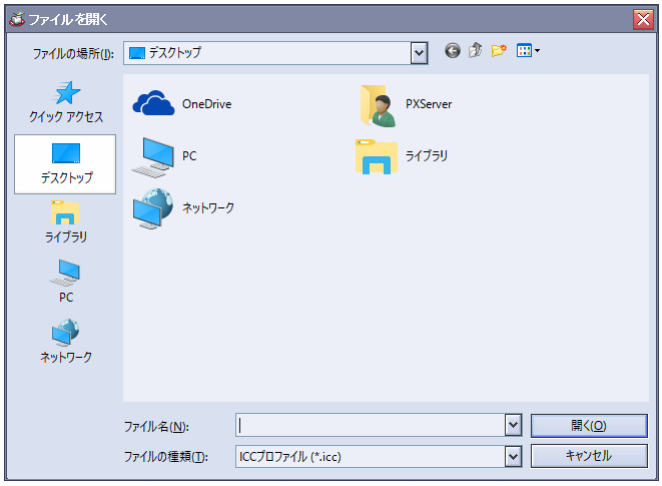


3. [読み込み]をクリックします。



補足 クライアントコンピューターのServerManagerで実行した場合は、[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示される前に、読み込み元（Print Serverのファイル、またはクライアントコンピューターのファイル）を選択するダイアログボックスが表示されます。

4. 読み込む特色補正プロファイルを選択し、[開く] をクリックします。



補足
- [特色補正プロファイル-割り当て] ダイアログボックスの一覧で番号を選択した場合は、選択した番号へのプロファイルの割り当てを確認するダイアログボックスが表示されます。[はい] をクリックすると、選択された番号にプロファイルが割り当てられます。
- 標準で用意されている特色補正プロファイル名、および読み込み済みのプロファイルと同じ名前は、プロファイル名に使用できません。
- サポートしているICCプロファイルは、Ver.2とVer.4です。

5. 1～100の中から、割り当てる番号のプロファイル名が表示されている箇所をクリックし、プルダウンメニューでプロファイルを選択します。

6. [閉じる] をクリックします。

補足 割り当てたプロファイルをプリントに適用するときは、プリントオプションの［カラー］>［カラー詳細（特色設定）］>［特色補正プロファイル］でプロファイルを選択します。
詳細は、「カラー詳細（特色設定）」（P.203）を参照してください。

特色補正プロファイルの削除

1. [特色補正プロファイル-割り当て] ダイアログボックスで、削除するプロファイルを選択して［削除］をクリックします。

2. 確認のダイアログボックスで、[はい] をクリックします。

補足 割り当てられているプロファイルを削除した場合、「標準」が割り当てられます。

2.6 ユーザー調整カーブを設定する

ユーザー調整カーブの調整ファイルを作成する手順について説明します。

ユーザー調整カーブ

ユーザー調整カーブは、CMYKそれぞれの再現カーブを調整して、全体的な色味を調整する場合に使用します。

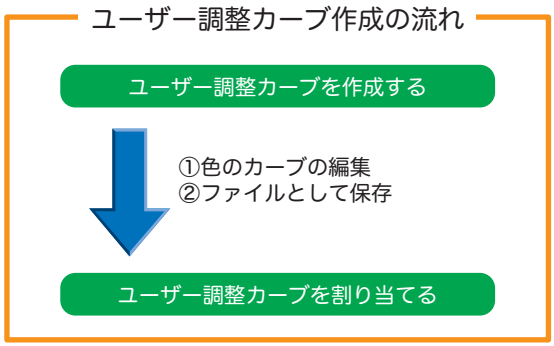
たとえば、「皮膚の色の調整」とか「シアンが全体的に濃いめ」といった調整ファイルを作成し、微妙な調整を切り替えて使用できます。

作成した調整ファイルは、1～100に割り当てます。

補足

・ユーザー調整カーブを使用してK100%の濃度を下げる場合は、プリントオプションの［画質］＞［その他の設定（画質）］＞［白抜き文字の強調］を［しない］にしてください。

・キャリブレーションは、ユーザー調整カーブの適用後に行われるので、キャリブレーションを実施すると、ほぼ一定の調整効果が得られるようになります。



ユーザー調整カーブの作成

プリントに適用するユーザー調整カーブの調整ファイルを作成し、読み込みと割り当てを行います。

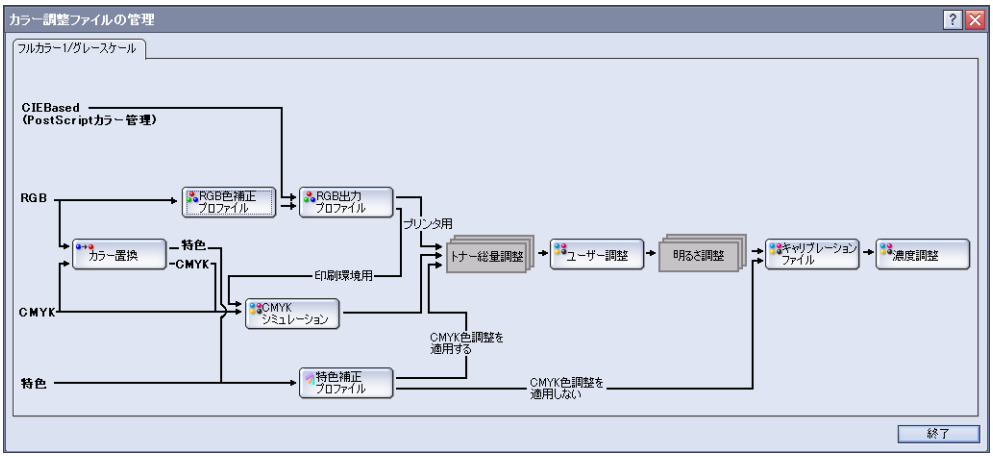
読み込んだ調整ファイルをPrint Serverに登録すると、プリント時にプリントオプションから選択できます。

1. ServerManagerの［カラー調整ファイルの管理］をクリックします。

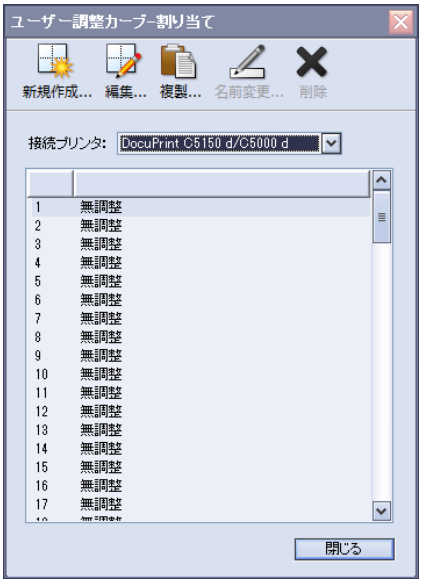
補足

［カラー］→［カラー調整ファイルの管理］を選択しても、［カラー調整ファイルの管理］ダイアログボックスを表示できます。

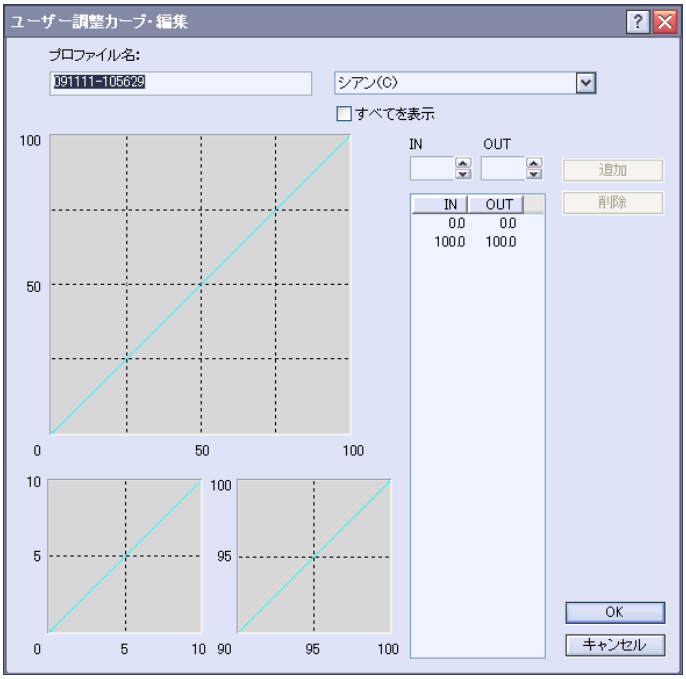
2. ［ユーザー調整］をクリックします。



3. 1～100の中から、登録する番号を選択して［新規作成］をクリックします。



4. 編集する色を選択し、カーブ上のポイントをマウスでドラッグする、または［IN］と［OUT］に直接値を入力して追加する、を繰り返して編集します。

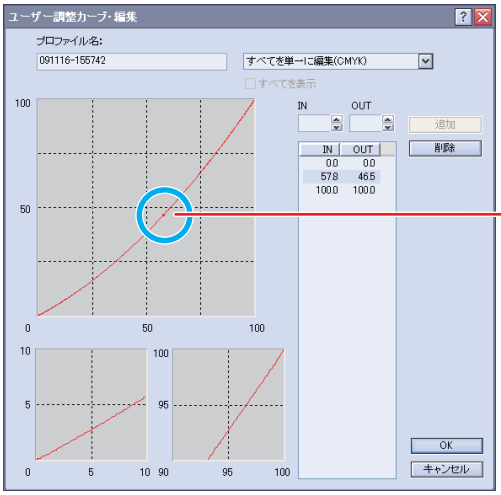


編集する色は、［シアン（C）］、［マゼンタ（M）］、［イエロー（Y）］、［ブラック（K）］、または［すべてを単一に編集（CMYK）］から選択します。

- すべてを表示

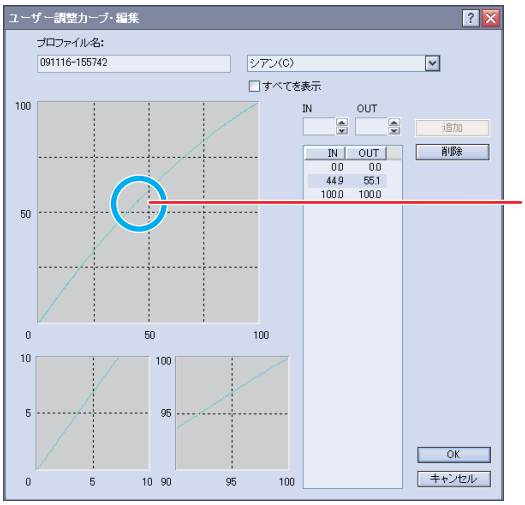
  すべてのカーブを確認するときに選択します。この場合、選択している色だけが編集できます。

◆設定例1：全体を明るくするとき



［すべてを単一に編集（CMYK)］を選択し、
カーブの中央を少し下げます

◆設定例2：青みを強くするとき



［シアン（C)］を選択し、
カーブの中央を少し上げます

- カーブ上のポイントをマウスでドラッグして編集します。
- 数値は、0～100%までの0.1%刻みのよこ軸（IN）に対して、たて軸（OUT）の数値を入力できます。
- カーブ上の任意の場所をクリックするか、または［IN]、［OUT］に数値入力して［追加］をクリックすると、ポイントが設定されます。設定したポイントはコントロールポイントとしてリストに追加されます。
- OUT値はリストで変更できます。
- カーブ、またはリストでコントロールポイントを選択し、［削除］をクリックすると、コントロールポイントが削除されます。

補足

- たて軸の数値は、0.1% 刻みで入力できますが、0.1% の差は、プリントの差に反映されないことがあります。
- ［ユーザー調整カーブ・編集］ダイアログボックス下部には、IN：0～10とOUT：0～10、IN：90～100とOUT：90～100が拡大表示されます。

5. ［プロファイル名］に新しい調整ファイルの名前を入力し、［OK］をクリックします。
6. 選択した番号への調整ファイルの割り当てを確認するダイアログボックスで、［はい］をクリックします。

ユーザー調整カーブの割り当て

[ユーザー調整カーブ - 割り当て] ダイアログボックスで、割り当てる調整ファイルを選択し、[閉じる] をクリックします。

補足 割り当てた調整ファイルをプリントに適用するときは、プリントオプションの［カラー］＞［ユーザー調整］から調整ファイルを選択します。
詳細は、「4.1.4 カラー」の「カラー」（P.196）を参照してください。

ユーザー調整カーブの複製

1. [ユーザー調整カーブ-割り当て] ダイアログボックスで、複製する調整ファイルを選択し、[複製] をクリックします。
2. [ユーザー調整カーブ･編集] ダイアログボックスで編集したあと、[OK] をクリックします。

ユーザー調整カーブの編集

1. [ユーザー調整カーブ-割り当て] ダイアログボックスで、編集する調整ファイルを選択し、[編集] をクリックします。
2. [ユーザー調整カーブ・編集] ダイアログボックスで、作成と同様に項目を編集します。

ユーザー調整カーブの名前変更

1. [ユーザー調整カーブ-割り当て] ダイアログボックスで、名前を変更する調整ファイルを選択し、[名前変更] をクリックします。
2. [名前変更] ダイアログボックスで新しい名前を入力し、[OK] をクリックします。

ユーザー調整カーブの削除

1. [ユーザー調整カーブ-割り当て] ダイアログボックスで、削除する調整ファイルを選択し、[削除] をクリックします。
2. 確認のダイアログボックスで、[はい] をクリックします。

補足 割り当てられているユーザー調整カーブを削除した場合、「無調整」が割り当てられます。

2.7 濃度調整カーブを設定する

濃度調整カーブの調整ファイルを作成する手順について説明します。

濃度調整カーブ

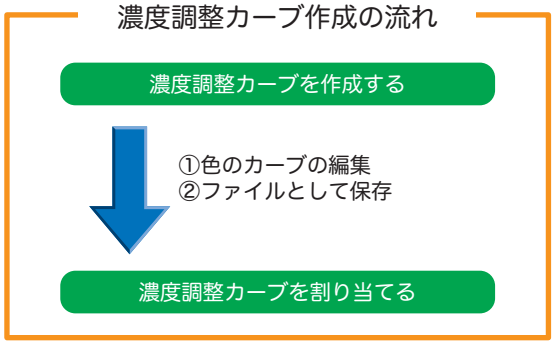
濃度調整カーブを編集し、割り当てることで、色味を調整します。

印刷シミュレーション、およびキャリブレーションによって、管理された濃度（100%）を超えた濃度（130%まで）を指定できます。また、ハイライトの出だしを遅らせるためにマイナスの値（－20%まで）も指定できます。

印刷シミュレーションを行っているベタ濃度以上の濃度に調整できます。

補足　濃度調整カーブは、キャリブレーション適用後に適用されます。このため、濃度調整カーブによる調整を行った場合は、キャリブレーションの効果による色味の安定性は得られません。色味の調整を行う場合は、ユーザー調整カーブを使用してください。

作成した調整ファイルは、1～100に割り当てます。



濃度調整カーブの作成

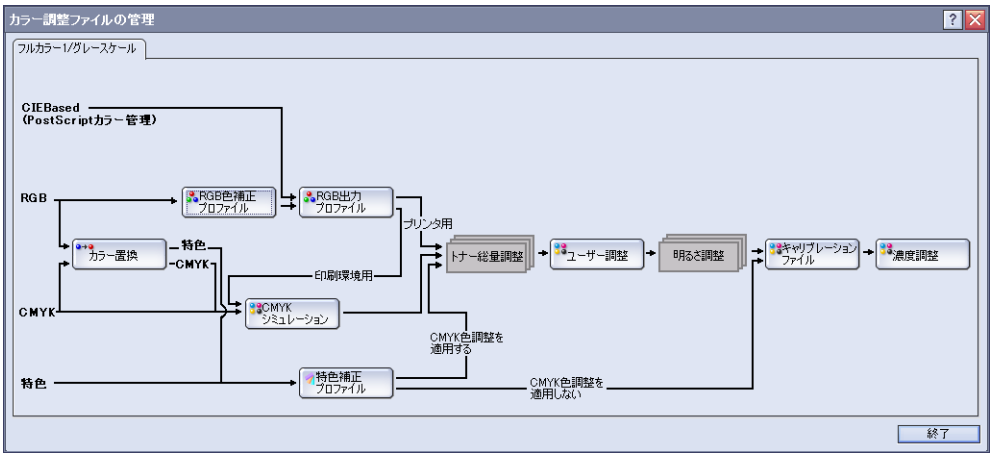
プリントに適用する濃度調整カーブの調整ファイルを作成し、読み込みと割り当てを行います。

読み込んだ調整ファイルをPrint Serverに登録すると、プリント時にプリントオプションから選択できます。

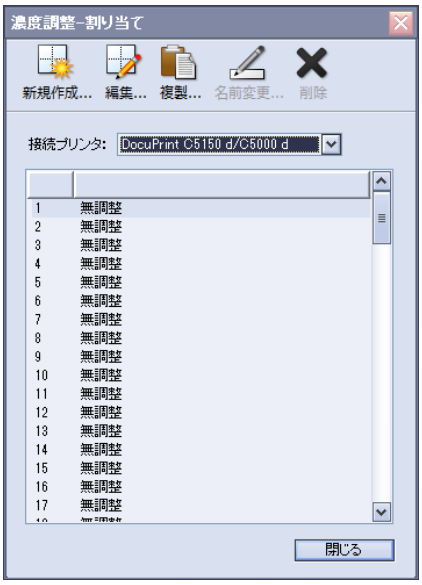
1. ServerManagerの  [カラー調整ファイルの管理]をクリックします。

補足　[カラー]→[カラー調整ファイルの管理]を選択しても、[カラー調整ファイルの管理]ダイアログボックスを表示できます。

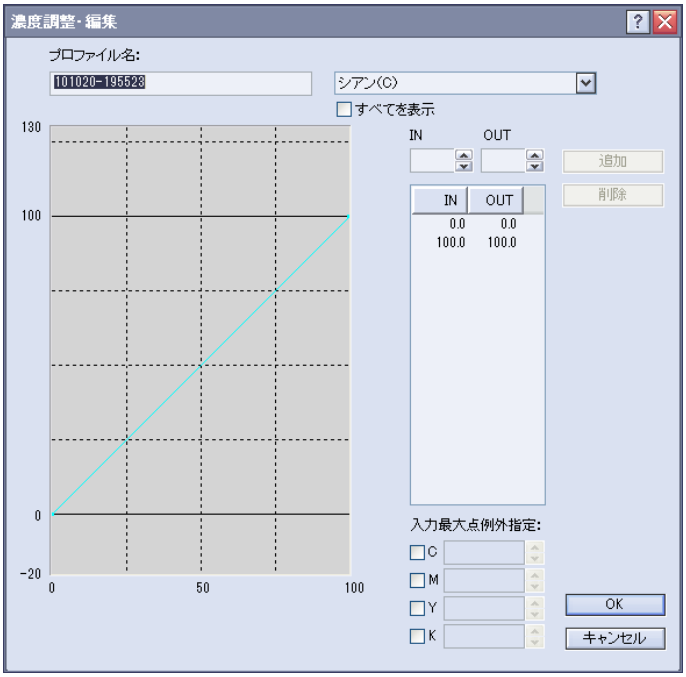
2. [濃度調整]をクリックします。



3. 1～100の中から登録する番号を選択して[新規作成]をクリックします。



4. 編集する色を選択し、カーブ上のポイントをマウスでドラッグする、または [IN] と [OUT] に直接値を入力して追加する、を繰り返して編集します。



編集する色は、[シアン（C)]、[マゼンタ（M)]、[イエロー（Y)]、[ブラック（K)]、または [すべてを単一に編集（CMYK)] から選択します。

・カーブ上のポイントをマウスでドラッグして編集します。

・数値は、0～100%までの0.1%刻みのよこ軸（IN）に対して、たて軸（OUT）の数値を入力します。

・カーブ上の任意の場所をクリックするか、または［IN］、［OUT］に数値入力して［追加］をクリックすると、ポイントが設定されます。設定したポイントはコントロールポイントとしてリストに追加されます。

・OUT値はリストで変更できます。

・カーブ、またはリストでコントロールポイントを選択して、［削除］をクリックすると、コントロールポイントが削除されます。

補足

・たて軸の数値は、0.1% 刻みで入力できますが、0.1% の差はプリントに反映されないことがあります。

・濃度調整カーブを使用して、K100%の濃度を下げる場合には、プリントオプションの［画質］＞［その他の設定（画質)］＞［白抜き文字の強調］を［しない］にしてください。

● すべてを表示

すべてのカーブを確認するときに選択します。ただし、編集はできません。

● 入力最大点例外指定

CMYK の例外値としての入力最大値を設定する色にチェックマークを付けて、最大値を入力します。入力範囲は、-20.0～130.0です。

補足

濃度調整カーブは、文字やロゴなどで使うベタのように、100%の部分だけ濃くする場合などに使用します。このとき、99%まではカーブに従った調整になり、100%はカーブに従わず、［入力最大点例外指定］で設定した調整値が適用されます。

5. ［プロファイル名］に新しい調整ファイルの名前を入力し、［OK］をクリックします。

6. 選択した番号への調整ファイルの割り当てを確認するダイアログボックスで、［はい］をクリックします。

濃度調整カーブの割り当て

[濃度調整-割り当て]ダイアログボックスで、割り当てる調整ファイルを選択し、[閉じる]をクリックします。

補足 割り当てた調整ファイルをプリントに適用するときは、プリントオプションの［カラー］＞［濃度調整］で調整ファイルを選択します。
詳細は、「カラー」（P.196）を参照してください。

濃度調整カーブの複製

1. ［濃度調整-割り当て］ダイアログボックスで、複製する調整ファイルを選択し、［複製］をクリックします。
2. ［濃度調整-編集］ダイアログボックスで編集したあと、［OK］をクリックします。

濃度調整カーブの編集

1. ［濃度調整-割り当て］ダイアログボックスで、編集する調整ファイルを選択し、［編集］をクリックします。
2. ［濃度調整-編集］ダイアログボックスで、作成と同様に項目を編集します。

濃度調整カーブの名前変更

1. ［濃度調整-割り当て］ダイアログボックスで、名前を変更する調整ファイルを選択し、［名前変更］をクリックします。
2. ［名前変更］ダイアログボックスで新しい名前を入力し、［OK］をクリックします。

濃度調整カーブの削除

1. ［濃度調整-割り当て］ダイアログボックスで、削除する調整ファイルを選択し、［削除］をクリックします。
2. 確認のダイアログボックスで［はい］をクリックします。

補足 割り当てられている濃度調整カーブを削除した場合、「無調整」が割り当てられます。

2.8 特色を設定する

任意の色を特色として登録できます。

登録した特色は、登録操作以降のジョブから特色として使用できます。

2.8.1　特色の設定

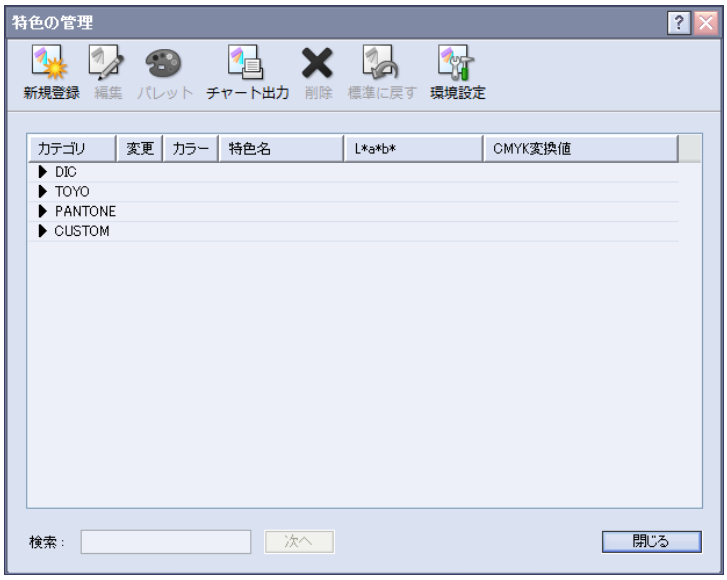
任意の色を特色として設定するには、L*a*b*値、またはCMYK値を直接入力するか、測色器を使用してL*a*b*値を読み取り、値を入力します。

リストに登録されている特色の特色名や値を変更できます。また、デフォルトで登録されている特色の値をカスタマイズして再登録できます。

補足
- ジョブのプリント中は登録できません。
- 一般ユーザーモードでは、特色の閲覧と検索だけできます。特色管理の機能を使用する場合は。管理者モードでログインしてください。

特色の登録

1. ServerManagerの［カラー］→［特色の管理］を選択します。
2. ［新規登録］をクリックします。



- ［カテゴリ］には、標準特色辞書の［DIC］、［TOYO］、［PANTONE］と、ユーザーが任意に作成した特色を登録する［CUSTOM］があり、左側にある黒い三角マークをクリックすると、各カテゴリー内に登録されている特色が表示されます。
- 各特色には［変更］、［カラー］（色見本）、［特色名］、［L*a*b*］、［CMYK 変換値］（［L*a*b*］を設定されている特色補正プロファイルで変換した値）が表示されます。［DIC］、［TOYO］、［PANTONE］の各カテゴリーに属する特色がデフォルトから変更されている場合は、［変更］に「*」が表示されます。

補足　特色を検索する場合は、［検索］に任意の文字列を入力して［次へ］をクリックすると、該当する特色が選択され、［次へ］をクリックするごとに順番に候補が選択されます。文字列を空欄にして検索すると、すべての特色が表示されます。

3. [特色名] を入力し、[L*a*b*]、または [CMYK] の値を直接入力するか、測色器を使用して読み取ったL*a*b*値を [L*a*b*] に自動入力させます。



入力した値の目安になるカラープレビューがダイアログボックス右上に表示されます。

補足
- 測色器を使って特色を登録する場合は、[測色器を使用] をクリックします。測色ソフトウェアが起動するので、Print Server に測色器を接続していることを確認して測色をします。
- CMYK値（CMY＝0、K≠0）で作成された特色は、特色補正機能によって色変換され、K単色ではプリントされません。

参照 測色方法については、「2.2.5 i1_Readerと測色器」（P.67）を参照してください。

4. [登録] をクリックします。
   - [DIC]、[TOYO]、[PANTONE] の各カテゴリー内にある特色を上書き登録した場合は、[変更] に「*」が表示され、背景が薄い色付きになります。これらの特色に関しては、[標準に戻す] をクリックするとデフォルトに戻せます。
   - [CUSTOM] カテゴリー内の特色を上書き登録した場合は、もとの値には戻せません。
5. [閉じる] をクリックします。

補足 [特色の管理] ダイアログボックスで [新規登録]、[削除]、[標準に戻す] などの処理を行うと、ダイアログボックスの表示は更新されますが、実際に登録内容が更新されるのは、[閉じる] をクリックして [特色の管理] ダイアログボックスを閉じたあとです。

特色の編集

1. [特色の管理] ダイアログボックスで、編集する特色を選択し、[編集] をクリックします。
2. [特色の管理-編集] ダイアログボックスで、登録と同様に項目を編集します。
   編集前と編集後のカラープレビューがダイアログボックス右上に表示されるので、編集の目安としてください。

特色の削除

1. [特色の管理] ダイアログボックスの [CUSTOM] カテゴリー内で、削除する特色を選択し、[削除] をクリックします。
2. 確認のダイアログボックスで、[はい] をクリックします。

補足 [DIC]、[TOYO]、[PANTONE] の各カテゴリー内にある特色は削除できません。

環境設定

特色の管理において、特色パレットや特色チャートをプリントするときの、カラーモード、特色補正プロファイル、インテントのデフォルト値を設定できます。

特色パレット、特色チャートのプリントについては、それぞれの項目を参照してください。

1. ［特色の管理］ダイアログボックスで、［環境設定］をクリックします。
2. 各項目を設定し、［OK］をクリックします。



- **カラーモード**

  カラーモードが表示されます。

  補足　［特色の管理］ダイアログボックスで、［チャート出力］や［パレット］を実行した場合は、選択したプロファイルを使用してプリントされます。

- **特色補正プロファイル**

  プロファイルを選択します。

  参照　特色補正プロファイルについては、「2.5　特色補正プロファイルを設定する」（P.93）を参照してください。

- **インテント**

  - **パーセプチャル**

    カラー画像の全体的なバランスをとりながら処理されます。

  - **サチュレーション**

    カラー画像の色相や彩度のバランスをとりながら再現できるように処理されます。

  - **相対カラリメトリック**

    再現できる色領域は色を一致させ、異なる色領域のためにプリンターで再現できない色については、もっとも近い色に再現できるように処理されます。

  - **絶対カラリメトリック**

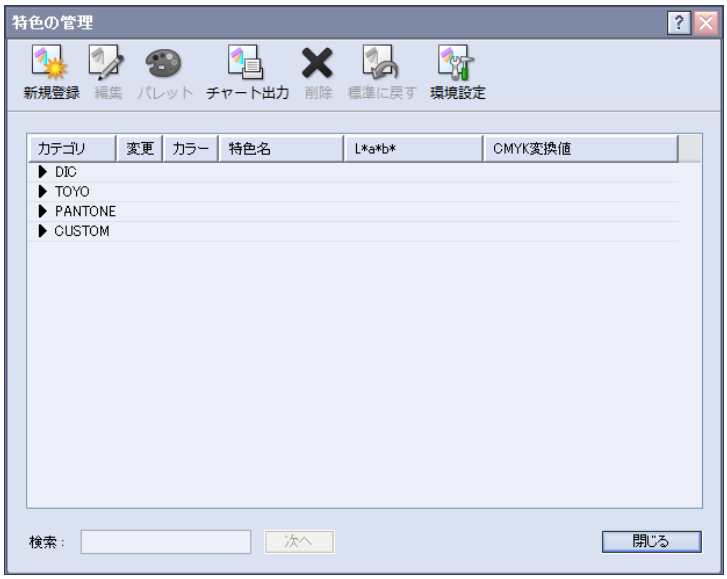
    入力データの白と、用紙の白の調整を行いません。

    適用するICCプロファイルによっては、白いデータ部分でも、色が付いてプリントされることがあります。

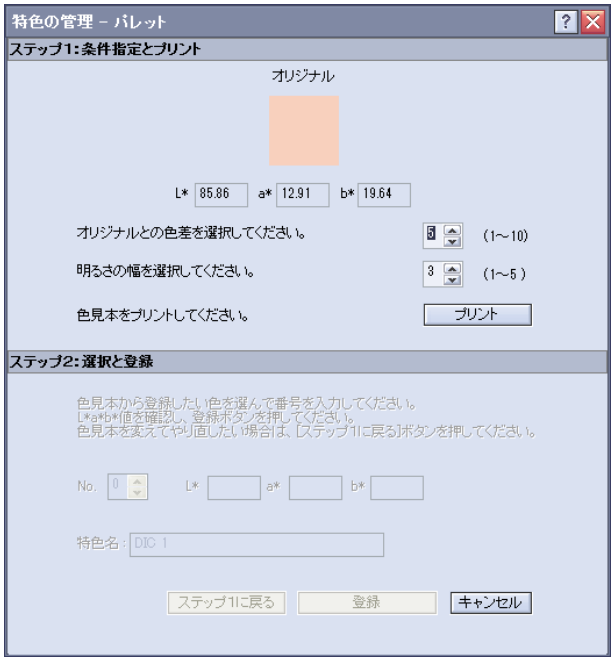
2.8.2 特色パレット

Print Serverに登録されている特色の色味を調整して新しい特色として登録できます。選択している特色に対して、色差と明るさを微調整した色をプリントして確認し、希望の色を特色として登録できます。

1. ServerManagerの［カラー］→［特色の管理］を選択します。
2. ［カテゴリ］でカラーカテゴリーを選択したあと、プリントする特色を1つ選択して［パレット］をクリックします。

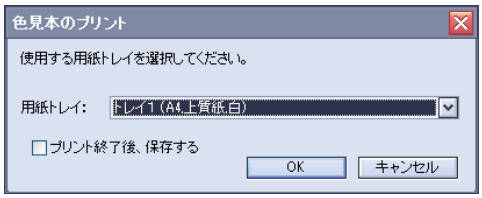


3. ［オリジナルとの色差を選択してください。］に、1～10の範囲で値を入力します。



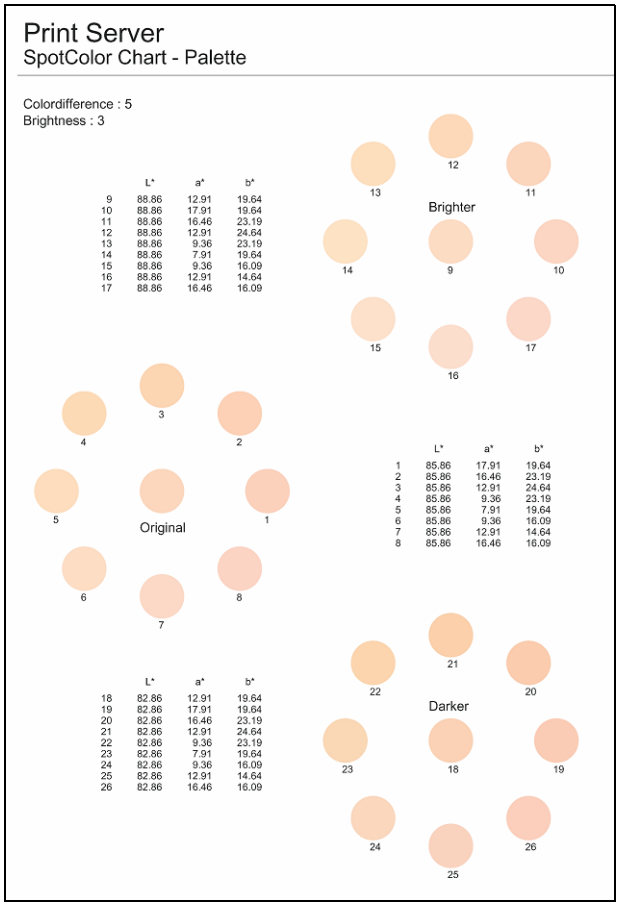
4. ［明るさの幅を選択してください。］に、1～5の範囲で値を入力します。
5. ［プリント］をクリックします。

6. 各項目を設定し、［OK］をクリックします。



- 用紙トレイ
  プリントする用紙のある用紙トレイを選択します。
- プリント終了後、保存する
  チェックマークを付けると、ジョブとして保存します。

7. プリントされた特色パレットを確認し、登録する色見本の番号を決めます。



以下の情報が印字されます。

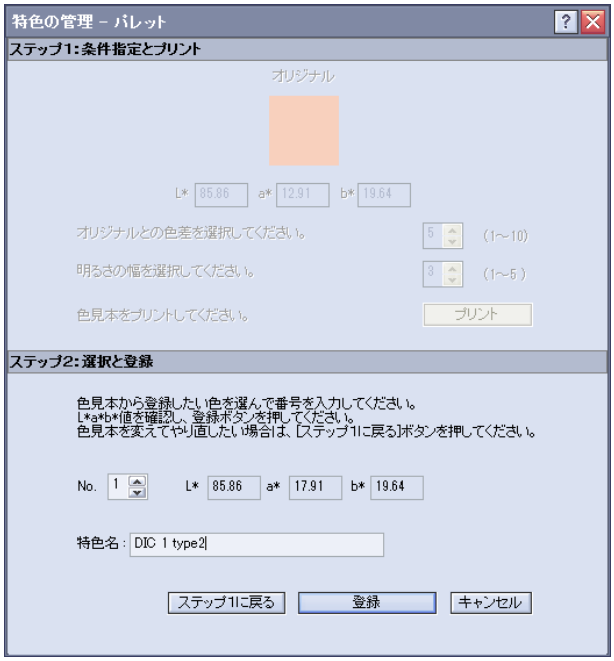
・プリント日　・ページ番号　・プリンター名
・カラーモード　・特色補正プロファイル名　・色見本

補足

特色パレットは、以下のプリントオプションの設定でプリントされます。

- ［カラー］＞［カラーモード］：［環境設定］ダイアログボックスの設定値
- ［カラー］＞［ユーザー調整］：しない
- ［カラー］＞［濃度調整］：しない
- ［カラー］＞［明るさ調整］：0
- ［カラー］＞［カラー詳細（共通設定）］＞［トナー総量調整］：標準
- ［カラー］＞［カラー詳細（特色設定）］＞［コンポジット特色補正］：有効
- ［カラー］＞［カラー詳細（特色設定）］＞［特色補正プロファイル］：［環境設定］ダイアログボックスの設定値
- ［カラー］＞［カラー詳細（特色設定）］＞［特色インテント］：［環境設定］ダイアログボックスの設定値
- ［画質］＞［キャリブレーション］：自動

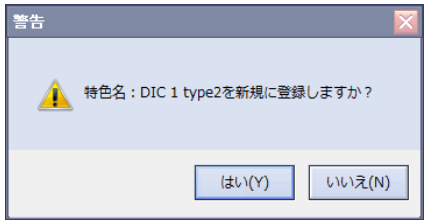
8. 登録する色見本の番号を［No.］に入力します。



9. ［特色名］を入力し、［登録］をクリックします。

プリントされた色見本に希望の色がない場合は、［ステップ 1 に戻る］をクリックして手順 3 に戻り、色差、明るさの幅を選択し直すか、手順 1 からやり直してください。

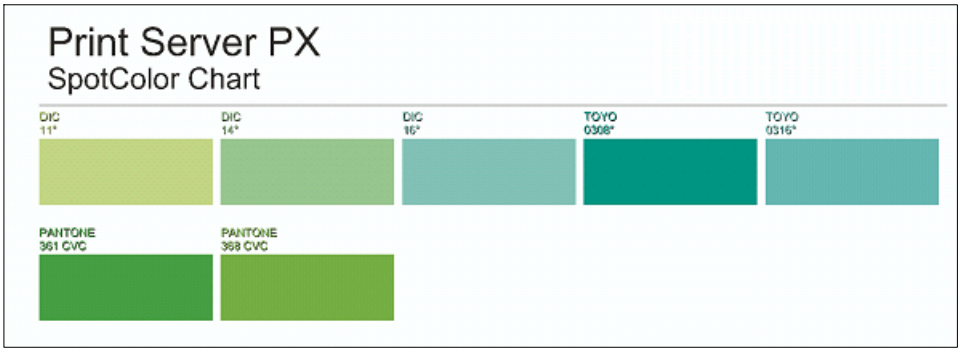
10. ［はい］をクリックします。



- ［DIC］、［TOYO］、［PANTONE］の各カテゴリー内にある特色を上書き登録した場合は、［特色の管理］ダイアログボックスの［変更］に「*」が表示され、背景が薄い色付きになります。これらの特色に関しては、［標準に戻す］をクリックするとデフォルトに戻すことができます。
- ［CUSTOM］カテゴリー内の特色を上書き登録した場合は、値が設定したものに上書きされて登録されます。

2.8.3　特色チャートのプリント

Print Serverに登録されている特色を任意に選択して、色見本をプリントできます。



補足　特色チャートはA4（色見本は5×10）、またはA3（色見本は7×15）サイズです。B4以下のサイズを指定した場合はA4サイズ 、A3以上のサイズを指定した場合はA3サイズでプリントされます。

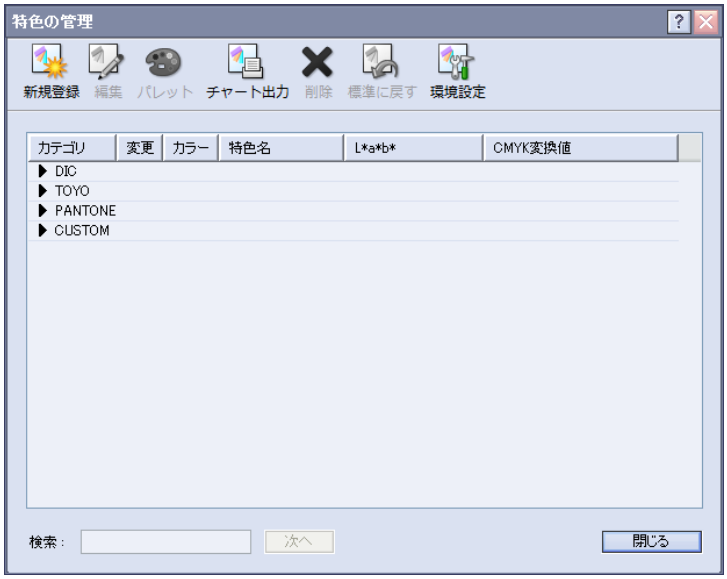
以下の情報が印字されます。

- プリント日
- ページ番号
- プリンター名
- カラーモード
- 特色補正プロファイル名
- 特色名
- 色見本

補足　特色チャートは、以下のプリントオプションの設定でプリントされます。

- ［カラー］＞［カラーモード］：［環境設定］ダイアログボックスの設定値
- ［カラー］＞［ユーザー調整］：しない
- ［カラー］＞［濃度調整］：しない
- ［カラー］＞［明るさ調整］：0
- ［カラー］＞［カラー詳細（共通設定）］＞［トナー総量調整］：標準
- ［カラー］＞［カラー詳細（特色設定）］＞［コンポジット特色補正］：有効
- ［カラー］＞［カラー詳細（特色設定）］＞［特色補正プロファイル］：［環境設定］ダイアログボックスの設定値
- ［カラー］＞［カラー詳細（特色設定）］＞［特色インテント］：［環境設定］ダイアログボックスの設定値
- ［画質］＞［キャリブレーション］：自動

1. ServerManagerの［カラー］→［特色の管理］を選択します。
2. ［チャート出力］をクリックします。

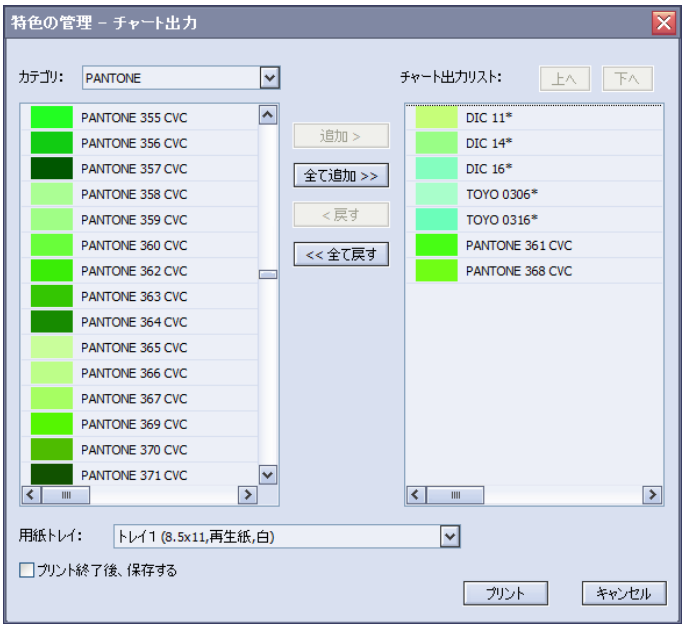


3. [カテゴリ] でカラーカテゴリーを選択したあと、プリントする特色を選択します。



特色は、〈Shift〉キー＋クリックで連続選択、〈Ctrl〉キー＋クリックで任意選択ができます。

4. [追加] をクリックします。



- **全て追加**

  クリックすると、[カテゴリ] のすべての特色が追加されます。

- **チャート出力リスト**

  追加した特色を1つだけ選択して [上へ] [下へ] をクリックし、並び順を変更します。

  追加を取り消す場合は、[チャート出力リスト] で追加した特色を選択し、[戻す] をクリックします。特色は、〈Shift〉キー＋クリックで連続選択、〈Ctrl〉キー＋クリックで任意選択できます。

- **全て戻す**

  クリックすると、[チャート出力リスト] のすべての特色が削除されます。

- **用紙トレイ**

  プリントする用紙のある用紙トレイを選択します。

- プリント終了後、保存する

  チェックマークを付けると、ジョブとして保存します。

5. 各項目を設定し、［プリント］をクリックします。

2.9 カラーを置き換える

カラー置き換え機能を使用すると、ジョブ内の特定のRGB値とCMYK値を、特定のCMYKまたは特色に変換できます。

カラー置換設定ファイルの作成

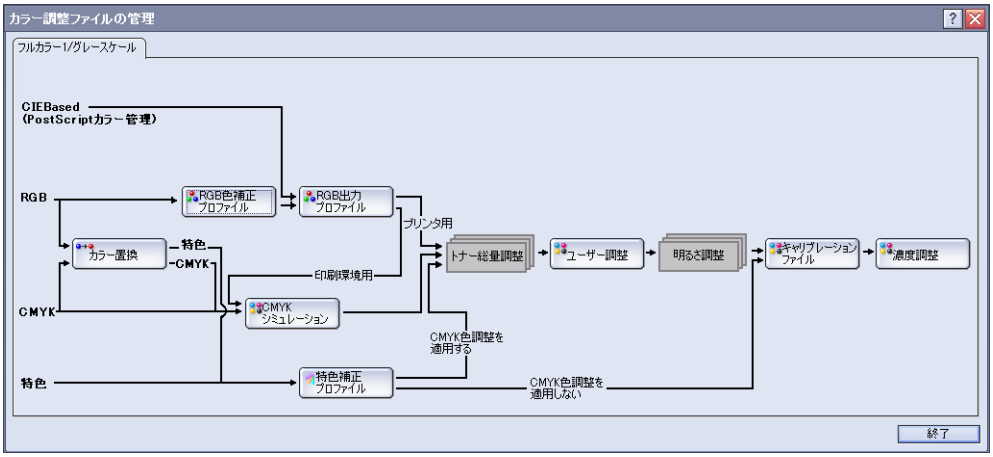
プリントに適用するカラー置換設定ファイルを作成し、読み込みと割り当てを行います。

読み込んだカラー置換設定ファイルをPrint Serverに登録すると、プリント時にプリントオプションから選択できます。

1. ServerManagerの  [カラー調整ファイルの管理]をクリックします。

   補足 [カラー]→[カラー調整ファイルの管理]を選択しても、[カラー調整ファイルの管理]ダイアログボックスを表示できます。

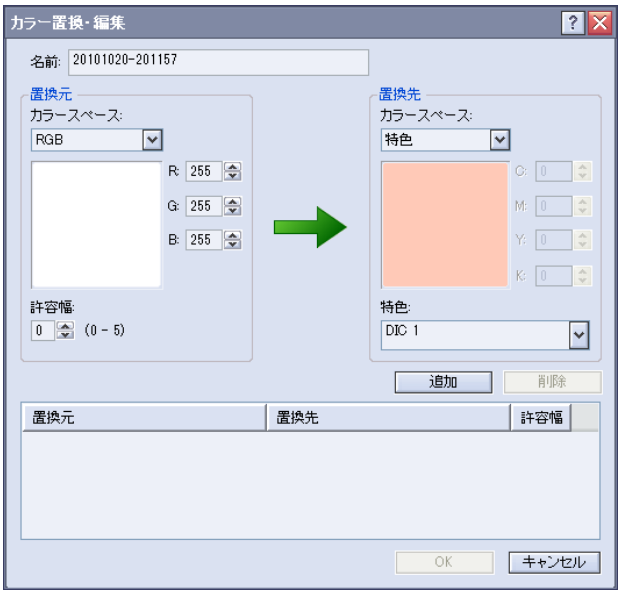
2. [カラー置換]をクリックします。



3. 1～100の中から登録する番号を選択し、[新規作成]をクリックします。



4. ［置換元］の［カラースペース］で、［RGB］、または［CMYK］を選択し、各色の値を入力します。数値は、［RGB］の場合は0～255の範囲で、［CMYK］の場合は0～100の範囲で入力します。



設定した色がプレビュー表示されます。

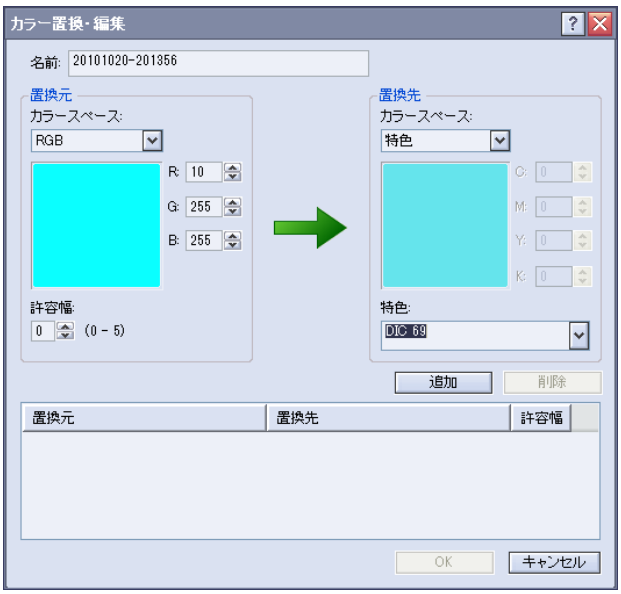
- 許容幅

置き換え処理をするときに、各値の一致を見るときの幅を入力します。入力範囲は、0～5です。

補足　［RGB］から［CMYK］、または［CMYK］から［RGB］に切り替えた場合は、切り替えられたカラースペースの値に変換されます。

5. ［置換先］の［カラースペース］で、［CMYK］、または［特色］を選択します。

・［CMYK］の場合は、各色の値を入力します。
・［特色］の場合は、［特色］で特色を選択します。



設定した色がプレビュー表示されます。

補足　［特色］メニューには、Print Serverに登録されている色が色見本とともに表示されます。

6. [追加] をクリックします。

補足 複数の色を同時に置き換えることもできます。

7. [名前] に新しいカラー置換設定ファイルの名前を入力し、[OK] をクリックします。

8. 設定ファイルの割り当てを確認するダイアログボックスで、[はい] をクリックします。

カラー置換設定ファイルの割り当て

[カラー置換-割り当て] ダイアログボックスで、割り当てるカラー置換ファイルを選択し、[閉じる] をクリックします。

補足 割り当てたカラー置換設定ファイルをプリントに適用するときは、プリントオプションの [カラー] > [カラー詳細（共通設定）] > [カラー置換] で、設定ファイルを選択します。
詳細は、「カラー詳細（共通設定）」(P.198) を参照してください。

カラー置換設定ファイルの編集

1. [カラー置換 - 割り当て] ダイアログボックスで、編集するカラー置換設定ファイルを選択し、[編集] をクリックします。

2. [カラー置換-編集] ダイアログボックスで、作成と同様に項目を編集します。

カラー置換設定ファイルの複製

1. [カラー置換 - 割り当て] ダイアログボックスで、複製するカラー置換設定ファイルを選択し、[複製] をクリックします。

2. [カラー置換-編集] ダイアログボックスで編集したあと、[OK] をクリックします。

カラー置換設定ファイルの削除

1. [カラー置換 - 割り当て] ダイアログボックスで、削除するカラー置換設定ファイルを選択し、[削除] をクリックします。

2. 確認のダイアログボックスで [はい] をクリックします。

補足 割り当てられているカラー置換設定ファイルを削除した場合、「置換なし」が割り当てられます。

3

ServerManagerでできるジョブ操作

ServerManagerから行うジョブの操作（ビルドジョブやRaster Image Viewerなど）、ファイルの送受信について説明しています。

3.1 ServerManagerについて 116
3.1.1 ServerManagerウィンドウ 116
3.1.2 クライアントコンピューターからの接続 123
3.1.3 ServerManagerのメニュー 126
3.1.4 システムメニュー 130
3.1.5 ジョブメニュー 131
3.1.6 表示メニュー 136
3.1.7 ヘルプメニュー 136
3.2 サムネールでジョブを編集する 137
3.3 ジョブを連結する（ビルドジョブ） 143
3.3.1 ビルドジョブの作成 143
3.3.2 ビルドジョブのプリントオプション 146
3.4 Raster Image Viewerを使用する 154
3.4.1 Raster Image Viewerの起動方法 154
3.4.2 Raster Image Viewerウィンドウ 155
3.4.3 Raster Image Viewerのメニュー 161
3.5 ファイルを送受信する、転送する 165
3.5.1 ボックスの環境設定 166
3.5.2 ファイルの送信（メール添付） 171
3.5.3 ファイルの受信 172
3.5.4 通信履歴の確認 175
3.5.5 送信ジョブの管理 178
3.5.6 アドレス帳の管理 179
3.5.7 ファイルの転送 183

3.1 ServerManagerについて

ServerManagerに表示される項目について、Print Serverで使用できる機能を含めて説明します。

3.1.1 ServerManagerウィンドウ

上部にはPrint Serverやプリンターの状態を示すステータスメッセージが表示されます。
Print Serverには、「ボックス」があり、クリックするとそれぞれの「ジョブリスト」表示に切り替わります。
[プリント]ボックスには、処理中、保持、およびエラーの3つがあります。

参照 メニューやボタンについては、「3.1.3 ServerManagerのメニュー」(P.126)、および「機能ボタン」(P.123)を参照してください。



ボックス

上段の「処理中リスト」はすべてのボックスで共通です。それ以外のリストは、ボックスごとに異なります。

- **プリント**
  基本のServerManagerウィンドウです。「保持リスト」と「エラーリスト」が表示されます。
- **検索結果**
  ジョブの検索結果が表示されます。

参照 ジョブ検索については、「6.1.5 ジョブ検索」(P.295)を参照してください。

- **プレビュー**
  TIFF保存、PDF保存で作成されたTIFF画像のリストがジョブごとに表示されます。

● 送信

時刻指定送信で送信待ちのメールと送信エラーになったメールのリストが表示されます。

● 受信

受信したメールのリストが表示されます。

ジョブリスト

通常、ジョブリストに表示されるジョブの文字色は黒ですが、ジョブの状態によって黒以外の文字が使われるものもあります。一度もプリントしたことのないジョブは背景色が変更されます。

ジョブの状態には、以下のものがあります。

● 処理中リスト

現在、Print Serverでプリント処理されているジョブの一覧が表示されます。

処理中のジョブのうち、プリント中のものは青い文字で表示されます。

● 保持リスト

［プリント］ボックスで表示されます。プリント処理が終わったものなど、Print Server に保持されているジョブの一覧とジョブ数が表示されます。

保持リストにあるジョブは、任意のフォルダーを作成して管理できます。

参照 フォルダーでジョブを管理する方法については、「ジョブフォルダーの管理」（P.119）を参照してください。

● エラーリスト

［プリント］ボックスで表示されます。プリント処理で、エラーが発生したジョブの一覧とジョブ数が表示されます。

黒い文字

用紙切れなどプリントオプションの設定を変更する必要がないエラーが発生しているジョブ

マゼンタ色の文字

プリントオプションの設定を変更すると、再プリントできるジョブ

赤い文字

クライアントコンピューターでファイルを作成し直す必要があるジョブなど

■ リストに表示される項目

ジョブリストに表示される項目は、以下のとおりです。

項目	説明	
フォルダー名	保持リストのジョブが格納されているフォルダー名が表示されます。	
（ジョブ名）	ジョブのファイル名が表示されます。	
アイコン		ビルドジョブが設定されている場合に表示されます。
		セキュリティプリントが設定されている場合に表示されます。
		フォームとして登録済みの場合に表示されます。
		ジョブを受信中の場合に表示されます。
		RIP済みデータを保持している場合に表示されます。
		PSプリフライトレポートを保持している場合に表示されます。
		RIP済みのTIFFファイルを保持している場合に表示されます。
		RIP済みのPDFファイルを保持している場合に表示されます。
		サムネール編集でページ情報が設定されている場合に表示されます。
		ビルドジョブを構成している個々のジョブに表示されます。（検索結果ボックスのみ）

項目	説明		
ジョブID	ジョブIDが表示されます。 補足 特色の登録などの操作を行うと、連番にならないことがあります。		
ジョブステータスマーク		処理中	プリントしている場合に表示されます。
			プリンターでエラーが発生している場合に表示されます。
		エラー	E：ファイルの修正や再プリントが必要なエラーが発生している場合に、赤色で表示されます。
			W:プリントオプションの変更で再プリント可能なエラーが発生している場合に、マゼンタ色で表示されます。
			N：エラーを解除すると再プリント可能なエラーが発生している場合に、黒色で表示されます。
所有者	ジョブを送信した所有者名が表示されます。所有者は、クライアントコンピューターごとに異なります。		
	Macintosh		Macintoshクライアントの所有者名が表示されます。
	Windows		Windowsクライアントへのサインイン名が表示されます。 補足 サインインしているユーザー名が、Print ServerのWindowsのユーザーとして登録されていないと、Print Serverのプリンターを SMB共有してプリントしたときは、「Guest」と表示されます。
	ホットフォルダ		ファイルからユーザー名を取得できる PostScript ファイルの場合は、そのユーザー名が表示されます。 それ以外の場合は、「不明」と表示されます。
	Lpr		ファイルからユーザー名を取得できる PostScript ファイルの場合は、そのユーザー名が表示されます。 それ以外の場合は、「lprユーザー」と表示されます。
	DropUtility		Macintoshクライアントの所有者名、またはWindowsクライアントへのサインイン名が表示されます。
	WebManager		アップロードプリントの場合は、WebManagerのログイン名が表示されます。 WebManager にログインしていない場合は、「Web ユーザー」と表示されます。
	ジョブの読み込み		ファイルからユーザー名を取得できる PostScript ファイルの場合は、そのユーザー名が表示されます。 それ以外の場合はログイン名が表示されます。
受信時刻	Print Serverがクライアントコンピューターからジョブを受信した時刻が表示されます。		
サイズ	受信したジョブのファイルサイズが表示されます。		
RIP（処理中のみ）	RIPの処理状態が表示されます。処理状態には、以下のものがあります。 ・「処理待ち」、「処理済みサイズ」（APPEジョブ場合、「RIP済みページ数」）		
印刷（処理中のみ）	プリントの処理状態が表示されます。処理状態には、以下のものがあります。 ・「データ転送待ち」、「（＊ / ＊）ページ転送中」、「＊ページ目転送中」、「プリント待ち」、「プリント中」		
ステータス（エラーのみ）	エラーの種類が表示されます。エラーの種類には、以下のものがあります。 ・「PostScript エラー」、「プリンターエラー」、「受信時エラー」、「RIP エラー」、「コントローラーボードエラー」、「データベースエラー」など		
出力日時	プリンターがファイルの最後の用紙を排出した日時が表示されます。一度もプリントしていない場合は、「未出力」と表示されます。		
タイプ	ジョブのファイルタイプが表示されます。		
RIPの種類	RIPの種類（CPSI、APPE）が表示されます		
ページ・部数	受信したデータのページ数と部数が表示されます。		
受信プロトコル	ジョブの受信プロトコルが表示されます。		

補足
・TCP/IP（lpr）からのプリント時、ServerManagerの［管理］→［論理プリンタの管理］を選択し、［TCP/IP］の設定で［lprのコントロールファイルを無視する］が設定されている場合は、PostScriptファイル内の%%Title欄の記述内容がジョブ名になります。
・リストに表示される項目の順序を変更できます。また、保持リストとエラーリストでは、各項目をキーにして、ジョブをソートして表示できます。
詳細は、『ユーザーズガイド 導入編』の「3.2.1 ServerManagerのウィンドウ」を参照してください。

■ジョブフォルダーの管理

● 作成

デフォルトで、「#共通」フォルダーが作成されています。
フォルダーは100個まで登録できます。

補足 フォルダーは、管理者モードのときに操作できます。

1. ［ボックス］→［フォルダー］→［作成］を選択します。
2. ［作成］ダイアログボックスで、［名前］を入力し、［OK］をクリックします。

名前
31バイト以内で入力します。

● 名前変更

1. 保持リストから名前を変更するフォルダーを選択します。

補足 「#共通」フォルダーの名前は、変更できません。

2. ［ボックス］→［フォルダー］→［名前の変更］を選択します。
3. ［名前の変更］ダイアログボックスで、新しい名前を入力し、［OK］をクリックします。

● 削除

1. 保持リストから削除するフォルダーを選択します。
2. ［ボックス］→［フォルダー］→［削除］を選択します。

補足
・複数選択ができます。
・「#共通」フォルダーは削除できません。

3. フォルダーにジョブがある場合は、確認のダイアログボックスが表示されるので、［OK］をクリックします。
・フォルダーにジョブがない場合は、フォルダーだけが削除されます。
・フォルダーにジョブがある場合は、フォルダーとフォルダーの中のジョブが削除されます。

● 展開する/たたむ

フォルダー内のジョブ名の表示の設定をします。
［ボックス］→［すべてのフォルダーを展開する］を選択すると、すべてのフォルダー内のジョブが表示され、［すべてのフォルダーをたたむ］を選択すると、フォルダー内のジョブ名が表示されなくなります。

補足
・展開する/たたむは、一般ユーザーモードでも操作できます。
・次回起動時に同じ設定で表示されます。
・［ジョブ］→［すべて選択］を選択した場合、ジョブ名が表示されているジョブだけが選択されます。（フォルダーがたたまれ、表示されていないジョブは選択されません）

● ボックス表示の切り替え

表示するボックスを選択します。
［ボックス］→［ボックス表示の切り替え］で、ボックスを選択すると、選択したボックスが表示されます。

ステータスメッセージ

Print Server、プリンターの状態のメッセージとプリンター構成のイメージ、およびジョブの進捗状態（上段：プリント状態、下段：RIP状態）が表示されます。

メッセージの先頭とプリンター構成のイメージにはアイコンが表示されます。アイコンの種類は、以下のとおりです。

アイコン	説明
	情報メッセージであることを示します。プリンター構成のイメージには表示されません。
	エラーがあることを示します。
	警告があることを示します。

表示されるメッセージは、以下のとおりです。

メッセージ		状態
サーバー状態	サーバー使用可能	プリント処理ができる状態です。
	サーバーにフォントをダウンロードしています	市販フォントのダウンロード中です。
	サーバーのキャリブレーションをしています	キャリブレーション中です。
	サーバーの両面印刷を微調整しています	両面印刷の微調整を行っています。
	サーバーの印刷処理を停止しています	クライアントコンピューターからのジョブは受け付けます。 RIP処理は行いません。
	サーバーのシステムを再設定しています	システム情報の再設定を行っています。(環境設定の変更、ユーザー調整、キャリブレーションの変更、設定のバックアップ/リストア、フォントリストア、フォントダウンロードモード開始/終了時のRIP再起動中など)
	サーバーのディスク空き容量不足です	ディスクの空き容量が不足し、処理が継続できない状態です。
	サーバーのフォントをバックアップしています	フォントバックアップ中です。
プリンター状態	サイクルアップ中	プリンターのウォームアップ中です。
	節電中です	節電中です。
	診断モード中です	診断モードです。
	初期化処理しています	初期化処理中です。
	停止中です	停止中です。
	プリントできます	待機中です。
	お待ちください	待機中です。
	プリンター操作中です	プリンターの操作パネルが操作中です。
	通信エラーが発生しました	プリンターの電源が入っていないか、Print Serverとプリンターのネットワーク通信ができない状態です。
	プリンターでエラーが発生しました	エラーが発生しています。 参照 エラーメッセージについては、「6.3 エラージョブメッセージについて」(P.300)を参照してください。
	(＊/＊＊)枚目をプリントしています	プリント中です。 ＊：プリント中のページ番号 ＊＊：総ページ数

メッセージ		状態
プリンター状態	（＊/＊＊）部目の（＊＊＊/＊＊＊＊）枚目をプリントしています	複数部設定でプリント中です。 ＊：プリント中の部 ＊＊：設定部数 ＊＊＊：プリント中のページ番号 ＊＊＊＊：総ページ数

①プレビューエリア

プレビューエリアには、以下の項目が表示されます。

［表示］→［プレビュー］を選択すると、表示/非表示の切り替えができます。

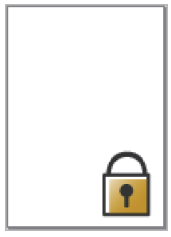
■プレビュー画像

ジョブリストで選択されたジョブのプレビュー画像が表示されます。プレビュー画像をダブルクリックすると、プレビューエリアに表示されている画像が別のダイアログボックスで拡大表示されます。

ジョブにプレビュー画像がない場合や、セキュリティプリントが設定されているジョブ（ログオフ、および一般ユーザーモード時）は、以下のように表示されます。

■プレビュー画像がない場合　■セキュリティプリントが指定されている場合





ジョブリストでジョブが選択されていない場合は、RIP中のジョブのプレビュー画像が表示されます。

参照　プレビューの保存方法を設定できます。
『ユーザーズガイド 導入編』の「1.5.2 ServerManager の環境設定」の「プリントジョブの設定」を参照してください。

■保持データ

ジョブがデータを保持している場合は、プレビュー画像の左横にアイコンが表示されます。アイコンには、以下の3種類があります。

アイコン	説明
	PSプリフライトレポートを保持しています。
	RIP済みデータを保持しています。
	TIFFファイルを保持しています。

■ページめくりボタン

・プレビューの作成/保存方法が［全ページ保存する］の場合で、選択したジョブが複数ページのときは、［<］、または［>］をクリックすると、前、または次のページが表示されます。

・［«］をクリックすると、最初のページが表示されます。

・［»］をクリックすると、最後のページが表示されます。

②マシン消耗品状態エリア

マシン消耗品状態エリアには、以下の項目が表示されます。

［表示］→［マシン状態］を選択すると、表示/非表示の切り替えをします。

■トレイ情報

各トレイにセットされている用紙サイズ、用紙残量、用紙の種類が表示されます。

「用紙切れ」、「故障」、「正しくセットされていません」は、赤い文字で表示されます。

・正常（100%）　・正常（75%）　・正常（50%）　・予備を用意（25%）

・用紙切れ　・故障　・正しくセットされていません

■トナー量

各トナーの状態が25%刻みのバーグラフで表示されます。

・良好（100%）　・良好（75%）　・良好（50%）　・予備を用意（25%）　・要交換

■ハードディスク使用量

Print Server の作業用フォルダーがあるディスクのスプールフォルダーを含んだ全容量とディスク使用量がバーグラフで表示されます。

③ネットワーク状態エリア

ネットワーク状態エリアには、以下の項目が表示されます。

［表示］→［ネットワーク状態］を選択すると、表示/非表示の切り替えをします。

参照　各ネットワークの環境設定については、『ユーザーズガイド 導入編』の「1.1 Print Serverの設定をする」を参照してください。

■種類

利用できるネットワークの種類が表示されます。表示されるネットワークの種類には、以下のものがあります。

・AppleTalk　・Windowsネットワーク　・TCP/IP　・ホットフォルダ

■名称

ホットフォルダはフォルダー名、それ以外はプリンター名が表示されます。

■状態

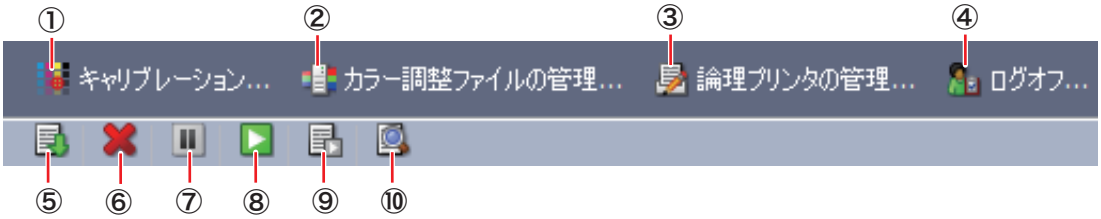
プリンターの受信状態が受信中のものは青い文字で、エラーが発生しているものは赤い文字で表示されます。表示される状態には、以下のものがあります。

・起動していません　・受信待ち　・受信中

・サーバーと接続できません　・正常に起動していません

機能ボタン

ServerManagerのメニューの一部は、以下のボタンでも操作できます。



①	キャリブレーション
②	カラー調整ファイルの管理
③	論理プリンタの管理
④	ログイン/ログオフ（ログイン状態によって、ボタンの形状が変化します）
⑤	ジョブ読み込み
⑥	ジョブ削除（ジョブをボタンの上にドラッグ＆ドロップしても削除できます）
⑦	（プリント）停止（ジョブをボタンの上にドラッグ＆ドロップしても停止できます）
⑧	（プリント）処理開始（ジョブをボタンの上にドラッグ＆ドロップしても処理開始できます）
⑨	続きをプリント（ジョブをボタンの上にドラッグ＆ドロップしても続きをプリントできます）
⑩	ジョブ検索

3.1.2 クライアントコンピューターからの接続

新規接続

1. デスクトップの「FX_ServerManager」アイコンをダブルクリックします。

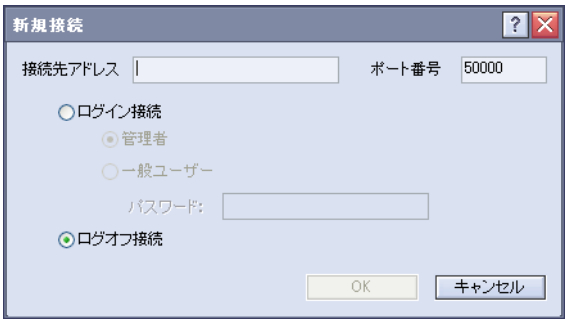


ServerManagerが起動します。

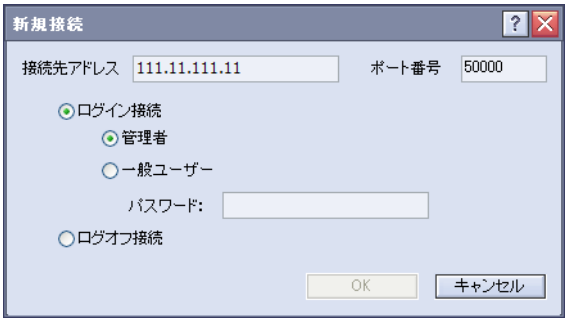
補足
- Windowsの［スタート］→［Fuji Xerox］→［FX ServerManager］を選択しても、ServerManagerを起動できます。
- クライアントコンピューターで動作するServerManagerは、他機種のPrint Serverとは接続できません。

2. ［システム］→［新規接続］を選択します。

3. ［接続先アドレス］と［ポート番号］を入力し、ログイン種別を選択します。



4. ［ログイン接続］を選択した場合は、ログイン名を選択し、［パスワード］を入力します。



5. ［OK］をクリックします。

Print Serverに接続されます。

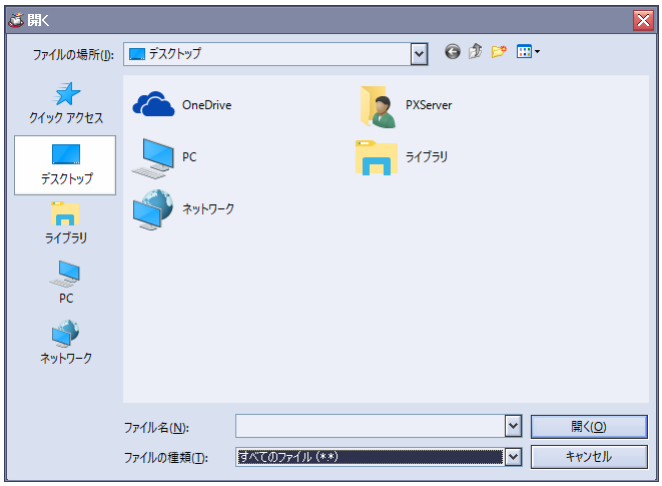
接続設定ファイルの操作

接続設定をファイル（拡張子は「.psx」）として保存しておくと、保存したファイルを開くことで、終了したときと同じ状態で接続が再開されます。

■開く

保存した設定ファイルを読み込んで、接続が再開されます。

1. ［システム］→［開く］を選択します。
2. 保存した接続設定ファイルを選択し、［OK］をクリックします。



■閉じる

接続を終了します。

［システム］→［閉じる］を選択します。

■上書き保存

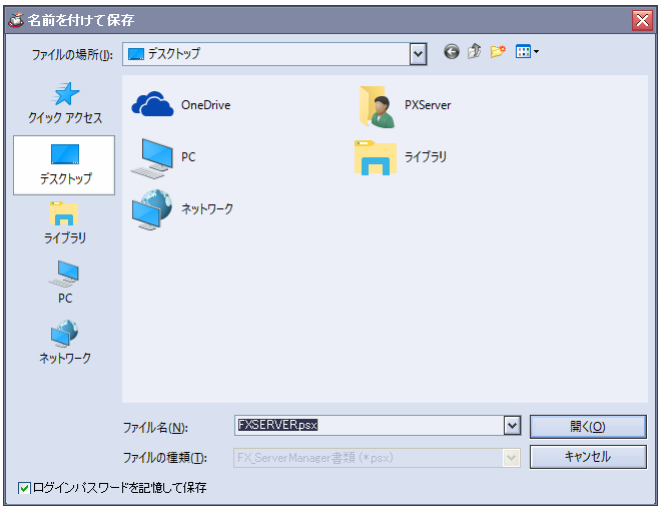
現在の状態が接続設定ファイルに上書き保存されます。

［システム］→［上書き保存］を選択します。

■名前をつけて保存

現在の状態が新しい接続設定ファイルに保存されます。

1. ［システム］→［名前をつけて保存］を選択します。
2. ファイル名を入力し、［OK］をクリックします。



- **ログインパスワードを記憶して保存**

  チェックマークを付けると、パスワードを入力しないで接続が再開されます。チェックマークを外すと、再開時にパスワードの入力が必要になります。

3.1.3 ServerManagerのメニュー

ServerManagerにあるメニュー項目について説明します。

○：選択できる項目

×：選択できない項目

△：閲覧だけできる項目

補足 APPEジョブや、セキュリティプリントが設定されているジョブには、制限があります。

システム

メニュー項目		クライアントコンピューター			Print Server			参照
		ログオフ	ログイン		ログオフ	ログイン		
			一般ユーザー	管理者		一般ユーザー	管理者	
新規接続		○	○	○	×	×	×	3.1.2
開く		○	○	○	×	×	×	
閉じる		○	○	○	×	×	×	
上書き保存		○	○	○	×	×	×	
名前を付けて保存		○	○	○	×	×	×	
スタートアップページの印刷		×	○	○	×	○	○	6.1.3
印刷処理を停止/印刷処理を再開		×	×	○	×	×	○	『ユーザーズガイド セットアップ編』
ジョブ履歴	表示/保存/印刷	×	×	○	×	×	○	6.1.1
	設定	×	△	○	×	△	○	『ユーザーズガイド 導入編』1.5.2
通信履歴		×	×	×	×	×	○	3.5.4
エラー履歴の収集		×	×	○	×	×	○	6.1.4
長さの単位		○	○	○	○	○	○	4.3.1
オプションメモの設定		×	△	○	×	△	○	『ユーザーズガイド 導入編』1.5.2
プリントジョブの設定		×	△	○	×	△	○	
初期設定	作業用フォルダーの設定	×	×	○	×	×	○	『ユーザーズガイド 導入編』1.5.3
	プリンター設定	×	×	×	×	×	○	『ユーザーズガイド 導入編』1.5.2
	サーバーの通信設定	×	△	○	×	△	○	4.3.1
	クライアントの通信設定	○	○	○	×	×	×	
	ライセンスの設定	×	×	×	×	△	○	『ユーザーズガイド 導入編』1.5.2
	その他の設定	×	×	○	×	×	○	『ユーザーズガイド 導入編』1.2.1

メニュー項目		クライアントコンピューター			Print Server			参照
		ログオフ	ログイン		ログオフ	ログイン		
			一般ユーザー	管理者		一般ユーザー	管理者	
バックアップ	ボックスをバックアップ	×	×	×	×	×	○	3.1.4
	ボックスをリストア	×	×	×	×	×	○	
	設定をバックアップ	×	×	○	×	×	○	『ユーザーズガイド導入編』1.6
	設定をリストア	×	×	○	×	×	○	
	フォントをバックアップ	×	×	○	×	×	○	6.1.2
	フォントをリストア	×	×	○	×	×	○	
サーバー		×	○	○	×	○	○	—
ログイン/ログオフ		○	○	○	○	○	○	『ユーザーズガイド導入編』1.2.1
終了		○	○	○	○	○	○	—

ジョブ

メニュー項目	クライアントコンピューター			Print Server			参照
	ログオフ	ログイン		ログオフ	ログイン		
		一般ユーザー	管理者		一般ユーザー	管理者	
ジョブ編集	×	○	○	×	○	○	4.1
ジョブ複製	×	○	○	×	○	○	3.1.5
ジョブ削除	×	○	○	×	○	○	
停止	×	○	○	×	○	○	
処理開始	×	○	○	×	○	○	
続きをプリント	×	○	○	×	○	○	
すべて選択	×	○	○	×	○	○	
ジョブ保存	×	○	○	×	○	○	
ジョブ読み込み	×	○	○	×	○	○	
フォルダー移動	×	○	○	×	○	○	
RIP済みデータを削除	×	○	○	×	○	○	
RIP済みデータを作成	×	○	○	×	○	○	
ジョブ検索	×	○	○	×	○	○	6.1.5
検索リストのクリア	×	○	○	×	○	○	
小冊子作成	×	○	○	×	○	○	1.2.1
差込印刷	×	○	○	×	○	○	1.2.4
2アップ	×	○	○	×	○	○	1.2.2
リピートプリント	×	○	○	×	○	○	1.2.3
ビルドジョブ	×	×	×	×	○	○	3.3

メニュー項目		クライアントコンピューター			Print Server			参照
		ログオフ	ログイン		ログオフ	ログイン		
			一般ユーザー	管理者		一般ユーザー	管理者	
サムネール	サムネール編集	×	×	×	×	○	○	3.2
	サムネール編集情報を削除	×	○	○	×	○	○	
拡大プレビュー		×	○	○	×	○	○	3.1.5
Raster Image Viewer		×	×	×	×	○	○	3.4
PSプリフライトレポート		×	○	○	×	○	○	1.1.4
キャリブレーションの確認印刷		×	○	○	×	○	○	3.1.5
送信		×	×	×	×	○	○	3.5
ジョブ情報の収集		×	×	×	×	○	○	3.1.5
プレビューボックス		×	×	×	×	○	○	—
送信ボックス		×	×	×	×	○	○	3.5
受信ボックス		×	×	×	×	○	○	

カラー

メニュー項目	クライアントコンピューター			Print Server			参照
	ログオフ	ログイン		ログオフ	ログイン		
		一般ユーザー	管理者		一般ユーザー	管理者	
キャリブレーション	×	×	○	×	×	○	2.2.2
キャリブレーションの通知設定	×	×	×	×	△	○	『ユーザーズガイド 導入編』1.5.2
カラー調整ファイルの管理	×	△	○	×	△	○	2.2 、2.3 、2.4 、2.5 、2.6 、2.7 、2.9
特色の管理	×	△	○	×	△	○	2.8

管理

メニュー項目		クライアントコンピューター			Print Server			参照
		ログオフ	ログイン		ログオフ	ログイン		
			一般ユーザー	管理者		一般ユーザー	管理者	
プリントオプションテンプレートの管理		×	△	○	×	△	○	『ユーザーズガイド 導入編』1.5.1
論理プリンタの管理		×	△	○	×	△	○	『ユーザーズガイド 導入編』1.6
フォントの管理	一覧表示/一覧印刷	×	○	○	×	○	○	6.1.2
	一覧表示/一覧印刷を除く	×	×	○	×	×	○	

メニュー項目	クライアントコンピューター			Print Server			参照
	ログオフ	ログイン		ログオフ	ログイン		
		一般ユーザー	管理者		一般ユーザー	管理者	
フォーム管理	×	○	○	×	○	○	1.2.4
ウォーターマーク管理	×	△	○	×	△	○	4.3.2
ページ番号設定ファイルの管理	×	△	○	×	△	○	4.3.3
保存・接続先の管理	×	×	×	×	△	○	3.5.7
ユーザー管理	×	△	○	×	△	○	『ユーザーズガイド 導入編』1.2.2

ボックス

メニュー項目		クライアントコンピューター			Print Server			参照
		ログオフ	ログイン		ログオフ	ログイン		
			一般ユーザー	管理者		一般ユーザー	管理者	
メール受信		×	×	×	×	×	○	3.5.3
アドレス帳		×	×	×	×	×	○	3.5.6
フォルダー		×	×	○	×	×	○	3.1.1
すべてのフォルダーを展開する		○	○	○	○	○	○	
すべてのフォルダーをたたむ		○	○	○	○	○	○	
ボックス表示の切り替え	プリント/検索リスト	○	○	○	○	○	○	
	プレビュー/送信/受信	×	×	×	○	○	○	
ボックスの設定		×	△	○	×	△	○	『ユーザーズガイド 導入編』1.5.2

表示

各ウィンドウの表示切り替えや、Print Serverの状態を表示できます。

メニュー項目	クライアントコンピューター			Print Server			参照
	ログオフ	ログイン		ログオフ	ログイン		
		一般ユーザー	管理者		一般ユーザー	管理者	
プレビュー	○	○	○	○	○	○	3.1.1
マシン状態	○	○	○	○	○	○	
ネットワーク状態	○	○	○	○	○	○	
ステータス一覧	○	○	○	×	×	×	3.1.6
標準に戻す	○	○	○	○	○	○	
最新の情報に更新	○	○	○	○	○	○	

ヘルプ

メニュー項目	クライアントコンピューター			Print Server			参照
	ログオフ	ログイン		ログオフ	ログイン		
		一般ユーザー	管理者		一般ユーザー	管理者	
ヘルプ	○	○	○	○	○	○	3.1.7
バージョン情報	○	○	○	○	○	○	

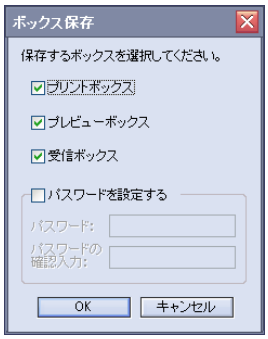
3.1.4 システムメニュー

ここに記載されていないメニュー項目については、「3.1.3 ServerManagerのメニュー」(P.126) の一覧から該当のページを参照してください。

■ボックスをバックアップ

ボックス単位でジョブが圧縮保存されます。

1. [システム] → [バックアップ] → [ボックスをバックアップ] を選択します。
2. 保存するボックスにチェックマークを付け、[OK] をクリックします。



- パスワードを設定する

  パスワードとして入力できるのは、半角英数字5～31バイトです。

■ボックスをリストア

[ボックスをバックアップ] によって保存されたジョブを読み込みます。

ボックス単位のファイルを複数選択できます。

補足 保存ファイルにパスワードが設定されている場合、[パスワードの入力] ダイアログボックスが表示されます。

3.1.5　ジョブメニュー

ここに記載されていないメニュー項目については、「3.1.3 ServerManagerのメニュー」（P.126）の一覧から該当のページを参照してください。

ジョブの状態	［ジョブ］メニュー / ポップアップメニューで使用できる項目
処理中	ジョブ編集、すべて選択、ジョブ削除、停止、拡大プレビュー
保持 / エラー	ジョブ編集、ジョブ複製、ジョブ保存、すべて選択、ジョブ削除、RIP 済みデータを削除、RIP 済みデータを作成、処理開始、続きをプリント、PSプリフライトレポート、キャリブレーションの確認印刷、小冊子作成、差込印刷、2アップ、リピートプリント、ビルドジョブ、サムネール編集、サムネール編集情報を削除、拡大プレビュー、Raster Image Viewer、ファイル転送、メール送信、エラー履歴の収集、フォルダー移動（保持リストのみ）
ジョブの検索結果	ジョブ編集、ジョブ検索、ジョブ複製、ジョブ保存、すべて選択、ジョブ削除、RIP 済みデータを削除、RIP 済みデータを作成、処理開始、続きをプリント、PS プリフライトレポート、キャリブレーションの確認印刷、小冊子作成、検索リストのクリア、差込印刷、2 アップ、リピートプリント、ビルドジョブ、サムネール編集、サムネール編集情報を削除、拡大プレビュー、Raster Image Viewer、ファイル転送、メール送信、エラー履歴の収集

補足
- ジョブを選択し、右クリックしても［ジョブ］メニューが表示されます。
- 一般ユーザーモードでログインしている場合、セキュリティプリントが設定されているジョブに対して、［停止］以外の項目を実行するには、パスワードの入力が必要です。

■ジョブ複製

ジョブが複製され、保持リストに表示されます。

このメニューは、保持リストとエラーリストにあるフォルダー、またはジョブを選択した場合にだけ使用できます。

補足
- RIP済みデータ、およびプリフライトレポートは複製されません。
- プリントオプションの［出力方法］>［差込印刷］が［フォームとして登録］のジョブを複製すると、複製されたものは［しない］に変更されます。
- 選択したジョブにセキュリティプリントが設定されている場合は、そのパスワードも複製されます。

■ジョブ保存

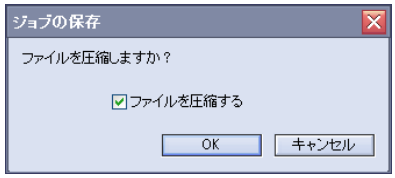
フォルダー、またはジョブが保存されます。

このメニューは、保持リスト、またはエラーリストにあるフォルダー、またはジョブを選択した場合にだけ使用できます。

補足
- ジョブのサイズによっては、操作が完了するまで時間がかかることがあります。
- RIP済みデータ、およびプリフライトレポートは保存されません。
- プリントオプションの［セキュリティ］>［ジョブ終了をメールで通知］の設定は、保存されません。
- 選択したジョブにセキュリティプリントが設定されている場合は、そのパスワードも保存されます。
- 制御文字（Windowsでファイル名として使用できない文字、* ¥ / : ? " < > |など）は、自動で「_」に置き換えられます。

◆1つのジョブを選択した場合

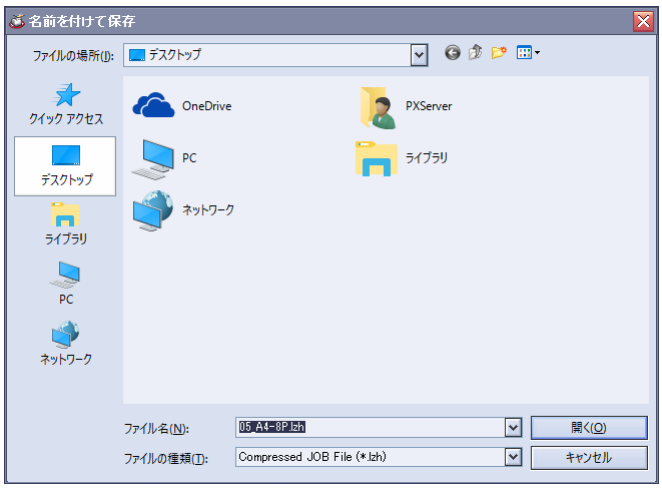
1. ［OK］をクリックします。



● ファイルを圧縮する

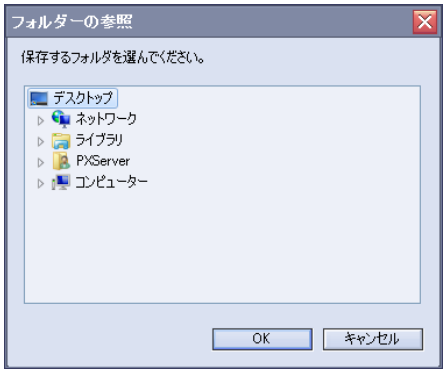
チェックマークを付けると、ジョブが圧縮して保存されます。保存されるファイルの拡張子は、圧縮しなかった場合は「.jbf」、圧縮した場合は「.lzh」です。

2. 保存する場所とファイル名を入力して、［保存］をクリックします。



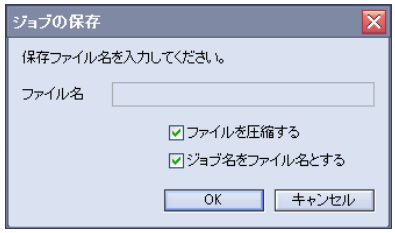
◆複数のジョブを選択した場合、またはフォルダーを選択した場合

1. 保存する場所を選択し、［OK］をクリックします。



選択したフォルダーの中に、年月日-時分秒の形式でフォルダー（例:20171101-103255）が作成されます。

2. ［OK］をクリックします。



● ファイルを圧縮する

チェックマークを付けると、ジョブが圧縮して保存されます。保存されるファイルの拡張子は、圧縮しなかった場合は「.jbf」、圧縮した場合は「.lzh」です。

● ジョブ名をファイル名とする

・チェックマークを付けると、ジョブ名がファイル名になります。ファイル名が重複する場合は、ファイル名に「_＊」（＊は1から）が付いて保存されます。

・ファイル名を入力する場合は、チェックマークを外し、［ファイル名］にファイル名を入力します。入力したファイル名に「_＊」（＊は1から）が付いて保存されます。

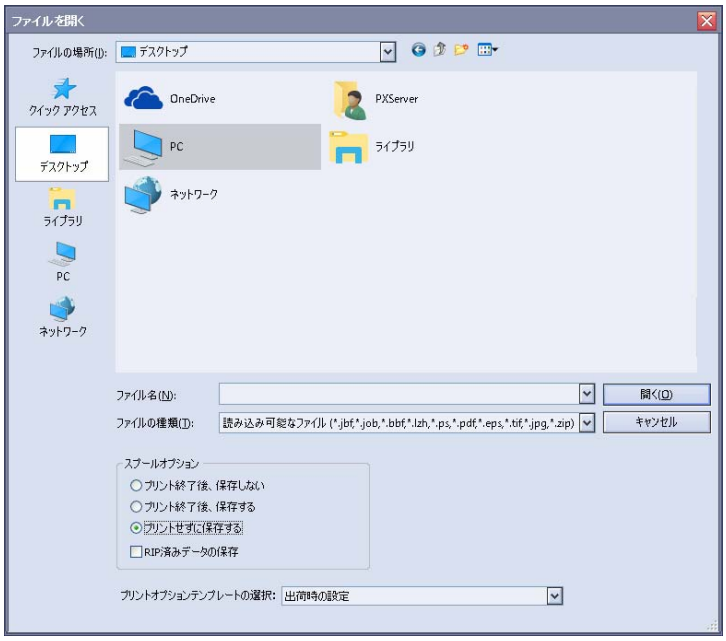
■ジョブ読み込み

ジョブが読み込まれます。

1. 保持リストから、読み込むファイルを保存するためのフォルダーを選択します。

補足 フォルダーが選択されていない場合は、「＃共通」フォルダーに保存されます。

2. 読み込むファイルを選択します。
3. 各項目を設定し、[開く]をクリックします。



保持リストにジョブが表示されます。

補足
- プリントオプションテンプレートはジョブファイルには適用されません。
- [スプールオプション]と[プリントオプションテンプレートの選択]は前回の設定が選択されています。
- [スプールオプション]の設定とプリントオプションテンプレートのスプールオプションの設定が異なる場合は、[スプールオプション]の設定が優先されます。
- クライアントで、31バイトを超えるファイル名のPostScript/PDF/EPS/TIFF/JPGファイルを読み込んだ場合、ジョブ名は31バイトに省略して表示されます。

● ファイルの種類

● 読み込み可能なファイル

表示されるファイルフォーマットは、以下のとおりです。

・JBF/JOB/BBF/LZH/PostScript/PDF/EPS/TIFF/JPG/ZIP
BBF（ビルドジョブファイル）は、Print ServerのServerManagerでだけ表示されます。

補足 PowerPoint 2007からPDF Makerで作成したPDFを読み込んでプリントする場合、設定したページサイズでプリントされないことがあります。この場合、プリントオプションの[用紙/ページ]＞[その他の設定（用紙/ページ）]＞[PDFのトリミング領域をページサイズとする]で[する]を選択してください。

● ジョブファイル

表示されるファイルフォーマットは、以下のとおりです。

・JBF/JOB/BBF/LZH
BBF（ビルドジョブファイル）は、Print ServerのServerManagerでだけ表示されます。

- **その他のファイル**
  表示されるファイルフォーマットは、以下のとおりです。
  ・PostScript/PDF/EPS/TIFF/JPG/ZIP
- **すべてのファイル**
  すべてのファイルフォーマットが表示されます。

- スプールオプション
  送信されたジョブのプリント方法を選択します。
  - **プリント終了後、保存しない**
    プリントしたあと、ジョブが削除されます。
  - **プリント終了後、保存する**
    プリントしたあと、Print Serverにジョブが保存されます。
  - **プリントせずに保存する**
    プリントしないで、Print Serverにジョブが保存されます。
- RIP済みデータの保存
  チェックマークを付けると、RIP後のデータがPrint Serverに保存されます。
  [スプールオプション]が[プリント終了後、保存する]、または[プリントせずに保存する]の場合にだけ有効です。

  補足 [スプールオプション]が[保存しない]の場合、RIP済みデータは保存されません。

- プリントオプションテンプレートの選択
  読み込み時に適用するプリントオプションテンプレートを一覧から選択します。

■すべて選択

リストのすべてのジョブが選択されます。
このメニューは、すべてのリストで使用できます。

■ジョブ削除

ジョブが削除されます。
このメニューは、すべてのリストで使用できます。

補足
- プリント待ちのジョブは削除できません。
- プリントオプションの[出力方法]>[その他の設定(出力方法)]>[ジョブ削除を許可する]が[しない]に設定されているジョブは、削除されません。
- 一般ユーザーモードでは、セキュリティプリントが設定されているジョブを受信中に削除した場合は、受信終了後にジョブがエラーリストに移動します。
- 大量のページ(数万ページ)のジョブ処理中の削除には、時間がかかることがあります。

■RIP済みデータを削除

RIP済みデータを持っているジョブのRIP済みデータが削除されます。元データ、および中間PDFファイルは削除されません。
このメニューは、保持リスト、またはエラーリストにあるジョブを選択した場合にだけ使用できます。

■RIP済みデータを作成

RIP済みデータを持っていないジョブのRIP済みデータが作成され、ジョブが保持リストに移動します。
複数のジョブを選択し、その中ですでにRIP済みデータを持っているジョブがある場合は、RIP済みデータを持たないジョブだけRIP済みデータが作成されます。
このメニューは、保持リスト、またはエラーリストにあるジョブを選択した場合にだけ使用できます。

補足 この機能は、以下のプリントオプションの設定内容にかかわらず処理が行われます。
- [出力方法]>[RIP済みデータの保存]
- [プリフライト]>[RIP後のデータをファイルに保存]>[TIFFで保存する]、または[PDFで保存する]

■停止

処理中のジョブが停止し、保持リストの最下段に移動します。

このメニューは、処理中リストにあるジョブを選択した場合にだけ使用できます。

補足
- 受信中のジョブは、受信が終了するまで停止できません。
- 大量のページ（数万ページ）のジョブ処理中の削除には、時間がかかることがあります。

■処理開始

停止させたジョブの処理が再開され、ジョブが処理中リストの最下段に移動します。

保持リスト、またはエラーリストにあるジョブを処理中リストにドラッグ＆ドロップして移動しても、再開できます。

このメニューは、保持リスト、またはエラーリストにあるジョブを選択した場合にだけ使用できます。

補足

プリントオプションの［出力方法］＞［スプールオプション］が［プリント終了後、保存する］に設定されているジョブは、ジョブの先頭にチェックマークが自動で付きます。
- チェックマークを付けたたまま再プリントすると、プリント終了後、ジョブは保持リストに戻ります。
- チェックマークを外して再プリントすると、プリント終了後、ジョブは保持リストに残りません。

■続きをプリント

プリント停止指示やエラーでプリントが停止しているジョブが続きからプリントされます。

補足
- 1枚もプリントしないで停止、またはエラーになったジョブは、対象になりません。
- プリントオプションを変更すると、無効になります。
- 合紙挿入で、合紙の直後に停止した場合は、合紙からプリントされます。
- 用紙挿入（先頭）が設定されたジョブで、先頭の白紙がプリントされただけで停止したジョブは、対象になりません。
- 用紙挿入（最後）が設定されたジョブで、最後の白紙がプリントされる直前に停止したジョブは、対象になりません。
- 複数の部数が指定されたジョブでは、残りの部数の先頭ページからプリントされます。

■キャリブレーションの確認印刷

キャリブレーションを適用する場合と適用しない場合の違いを確認するためのプリント（2枚）ができます。

補足

以下の設定は無効になり、デフォルト値が適用されます。
- ［用紙/ページ］＞［部数］
- ［出力方法］＞［スプールオプション］
- ［プリフライト］＞［RIP後のデータをファイルに保存］＞［TIFFで保存する］、［PDFで保存する］
- ［その他（セキュリティ）］＞［ジョブ終了をメールで通知する］
- ［ジョブ］→［差込印刷］

■拡大プレビュー

プレビューエリアに表示されている画像が別のダイアログボックスで拡大表示されます。

参照　プレビュー画像については、「①プレビューエリア」（P.121）を参照してください。

■ジョブ情報の収集

エラー解析のために、ジョブ、ログ、およびジョブの設定情報が収集されます。収集されるジョブとログは、以下のとおりです。

- 選択されているジョブのスプールフォルダー
- 以下のフォルダー

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥Log

・イベントログ

以下の設定情報が収集されます。

・ユーザー調整カーブ　・キャリブレーションファイル　・濃度調整カーブ

・特色補正プロファイル　・フォーム管理

収集したジョブ、ログ、およびジョブの設定情報は、LHA形式の圧縮ファイルとして保存されます。ファイル名、および保存先は任意に設定できます。

■フォルダー移動

保持リストにあるジョブを、別のフォルダーに移動できます。
ジョブをドラッグ＆ドロップしても、別のフォルダーに移動できます。複数選択ができます。

3.1.6　表示メニュー

ここに記載されていないメニュー項目については、「3.1.3 ServerManagerのメニュー」（P.126）の一覧から該当のページを参照してください。

● 標準に戻す

デフォルトの表示状態に戻ります。

● 最新の情報に更新

情報が最新に更新されます。

3.1.7　ヘルプメニュー

■ヘルプ

表示されたウィンドウからマニュアル（ユーザーズガイド）を表示できます。

● クライアントコンピューターで表示させるには

Print Serverの以下のフォルダーを、フォルダーごとクライアントのインストールフォルダーに複製してください。

複製するフォルダー

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥bin¥Help

クライアントのインストールフォルダー（デフォルトの場合）

C:¥Program Files¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥ServerManager¥DPC5000d¥60

■バージョン情報

製品情報が表示されます。

3.2　サムネールでジョブを編集する

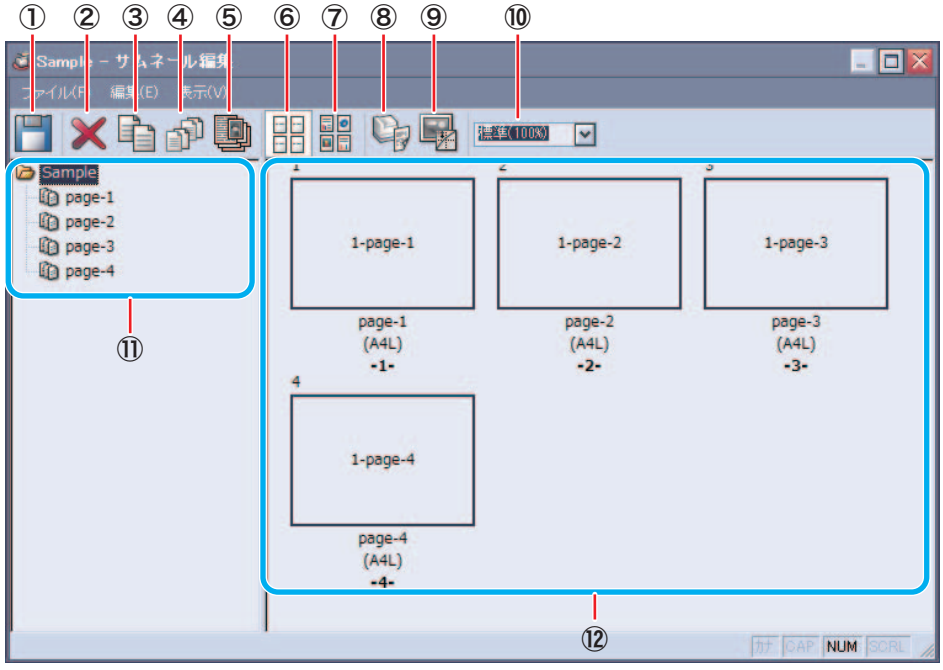
サムネール編集を使うと、ジョブをページ単位で編集できます。

［サムネール編集］ダイアログボックスの表示

1. ServerManagerの保持リストからジョブを選択します。
   検索結果リスト、エラーリストからも選択できます。
2. ［ジョブ］→［サムネール］→［サムネール編集］を選択します。

補足
- ページ情報の作成を確認するダイアログボックスが表示された場合は、［OK］をクリックしてください。
- ServerManagerの［システム］→［プリントジョブの設定］の［プレビュー作成/保存］の設定は無効になり、すべてのページのサムネールが作成されます。
- プリントオプションの［特殊ページ］＞［合紙と例外ページ］の設定は無効になります。
- プリントオプションの［RIP］＞［RIPの種類］が［CPSI］のジョブにだけ可能です。［APPE］のジョブを選択した場合は、［CPSI］に変更するかを確認するダイアログボックスが表示されます。

3. 必要に応じて、編集します。



サムネール編集のメニューの一部は、以下のボタンでも操作できます。

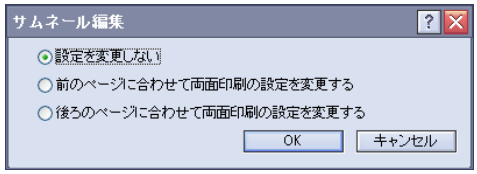
①	保存
②	ページの削除
③	ページの複製
④	ブランクシートの挿入（ビルドジョブのサムネール編集だけ表示されます）
⑤	ブランクシートの編集（ビルドジョブのサムネール編集だけ表示されます）
⑥	ページモード
⑦	プレビューモード

⑧	プリント
⑨	RasterImageViewer
⑩	表示倍率設定
⑪	ツリー表示エリア <ビルドジョブの場合> ・連結されたジョブがジョブ単位で表示されます。 ・ツリーの先頭は、ビルドジョブ名です。 ・ジョブをドラッグ＆ドロップして、ジョブの順序を入れ替えることができます。 ・複数選択ができます。 ・〈Ctrl〉キーを押しながらドラッグ＆ドロップすると、選択ジョブが複製されて移動します。 <ビルドジョブ以外のジョブの場合> ・ジョブ名が表示されます。 ・ツリー表示エリアに表示されているジョブ名を選択すると、すべてのページが選択されます。
⑫	サムネール表示エリア ・ビルドジョブ、またはジョブがページ単位でサムネール表示されます。 ・ページを選択して、ドラッグ＆ドロップしてページを移動したり、置き換えたりできます。 ・複数選択ができます。 ・〈Ctrl〉キーを押しながらドラッグ＆ドロップすると、選択ページが複製されて移動します。 補足 ・ビルドジョブ以外のジョブの場合、プリントオプションの［用紙/ページ］＞［原稿ページ範囲］の設定は適用されず、すべてのページがサムネールで表示されます。 ・⑥ページモード/⑦プレビューモードで、表示されるサムネールの状態を切り替えることができます。

● ページの置き換え

選択したページをほかのページの上にドラッグ＆ドロップすると、ページが置き換えられます。この場合、プリントオプションは、置き換えられるページの設定になります。

ビルドジョブのサムネール編集のとき、挿入するページの両面印刷設定が前後のページの設定と異なる場合は、両面印刷の設定を選択し、［OK］をクリックします。



- 設定を変更しない
  設定を変更しません。
- 前のページに合わせて両面印刷の設定を変更する
  両面印刷の設定を前のページの設定に合わせます。
- 後ろのページに合わせて両面印刷の設定を変更する
  両面印刷の設定を後ろのページの設定に合わせます。

サムネール編集のメニュー

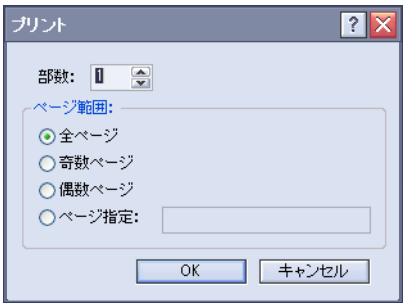
■ ファイル

● 保存

変更内容が保存されます。

● プリント

［部数］と［ページ範囲］を設定して［OK］をクリックすると、プリントが開始されます。



補足
- サムネール編集で設定した［ページ範囲］は、プリントオプションの［用紙 / ページ］>［原稿ページ範囲］に反映されます。
- データが保存されていない場合は、保存を確認するダイアログボックスが表示されます。［OK］をクリックすると、［保存］、および［プリント］ダイアログボックスが表示されます。

● 終了

サムネール編集が終了します。

補足　データが保存されていない場合は、保存を確認するダイアログボックスが表示されます。［はい］をクリックすると、編集した内容が保存されて終了します。

■ 編集

● 元に戻す

直前に行った操作がもとの状態に戻ります。

● やり直す

もとに戻した操作をやり直します。

● 切り取り

選択したページをクリップボードに切り取ります。複数選択ができます。

● コピー

選択したページがクリップボードに複製されます。複数選択ができます。

● 貼り付け

クリップボードに切り取り / 複製したページをビルドジョブの最終ページの後ろに貼り付けます。

● すべて選択

サムネールをすべて選択状態にします。

● ページの削除

選択したサムネールが削除されます。複数選択ができます。

削除を確認するダイアログボックスが表示されます。

● ページの複製

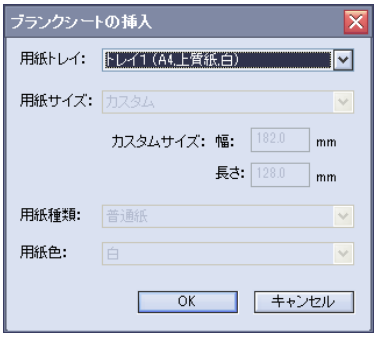
選択したページが複製されます。複数選択ができます。

複製したページは、ビルドジョブの最後尾に追加されます。

- **ブランクシートの挿入**

  ビルドジョブの場合、用紙と用紙との間に合紙を挿入します。ブランクシート（合紙）を挿入するページの1つ前のページを選択し、[用紙トレイ]を選択し、[OK]をクリックします。

  補足　挿入されたブランクシートは、新しいジョブとして最大で 999 ページまで追加できます。両面のおもて面とうら面の間では、[ブランクシートの挿入]は選択できません。ただし、作成済みのブランクシートを両面のおもて面とうら面の間に移動させることはできます。この場合、両面のジョブのページは、片面ずつ別の用紙にプリントされ、間にブランクシートが入ります。



  用紙トレイ

  プリントする用紙のある用紙トレイを選択します。

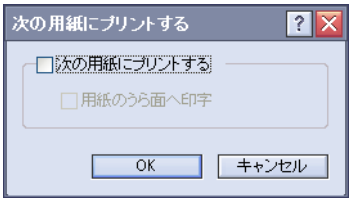
  [手差しトレイ]を選択した場合は、[用紙サイズ]を入力し、[用紙種類]、[用紙色]を選択します。

- **ブランクシートの編集**

  挿入した合紙を選択し、[用紙トレイ]を選択して、[OK]をクリックします。

- **次の用紙にプリントする**

  用紙を設定し、[OK]をクリックすると、用紙を変えてプリントされます。



  次の用紙にプリントする

  チェックマークを付けると、個々のページに対して用紙が変更されます。

  用紙のうら面へ印字

  [次の用紙にプリントする]にチェックマークが付いている場合に、チェックマークを付けると、用紙のうら面に印字されます。

- **RasterImageViewer**

  1つのページを選択し、[RasterImageViewer]を選択すると、Raster Image Viewerウィンドウが表示されます。

  参照　Raster Image Viewerについては、「3.4 Raster Image Viewerを使用する」（P.154）を参照してください。

- **ビルドジョブオプションの編集**

  ビルドジョブの場合に[ビルドジョブオプションの編集]を選択すると、ビルドジョブのプリントオプションが設定できます。

  参照　詳細は、「3.3.2 ビルドジョブのプリントオプション」（P.146）を参照してください。

● ジョブ編集

個々のジョブのプリントオプションが設定できます。

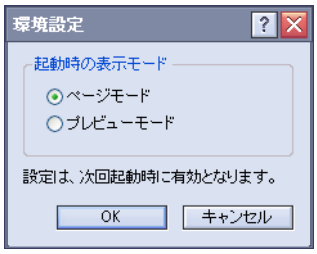
ビルドジョブの場合、選択されているページのプリントオプションが設定できます。

参照　詳細は、「4.1　ジョブを編集する（プリントオプション項目）」（P.190）を参照してください。

■ 表示

● 環境設定

表示モードを選択し、[OK] をクリックすると、最初に表示されるサムネールの表示モードが切り替わります。



補足　設定は、次回起動時から有効です。

● サムネール画像作成

サムネールの画像が作成されます。

[サムネール画像作成] ダイアログボックスが表示されるので、[OK] をクリックすると、データの保存とサムネール画像の作成が開始されます。

● ページモード

表示モードをページモードに切り替えます。ページモードでは、サムネール表示にプレビューは表示されません。

補足　ブランクシートジョブは、「ブランクシート」と表示されます。

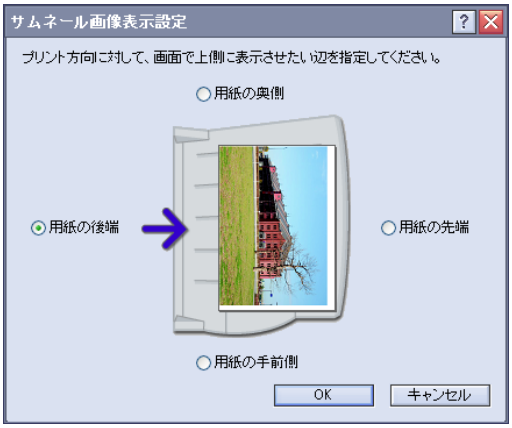
● プレビューモード

表示モードをプレビューモードに切り替えます。サムネール表示にプレビューが表示されます。

補足　・プレビューデータを持たない場合は、サムネールに「プレビューなし」と表示されます。
・ブランクシートジョブは、ブランクシートが表示されます。

● サムネール画像表示設定

サムネール画面で上側に表示させる辺を選択し、[OK] をクリックすると、プレビューの表示位置が変更されます。



● 表示倍率指定

サムネールを表示する倍率を選択します。

・50%　・75%　・標準（100%）　・150%
・200%　・250%　・300%

表示倍率の直接入力もできます。
入力範囲は、50～300%です。

サムネール編集情報の削除

［サムネール編集］ダイアログボックスで編集した内容を削除し、編集前の状態に戻します。

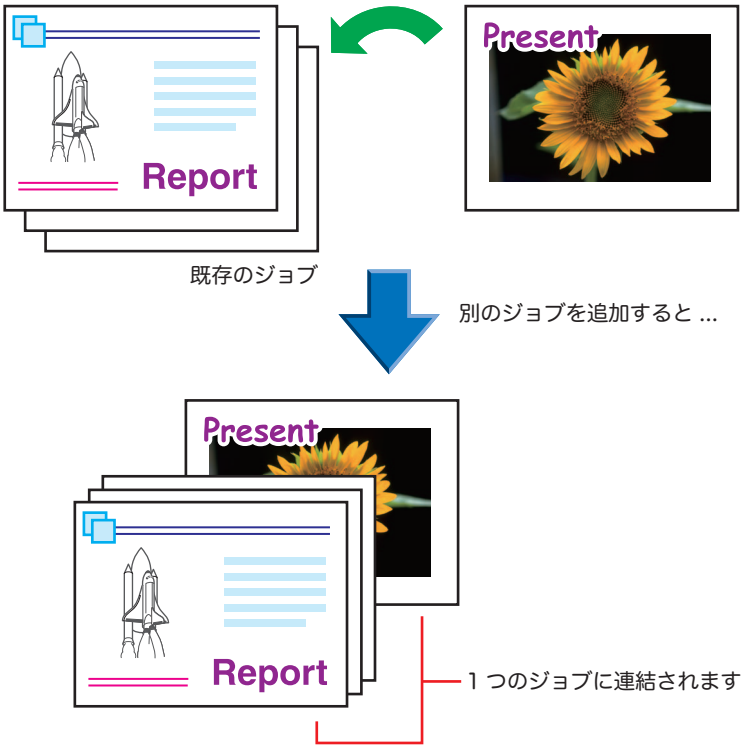
1. ServerManagerの保持リストから削除するジョブを選択します。
検索結果リスト、エラーリストからも選択できます。
2. ［ジョブ］→［サムネール］→［サムネール編集情報を削除］を選択します。
3. 確認のダイアログボックスで、［はい］をクリックします。

3.3 ジョブを連結する（ビルドジョブ）

ビルドジョブを使うと、異なるアプリケーションで作成した複数のファイルを、1 つのジョブとしてまとめてプリントできます。たとえば、表紙を Illustrator、本文を Word で作成した場合でも、これらを 1 つのジョブとしてプリントできます。

ServerManager でそれぞれのジョブを連結し、連結順の変更、ジョブの追加/削除、それぞれのジョブのプレビューなどができます。また、プリントオプションを連結したジョブ全体とそれぞれのジョブに対して設定できます。

連結したジョブは保存されるので、再プリントや編集もできます。



補足
- ビルドジョブは、クライアントコンピューターからは、作成できません。
- ビルドジョブではイメージの自動回転は行われません。ビルドジョブをプリントするときは、設定されているサイズの用紙をトレイにセットしてください。
- ジョブの種類によって、設定できないプリントオプションがあります。

3.3.1 ビルドジョブの作成

1. ServerManager の保持リストからビルドジョブを作成するジョブを選択します。

   保持リストの別々のフォルダーからも選択できます。検索結果リスト、またはエラーリストからも選択できます。

2. ［ジョブ］→［ビルドジョブ］→［作成］を選択します。

   補足　プリントオプションの［RIP］>［RIP の種類］が［CPSI］のジョブにだけ可能です。［APPE］のジョブを選択した場合は、［CPSI］に変更するかを確認するダイアログボックスが表示されます。

3. ［名前］と［所有者名］を入力し、［ビルドジョブ編集］をクリックします。



- **名前**

  デフォルト：［ジョブ］→［ビルドジョブ］→［作成］を選択した日時から「＊（年月日）-＊（時分秒）-{リストから選択された中での先頭のジョブ名}」

  ビルドジョブ名を入力します。255バイト以内で入力します。

- **所有者名**

  デフォルト：リストから選択された中での先頭のジョブの所有者

  ビルドジョブの所有者名を入力します。

- **ビルドジョブ編集**

  入力されたビルドジョブ名と所有者名でビルドジョブが作成され、［ビルドジョブ編集］ダイアログボックスが表示されます。

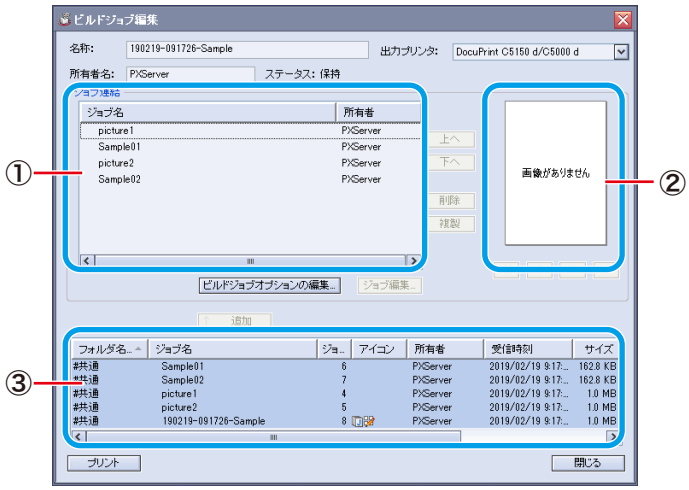
  参照 詳細は、「ビルドジョブ編集」（P.144）を参照してください。

- **サムネール編集**

  入力されたビルドジョブ名と所有者名でビルドジョブが作成され、［サムネール編集］ダイアログボックスが表示されます。

  参照 詳細は、「3.2 サムネールでジョブを編集する」（P.137）を参照してください。

ビルドジョブ編集



①［ジョブ連結］リスト

連結されている個々のジョブが一覧で表示されます。表示されている順番で、ジョブが連結されます。

ジョブをドラッグ＆ドロップして、順番を入れ替えることができます。

②プレビューエリア

選択しているジョブのプレビュー画像が表示されます。

③ダイアログボックス下部のジョブリスト

ServerManagerのプリントボックスのジョブのうち、ビルドジョブに追加できるジョブが一覧で表示されます。

ジョブを選択してダブルクリックすると、ジョブ連結リストの最後尾に選択したジョブが追加されます。

上へ/下へ

選択したジョブが1つ上、または下に移動します。

削除

選択したジョブが削除されます。複数選択ができます。

複製

選択したジョブが複製されます。複数選択ができます。

ビルドジョブオプションの編集

ビルドジョブのプリントオプションが設定できます。

参照　プリントオプションについては、「3.3.2 ビルドジョブのプリントオプション」（P.146）、または「ビルドジョブ固有の設定項目」（P.153）を参照してください。

ジョブ編集

個々のジョブのプリントオプションが設定できます。

通常のジョブの編集機能のほかに、先頭ページの用紙を変える設定ができます。

参照　ジョブ編集については、「4.1 ジョブを編集する（プリントオプション項目）」（P.190）、または「ビルドジョブ固有の設定項目」（P.153）を参照してください。

追加

連結ジョブの最後尾に選択したジョブが追加されます。複数選択ができます。

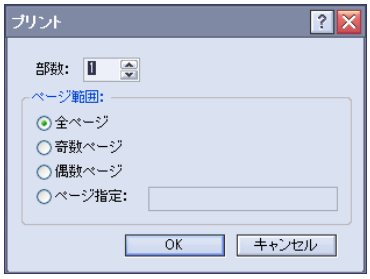
ダイアログボックス下部のジョブリストからジョブをドラッグ＆ドロップしても、［ジョブ連結］リストの目的の場所に追加できます。

補足　一般ユーザーモードで、セキュリティプリントが設定されているジョブを選択した場合は、表示されたダイアログボックスでパスワードを入力してください。

プリント

設定した内容でジョブがプリントされます。

［部数］と［ページ範囲］を設定し、［OK］をクリックします。



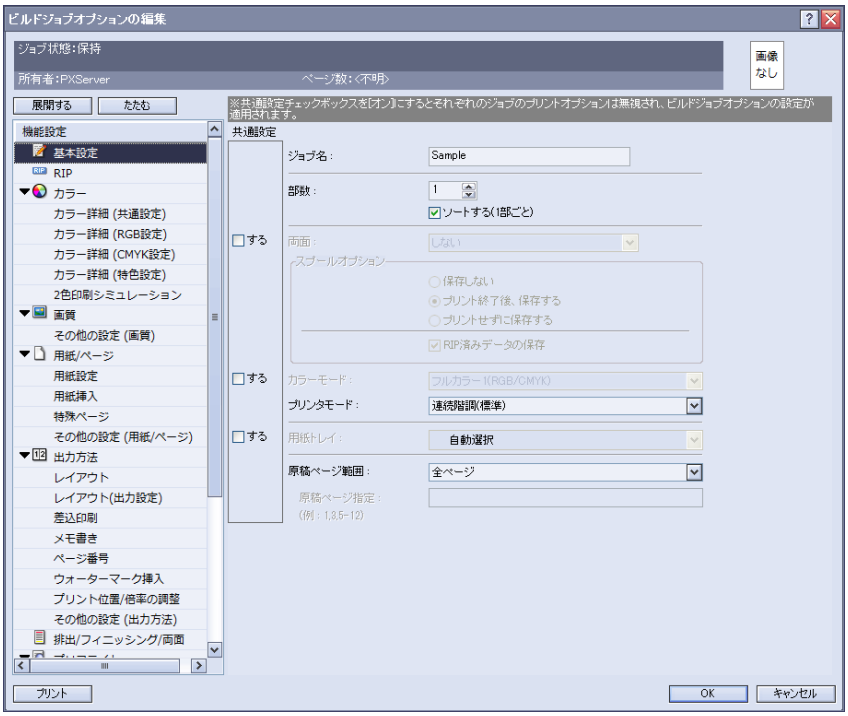
閉じる

設定した内容が保存され、ビルドジョブの作成、編集が終了します。

3.3.2 ビルドジョブのプリントオプション

ビルドジョブのプリントオプションが設定できます。

ビルドジョブの新規作成時には、ビルドジョブで設定できるプリントオプションのデフォルトとして、先頭のジョブの設定が使用されます。



補足 ServerManagerの［ジョブ］→［サムネール］→［サムネール編集］の［編集］→［ビルドジョブオプションの編集］でダイアログボックスを表示すると、［プリント］は表示されません。

参照 プリントオプションで設定できる項目の説明は、「4.1 ジョブを編集する(プリントオプション項目)」(P.190)を参照してください。

● 共通設定

それぞれのジョブに適用可能なプリントオプションを共通の設定にできる場合は、［する］が表示されます。チェックマークを付けると、その項目は共通の設定になり、設定を変更できます。

補足 ビルドジョブ全体で共通設定の項目、またはビルドジョブで設定できない項目には、［する］は表示されません。

各プリントオプションの適用

プリントオプションには、ビルドジョブ全体で共通の設定にできる項目とできない項目があります。

個々のジョブの設定を変更する場合は、［ジョブ編集］ダイアログボックスで行います。

各プリントオプションの適用については、以下の表を参照してください。「適用」欄の見方は、以下のとおりです。

○：ビルドジョブ全体で共通の設定項目

◎：個々のジョブの設定にできる項目（［ビルドジョブオプションの編集］ダイアログボックスで、［共通設定］にチェックマークを付けると、ビルドジョブ全体で共通の設定になります）

●：設定できない項目

補足　「＊」が記載されている項目は、小冊子作成が選択されている場合、個々のジョブの設定は無視され、強制的に共通の設定が適用されます。

● 基本設定

プリントオプション	適用	備考
ジョブ名	◎	
部数	○	
両面	◎	
スプールオプション	●	［プリント終了後、保存する］で動作します。
RIP済みデータの保存	●	［RIP済みデータを保存する］で動作します。
カラーモード	◎	
プリンタモード	○	
用紙トレイ	◎	＊
原稿ページ範囲	○	・個々のジョブで設定されたページ範囲の合計から、ページ範囲を指定できます。 ・個々のジョブのページ範囲は、ビルドジョブに追加したときの設定のままで、変更はできません。

● RIP

プリントオプション	適用	備考
RIPの種類	●	［CPSI］で動作します。

● カラー、カラー詳細（共通設定）

プリントオプション	適用	備考
カラーモード	◎	
ラスター色補正モード	◎	
ユーザー調整	◎	＊
濃度調整	◎	＊
明るさ調整	◎	＊
トナー総量調整	◎	
カラー置換	◎	

● カラー詳細（RGB設定）

プリントオプション	適用	備考
RGB色補正	◎	
RGBガンマ補正	◎	
RGBホワイトポイント	◎	
写真画質の自動補正	◎	
写真の種類	◎	
分割画像を合成	◎	
明度	◎	
コントラスト	◎	
彩度	◎	
自動ホワイトバランス調整	◎	
人肌補正	◎	
RGB出力プロファイル	◎	
RGB出力インテント	◎	

● カラー（CMYK設定）

プリントオプション	適用	備考
CMYK色補正	◎	
CMYKシミュレーション	◎	
PDF/Xの出力インテントを使用する	◎	

● カラー詳細（特色設定）、2色印刷シミュレーション

プリントオプション	適用	備考
コンポジット特色補正	◎	
特色補正プロファイル	◎	
特色補正インテント	◎	
2色印刷シミュレーション	◎	

● 画質

プリントオプション		適用	備考
プリンタモード		○	
コンポジットオーバープリント		◎	
白のオブジェクトをノックアウトする		◎	
Kオーバープリント		◎	
画像/文字	原稿タイプ	○	
	キャリブレーション	○	
シャープネス調整		◎	

● その他の設定（画質）

プリントオプション	適用	備考
色分版の合成	◎	・ビルドジョブの中で設定の変更はできません。 ・色分版の合成を行わずにRIP処理されたジョブに対して、色分版の合成を行うように設定を変更し、そのまま再 RIP を行わずにそのジョブをビルドジョブに加えた場合、ジョブはエラーになります。
特色透過率	◎	
トラッピングの自動処理	◎	
トラップ指定を無視する	◎	
Image Enhancement/ 白抜き文字の強調	○	
スムージング	◎	
EPS（JPEG圧縮）のカラー出力	◎	
画像品質	◎	
細線調整	◎	
グラデーション	◎	
RGB黒をKに置換	◎	
RGBグレーをKに置換	◎	
ノイズの軽減	◎	

● 用紙/ページ

プリントオプション	適用	備考
部数	○	
用紙トレイ	◎	＊
原稿ページ範囲	○	個々のジョブで設定されたページ範囲の合計から、ページ範囲を指定できます。 個々のジョブのページ範囲は、ビルドジョブに追加したときの設定のままで、変更はできません。
レコード分割	●	［しない］で動作します。
レコード指定	●	［レコード分割しない］で動作します。
用紙サイズの変更	◎	ビルドジョブオプションが［変更しない］以外の場合、個々のジョブの設定は無視され、共通の設定が適用されます。
カスタムサイズ	◎	ビルドジョブオプションが［変更しない］以外の場合、個々のジョブの設定は無視され、共通の設定が適用されます。
用紙サイズに合わせる	◎	ビルドジョブオプションが［変更しない］以外の場合、個々のジョブの設定は無視され、共通の設定が適用されます。
用紙の中心にプリント	◎	
原稿の向き	◎	

● 用紙設定

プリントオプション	適用	備考
手差し手動両面を除く	○	＊
手差し手動両面	○	

● 用紙挿入

プリントオプション	適用	備考
指定単位（部/レコード）ごとに挿入	○	
ジョブの先頭に挿入	○	
ジョブの最後に挿入	○	

● 特殊ページ

プリントオプション	適用	備考
おもて表紙を付ける	○	
うら表紙を付ける	○	
合紙と例外ページ	●	設定を無視して［しない］で動作します。

● その他の設定（用紙/ページ）

プリントオプション	適用	備考
PDF のトリミング領域をページサイズとする	◎	

● 出力方法

プリントオプション	適用	備考
両面	◎	
出力画像を180度回転する	◎	
スプールオプション	●	［プリント終了後、保存する］で動作します。
RIP済みデータの保存	●	［RIP済みデータを保存する］で動作します。
受信終了後にRIP処理を開始する	●	設定を無視して［しない］で動作します。
鏡像する	◎	

● レイアウト

プリントオプション	適用	備考
小冊子	○	・表紙付け、ブランクシート、用紙変えの設定は無視されます。 ・小冊子作成の選択 / 非選択にかかわらず、サムネール編集での表紙付け、ブランクシート、用紙替えの設定は可能です。
リピート	○	

● 差込印刷、メモ書き、ページ番号、ウォーターマーク挿入、プリント位置/倍率の調整

プリントオプション	適用	備考
差込印刷	◎	
	●	フォームの登録の設定はできません。
メモ書き	◎	
ページ番号	○	
ウォーターマーク挿入	◎	・ウォーターマークの登録はできません。 ・ブランクシート、印字しない表紙にウォーターマークは付きません。
プリント位置/倍率の調整	◎	

● その他の設定（出力方法）

プリントオプション	適用	備考
ジョブ削除を許可する	○	
RIP完了後、印刷を開始する	○	
余白が大きすぎる場合、処置を中止する	○	
フォントがない場合、処理を中止する	○	
メール情報をプリントする（E-mailプリントのみ）	●	設定を無視して［しない］で動作します。

● 排出/フィニッシング/両面

プリントオプション	適用	備考
両面	◎	
排出先	○	
オフセット排出	○	
ソートする（1部ごと）	○	
最終ページから印刷	○	
ホチキス	○	
パンチ	○	
紙折り	○	

● プリフライト

プリントオプション	適用	備考
プリフライトの指定	●	設定を無視して［しない］で動作します。
RIP後のデータをファイルに保存	●	設定を無視して［しない］で動作します。
RGB画像警告	◎	
特色警告	◎	
インキ総量警告	◎	
ヘアライン警告	◎	
オーバープリント警告	◎	
QRコードを検出する	◎	

● グラフィックス

プリントオプション	適用	備考
プリント方向	◎	
イメージのタイトル	◎	

● その他（セキュリティ）

プリントオプション	適用	備考
セキュリティプリントをする	○	
ジョブ終了をメールで通知する	●	設定を無視して［しない］で動作します。

● ユーザー情報

プリントオプション	適用	備考
ユーザー名	●	
コメント	◎	
カバーページをプリントする	○	

現在の設定

機能設定ツリーの［現在の設定］をクリックすると、現在のビルドジョブのプリントオプションが一覧で表示されます。

ジョブ情報

機能設定ツリーの［ジョブ情報］をクリックすると、以下の情報が表示されます。

ジョブ名
　ビルドジョブ名を編集できます。

ファイル名
　表示されません。

用紙サイズ
　表示されません。

ページ数
　ビルドジョブの全ページ数が表示されます。

所有者
　ビルドジョブの所有者名が表示されます。

ファイルタイプ
　「BJ」と表示されます。BJはビルドジョブの略です。

受信日時
　作成日時が表示されます。

出力日時
　最新の出力日時が表示されます。

ファイルサイズ
　合計のファイルサイズが表示されます。

アプリケーション
　表示されません。

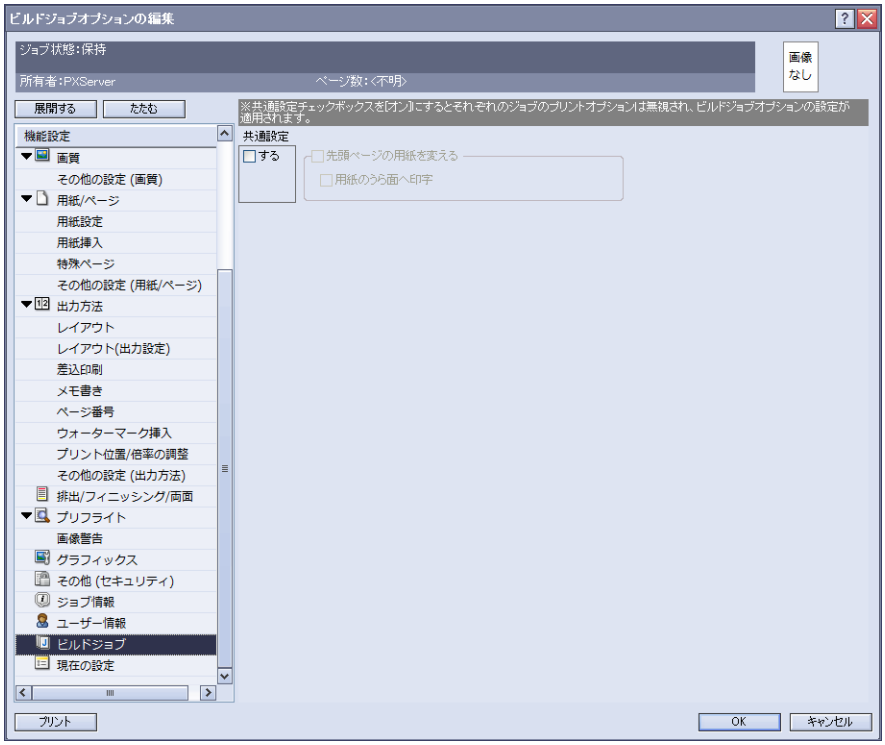
受信論理プリンタ
　表示されません。

テンプレート
　最後に適用されたプリントオプションテンプレートの名称が表示されます。

ステータス
　ジョブの処理状況、エラーメッセージが表示されます。

ビルドジョブ固有の設定項目

機能設定ツリーの［ビルドジョブ］をクリックすると、以下の設定ができます。



● 先頭ページの用紙を変える

チェックマークを付けると、それぞれのジョブの先頭ページの用紙が変更されます。ただし、片面印刷で、プリントオプションの［用紙/ページ］＞［特殊ページ］の［おもて表紙を付ける］にチェックマークを付けた場合は、用紙は変更されません。

この設定にかかわらず、用紙が変更される条件は、以下のとおりです。

・用紙トレイが異なる

・用紙トレイが［自動選択］、または［手差しトレイ］で、用紙サイズ、用紙種類、用紙色のどれかが異なる

補足　ジョブの先頭ページで、サムネール編集の［編集］→［次の用紙にプリントする］の設定を変更すると、連動して変更されます。

用紙のうら面へ印字

［先頭ページの用紙を変える］にチェックマークが付いている場合に、チェックマークを付けると、先頭ページが用紙のうら面に印字されます。

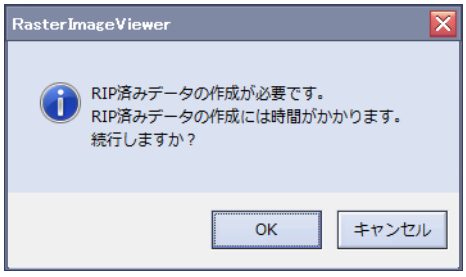
3.4 Raster Image Viewerを使用する

Raster Image Viewerとは、Print Serverに保持されているジョブのプレビュー画像を表示させて、調整前と調整後のイメージを確認しながらジョブを編集する機能です。ユーザー調整カーブと明るさの調整ができます。

補足　Raster Image Viewerは、クライアントコンピューターからは起動できません。

3.4.1 Raster Image Viewerの起動方法

1. ServerManagerの保持リスト、またはエラーリストからプレビューを表示させるジョブを選択します。
   検索結果リスト、またはエラーリストからも選択できます。
2. ［ジョブ］→［Raster Image Viewer］を選択します。
3. プレビュー表示対象ジョブがRIP済みデータを保持していない場合は、RIP済みデータを作成するダイアログボックスが表示されるので、［OK］をクリックします。

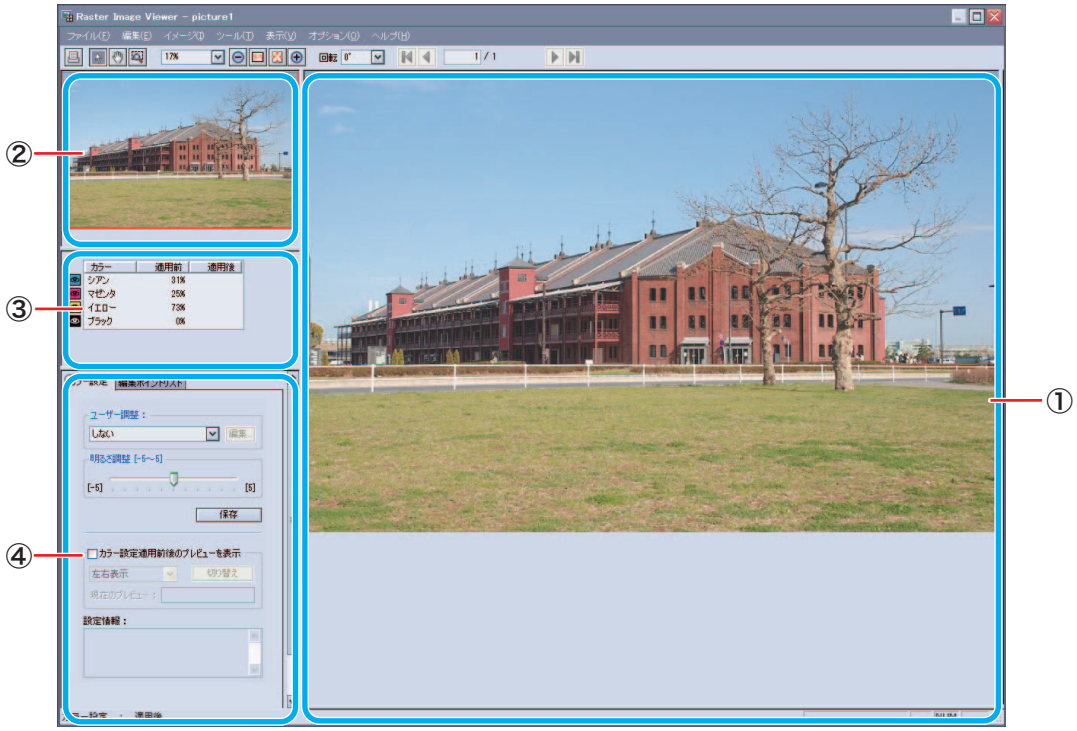


Raster Image Viewerが起動します。

補足
- ServerManagerの［ジョブ］→［サムネール］→［サムネール編集］を選択して表示される、［サムネール編集］ダイアログボックスから［編集］→［RasterImageViewer］を選択しても、Raster Image Viewerを起動できます。
- Raster Image Viewerの起動時に、ジョブに指定されている色変換用プロファイル（拡張子は「.fxa」）が存在しない場合、標準のプロファイルを適用して表示されます。

3.4.2　Raster Image Viewerウィンドウ

Raster Image Viewerは、以下のエリアから構成されます。



参照　メニューやボタンについては、「機能ボタン」（P.161）、および「3.4.3 Raster Image Viewer のメニュー」（P.161）を参照してください。

①プレビューエリア

プレビュー表示対象ジョブのプレビュー画像が表示されます。

■プレビュー画像

ユーザー調整カーブ、明るさ調整、CMYKシミュレーション、プリンタープロファイル、およびモニタープロファイルが反映された画像が表示されます。

プリンタープロファイルは、デフォルトのものが適用されます。

モニタープロファイルは、使用しているモニターに適用されているものがある場合は、それを取得して適用し、ない場合は固定のもの（sRGB）を適用します。

補足
- プリントオプションの［画質］＞［その他の設定（画質）］の［Image Enhancement/白抜き文字の強調］と［用紙/ページ］の［原稿ページ範囲］の設定もプレビューエリアで再現されます。
- ［サムネール編集］ダイアログボックスからRaster Image Viewerを起動した場合、プリントオプションの［用紙 / ページ］＞［原稿ページ範囲］の設定は無効になり、［サムネール編集］ダイアログボックスで表示されるプレビュー画像が表示されます。

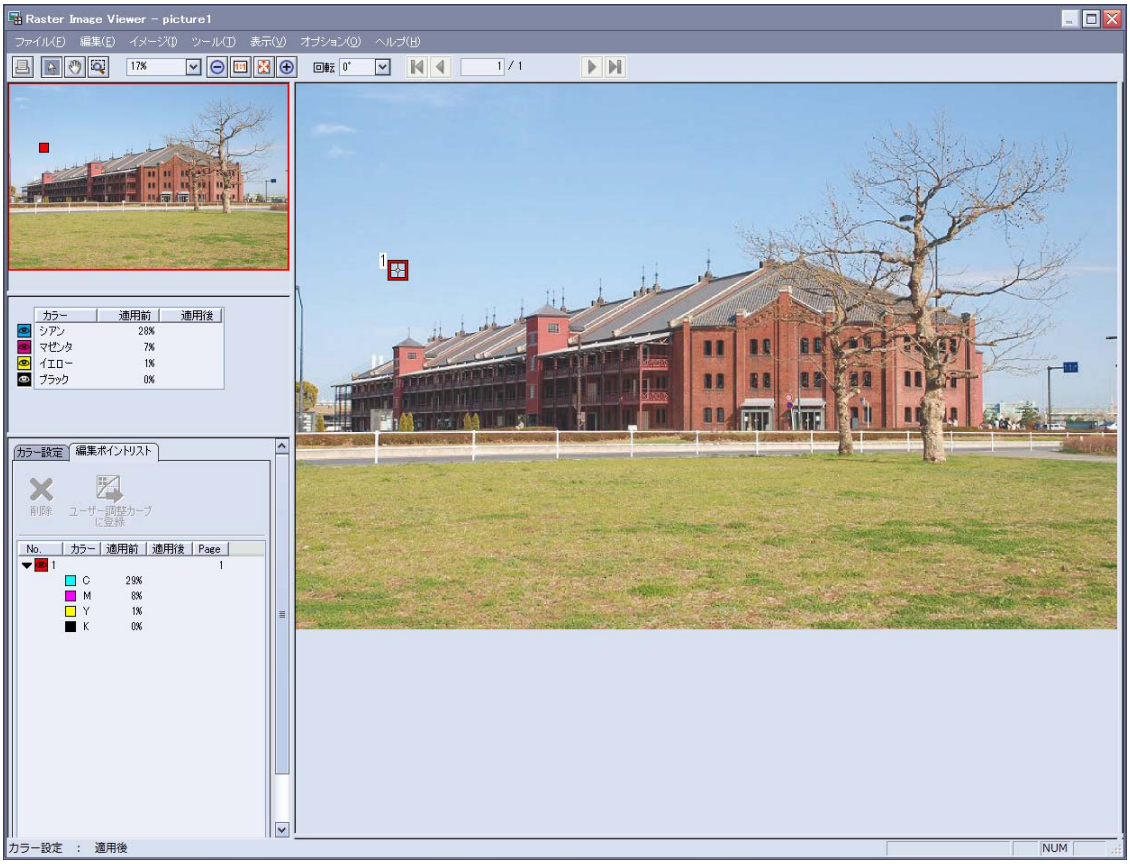
■編集ポイントリストへの登録

プレビューエリアの任意の点を編集ポイントリストに登録すると、その濃度値を常に確認できます。編集ポイントリストに編集ポイントを登録するには、プレビューエリアの任意の点をポインタツールで右クリックし、表示されたメニューで［編集ポイントリストに登録］を選択します。

補足

以下の方法でも編集ポイントリストに登録できます。

- プレビューエリアの任意の点をポインタツールで指定し、〈Ctrl〉キーを押しながら〈E〉キーを押します。
- プレビューエリアの任意の点をダブルクリックします。



編集ポイントリストに登録されると、プレビューエリアとナビゲーターエリアの該当箇所に、アイコンが表示されます。

②ナビゲーターエリア

現在表示中のプレビュー画像の全体画像が表示され、プレビューエリアで表示されている画像の位置を示す枠が表示されます。

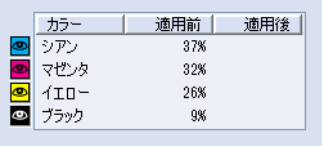
プレビュー画像が枠よりも大きい場合、ナビゲーターエリアに表示されている枠内の任意の箇所をクリックし、手のひらのカーソルで枠をドラッグすると、表示部分を移動できます。



ナビゲーターエリアにもカラー設定の調整結果が反映されます。

③イメージ分解エリア

プレビュー画像の濃度表示や表示方法の切り替えを行います。



● プロセス版分解

各プロセスカラー（C、M、Y、K）の左にあるアイコンをクリックすると、それぞれ表示/非表示が切り替わります。

● プロセス版濃度表示

カーソルがあるプレビュー画像の任意点の各プロセス版のユーザー調整カーブと、明るさ調整の適用前後の濃度値が表示されます。

2画像表示の場合、どちらの画像でも表示できます。

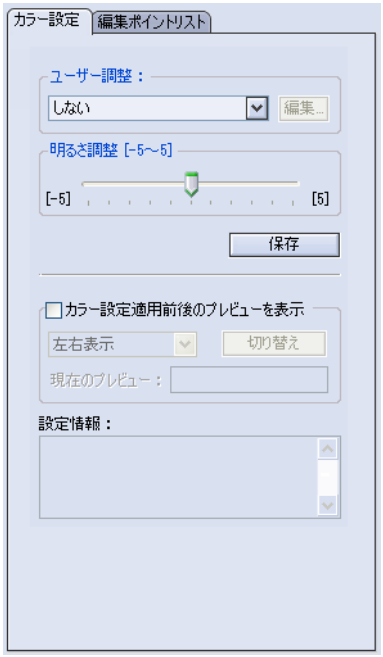
補足
- ［カラー設定］タブで選択されている［ユーザー調整］が［しない］、［明るさ調整］が「0」の場合は、適用後の濃度は表示されません。
- 表示される濃度値には、濃度調整カーブとキャリブレーションは適用されていません。

④カラー設定エリア

カラー設定エリアは、［カラー設定］タブと［編集ポイントリスト］タブから構成されます。

■［カラー設定］タブ

プレビュー画像に適用するユーザー調整カーブの編集、明るさ調整の変更、およびプレビュー画像の表示方法を設定できます。



補足
ジョブごとにユーザー調整や明るさ調整が設定されているビルドジョブを変更したときは、以下のようになります。
- ビルドジョブで共通の設定になっている場合は、すべてのページにその変更が反映されます。
- ビルドジョブで共通の設定になっていない場合は、そのジョブに属するページだけに変更内容が反映されます。

● ユーザー調整

デフォルト：プレビュー表示対象ジョブのプリントオプションに設定されているユーザー調整カーブ

プレビュー画像に適用するユーザー調整カーブを選択します。

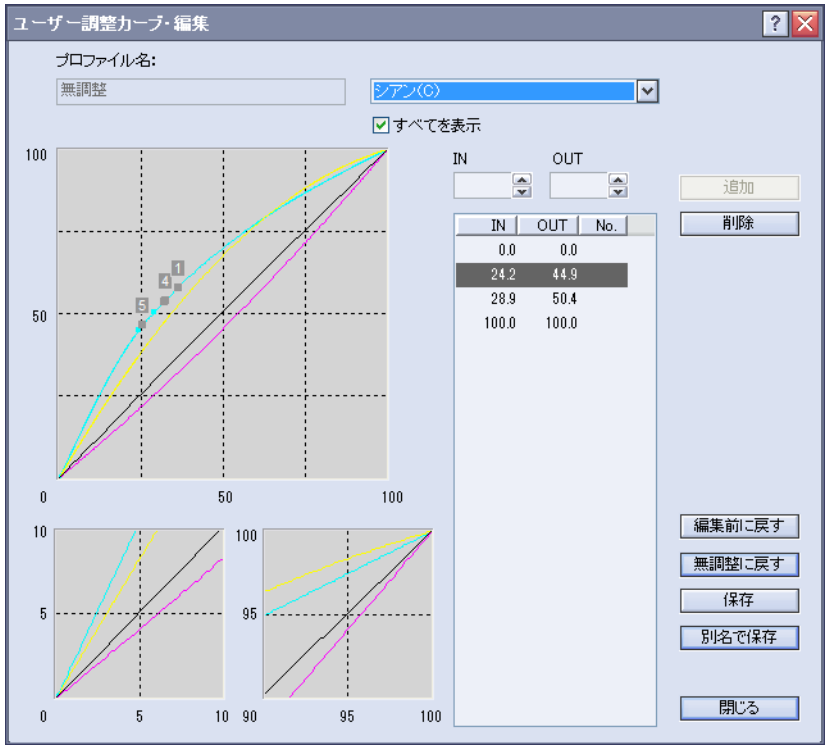
任意のユーザー調整カーブが選択されている場合に［編集］をクリックすると、選択されている［ユーザー調整カーブ・編集］ダイアログボックスが表示され、カーブを編集できます。

新規にユーザー調整カーブを作成するときは、プルダウンメニューで、［無調整］を選択し、［編集］をクリックします。

参照 ユーザー調整カーブについては、「2.6 ユーザー調整カーブを設定する」（P.95）を参照してください。

［ユーザー調整カーブ・編集］ダイアログボックス

ServerManagerの［カラー調整ファイルの管理］をクリック、または［カラー］→［カラー調整ファイルの管理］を選択して表示される［カラー調整ファイルの管理］ダイアログボックスで、［ユーザー調整］→［編集］をクリックして表示されるダイアログボックスとRaster Image Viewerから表示されるダイアログボックスとの違いについて説明します。



編集前に戻す

編集中のユーザー調整カーブが編集前の状態に戻ります。

無調整に戻す

編集中のユーザー調整カーブを直線形にし、無調整カーブと同じ状態に戻ります。

保存

編集中のユーザー調整カーブが上書き保存されます。

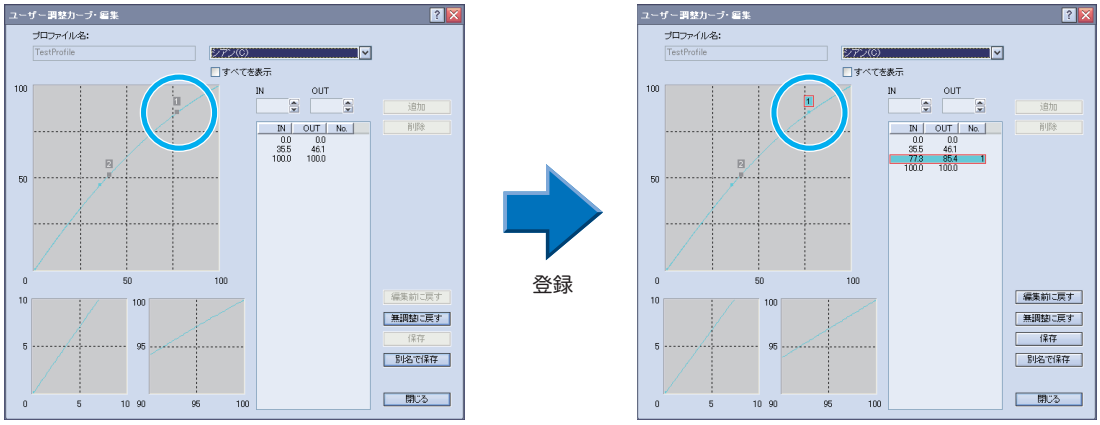
別名で保存

編集中のユーザー調整カーブが別名で保存されます。

閉じる

編集を保存しないで［ユーザー調整カーブ・編集］ダイアログボックスを閉じます。

◆編集ポイントと［ユーザー調整カーブ・編集］ダイアログボックス



・プレビューエリアの任意の点が編集ポイントリストに登録されているとき、［ユーザー調整カーブ・編集］ダイアログボックスを起動すると、現在編集対象となっているカーブ上の該当する位置に、編集ポイントの番号が表示されます。

・編集ポイントリストからユーザー調整カーブに登録する編集ポイントを選択し、［ユーザー調整カーブに登録］をクリックすると、現在編集対象となっているカーブ上の該当する位置に、ユーザー調整カーブと同じ色のコントロールポイントが追加されます。

補足

・コントロールポイントは、現在編集対象外の色のカーブ上にも同時に追加されます。

・［すべてを単一に編集（CMYK）］を選択している場合には、コントロールポイントの追加はできません。

● 明るさ調整

デフォルト：プレビュー表示対象ジョブのプリントオプションに設定されている値

プレビュー画像全体の明るさを調整します。

● 保存

カラー設定エリアで設定した内容がプレビュー表示対象ジョブのプリントオプションに反映され、保存されます。

● カラー設定適用前後のプレビューを表示

カラー設定を適用する前と後のプレビューの表示方法を設定します。

チェックマークを付けると、以下の表示形式が選択できます。チェックマークが外れている場合は、カラー設定適用後のプレビュー画像が表示されます。

2画像表示時は、常に2つのプレビュー画像は同じ場所を表示し、一方のプレビュー画像に対して、拡大縮小や表示位置の移動を行うと、もう一方も連動して表示が切り替わります。

左右表示

左右に並べて表示されます。左側に適用後、右側に適用前のプレビュー画像が表示されます。

■左右表示の例



上下表示

上下に並べて表示されます。上側に適用後、下側に適用前のプレビュー画像が表示されます。

切り替え表示

［切り替え］をクリックするごとに適用前後のプレビュー画像が切り替わります。画像の状態は［現在のプレビュー］に表示されます。

● 設定情報

プレビュー表示対象ジョブのプリントオプションの設定によって、Raster Image Viewer のカラー設定の一部、またはすべてが変更できない場合に表示されます。

■［編集ポイントリスト］タブ

プレビュー画像の任意点を複数登録して、濃度値を一覧で管理できます。10個まで登録できます。

そのときのユーザー調整カーブや明るさ調整の設定に応じて、濃度値が更新されます。

Raster Image Viewer ウィンドウを閉じると、編集ポイントリストに登録した内容は、すべて消去されます。

参照 詳細は、「編集ポイントリストへの登録」（P.156）を参照してください。



● 削除

一覧から削除する編集ポイントの番号を選択して、［削除］をクリックすると、編集ポイントが削除されます。複数選択ができます。

● ユーザー調整カーブに登録

［ユーザー調整カーブ・編集］ダイアログボックスを表示しているとき、編集ポイントリストからユーザー調整カーブに登録する編集ポイントを選択し、［ユーザー調整カーブに登録］をクリックすると、現在編集対象となっているカーブ上の該当する位置に、同じ色のコントロールポイントが追加されます。

参照 詳細は、「編集ポイントと［ユーザー調整カーブ・編集］ダイアログボックス」（P.159）を参照してください。

● プロセス版濃度表示

編集ポイントの各プロセス版のユーザー調整カーブと、明るさ調整の適用前後の濃度値が表示されます。

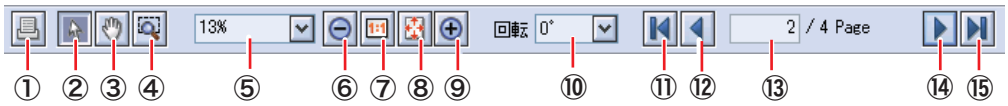
補足 プレビュー表示対象ジョブのプリントオプションで、［カラー］＞［ユーザー調整］が［しない］、［明るさ調整］が［0］の場合は、適用後の濃度は表示されません。

● Page

編集ポイントが登録されているページ番号が表示されます。

機能ボタン

Raster Image Viewerのメニューの一部は、以下のボタンでも操作できます。



①	確認プリント
②	ポインタツール
③	手のひらツール
④	虫めがねツール
⑤	倍率指定 1～1,600%の範囲で直接入力もできます。
⑥	縮小
⑦	ピクセル等倍
⑧	全体表示
⑨	拡大
⑩	回転
⑪	最初のページ
⑫	前のページ
⑬	ページ指定
⑭	次のページ
⑮	最後のページ

3.4.3　Raster Image Viewerのメニュー

Raster Image Viewerにあるメニュー項目について説明します。

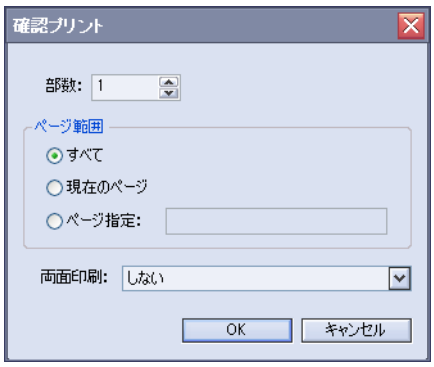
■ ファイル

● カラー設定の保存

カラー設定エリアで設定した内容がプレビュー表示対象ジョブのプリントオプションに反映され、保存されます。

● 確認プリント

プレビュー表示対象ジョブの色の確認用のプリントができます。[部数]、[ページ範囲]、[両面印刷]を設定し、[OK]をクリックすると、プリントが開始されます。



補足
・以下のプリントオプションは、Raster Image Viewerの［確認プリント］ダイアログボックス、およびカラー設定エリアの項目が適用されます。
- ［基本設定］＞［原稿ページ範囲］、［部数］
- ［カラー］＞［ユーザー調整］、［明るさ調整］
- ［用紙/ページ］＞［原稿ページ範囲］、［部数］
- ［出力方法］＞［両面］
- ［排出/フィニッシング/両面］＞［両面］

・以下のプリントオプションの設定は無効になり、デフォルト値が適用されます。
- ［基本設定］＞［スプールオプション］、［RIP済みデータの保存］、［ソートする（1部ごと）］
- ［用紙/ページ］＞［用紙挿入］
- ［出力方法］＞［スプールオプション］、［RIP 済みデータの保存］、［受信終了後に RIP 処理を開始する］、［その他の設定（出力方法）］
- ［レイアウト-小冊子］＞［分冊］、［中とじ/中折り］
- ［レイアウト（出力設定）］＞［出力範囲］、［手差しのおもて面/うら面設定］
- ［プリント位置/倍率の調整］＞［片面/おもて面］、または［うら面］の［幅方向］と［長さ方向］でプラス方向を設定したとき
- ［排出/フィニッシング/両面］＞［両面］以外すべて
- ［プリフライト］＞［PSプリフライト］＞［RIP後のデータをファイルに保存］＞［TIFFで保存する］、［PDFで保存する］
- ［その他（セキュリティ）］＞すべて
- ［ユーザー情報］＞［カバーページをプリントする］、［出力テキスト］

上記以外のプリントオプションは、プレビュー表示対象ジョブに設定されている値が適用されます。

● 終了してプリント

Raster Image Viewerを終了し、プレビュー表示対象ジョブがプリントされます。

補足 サムネール編集からRaster Image Viewerウィンドウを開いた場合、この機能は使用できません。

● 終了

Raster Image Viewerを終了します。

■編集

● ユーザー調整カーブの編集

［ユーザー調整カーブ・編集］ダイアログボックスが表示されます。

補足 ［カラー設定］タブの［ユーザー調整］が［しない］以外のときに設定できます。

■イメージ

● 移動

プレビュー表示されるページが変更されます。

最初のページ

プレビュー表示対象ジョブの最初のページが表示されます。

前のページ

現在表示されているページの1つ前のページが表示されます。

次のページ

現在表示されているページの次のページが表示されます。

最後のページ

プレビュー表示対象ジョブの最後のページが表示されます。

ページ指定

［ページ指定］ダイアログボックスが表示され、入力されたページに移動します。

補足
- ビルドジョブの総ページ数は、ブランクシート数を引いたページ数が表示されます。
- 用紙サイズが A2L、または B3L の場合、ページ番号を入力するとページの先端画像が表示されます。［次のページ］、［前のページ］を選択した場合は、先端、後端の画像が順に表示されます。

● ズーム

プレビュー画像の表示倍率が変更されます。

拡大

プレビューが拡大されます。最大倍率は1,600%です。

縮小

プレビューが縮小されます。最小倍率は1%です。

ピクセル等倍

プレビュー画像の1ピクセルがモニターの1ピクセルとして表示されます。

全体表示

メニューを選択したときのプレビュー表示領域内で、プレビュー画像が全体表示されます。

倍率指定

［倍率指定］ダイアログボックスが表示されます。メニューで倍率を選択するか、1 ～ 1,600% の範囲で直接入力します。

● 回転

プレビュー画像の回転角度を選択します。

・0°　・90°　・180°　・270°

● 色分解

プレビュー画像を構成する各色版の表示/非表示を切り替えます。

シアン

シアン（C）版の表示/非表示を切り替えます。

マゼンタ

マゼンタ（M）版の表示/非表示を切り替えます。

イエロー

イエロー（Y）版の表示/非表示を切り替えます。

ブラック

ブラック（K）版の表示/非表示を切り替えます。

すべてを選択

すべての色版が表示されます。

選択を反転

各色版で、表示されている版は非表示に、表示されていない版は表示に設定します。

■ ツール

カーソルの機能を設定します。

● ポインタツール

カーソルがあるプレビュー画像の任意点の各プロセス版のユーザー調整カーブと明るさ調整の適用前後の濃度がイメージ分解エリアに表示されます。

● 手のひらツール

プレビュー画像が表示領域にすべて表示されていない場合に、マウスを移動した分だけその方向にプレビュー画像の表示部分が移動します。

● 虫めがねツール

プレビュー画像をクリックした位置がプレビューエリアの中心になるように移動して、拡大表示されます。また、ドラッグした範囲を表示領域いっぱいに拡大表示させることもできます。

■ 表示

● ツールバー

ツールバーの表示/非表示を切り替えます。

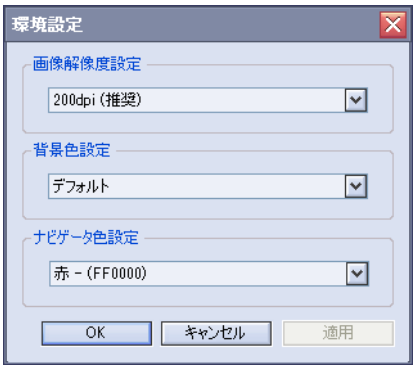
● ステータスバー

ステータスバーの表示/非表示を切り替えます。

■ オプション

● 環境設定

各項目を設定し、[OK]をクリックすると、Raster Image Viewerのデフォルト設定を変更できます。



画像解像度設定

プレビュー画像の解像度を選択します。

・200 dpi（推奨）　・300 dpi　・600 dpi

背景色設定

プレビューエリアとナビゲーターエリアの背景色を選択します。

・デフォルト　・グレー　・白　・黒

ナビゲータ色設定

ナビゲーターエリアの表示枠の色を選択します。

・赤　・橙　・黄　・緑

・水　・青　・紫　・桃

・黒　・白

■ ヘルプ

● バージョン情報

Raster Image Viewerのバージョン情報が表示されます。

3.5 ファイルを送受信する、転送する

メールプリント機能を使って、ジョブをほかのPrint Serverに直接転送できます

メールの送受信やネットワークへのアップロードはPrint Serverで一括管理できるので、校正作業のプロセスで赤入れ原稿をやり取りする場合、遠隔地へのカラーデータのやり取りにかかるコストの削減、時間の削減による効率化を実現できます。

● 送信できるファイルフォーマット

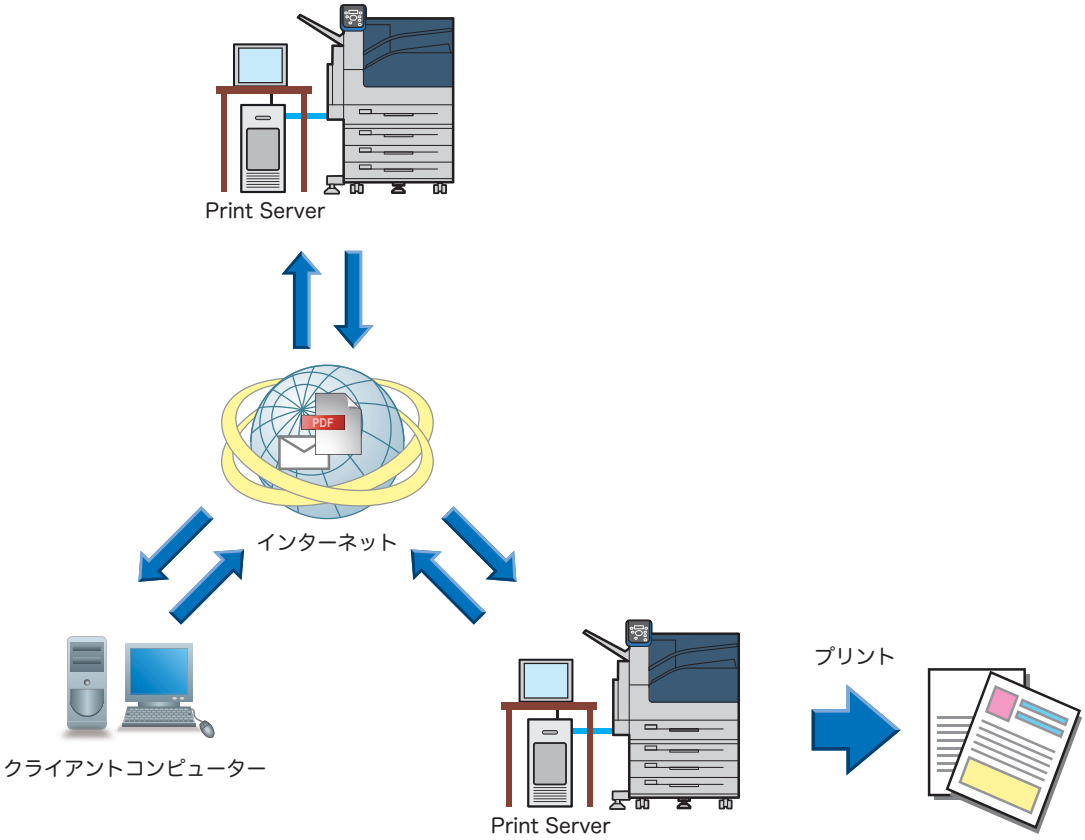
・TIFF　・PDF　・JPEG　・ジョブファイル

受信したメールの添付ファイルは、自動プリントする、またはしないを選択できます。また、受信後にもプリントできます。

● プリントできるファイルフォーマット

・PDF　・PostScript　・EPS　・TIFF　・JPEG　・ジョブファイル

ジョブファイルはPrint Serverから送信された場合にだけプリントできます。



補足
- Print Server同士ではファイルの送受信ができますが、クライアントコンピューターからは、Print Serverへのファイル送信だけができます。
- 他機種のPrint Serverにメール送信すると、正常にプリントできないことがあります。

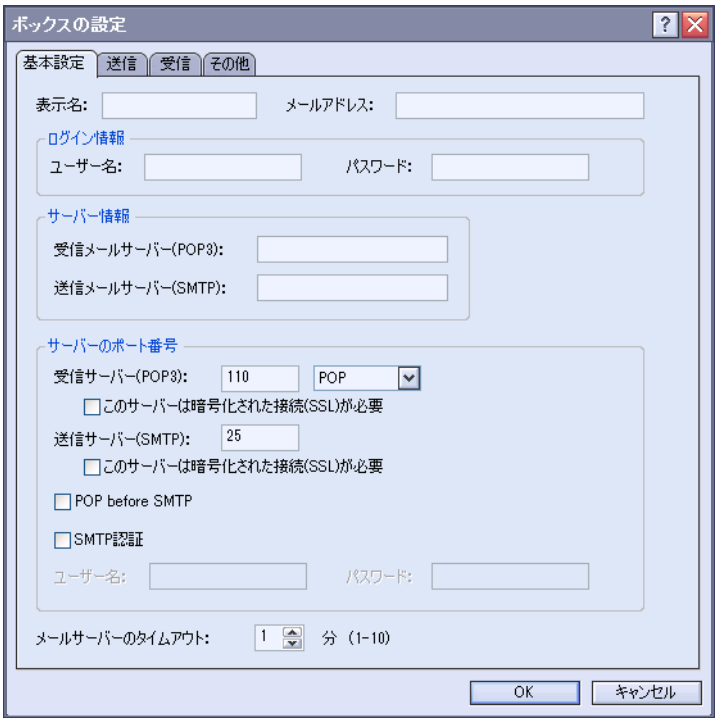
参照 PDFファイルの処理方法については、「3.5.1 ボックスの環境設定」（P.166）を参照してください。

3.5.1 ボックスの環境設定

ボックス機能を使用するためには、メール送受信の環境設定が必要です。設定の前に、以下の項目をネットワーク管理者に依頼、または確認してください。

・Print Serverのメールアドレスの登録
・POP3ユーザー名
・POP3ユーザーパスワード
・POP3サーバーアドレス
・SMTPサーバーアドレス
・POP3サーバーのポート番号
・POP、またはAPOPの選択
・SMTPサーバーのポート番号
・POP before SMTP
・SMTP認証する場合は、SMTPユーザー名とパスワード
・メールサーバーのタイムアウト時間（1～10分）

1. ServerManagerの［ボックス］→［ボックスの設定］を選択します。
2. 通信の環境設定のタブを切り替えて設定し、［OK］をクリックします。

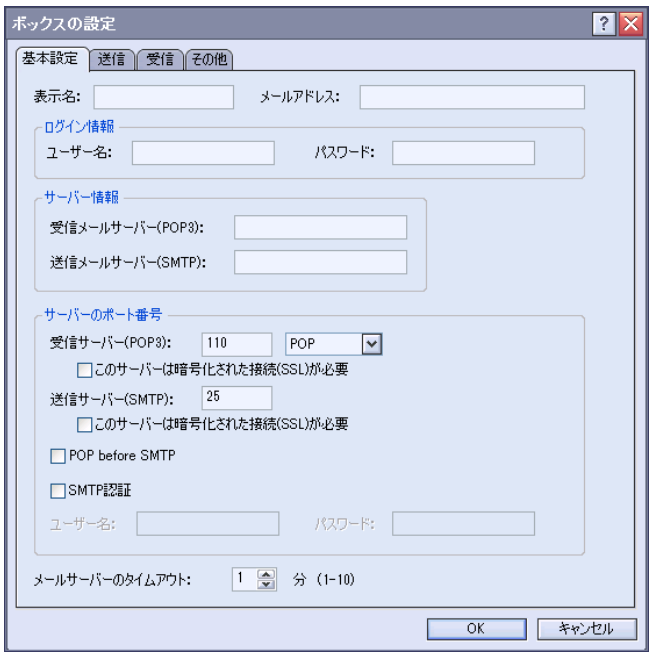


詳細は、以下の各タブの説明を参照してください。

・「[基本設定］タブ」(P.167)
・「[送信］タブ」(P.168)
・「[受信］タブ」(P.169)
・「[その他］タブ」(P.170)

［基本設定］タブ

補足　あらかじめ、SMTPとPOP3サーバーの設定を確認しておきます。



■表示名

メールアドレスに対応する、ご使用の機種の名前を31バイト以内で入力します。

■メールアドレス

ご使用の機種のメールアドレスを255バイト以内で入力します。

■ログイン情報

ログインに関する情報を設定します。

●ユーザー名

POP3サーバーへのログインユーザー名を64バイト以内で入力します。

●パスワード

POP3サーバーへのログインパスワードを64バイト以内で入力します。

■サーバー情報

送受信サーバーの設定をします。

●受信メールサーバー（POP3）

POP3サーバーアドレスをIPアドレス（＊＊＊.＊＊＊.＊＊＊.＊＊＊形式）、またはDNS名で、128バイト以内で入力します。

●送信メールサーバー（SMTP）

SMTPサーバーアドレスをIPアドレス（＊＊＊.＊＊＊.＊＊＊.＊＊＊形式）、またはDNS名で、128バイト以内で入力します。

■サーバーのポート番号

●受信サーバー（POP3）

POP3サーバーのポート番号を入力します。入力範囲は、0～65,535です。

プロトコルをPOP、APOPから選択します。

このサーバーは暗号化された接続（SSL）が必要

チェックマークを付けると、Print Serverで送受信するデータが暗号化されます。

- 送信サーバー（SMTP）

SMTPサーバーのポート番号を入力します。入力範囲は、0～65,535です。

このサーバーは暗号化された接続（SSL）が必要

チェックマークを付けると、Print Serverで送受信するデータが暗号化されます。

■POP before SMTP

チェックマークを付けると、送信メールサーバー（SMTP）に接続する前に受信メールサーバー（POP3）にログインされます。

■SMTP認証

チェックマークを付けると、送信メールサーバー（SMTP）への接続で認証が必要になり、SMTP サーバーへのログインに関する情報を設定します。

- ユーザー名

SMTPサーバーへのログインユーザー名を64バイト以内で入力します。

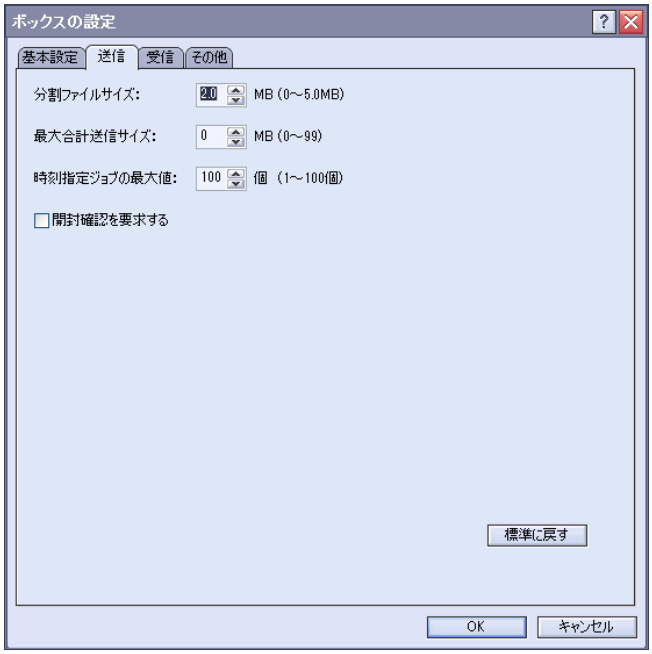
- パスワード

SMTPサーバーへのログインパスワードを64バイト以内で入力します。

■メールサーバーのタイムアウト

POP3/SMTPサーバーへの接続タイムアウト時間を設定します。入力した時間でPOP3/SMTPサーバーとの接続を解除します。入力範囲は、1～10分です。

［送信］タブ



■分割ファイルサイズ

ご使用の環境で送信メールのサイズ制限がある場合に、制限に合わせてファイルを分割して複数のメールとして送信できます。分割して送信されたファイルは、送信先サーバーで自動で合成されます。

分割して送信する場合の1ファイルあたりのサイズを設定します。入力範囲は、0.0～5.0 MBです。「0」MBに設定すると分割されません。

■最大合計送信サイズ

ご使用の環境で送信メールのサイズ制限がある場合に、制限に合わせて送信できるファイルの合計サイズを設定します。入力範囲は、0～99です。「0」MBに設定すると送信は制限されません。

設定したサイズを超える場合は、エラーメッセージが表示され、送信が中止されます。

■時刻指定ジョブの最大値

時刻指定してメールを送信できるジョブの数を設定します。入力範囲は、1～100個です。最大値を超える場合は、送信できません。

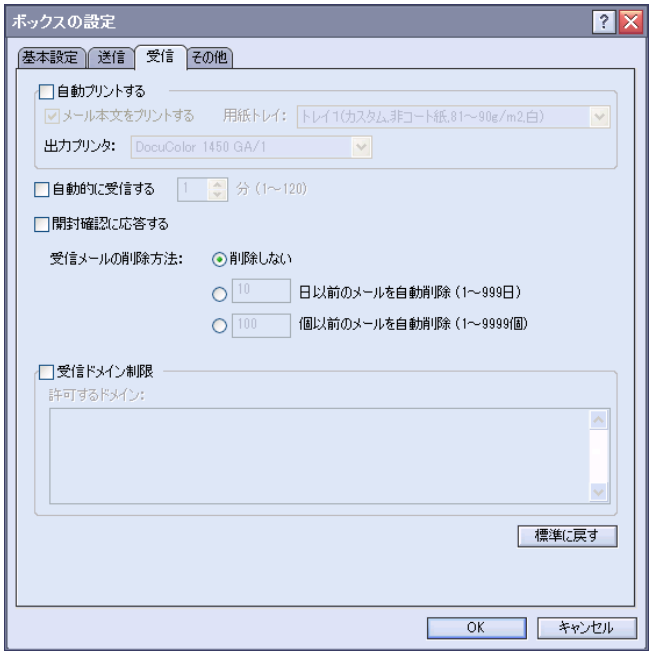
■開封確認を要求する

チェックマークを付けると、開封確認を要求できます。

■標準に戻す

クリックすると、デフォルトの設定に戻ります。

［受信］タブ



■自動プリントする

チェックマークを付けると、メールで受信したファイルが自動でプリントされます。

■メール本文をプリントする

チェックマークを付けると、メール本文がプリントされます。

チェックマークを外すと、本文はプリントされませんが、受信ボックスに保存されます。

［自動プリントする］にチェックマークが付いている場合に設定できます。

■用紙トレイ

メール本文をプリントする場合、プリントする用紙のある用紙トレイを選択します。

■自動的に受信する

チェックマークを付けると、メールが自動で受信されます。

チェックマークを付けたときは、メールサーバーへのメール確認間隔を入力します。入力範囲は、1～120分です。

■開封確認に応答する

チェックマークを付けると、メールの開封確認に応答します。

■受信メールの削除方法

受信メールの削除方法を選択します。

- 削除しない

  メールが削除されません。

- ＊日以前のメールを自動削除

  入力した日数以前に受信したメールが自動で削除されます。入力範囲は、1～999日です。

- ＊個以前のメールを自動削除

  受信メールが入力した個数を超えると、古いものから自動で削除されます。入力範囲は、1～9,999個です。

■受信ドメイン制限

チェックマークを付けると、受信を許可するドメインを制限します。許可されたドメイン以外のメールは、受信拒否されます。

受信ドメインを制限する場合は、［許可するドメイン］にドメイン名を入力します。

・ドメインごとの文字数は128バイト以内で、ドメインとドメインの間は改行、またはカンマ「,」を入力します。

・最大50ドメインまで設定できます。

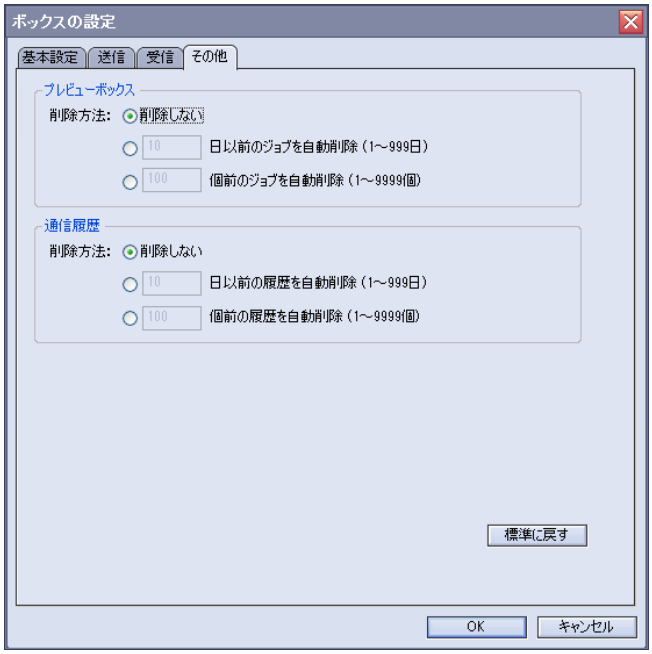
受信拒否されたメールは、［通信履歴］ダイアログボックスの［受信］タブに「受信エラー（201）」と表示されます。そこで、送信元のメールアドレスが確認できます。

> 補足　受信拒否されたメールは、POP3サーバーから削除されます。

■標準に戻す

クリックすると、デフォルトの設定に戻ります。

［その他］タブ



■プレビューボックス

プレビューボックスに表示されるジョブの削除方法を設定します。

- 削除しない
  ジョブが削除されません。
- ＊日以前のジョブを自動削除
  入力した日数以前に作成されたジョブが自動で削除されます。入力範囲は、1～999日です。
- ＊個前のジョブを自動削除
  ジョブが入力した個数を超えると、古いものから自動で削除されます。入力範囲は、1～9,999個です。

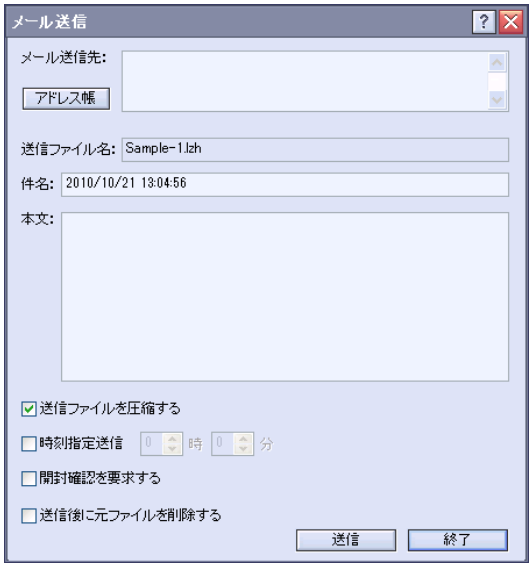
■通信履歴

通信履歴に表示される履歴の削除方法を設定します。

- 削除しない
  履歴が削除されません。
- ＊日以前の履歴を自動削除
  入力した日数以前の履歴が自動で削除されます。入力範囲は、1～999日です。
- ＊個前の履歴を自動削除
  履歴が入力した個数を超えると、古いものから自動で削除されます。入力範囲は、1～9,999個です。

3.5.2　ファイルの送信（メール添付）

1. ServerManagerから送信するファイル（ジョブ）を選択します。
   同一ボックス内で複数選択できます。
2. ［ジョブ］→［送信］→［メール送信］を選択します。
3. 各項目を設定し、［送信］をクリックします。



メールの送信は、すべての選択ファイルのアップロードが正常終了された場合に行われます。
メールを送信すると、［通信履歴］の［送信］タブ内に送信履歴が保存されます。

参照　通信履歴については、「3.5.4 通信履歴の確認」（P.175）を参照してください。

- **メール送信先**

  メール送信先を入力します。宛先とグループを合わせて100件まで入力できます。

  宛先を直接入力する場合は、メールアドレスごとの文字数は128バイト以内で入力します。

  複数のメールアドレスを入力する場合は、カンマ「,」、セミコロン「;」、または改行で区切ります。

  アドレス帳を使用する場合は、[アドレス帳]をクリックし、[アドレス帳]ダイアログボックスで選択します。

  参照 アドレス帳については、「3.5.6 アドレス帳の管理」(P.179)を参照してください。

- **件名**

  デフォルト：[メール送信]ダイアログボックスを表示させたときの日時

  件名を31バイト以内で入力します。

- **本文**

  本文を512バイト以内で入力します。

- **送信ファイルを圧縮する**

  チェックマークを外すと、送信ファイルが圧縮されません。

- **時刻指定送信**

  チェックマークを付けると、入力した時刻にメールが送信されます。時刻は24時間表示方式です。

  補足 20:00:59に「20:00」と入力した場合は、すぐに送信されます。

- **開封確認を要求する**

  デフォルト：[環境設定]での設定と同じ

  チェックマークを付けると、メールの開封確認に応答します。

- **送信後に元ファイルを削除する**

  チェックマークを付けると、送信後に元ファイルが削除されます。

3.5.3 ファイルの受信

[ボックスの設定]ダイアログボックスの[受信]タブで、[自動的に受信する]にチェックマークを付けた場合は、自動で受信されます。

他機種のPrint Serverやクライアントコンピューターからもメールの添付ファイルを受信できます。

受信したメールの添付ファイルのうち、プリントできるファイルフォーマットは、PDF、PostScript、EPS、TIFF、JPEG、ジョブファイルです。(ジョブファイルは、Print Serverから送信された場合にだけプリントできます)

補足
- 添付ファイルが複数ある場合は、すべてプリントされます。ただし、未対応のファイルはプリントされません。
- 受信したメールが転送メールの場合、エラーメールになることがあります。
- メール本文のプリントを設定できます。
  詳細は、「受信」(P.176)を参照してください。
- クライアントコンピューターから受信したメールに添付ファイルが多数ある場合、受信状況のステータスが正しく表示されないことがあります。また、プリント中のものがあっても、「プリント済み」と表示されます。
- EPSファイルを添付したメールを受信した場合、正しくプリントできないことがあります。この場合、EPSを扱えるアプリケーションでプリントするか、FTPを使用したプリントなどをしてください。
- 受信したメールの添付ファイル名に「#」が含まれている場合、プリントされないことがあります。
- 受信したA4サイズのTIFFファイルをプリントすると、A4用紙にはプリントされず、A4サイズより大きい(たとえばB4、A3)用紙にプリントされます。これはA4 サイズのTIFF ファイルを印字が欠けないでプリントできる用紙サイズが選択されるためです。

参照 [ボックスの設定]ダイアログボックスについては、「3.5.1 ボックスの環境設定」(P.166)を参照してください。

ServerManagerの［ボックス］→［メール受信］を選択すると、受信が開始され、受信が終了された順に［受信］ボックスに保存されます。

受信したメールを自動プリントする場合は、プリントオプションテンプレートの設定の値が適用されます。プリントされる用紙サイズについては、「プリントされる用紙サイズ」（P.173）を参照してください。

参照　プリントオプションテンプレートの設定については、『ユーザーズガイド 導入編』の「1.5.1 プリントオプションテンプレートの設定」を参照してください。

プリントされる用紙サイズ

◆ メール送信機能が使用できるPrint Serverから受信した場合

・受信ジョブに設定された用紙サイズがセットされている場合は、設定された用紙サイズにプリントされます。

・受信ジョブに設定された用紙サイズがセットされていない場合は、以下の優先順位でプリントされます。
1. 受信ジョブの用紙サイズよりも大きいサイズの中で最小の用紙サイズを選択し、等倍で用紙の中心にプリントされます。
2. 受信ジョブの用紙サイズよりも小さいサイズの中で最大の用紙サイズを選択し、用紙サイズに合わせて縮小してプリントされます。

◆ クライアントコンピューターから受信した場合

・受信ジョブに設定された用紙サイズがセットされている場合は、設定された用紙サイズにプリントされます。

・受信ジョブに設定された用紙サイズがセットされていない場合は、エラージョブになります。

補足　クライアントコンピューターからのジョブで用紙サイズの設定がない場合は、［論理プリンタの管理］の受信ボックスの設定でプリントされます。

メール本文プリントのフォーマット

以下の項目が印字されます。

補足
・日本語を含むメールヘッダーが正しくプリントされない（正しくデコードされない）ことがあります。
・受信したメールの添付ファイル名が2バイトの場合、添付ファイル名が文字化けすることがあります。

- **差出人**
  表示名と実アドレスが表示されます。
- **送信日時**
  送信日時（年/月/日 時:分:秒）が表示されます。
- **宛先**
  すべての宛先の表示名と実アドレスが表示されます。複数の宛先がある場合は、セミコロン「;」で区切って表示されます。
- **件名**
  件名が表示されます。
- **メール本文**
  メール本文が表示されます。
- **添付ファイル**
  添付ファイルがある場合は、ファイルフォーマットを示すアイコンとファイル名が表示されます。

プロパティの確認

受信メールのヘッダー情報と本文、添付ファイルの名前とステータスが確認できます。

1. ServerManagerの［受信］ボックスで、確認するジョブを選択します。

   補足　確認できるジョブは、1つだけです。

2. ［ジョブ］→［受信ボックス］→［プロパティ］を選択します。
3. 内容を確認したら、［閉じる］をクリックします。



- メール情報

  差出人

  表示名と実アドレスが表示されます。

  送信日時

  送信日時（年/月/日 時:分:秒）が表示されます。

  宛先

  すべての宛先の表示名と実アドレスが表示されます。複数の宛先がある場合は、セミコロン「;」で区切って表示されます。

  件名

  件名が表示されます。

  メール本文

  メール本文が512バイト以内で表示されます。対応フォーマット以外は、空欄になります。

- 添付ファイル情報

  番号

  ファイルの番号が表示されます。

  添付ファイル名

  添付ファイルの名前が表示されます。

● ステータス

添付ファイルのサポート状態が表示されます。

・OK：サポートファイル

・未サポート：未サポートファイル

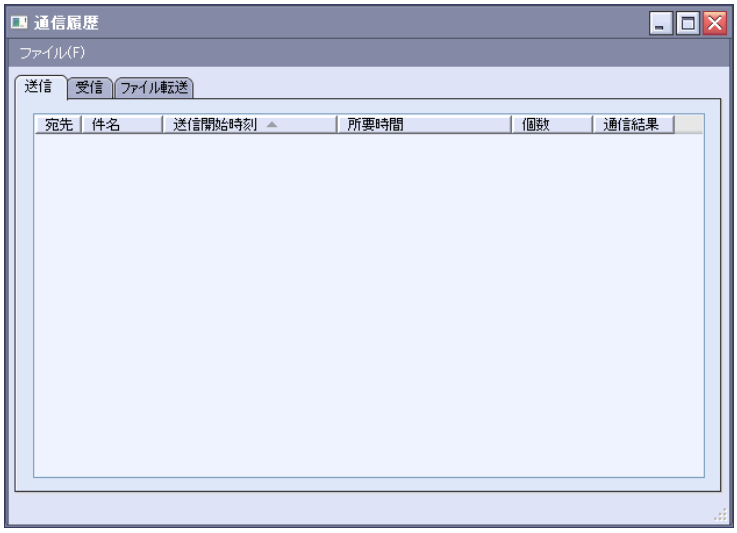
・未サポートエンコード：未サポートのエンコード

3.5.4　通信履歴の確認

送受信の結果を確認できます。

送信レポート、受信レポート、ファイル転送レポートとしてのプリント、保存（CSV形式）ができます。

1. ServerManagerの［システム］→［通信履歴］を選択します。
2. 目的に応じて、［送信］、［受信］、および［ファイル転送］タブを選択し、内容を確認します。



■送信

● 宛先

宛先が表示されます。

● 件名

件名が表示されます。

● 送信開始時刻

送信開始時刻が表示されます。送信待ちの場合は、空欄になります。

● 所要時間

送信開始から送信終了までの時間が表示されます。送信待ち、送信中の場合は、空欄になります。

● 個数

添付されたファイル数が表示されます。

● 通信結果

通信結果は、状態の変化に応じて表示が変わります。

送信待ち

送信待ちの状態です。

送信中

送信開始から送信終了までの状態です。

送信済み
送信終了状態です。
送信エラー（{エラーの内容}）
送信中にエラーが発生した状態です。
プリント済み
開封確認が設定されたジョブで、送信先でプリントが正常終了された状態です。
プリントエラー（{エラーの内容}）
開封確認が設定されたジョブで、送信先でプリントエラーが発生した状態です。
プリントキャンセル
プリントの途中でキャンセルされた状態です。
取り消し
送信待ちのジョブを削除、または送信処理中のジョブをキャンセルした状態です。

■受信

- **差出人**
  送信元の名前（メールヘッダーのFromフィールドを使用）が表示されます。
- **件名**
  件名が表示されます。
- **受信開始時刻**
  受信開始時刻が表示されます。
- **所要時間**
  受信開始から受信終了までの時間が表示されます。プリント処理時間は含まれません。
- **ページ数/個数**
  添付したファイルのページ数（ボックス機能が使用できるPrint Serverから受信した場合）、個数（クライアントコンピューターから受信した場合）が表示されます。
- **通信結果**

受信済み
受信終了状態です。
受信中
受信開始から受信終了までの状態です。
プリント済み
プリント終了状態です。
プリント中
プリント開始からプリント終了までの状態です。
プリントキャンセル
ServerManagerでジョブがキャンセルされた状態です。
プリントエラー
ServerManagerでジョブがエラーになった状態です。
受信エラー（{エラーの内容}）
受信中にエラーが発生した状態です。

■ファイル転送

- **保存先**
  保存先の名前が表示されます。
- **ファイル名**
  ファイル名が表示されます。

- **転送開始時刻**

  転送開始時刻が表示されます。

- **所要時間**

  転送開始から転送終了までの時間が表示されます。

- **通信結果**

  転送済み

  転送終了状態です。

  転送中

  転送開始から転送終了までの状態です。

  転送エラー（{エラーの内容}）

  転送中にエラーが発生した状態です。

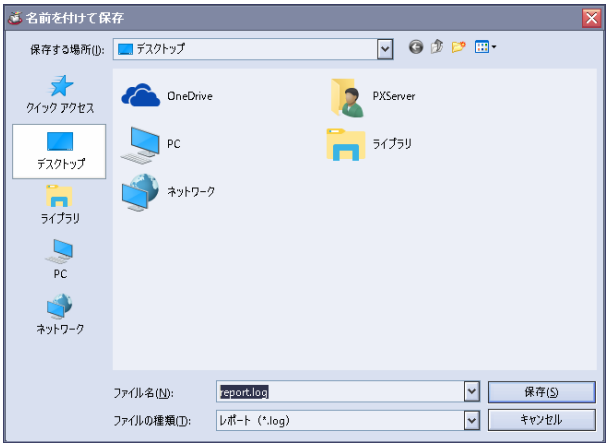
  参照　エラーの内容については、「6.3.6 メール送受信、ファイル転送時エラー」（P.315）を参照してください。

通信履歴の保存

1. ［通信履歴］ダイアログボックスの［ファイル］→［保存］を選択します。

   複数のジョブが選択できます。

2. ［保存］をクリックします。

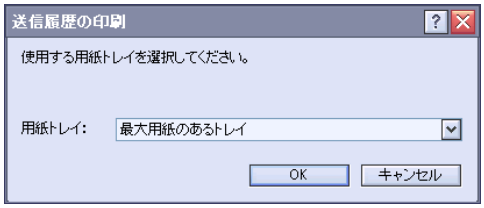


通信履歴のプリント

1. ［通信履歴］ダイアログボックスの［ファイル］→［印刷］を選択します。

   複数のジョブが選択できます。

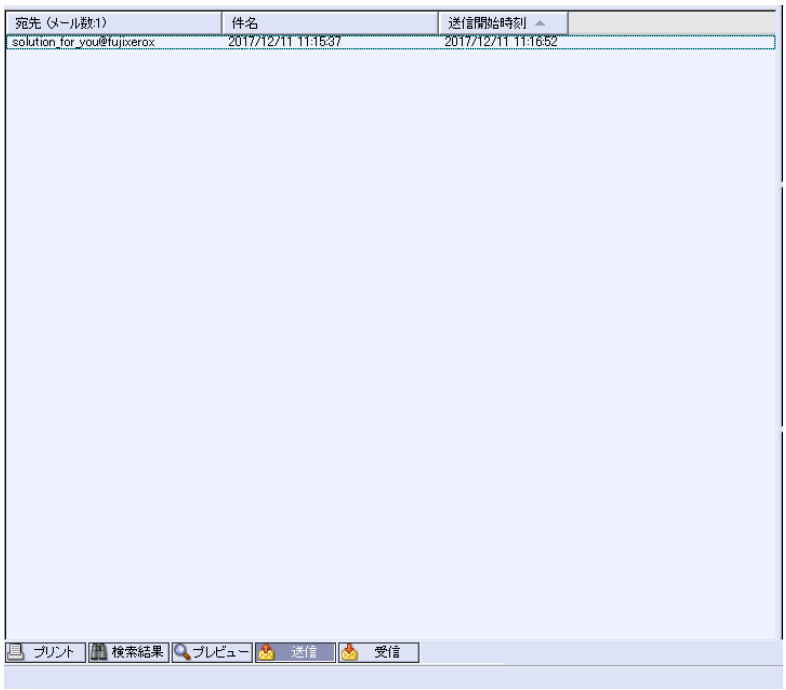
2. ［用紙トレイ］でプリントする用紙トレイを選択し、［OK］をクリックします。



3.5.5 送信ジョブの管理

時刻指定で送信したジョブは、ServerManagerの［送信ボックス］に保存されています。
設定した時刻を待たずに送信、およびジョブの送信のキャンセルができます。

1. ServerManagerの［送信］ボックスをクリックします。



- 宛先
  宛先が表示されます。複数の宛先がある場合は、セミコロン「;」で区切って表示されます。
- 件名
  件名が表示されます。
- 送信開始時刻
  送信開始時刻が表示されます。送信エラーのメールの場合は、赤字で表示されます。
- ステータス
  ジョブの処理状況や、エラーメッセージが表示されます。

2. 設定した時刻を待たずにジョブをただちに送信する場合は、ジョブを選択し、［ジョブ］→［送信ボックス］→［直ちに送信］を選択します。
ジョブの送信をキャンセルして［送信］ボックスから削除する場合は、ジョブを選択して［ジョブ］→［ジョブ削除］を選択します。

補足 複数のジョブが選択できます。

3.5.6　アドレス帳の管理

アドレス帳の作成

アドレス帳には、以下の内容が登録できます。

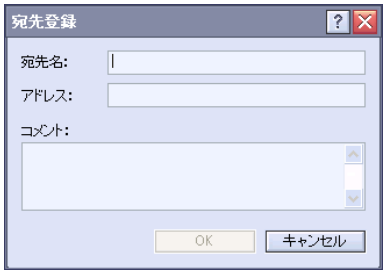
- 宛先
  - ・宛先名（表示名）　・送信先アドレス　・コメント
- グループリスト
  - ・グループ名（表示名）　・グループメンバー（複数の宛先名）　・コメント

1. ServerManagerの［ボックス］→［アドレス帳］を選択します。
2. 宛先、またはグループを登録します。



◆宛先を登録する場合

1. ［管理］→［宛先登録］を選択します。
2. ［宛先名］を31バイト以内で入力します。



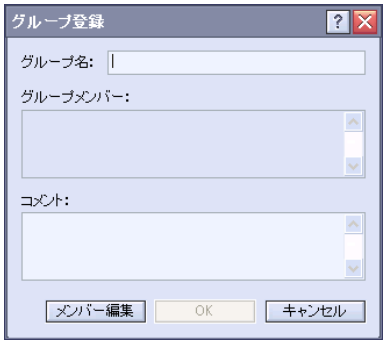
3. ［アドレス］を128バイト以内で入力します。
4. 必要に応じて、［コメント］を128バイト以内で入力します。
5. ［OK］をクリックします。

◆グループを登録する場合

・1つのグループに登録できるメンバーは100件以内です。
・グループを登録する場合は、あらかじめ宛先を登録しておく必要があります。

1. ［管理］→［グループ登録］を選択します。

2. ［グループ名］を31バイト以内で入力します。



3. ［メンバー編集］をクリックします。

4. ［宛先一覧］で登録する宛先を選択し、［追加］をクリックします。
複数の宛先が選択できます。



［メンバー一覧］に選択した宛先が表示されます。

［メンバー一覧］の宛先を削除する場合は、宛先を選択して、［削除］をクリックします。

5. ［OK］をクリックします。
［メンバー編集］ダイアログボックスが閉じます。
［グループ登録］ダイアログボックスの［グループメンバー］に追加した宛先が表示されます。

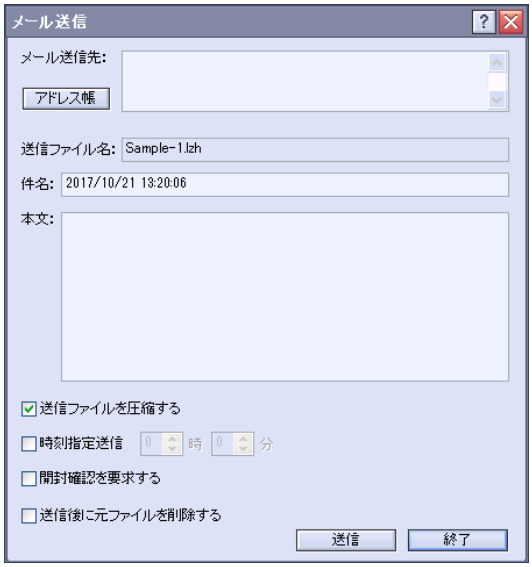
6. 必要に応じて、［コメント］を128バイト以内で入力します。



7. ［OK］をクリックします。

アドレス帳の宛先の登録

1. ［メール送信］ダイアログボックスで［アドレス帳］をクリックします。



2. ［宛先/グループ一覧］で登録する宛先、またはグループ名を選択し、［追加］をクリックします。

複数の宛先、またはグループ名が選択できます。



［送信先］に選択した宛先、またはグループ名が表示されます。［メール送信］ダイアログボックスの［メール送信先］に直接入力した送信先もここに表示されます。

［送信先］の宛先、またはグループ名を削除する場合は、宛先、またはグループ名を選択して、［削除］をクリックします。複数の宛先、またはグループ名が選択できます。

- 宛先/グループ名

  宛先名、グループ名の順に表示されます。グループ名は、ボールド文字で表示されます。

- 送信先アドレス/メンバー

  送信先のメールアドレスが表示されます。グループメンバーのアドレスは、セミコロン「;」で区切って表示されます。

3. 送信先の入力が完了したら、［OK］をクリックします。

アドレス帳の編集

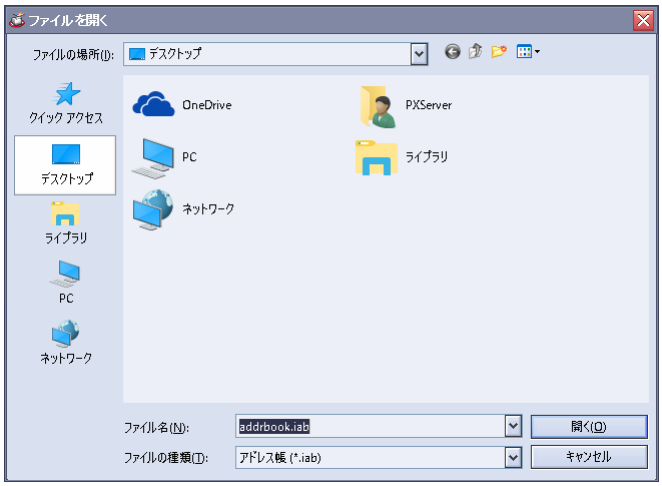
1. ［アドレス帳］ダイアログボックスで、編集する宛先、またはグループを選択し、［管理］→［編集］を選択します。
2. ［宛先編集］、または［グループ編集］ダイアログボックスで、作成と同様に項目を編集します。

アドレス帳の削除

1. ［アドレス帳］ダイアログボックスで、削除する宛先、またはグループを選択し、［管理］→［削除］を選択します。
2. 確認のダイアログボックスで、［OK］をクリックします。

アドレス帳の読み込み

1. ［アドレス帳］ダイアログボックスの［ファイル］→［アドレス帳の読み込み］を選択します。
2. 読み込むアドレス帳を選択し、［開く］をクリックします。

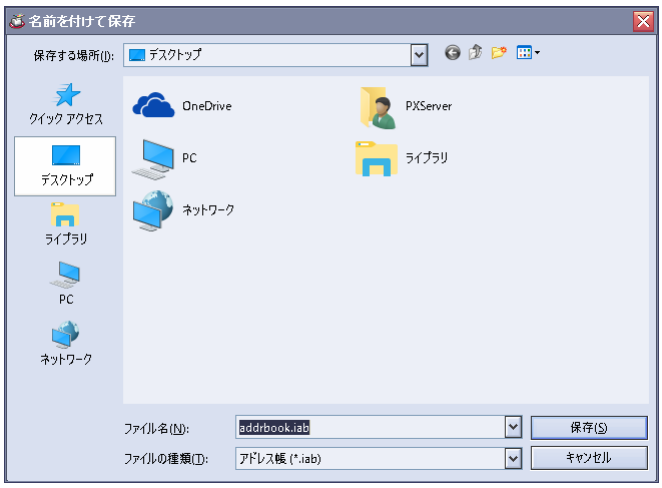


アドレス帳の保存

アドレス帳は、CSV形式で保存されます。

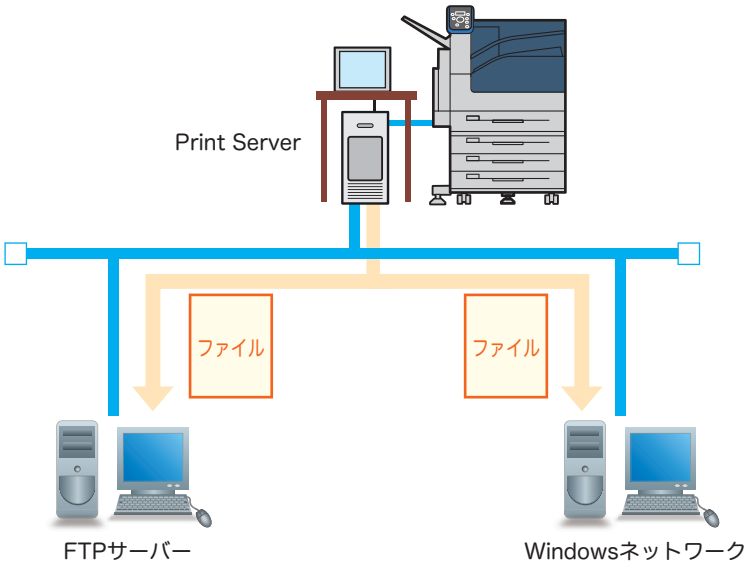
1. ［アドレス帳］ダイアログボックスの［ファイル］→［アドレス帳を名前を付けて保存］を選択します。

2. ［保存］をクリックします。



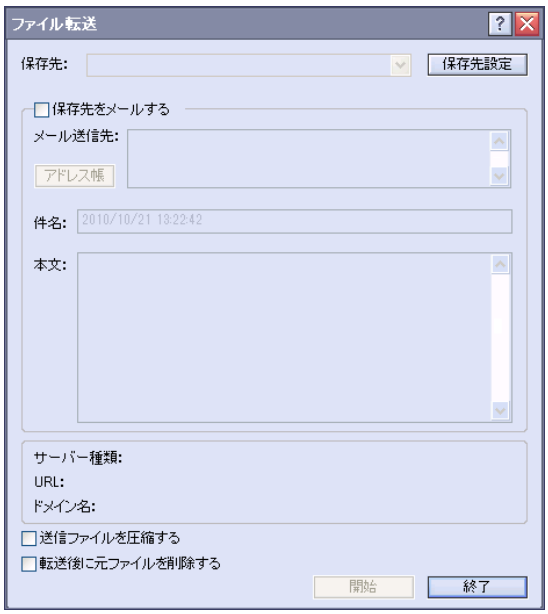
3.5.7　ファイルの転送

ファイルを外部サーバー（FTP サーバーや Windows ネットワーク）に転送できます。また、その転送先アドレスをアップロード後にメールで通知できます。



1. ServerManagerから転送するファイル（ジョブ）を選択します。
   同一ボックス内で複数選択できます。
2. ［ジョブ］→［送信］→［ファイル転送］を選択します。

3. 各項目を設定し、[開始]をクリックします。



メールの送信は、すべての選択ファイルのアップロードが正常終了された場合に行われます。

メールを送信すると、[通信履歴]の[送信]タブ内に送信履歴が保存され、[通信履歴]の[ファイル転送]タブ内に転送履歴が保存されます。

参照 通信履歴については、「3.5.4 通信履歴の確認」(P.175)を参照してください。

- 保存先

  [保存先設定]をクリックして、ファイル転送先を登録されている保存先から選択します。

- 保存先をメールする

  チェックマークを付けると、ファイル転送先がメールで通知されます。

- メール送信先

  メール送信先を入力します。宛先とグループを合わせて100件まで入力できます。

  宛先を直接入力する場合は、メールアドレスごとの文字数は128バイト以内で、メールアドレスとメールアドレスの間はカンマ「,」、セミコロン「;」、または改行で区切ります。

  アドレス帳を使用する場合は、[アドレス帳]をクリックし、[アドレス帳]ダイアログボックスで選択します。

  参照 アドレス帳については、「3.5.6 アドレス帳の管理」(P.179)を参照してください。

- 件名

  デフォルト:[ファイル転送]ダイアログボックスを表示させたときの日時

  件名を31バイト以内で入力します。

- 本文

  本文を512バイト以内で入力します。

- 送信ファイルを圧縮する

  チェックマークを付けると、送信ファイルが圧縮されます。

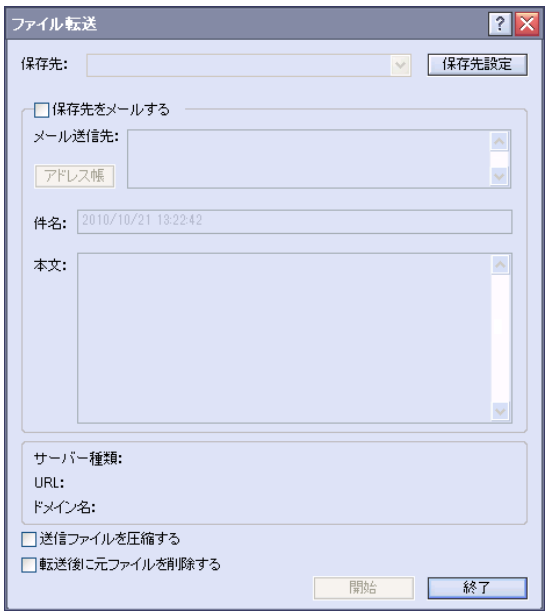
● 転送後に元ファイルを削除する

チェックマークを付けると、ファイル転送後にもとのファイルが削除されます。

補足　本文には、ファイル転送先のURLとサーバーの種類が自動で追記されます。
・例：FTPサーバーの場合
サーバー種類：FTPサーバー
URL：ftp://＊.＊.＊.＊/public/Sample.pdf
・例：Windowsネットワークの場合
サーバー種類：Windowsネットワーク
URL：¥＊.＊.＊.＊¥public¥Sample.pdf
ドメイン名：WORKGROUP

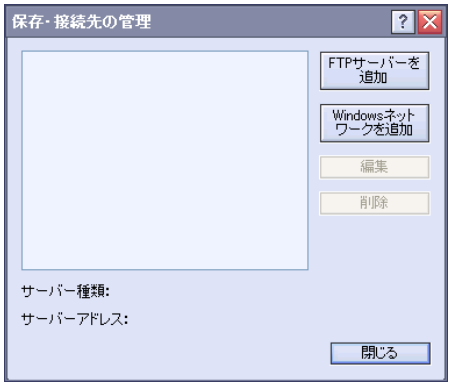
FTPサーバーの追加

1. ［ファイル転送］ダイアログボックスで、［保存先設定］をクリックします。

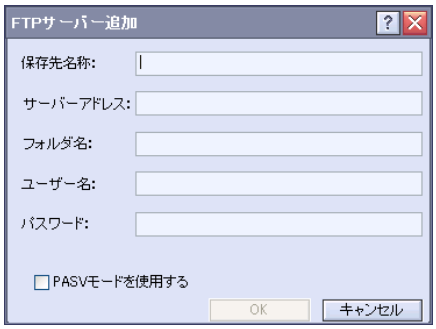


補足　ServerManagerの［管理］→［保存・接続先の管理］を選択しても、［保存先設定］ダイアログボックスを表示できます。

2. ［FTPサーバーを追加］をクリックします。



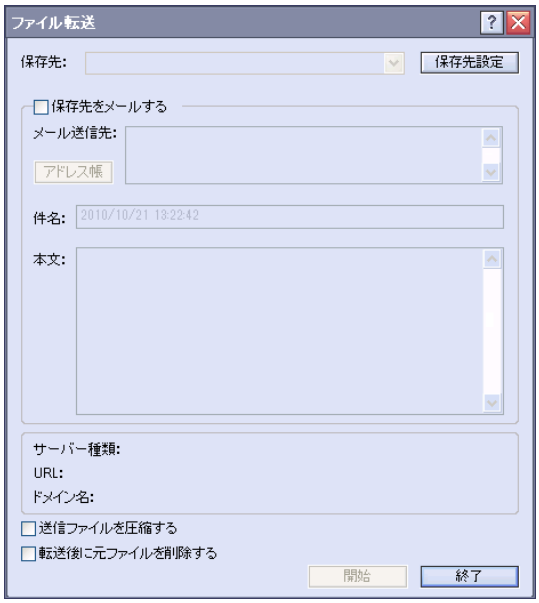
3. 各項目を設定し、［OK］をクリックします。



- 保存先名称
  保存先の名称を31バイト以内で入力します。
- サーバーアドレス
  FTPサーバーアドレスを＊＊＊.＊＊＊.＊＊＊.＊＊＊形式、またはDNS名で128バイト以内で入力します。
- フォルダ名
  フォルダー名を半角英数字256バイト以内で入力します。
- ユーザー名
  ユーザー名を64バイト以内で入力します。
- パスワード
  パスワードを64バイト以内で入力します。
- PASVモードを使用する
  チェックマークを付けると、PASVモードが使用されます。

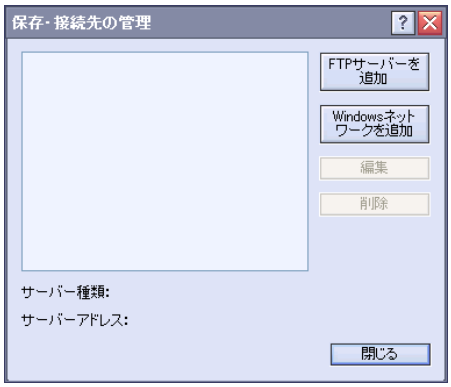
Windowsネットワークの追加

1. ［ファイル転送］ダイアログボックスで、［保存先設定］をクリックします。

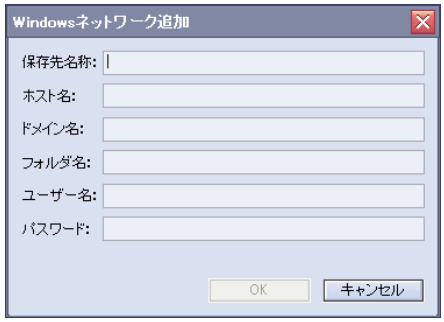


補足 ServerManagerの［管理］→［保存・接続先の管理］を選択しても、［保存先設定］ダイアログボックスを表示できます。

2. [Windowsネットワークを追加]をクリックします。



3. 各項目を設定し、[OK]をクリックします。



- 保存先名称
  保存先の名称を31バイト以内で入力します。
- ホスト名
  Windowsネットワークホスト名を63バイト以内で入力します。
- ドメイン名
  ドメイン名、またはワークグループ名を255バイト以内で入力します。
- フォルダ名
  フォルダー名を256バイト以内で入力します。
- ユーザー名
  ユーザー名を64バイト以内で入力します。
- パスワード
  パスワードを64バイト以内で入力します。

保存先の編集

1. [保存・接続先の管理]ダイアログボックスで、編集する保存先を選択し、[編集]をクリックします。
2. [{保存先名}編集]ダイアログボックスで、追加と同様に項目を編集します。

保存先の削除

[保存・接続先の管理]ダイアログボックスで、削除する保存先を選択し、[削除]をクリックします。

4

プリントの設定

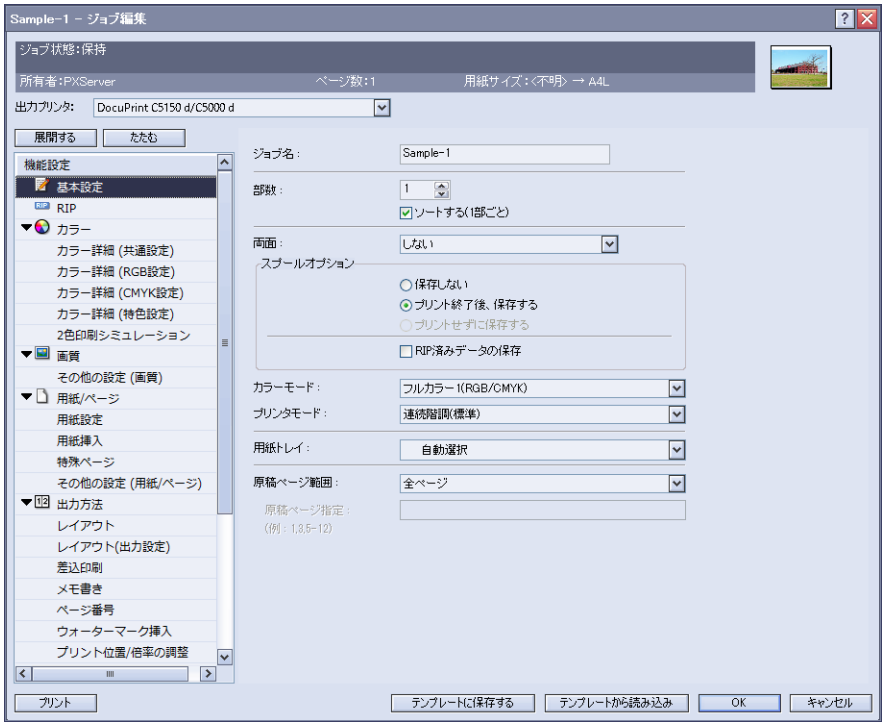
プリントオプション項目（［ジョブ編集］ダイアログボックス）、その他のプリント時の設定について説明しています。

4.1 ジョブを編集する（プリントオプション項目）..... 190
4.1.1 現在の設定 192
4.1.2 基本設定 193
4.1.3 RIP 194
4.1.4 カラー 195
4.1.5 画質 205
4.1.6 用紙/ページ 210
4.1.7 出力方法 220
4.1.8 排出/フィニッシング/両面 226
4.1.9 プリフライト 228
4.1.10 グラフィックス 229
4.1.11 その他（セキュリティ） 230
4.1.12 ジョブ情報 232
4.1.13 ユーザー情報 234
4.2 プリントオプション項目について 235
4.2.1 プリンタードライバーのプリントオプション 235
4.3 プリント時に使用する各種設定を登録する 237
4.3.1 通信設定、表示単位の変更 237
4.3.2 ウォーターマークの設定 239
4.3.3 ページ番号設定ファイル 242

4.1 ジョブを編集する（プリントオプション項目）

プリントオプションの項目を［ジョブ編集］ダイアログボックスを例に説明します。

ダイアログボックスを開いたときは、［基本設定］が表示されます。



補足

・各項目に記載されているプリントオプションのデフォルト値は、プリンタードライバー、DropUtility、またはプリントオプションテンプレートの［出荷時の設定］の値です。
・処理中リスト内のジョブに対しては、設定内容の表示だけで編集はできません。
・ジョブの種類によって、設定できないプリントオプションがあります。
・設定によっては、処理に時間がかかることがあります。処理に時間がかかる設定例は、以下のとおりです。
- ［画質］＞［コンポジットオーバープリント］＞［プロセスカラー］、または［プロセスカラー＋特色］
- ［画質］＞［その他の設定（画質）］＞［トラッピングの自動処理］＞［する］
- ［排出/フィニッシング/両面］＞［最終ページから印刷］
- ［プリフライト］＞［画像警告］＞［ヘアライン警告］＞［する］
- ［プリフライト］＞［画像警告］＞［オーバープリント警告］＞［する］

● 機能設定ツリー

項目をクリックすると、右側にプリントオプションの設定が表示されます。
［現在の設定］をクリックすると、右側にプリントオプションの現在の設定がツリー表示されます。

補足 機能設定ツリーが展開されている場合、スクロールバーをスクロールすると、［現在の設定］が表示されます。

● 展開する/たたむ

機能設定ツリーに表示させる項目数を変更します。

● プリント

編集したジョブをすぐにプリントします。

補足 ServerManagerの［ジョブ］→［サムネール］→［サムネール編集］で、［ジョブ編集］ダイアログボックスを表示すると、［プリント］は表示されません。

● テンプレートに保存する

現在のプリントオプションの設定がジョブテンプレートとして保存されます。表示されるダイアログボックスで名前を入力し、［OK］をクリックします。

補足
・［テンプレートに保存する］は管理者モードのときに操作できます。
・ServerManagerの［ジョブ］→［サムネール］→［サムネール編集］で、［ジョブ編集］ダイアログボックスを表示すると、［テンプレートに保存する］は表示されません。

● テンプレートから読み込み

［プリントオプションテンプレートの管理］ダイアログボックスが表示され、プリントオプションが設定されているテンプレートを読み込みます。



すべて読み込む

テンプレートを選択し、［OK］をクリックすると、プリントオプションテンプレートの［テンプレートを優先］の［する］にチェックマークを付けていなくても、プリントオプションで設定した値が無効になって、テンプレートが読み込まれます。

チェックした項目のみ

テンプレートを選択し、［OK］をクリックすると、［現在の設定］でチェックマークを付けたプリントオプションだけが読み込まれます。

補足
ServerManagerの［ジョブ］→［サムネール］→［サムネール編集］で、［ジョブ編集］ダイアログボックスを表示すると、［テンプレートから読み込み］は表示されません。

参照
プリントオプションテンプレートについては、『ユーザーズガイド 導入編』の「1.5.1 プリントオプションテンプレートの設定」を参照してください。

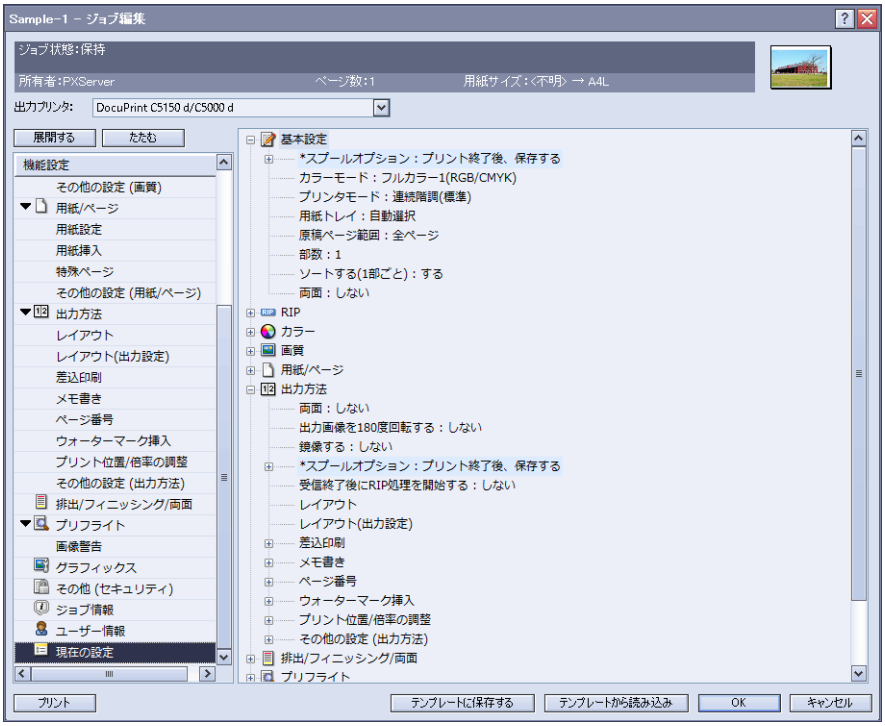
■ ジョブの複数選択時

ジョブを複数選択した場合は、各プリントオプションの先頭に［一括編集］チェックボックスが表示されます。チェックマークを付けると、複数のジョブに対して一括で編集できます。

補足
APPE ジョブで設定できないプリントオプションは、CPSI ジョブでも［一括編集］チェックボックスが表示されないことがあります。
この場合、［RIP］＞［RIPの種類］の［一括編集］チェックボックスにチェックマークを付けると、チェックボックスが表示されます。

4.1.1 現在の設定

プリントオプションの現在の設定がツリー表示されます。



● 右側のツリー

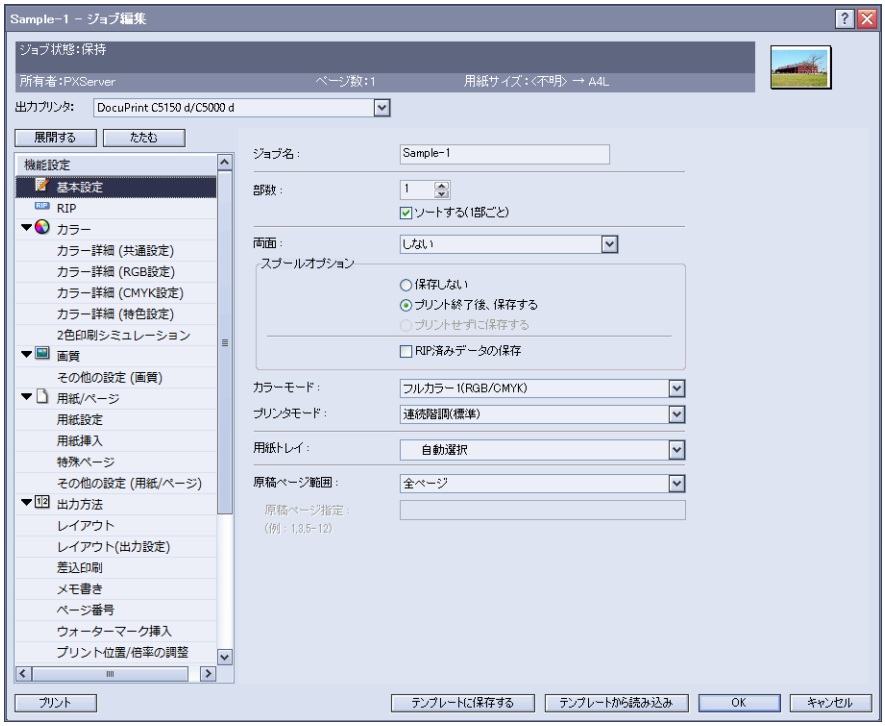
・［+］をクリックすると、現在ジョブに設定されている各項目が展開表示されます。

・デフォルトと異なる設定項目は、自動でツリーが展開表示され、「*」が表示されます。

・項目をダブルクリックすると、プリントオプションの設定が表示されます。

4.1.2　基本設定

よく使う設定項目が表示されます。

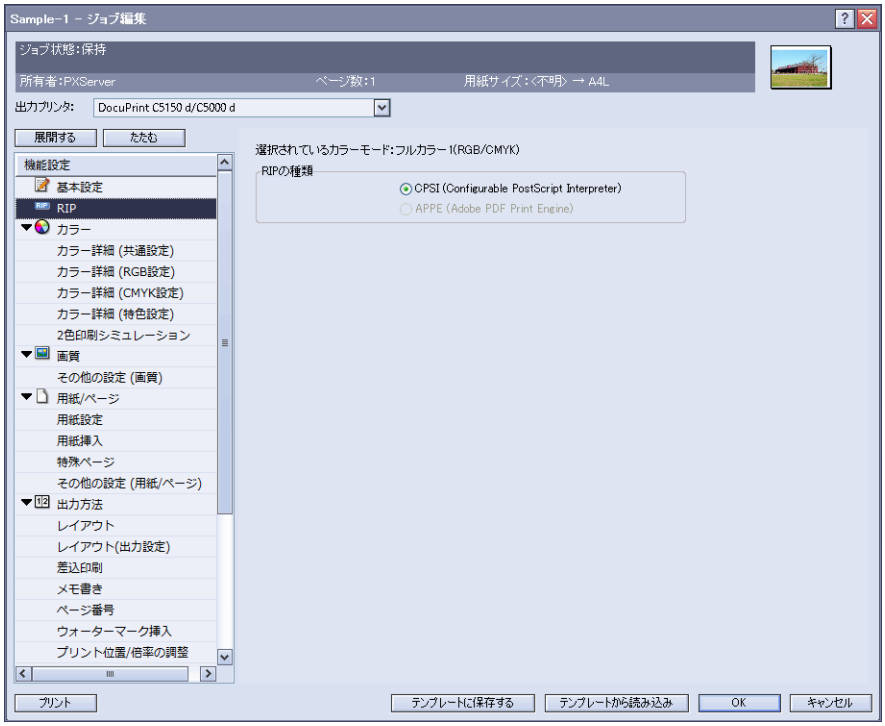


各項目の詳細は、それぞれのプリントオプションの説明を参照してください。

ジョブ名 232
部数 210
・部数を指定する 211
両面 220
スプールオプション 220
・RIP済みデータの保存 221
カラーモード 196
プリンタモード 206
用紙トレイ 211
原稿ページ範囲 211
・原稿ページ指定 211

4.1.3 RIP

RIPの種類などの設定が表示されます。



● RIPの種類

補足 CPSIとAPPEのジョブの複数編集はできません。

参照
- CPSIとAPPEについては、『ユーザーズガイド 導入編』の「Print Serverの機能紹介」を参照してください。
- プリントに関する制限については、「7.2.4 RIP の種類に対する制限事項」(P.340)を参照してください。

● CPSI（Configurable PostScript Interpreter）

CPSIを使用してRIP処理します。

● APPE（Adobe PDF Print Engine）

APPEを使用してRIP処理します。

補足
- この機能はオプションです。DTP機能拡張キットのライセンスを設定していない場合、APPE を使用できません。ライセンスの設定については、『ユーザーズガイド 導入編』の「1.5.2 ServerManagerの環境設定」の「ライセンスの設定」を参照してください。
- ファイルタイプがPDF以外のジョブとPDF のジョブを複数選択している場合、CPSIからAPPEへの変更は、ファイルタイプがPDFのジョブに対してだけできます。

参照 CPSIとAPPEについては、『ユーザーズガイド 導入編』の「Print Serverの機能紹介」を参照してください。

4.1.4　カラー

色の調整に関する情報が表示されます。

［カラーモード］の設定によって、設定できる項目が異なります。以下の表を参照してください。

○：設定できる項目

×：設定できない項目

＊：［RIP］＞［RIPの種類］に［APPE］を選択している場合に設定できない項目

■カラー詳細（共通設定）

項目	フルカラー1	グレースケール
トナー総量調整	○	○
カラー置換＊	○	×

■カラー詳細（RGB設定）

項目		フルカラー 1	グレースケール
RGB色補正		○	×
	RGBガンマ補正	○	×
	RGBホワイトポイント＊	○	×
写真画像の自動補正＊		○	×
	写真の種類＊	○	×
	分割画像を合成＊	○	×
	自動ホワイトバランス調整＊	○	×
	人肌補正＊	○	×
	明度＊	○	×
	コントラスト＊	○	×
	彩度＊	○	×
RGB出力プロファイル		○	○
RGB出力インテント		○	○

■カラー詳細（CMYK設定）

項目		フルカラー 1	グレースケール
CMYK色補正		○	○
	CMYKシミュレーション	○	○
PDF/Xの出力インテントを使用する		○	×

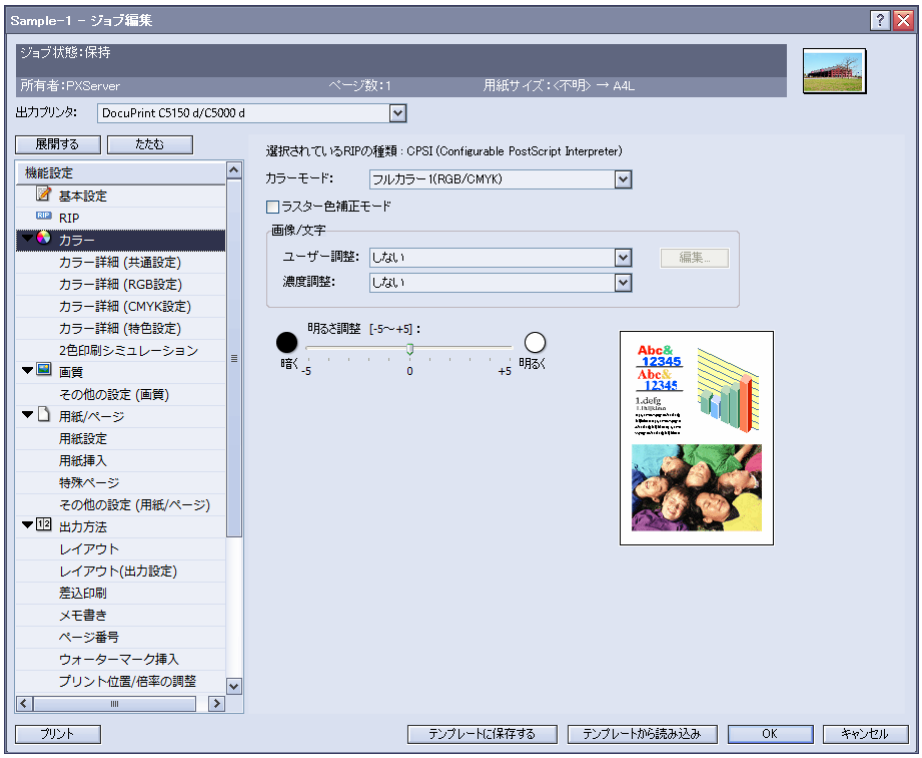
■カラー詳細（特色設定）

項目	フルカラー 1	グレースケール
コンポジット特色補正	○	×
特色補正プロファイル	○	×
特色補正インテント	○	×

■2色印刷シミュレーション

項目	フルカラー 1	グレースケール
2色印刷シミュレーション＊	○	×

カラー



● カラーモード

カラーモードを選択します。

・フルカラー 1（RGB/CMYK）　　・グレースケール（K）

補足

・ファイルのイメージがグレースケールの場合は、[フルカラー 1（RGB/CMYK)] と [グレースケール（K)] のどちらでもグレースケールで再現されますが、[グレースケール（K)] のほうが速く処理されます。

・PDF ファイルをプリントするとき、PDF ファイルのセキュリティ設定で「印刷」を「許可しない」に設定されている場合はプリントできません。

・TrueType フォントを使用している場合、フルカラーでプリントするときは、代替フォントを使用してください。

・原稿がグレースケールのファイルでも、[カラー詳細（RGB設定)] > [RGB色補正]、[カラー詳細（CMYK 設定)] > [CMYK 色補正]、[カラー詳細（特色設定)] > [コンポジット特色補正] などで色補正してプリントすると、カラーでプリントされることがあります。

● ラスター色補正モード

チェックマークを付けると、コンポジットプリントのジョブで、RIP後のラスター画像に対して色補正が行われます。DeviceN画像やSeparationカラースペースの画像オブジェクトがある場合に、これらのオブジェクトにも色補正を適用できます。

補足

RGB 画像、および CIE 画像の色補正は適切に行われません。RGB 画像、および CIE 画像に対しても適切な色補正をする場合は、印刷環境用の RGB 出力プロファイルを登録して使用してください。

● 画像/文字

ユーザー調整

プリントするときに使用する画像 / 文字用のユーザー調整カーブを［しない］、または［＊］（＊は 1 ～ 100）から選択します。［しない］以外の場合は、［編集］をクリックすると、ユーザー調整カーブを編集できます。

リスト（1 ～ 100）には、Print Serverで割り当てた調整ファイル名が表示されます。

補足　ビルドジョブの場合、［編集］は表示されません。

参照　ユーザー調整カーブの割り当てについては、「2.6　ユーザー調整カーブを設定する」（P.95）を参照してください。

濃度調整

プリントするときに使用する画像 / 文字用の濃度調整カーブを［しない］、または［＊］（＊は 1 ～ 100）から選択します。

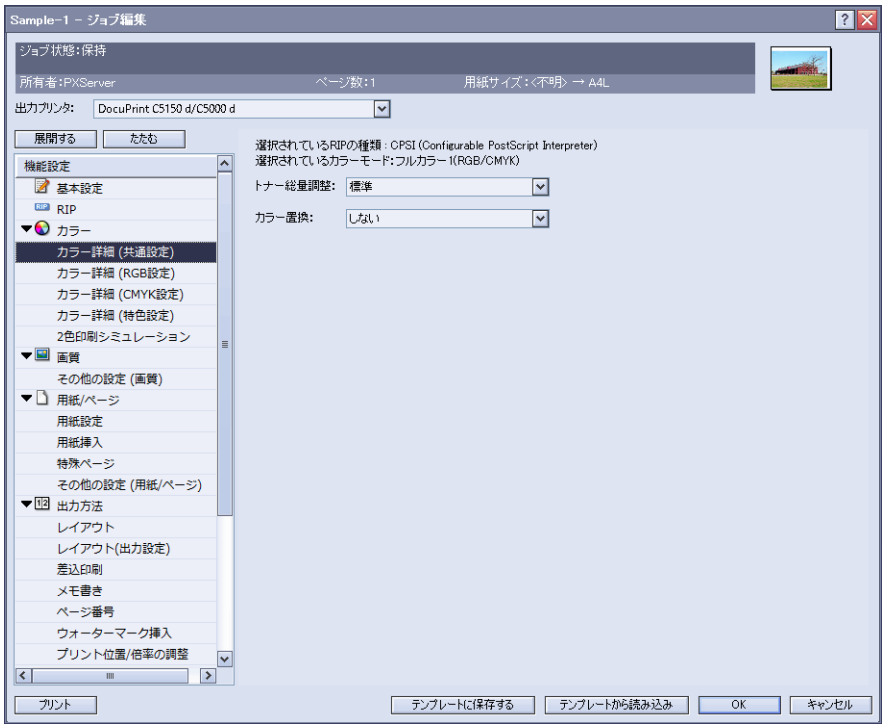
1 ～ 100には、Print Serverで割り当てた調整ファイル名が表示されます。

参照　濃度調整カーブの割り当てについては、「2.7　濃度調整カーブを設定する」（P.99）を参照してください。

● 明るさ調整

出力画像全体の明るさを［暗く（-5）］～［明るく（+5）］の 11 段階から選択します。

カラー詳細（共通設定）



- **トナー総量調整**

  シャドウ部のトナー量の制限を［標準］～［薄く（-5)］の6項目から選択します。

- **カラー置換**

  ジョブ内に使用されている色とは別の色でプリントする（色を置き換える）ことができます。

  ジョブ内の特定のRGB、CMYK値を特定のCMYK、または特色に変換するカラー置換設定ファイルを［しない］、または［＊］（＊は1～100）から選択します。

  ［カラーモード］が［フルカラー 1（RGB/CMYK)］の場合に選択します。

  リスト（1～100）には、Print Serverで割り当てた設定ファイル名が表示されます。

  参照 設定ファイルの割り当てについては、「2.9 カラーを置き換える」(P.112) を参照してください。

カラー詳細（RGB設定）



■RGB色補正

ファイル中のRGB画像に対して、色補正するモードを選択します。

・しない　　・する　　・sRGB

・AdobeRGB（1998）　　・＊（＊は1～100）

［する］の場合は、［RGBガンマ補正］と［RGBホワイトポイント］、［1］～［100］の場合は、［RGBガンマ補正］を設定します。

［カラーモード］が［フルカラー 1（RGB/CMYK)］の場合に選択します。

リスト（1～100）には、Print Serverで割り当てたプロファイル名が表示されます。

補足

・［しない］にして、［画質］＞［その他の設定（画質)］＞［RGBグレーをKに置換］＞［する］でプリントすると、以下のようになります。
- RGBグレーファイルは、白黒でプリントされます。
- 色補正プロファイル（ICCプロファイルなど）を含んだグレースケールのファイルは、カラーでプリントされることがあります。

・グレースケールのファイルを［しない］にしても、アプリケーションでトンボなどを付けてプリントすると、カラーでプリントされます。また、［出力方法］＞［メモ書き］＞［メモ書きの種類］を［カラーパッチ］にした場合もカラーでプリントされます。

・アプリケーションによっては、［しない］にしてプリントしても、RGB画像に対して、［RGB出力インテント］の設定が反映されることがあります。

・［写真画質の自動補正］にチェックマークを付けると、［カラー］＞［ラスター色補正モード］は無効になります。
そのため、RGB ではない DeviceN、Separation カラースペースのオブジェクトの色が変わることがあります。

参照　RGB 色補正プロファイルの割り当てについては、「2.3.1 RGB 色補正プロファイルの設定」（P.78）を参照してください。

● RGBガンマ補正

モニターの表示にプリントの色を近づけるため、モニターの明るさの状態を選択します。

・デフォルト　・より明るい（1.0）　・明るい（1.4）　・ふつう（1.8）
・暗い（2.2）　・より暗い（2.6）

RGB、またはCIE RGB画像に対してガンマ調整されます。

［カラーモード］が［フルカラー 1（RGB/CMYK)］、［RGB色補正］が［する］、または［1］～［100］の場合に選択できます。

補足
・［RGB色補正］が［する］の場合、［デフォルト］にすると［ふつう（1.8)］が適用されます。
・［RGB色補正］が［1］～［100］の場合、［デフォルト］にするとユーザープロファイルのガンマ設定が適用されます。

● RGBホワイトポイント

モニターの表示色とプリントの色を近づけるため、モニターのホワイトポイントを選択します。

［カラーモード］が［フルカラー 1（RGB/CMYK)］、［RGB色補正］が［する］の場合に選択できます。

● やや黄色い（D50 Proofing）

モニターの皮膚の色や赤の色調が実際の色より黄色に近すぎたり、青が紫に近すぎたり、または緑色が黄色に近すぎたりして見える場合に選択します。

● ふつう（D65）

● やや青い（9300）

モニターの皮膚の色や赤の色調が実際の色よりマゼンタに近すぎたり、空色などの青がシアンに近すぎたり、または緑色が濃すぎたりして見える場合に選択します。

■ 写真画質の自動補正

チェックマークを付けると、プリントするページ内の写真画像が設定した特性に応じて自動で補正されます。

［カラーモード］が［フルカラー 1（RGB/CMYK)］、［RGB色補正］が［sRGB］の場合に選択します。

● 写真の種類

［写真画質の自動補正］にチェックマークを付けたときは、種類を選択します。

● 標準

写真画像が明度やコントラスト、および彩度に応じて自動で補正されます。

● 人物

標準よりも明るめに補正されます。暗めに撮影された写真画像を明るく補正する場合に適しています。

● 風景

標準よりも鮮やかさを重視して補正されます。

● 現場写真

標準よりもコントラストを重視した補正を行います。画像内にある文字を強調してプリントする場合に適しています。

● 分割画像を合成

オフィスアプリケーションのファイルでは、ファイル内の1つの画像が分割されて、データが送信されることがあります。この場合、チェックマークが付いていると、分割された画像が合成されて（1つの画像として)、写真画質の自動補正が行われます。

ただし、2つの重なっている画像も、1つの画像として扱われるため、個々の画像に最適な補正が行われないことがあります。この場合、チェックマークを外します。

● 自動ホワイトバランス調整

チェックマークを付けると、ホワイトバランスが自動で調整されます。

ただし、補正が強すぎて写真の色調が変わりすぎてしまうことがあります。この場合、チェックマークを外します。

- **人肌補正**

  デフォルト：［写真の種類］で［標準］、［風景］、［現場写真］を選択した場合はチェックマークなし
  ［写真の種類］で［人物］を選択した場合はチェックマークあり

  チェックマークを付けると、写真の中に人肌の部分が多い場合に、人肌部分を重視した補正に切り替わります。

  チェックマークを外すと、全体の色調を重視した補正になります。

- **明度**

  写真の明度を［暗く（-3)］～［明るく（+3)］の7段階から選択します。

- **コントラスト**

  写真のコントラストを［弱く（-3)］～［強く（+3)］の7段階から選択します。

- **彩度**

  写真の彩度を［低く（-3)］～［高く（+3)］の7段階から選択します。

■RGB出力プロファイル

ファイル中のRGB、CIEbased、L*a*b*、およびXYZなどの画像の色変換用のRGB出力プロファイルを［デフォルト］、または［＊］（＊は1～100）から選択します。

リスト（1～100）には、Print Serverで割り当てたプロファイル名が表示されます。

補足

・［カラーモード］が［グレースケール（K)］の場合、読み込んだRGB出力プロファイルを適用すると、プロセスカラーでプリントされます。

・Photoshopで［ポストスクリプトカラーマネージメント］をオンにしたCMYKデータやプロファイルを埋め込んだCMYKデータはCIEカラー扱いになり、RGB出力プロファイルの設定が適用されます。

参照　RGB出力プロファイルの割り当てについては、「2.3.2 RGB出力プロファイルの設定」（P.81）を参照してください。

■RGB出力インテント

［RGB出力プロファイル］で設定したユーザープロファイルで使用する、変換モードを選択します。

- **パーセプチャル**

  カラー画像の全体的なバランスをとりながら処理されます。

- **サチュレーション**

  カラー画像の色相や彩度のバランスをとりながら再現できるように処理されます。

- **相対カラリメトリック**

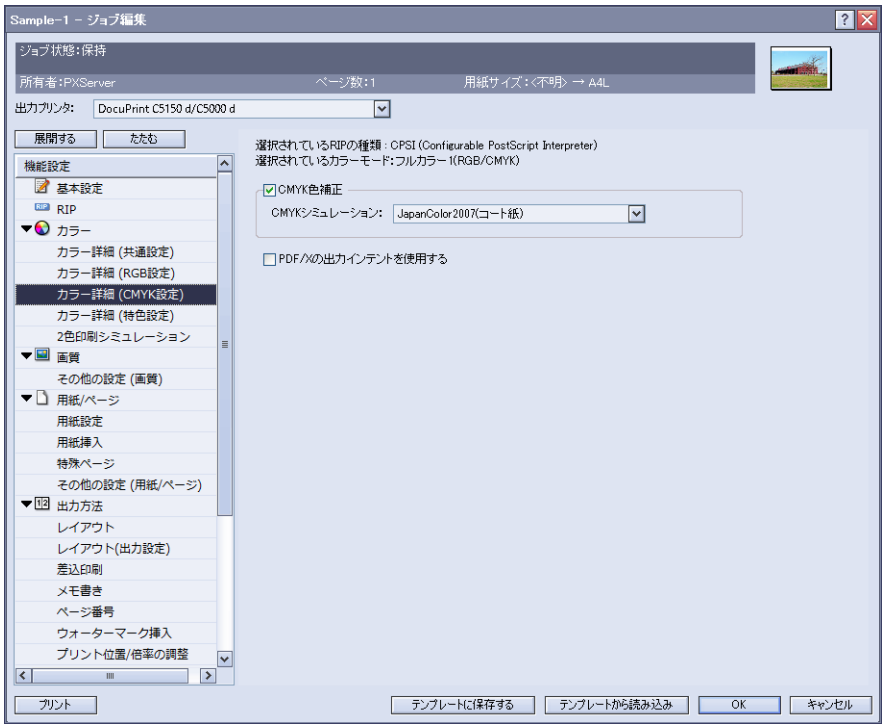
  再現できる色領域は色を一致させ、異なる色領域のためにプリンターで再現できない色については、もっとも近い色に再現できるように処理されます。

- **絶対カラリメトリック**

  入力データの白と、用紙の白の調整を行いません。

  適用するICCプロファイルによっては、白いデータ部分でも、色が付いてプリントされることがあります。

カラー詳細（CMYK設定）



■CMYK色補正

チェックマークを付けると、[CMYKシミュレーション]でプロファイルを選択できます。ファイル中のCMYK画像に対しての色補正を設定します。

- **CMYKシミュレーション**

  プリントするときに使用するプロファイルを選択します。

  [CMYK色補正]にチェックマークを付けた場合に選択します。

  - **カラープロファイル**

    参照 カラープロファイルについては、「用意されているカラープロファイル」（P.86）を参照してください。

  - **＊（＊は1～100）**

    リスト（1～100）には、Print Serverで割り当てたプロファイル名が表示されます。

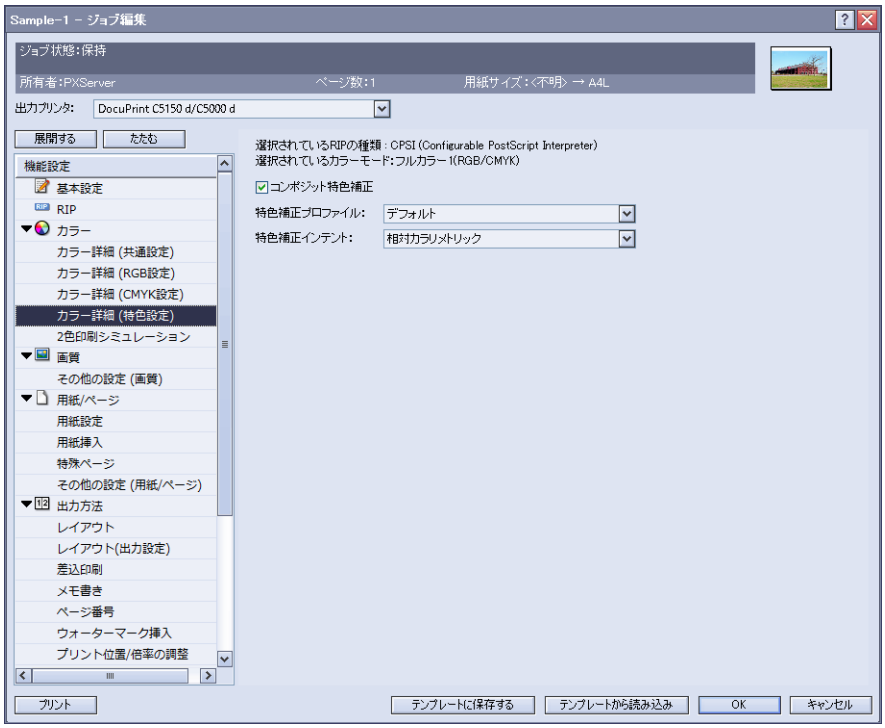
    参照 CMYK プロファイルの割り当てについては、「2.4.3 CMYK プロファイルの設定」（P.91）を参照してください。

■PDF/Xの出力インテントを使用する

チェックマークを付けると、処理対象の PDF ファイルに出力インテントの指定がある場合、その指定を適用してプリントされます。([CMYKシミュレーション]の設定は無効になります)

[カラーモード]が[フルカラー 1（RGB/CMYK)]の場合に選択します。

カラー詳細（特色設定）



● コンポジット特色補正

チェックマークを付けると、コンポジットのジョブの場合に、アプリケーションで使用している特色インキとプリントの色に近づけます。

チェックマークを外すと、アプリケーションに内蔵されているCMYK値でプリントされます。

登録した特色がPrint Serverに登録されていない場合は、「特色未登録エラー」が発生します。対応している特色は、DIC、TOYO、PANTONEです。

補足

・コンポジット特色補正は、分版ジョブには影響しません。分版合成プリントで特色版が含まれる場合は、［画質］＞［その他の設定（画質）］＞［色分版の合成］を［自動］にしてください。特色版の分版合成が行われるとともに、コンポジット特色補正と同様の色補正処理が行われます。

・PhotoshopのダブルトーンのEPSファイルをQuarkXPressなどのアプリケーションのレイアウトに配置すると、QuarkXPress からのコンポジットプリントでは CIE カラーでプリントされるので、コンポジット特色補正は適用されません。QuarkXPress から分版プリントを行うと、特色版でプリントされるので、分版合成プリントの特色版合成機能によって、特色補正が適用されます。

● 特色補正プロファイル

特色を補正するプロファイルを選択します。

- **デフォルト**
- **RGB出力プロファイルを使用する**
- **＊（＊は1～100）**

リスト（1～100）には、Print Serverで割り当てたプロファイル名が表示されます。

参照　特色補正プロファイルの割り当てについては、「2.5　特色補正プロファイルを設定する」（P.93）を参照してください。

● 特色補正インテント

［特色補正プロファイル］で設定したユーザープロファイルで使用する、変換モードを選択します。

- **パーセプチャル**

カラー画像の全体的なバランスをとりながら処理されます。

- **サチュレーション**
  カラー画像の色相や彩度のバランスをとりながら再現できるように処理されます。
- **相対カラリメトリック**
  再現できる色領域は色を一致させ、異なる色領域のためにプリンターで再現できない色については、もっとも近い色に再現できるように処理されます。
- **絶対カラリメトリック**
  入力データの白と、用紙の白の調整を行いません。
  適用するICCプロファイルによっては、白いデータ部分でも、色が付いてプリントされることがあります。

2色印刷シミュレーション

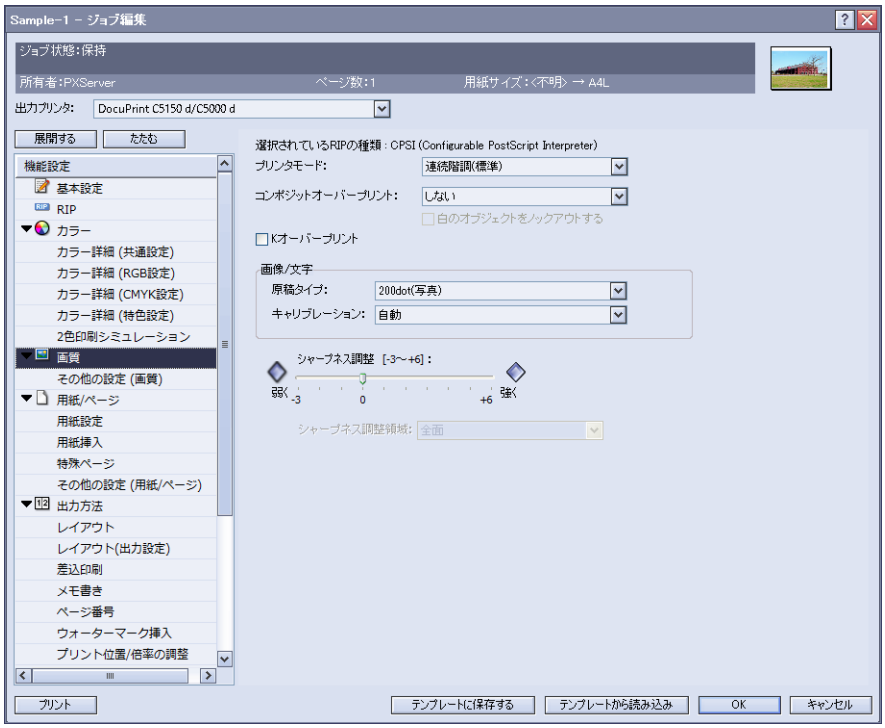
参照 2色印刷のシミュレーションについては、「1.1.2 2色印刷シミュレーション」（P.16）を参照してください。

4.1.5　画質

原稿タイプや各種警告機能などの設定が表示されます。
［カラー］＞［カラーモード］の設定によって、設定できる項目が異なります。以下の表を参照してください。

○：設定できる項目
△：設定できるが、無効になる項目

項目		フルカラー 1	グレースケール
プリンタモード		○	○
コンポジットオーバープリント		○	△
	白のオブジェクトをノックアウトする	○	○
Kオーバープリント		○	○
画像/文字	原稿タイプ	○	○
	キャリブレーション	○	○
シャープネス調整		○	○
その他の設定（画質）	色分版の合成	○	△
	特色透過率	○	△
	トラッピングの自動処理	○	△
	トラップ指定を無視する	○	△
	Image Enhancement/白抜き文字の強調	○	○
	スムージング	○	○
	EPS（JPEG圧縮）のカラー出力	○	○
	画像品質	○	○
	細線調整	○	○
	グラデーション	○	○
	RGB黒をKに置換	○	○
	RGBグレーをKに置換	○	○



- **プリンタモード**

  RIP処理、およびプリント時の解像度（dpi）を選択します。

  解像度を高くすると、RIPの処理に時間がかかります。

  - **連続階調（標準）**

    600 dpi/8 bitでRIP処理、プリントされます。

  - **連続階調（アンチエイリアス）**

    文字や図形の斜めの線がジャギーになるのを目立たせないように、エッジ部分を補正してプリントされます。

    1,200 dpiでRIP処理後、600 dpiに解像度が変換されてプリントされます。

- **コンポジットオーバープリント**

  アプリケーションで設定した「オーバープリント」指定（「ノセ」指定）を有効にしてプリントされます。

  分版のオーバープリントとは異なり、DeviceCMYKの図形や文字に有効で、DeviceRGB/CIEカラーオブジェクトに対しては無効です。

  - **しない**

    CPSI ジョブの場合、DeviceCMYK 画像はオーバープリントされません。ただし、DeviceN 画像やSeparationカラースペースの画像オブジェクトがある場合に、アプリケーションの「オーバープリント」指定（「ノセ」指定）を設定した場合は、オーバープリントされます。

    APPEジョブの場合、すべてのオブジェクトに対して、オーバープリントされません。

補足

- ［しない］を選択しても、アプリケーションからのDeviceNのオブジェクトはオーバープリントされます。DeviceNを含むすべてのオブジェクトのオーバープリント指定を無効にするには、［アプリケーションの指定を無視］を選択してください。
- CPSIジョブで［しない］を選択すると、「オーバープリント」が指定されているオブジェクトはノックアウトされます。
- PDF を CPSI ジョブでプリントすると、［しない］を選択していても、透明効果が指定されたDeviceCMYKオブジェクトはオーバープリント処理されます。これは、CPSIでの処理時にDeviceCMYKをDeviceNに変換しているためです。
- PDFをCPSIジョブでプリントすると、特色オブジェクトの上にオーバープリントしている場合は、［しない］を選択すると正しくプリントされないことがあります。この場合、［しない］以外を選択してください。

- **簡易**

  プロセスカラーのオーバープリント指定のオブジェクトがオーバープリントされます。その他の項目を選択した場合よりも高速でプリントできます。

  CMYK色補正はRIP中にオブジェクトごとに行われ、RIP後のラスターに対しては行われません。

  補足　［簡易］の場合は、重なり部分の色処理が個々のオブジェクトを別々に色処理後に合成した結果になります。また、地色に色が付くプロファイルを使用しても地色に色は付きません。

- **プロセスカラー**

  プロセスカラーのオーバープリント指定のオブジェクトがオーバープリントされます。

- **プロセスカラー＋特色**

  プロセスカラーと特色のオーバープリント指定のオブジェクトがオーバープリントされます。

  補足　APPEジョブの場合、［プロセスカラー］を選択しても、［プロセスカラー＋特色］を選択した場合と同じようにオーバープリント処理されます。

- **アプリケーションの指定を無視**

  コンポジットでオーバープリント指定できるアプリケーション（Illustratorなど）で作成し、オーバープリント指定したデータに対して、オーバープリント指定が無効になってプリントされます。

  分版プリント時は無効です。

白のオブジェクトをノックアウトする

チェックマークを付けると、［コンポジットオーバープリント］で［簡易］、［プロセスカラー］、または［プロセスカラー＋特色］が選択されていても、白色のオブジェクトだけはノックアウトされます。

- **Kオーバープリント**

  チェックマークを付けると、ブラック100%で文字やグラフィックがプリントされます。

  チェックマークを外すと、抜き合わせでプリントされます。

  補足　・この機能は、フォントや線などに有効であり、イメージには無効です。
  ・チェックマークを付けて、K（100%）を含む QuickDraw パターンをプリントすると、エラーになります。この場合、チェックマークを外してください。

- **画像/文字**

原稿タイプ

画像/文字の出力スクリーン線数を選択します。

・150dot　・200dot（写真）　・300dot（地図）

キャリブレーション

画像/文字用のキャリブレーションファイルを［自動］、または［＊］（＊は1～100）から選択します。

リスト（1～100）には、キャリブレーション作成時や［カラー調整ファイルの管理］ダイアログボックスで、該当番号に割り当てたキャリブレーションファイル名が表示されます。

補足　［自動］の場合、キャリブレーション作成時や［キャリブレーショントップメニュー］ダイアログボックスの［割り当て］で、トレイと原稿タイプに割り当てられたキャリブレーションファイルが使用されます。

参照　キャリブレーションファイルの割り当てについては、「カラー調整ファイルの管理でのキャリブレーションファイルの割り当て」（P.62）を参照してください。

- **シャープネス調整**

  シャープネスを［弱く（-3）］～［強く（+6）］の10段階から選択します。

シャープネス調整領域

シャープネス調整を適用する領域を選択します。

補足　文字や線画が画像として認識されている場合、［画像のみ］を選択するとシャープネス調整が適用されます。

その他の設定（画質）



● 色分版の合成

参照 色分版の合成については、「1.1.1 分版出力の合成（色分版の合成）」（P.14）を参照してください。

● 特色透過率

分版プリント時、または［コンポジットオーバープリント］が［プロセスカラー＋特色］の場合に選択します。

・不透明　・半透明　・透明

特色インキの透明度を選択すると、特色と重なった部分のカラーマッチング精度を向上させます。

● トラッピングの自動処理

［する］の場合、アプリケーションにトラッピング機能がない場合でも、文字や図形に対して自動でトラッピング処理が行われます。

補足
- この機能はオプションです。DTP 機能拡張キットのライセンスを設定していない場合、トラッピングの自動処理はできません。ライセンスの設定については、『ユーザーズガイド 導入編』の「1.5.2 ServerManagerの環境設定」の「ライセンスの設定」を参照してください。
- トラッピングの自動処理は、製版時のトラッピングをシミュレーションする機能ではありません。プリントの図形や文字の重なり部分に白い隙間が目立つ場合に、プリントの見栄えを向上させるための機能です。
- ［カラー］＞［カラーモード］が［グレースケール（K）］の場合は無効です。
- 分版合成ジョブに対しては無効です。
- 差込印刷のフォームとデータの重なり合いへのトラッピング処理は行われません。
- スムージング処理は、トラッピング処理の結果に対して行われます。
- メモ書き機能で印字されるカラーパッチやコメントがイメージの上に描画される場合にも、カラーパッチやコメントがトラッピングされます。
- Mac OS X の特定のアプリケーション（QuarkXPress など）からのプリントで、トラッピングされないことがあります。これは、アプリケーションが設定したPostScriptの値に従ってオーバープリントされているためです。トラッピングさせる場合（オーバープリントさせない場合）は、［コンポジットオーバープリント］で［アプリケーションの指定を無視］を選択してください。（［しない］では、解決しません）

- **トラップ指定を無視する**

  ［する］の場合、トラップ指定が無効になってプリントされます。

- **Image Enhancement/白抜き文字の強調**

  画像のエンハンス処理を選択します。通常は、［Image Enhancement］を選択します。

  補足　［Image Enhancement/白抜き文字の強調］は、Raster Image Viewerのプレビューエリアにも反映されます。

  - **Image Enhancement**

    K100%の文字や図形のエッジが滑らかにプリントされます。

  - **白抜き文字の強調**

    白抜き文字のエッジのトナー量を調節して、白抜き部分への流れ込みが少なくなります。K100%の文字や線画の太りを抑えられます。

  - **しない**

    黒のグラデーションで99～100%の部分に段差が目立つ場合や、ユーザー調整カーブや濃度調整カーブでK100%の濃度が下げられてプリントされます。

- **スムージング**

  ［する］の場合、Kの線や文字にアンチエイリアス効果がかかります。

  補足　・この機能は、［プリンタモード］が［連続階調（標準）］の場合に有効です。
  ・［Image Enhancement/ 白抜き文字の強調］を［Image Enhancement］にして文字や線の輪郭の品質を向上させる場合は、スムージングを［しない］にしてください。［Image Enhancement/白抜き文字の強調］が［しない］のとき、文字や線の輪郭をなめらかに見せる場合は、スムージングを［する］にしてください。

- **EPS（JPEG圧縮）のカラー出力**

  ［する］の場合、EPS（JPEG圧縮）ファイルがカラーでプリントされます。

  分版合成時、または［コンポジットオーバープリント］を［プロセスカラー］、または［プロセスカラー＋特色］にした場合に有効です。

- **画像品質**

  入力データの画像をプリントするために、拡大する場合の補間方法を切り替えます。画像の品質を選択します。

  補足　インターネットからのダウンロード画像など、低解像度の画像を使用している場合に有効です。解像度が200 dpi以下の画像を含まない場合は、［標準］を選択することをお勧めします。

- **細線調整**

  データに含まれる細線の線幅と間隔の調整方法を選択します。

  ・アプリケーション設定に従う　・しない　・する

- **グラデーション**

  グラデーションの品質を選択します。

  補足　入力されたファイルにPostScript Level2 でのグラデーション記述が存在している場合は、PostScript Level3での記述に置き換えることで、グラデーション品質を向上させます。プリントエラーなどのトラブルが発生しない限り、［高品位］にしてください。

- **RGB黒をKに置換**

  デフォルト：Macintoshクライアント：しない、Windowsクライアント：する

  ［する］の場合、RGB黒がブラック100%に置き換えてプリントされます。RGBモードで作られたCMYK混色の黒を純粋な黒トナー（C=M=Y=0%、K=100%）に置き換えてプリントするので、ぼやけて見えるCMYK混色の黒をKだけのはっきりとした黒にできます。

  補足　この機能は、フォントや線などに有効であり、イメージには無効です。

● RGBグレーをKに置換

デフォルト：Macintoshクライアント：しない、Windowsクライアント：する

［する］の場合、RGB グレーが K 単色のグレーに置き換えてプリントされます。RGB モードで作られた CMYK 混色のグレーを純粋な黒トナー（C=M=Y=0%、K= * %）に置き換えてプリントするので、ぼやけて見える CMYK 混色のグレーをKだけのはっきりとしたグレーにできます。

補足
- この機能は、フォントや線などに有効であり、イメージには無効です。
- ［する］にして、［カラー］＞［カラー詳細（RGB設定）］＞［RGB色補正］＞［しない］でプリントすると、以下のようになります。
  - RGBグレーファイルは白黒でプリントされます。
  - 色補正プロファイル（ICCプロファイルなど）を含んだグレースケールのファイルは、カラーでプリントされることがあります。

● ノイズの軽減

写真の青空部分や人肌のざらつきをなくしたり、グラデーションの階調段差の目立つ箇所が補正されます。

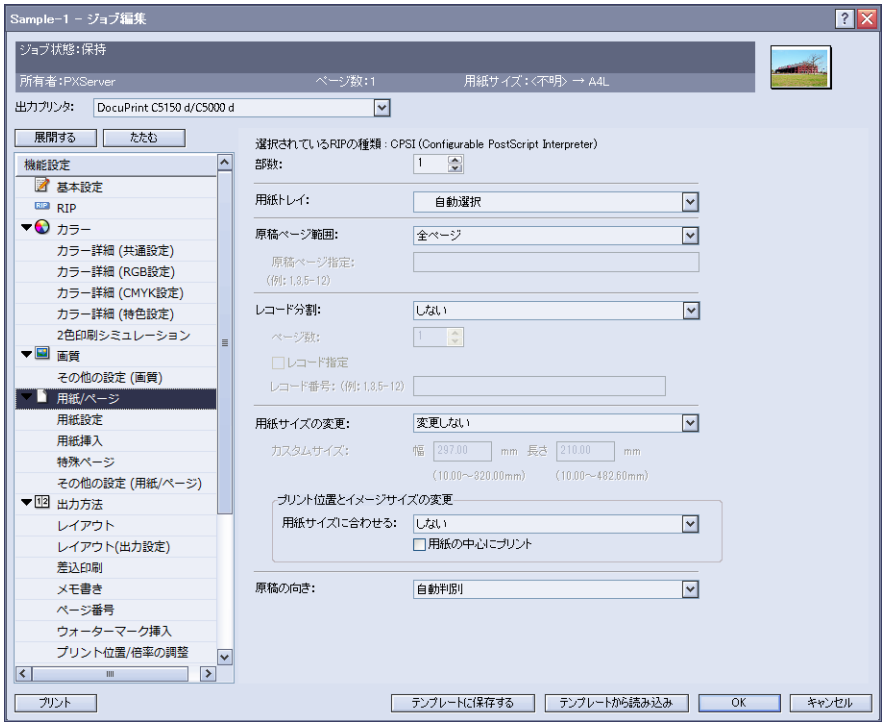
補正箇所を選択します。

・しない　・全面　・写真のみ

補足
- 大きいグラデーションの階調段差はエッジと判定され、処理されないため、画像によっては変化がないことがあります。
- ［カラー］＞［カラーモード］が［グレースケール（K)］の場合は無効です。

4.1.6 用紙/ページ

部数や用紙サイズなど、ページ設定の情報が表示されます。



● 部数

プリントする部数を入力します。入力範囲は、1～999です。

補足
DropUtility、または WebManager からのアップロードプリントで、［ファイル中の設定またはサーバーの設定を使う］を設定しても、送信するファイル内で［部数］が設定されていない PostScript ファイルなど、ファイルによっては、Print Server のプリントオプションテンプレートの［部数］で設定した値は反映されません。

部数を指定する

PostScript ファイルで指定した部数が無効になって、プリントオプションで指定した部数でプリントされます。

補足　PostScriptファイルの場合にだけ表示されます。

● 用紙トレイ

プリントする用紙のある用紙トレイを選択します。

・自動選択　・トレイ１　・トレイ２　・トレイ３
・トレイ４　・トレイ６　・手差しトレイ

補足　［自動選択］を選択した場合の注意事項

・選択される用紙トレイの優先順位は、以下のとおりです。また、空のトレイは、優先順位が最下位になります。
トレイ１＞トレイ２＞トレイ３＞トレイ４＞トレイ６
・プリントオプションで用紙サイズと用紙種類を設定している場合は、設定が一致するトレイから給紙されます。
・選択した用紙サイズのトレイが装着、またはセットされていないとき、用紙サイズが代用されない場合は、RIP処理を中止し、エラージョブとして処理されます。
・用紙サイズを設定していない場合は、プリントオプションテンプレートの設定の［用紙サイズ］が適用されます。
・［トレイ２］、［トレイ３］、［トレイ４］は、３トレイモジュール（オプション）が装着されている場合に表示されます。
・［トレイ６］は、大容量給紙トレイ１段（オプション）が装着されている場合に表示されます。

● 原稿ページ範囲

原稿のページ範囲を選択します。

・全ページ　・奇数ページ　・偶数ページ　・原稿ページ指定

補足　先頭ページを含まない設定をしたジョブは、［特殊ページ］＞［合紙と例外ページ］＞［合紙］＞［挿入位置］で、［先頭］を選択しても、先頭に合紙は挿入されません。

原稿ページ指定

［原稿ページ範囲］が［原稿ページ指定］の場合は、ページ範囲を入力します。

ページの区切りはカンマ「,」で、連続したページはハイフン「-」で入力します。「-5」は「１～５ページまで」、「5-」は「５ページ以降」です。

● レコード分割

ジョブがレコード単位で扱われます。

● しない

レコード分割をしません。

● ページ数を指定

入力されたページ数ごとに区切り、レコードで分割します。

総ページ数に対して、入力されたページ数で割り切れない場合は、最後の端数ページが１つのレコードとして扱われます。

総ページ数に対して、入力されたページ数が同数以上の場合は、レコード分割されません。

● 入力ファイルから取得

［差し込み印刷］が設定されているジョブにだけ有効で、その他のジョブで設定した場合は、エラージョブになります。

［差し込み印刷］が設定されているジョブの場合、［差し込み印刷］で設定されているフォームのページ数ごとに分割して排出されます。

レコード区切り情報が抽出できなかった場合は、ジョブはエラーになり、エラーリストに移動します。

ページ数

［レコード分割］が［ページ数を指定］の場合は、1レコードのページ数を入力します。入力範囲は、1～9,999です。

補足 ［レコード分割］が［入力ファイルから取得］の場合は、取得したページ数が表示されます。

レコード指定

出力するレコードの範囲を指定する場合にチェックマークを付けます。

レコード番号

［レコード指定］にチェックマークを付けた場合に入力します。

レコードの区切りはカンマ「,」で、連続したレコードはハイフン「-」で入力します。「-5」は「1～5レコードまで」、「5-」は「5レコード以降」です。

● 用紙サイズの変更

用紙サイズを変更するときに選択します。

・変更しない	・A6L	・A6	・A5L
・A5	・A4L	・A4	・A3
・A2L	・B6	・B5L	・B5
・B4	・B3L	・8×10L	・8×10
・8.5×11L	・8.5×11	・8.5×13	・8.5×14
・11×17	・12×18	・SRA3	・はがき
・往復はがき	・4連はがきL	・4連はがき	・封筒長形3号
・封筒角型2号	・封筒C4	・封筒C5	・A6ブックレット
・A5ブックレット	・A4ブックレット	・B6ブックレット	・B5ブックレット
・8.5×11ブックレット	・カスタム		

補足
- ［変更しない］は、クライアントコンピューターでは表示されません。
- A2L、またはB3Lを選択した場合は、1ページ分のイメージが、それぞれA3、またはB4の用紙2枚に分割されてプリントされます。
- ［RIP］＞［RIPの種類］に［APPE］を選択している場合は、分割用紙サイズ（A2L、B3L）ではプリントできません。

カスタムサイズ

［用紙サイズの変更］が［カスタム］の場合は、用紙サイズを入力します。入力範囲は、幅10.00～320.00 mm/長さ10.00～482.60 mmです。

補足
- プリンターで使用できる範囲のサイズを入力してください。
- カスタムサイズの単位は、「長さの単位系」(P.238)で設定します。デフォルトは、[mm]です。

● プリント位置とイメージサイズの変更

用紙サイズに合わせる

プリントするときに用紙サイズに合わせて拡大するか、縮小するかを選択します。

・しない　・拡大縮小　・縮小のみ

補足 ファイルを縮小してプリントすると、ファイルの余白部分にあるデータが正しくプリントされないことがあります。

用紙の中心にプリント

チェックマークを付けると、イメージが用紙の中央に合わせてプリントされます。

補足 グラフィックファイル以外のファイルタイプでは、［用紙サイズに合わせる］を［拡大縮小］、または［縮小のみ］にすると、無効になります。

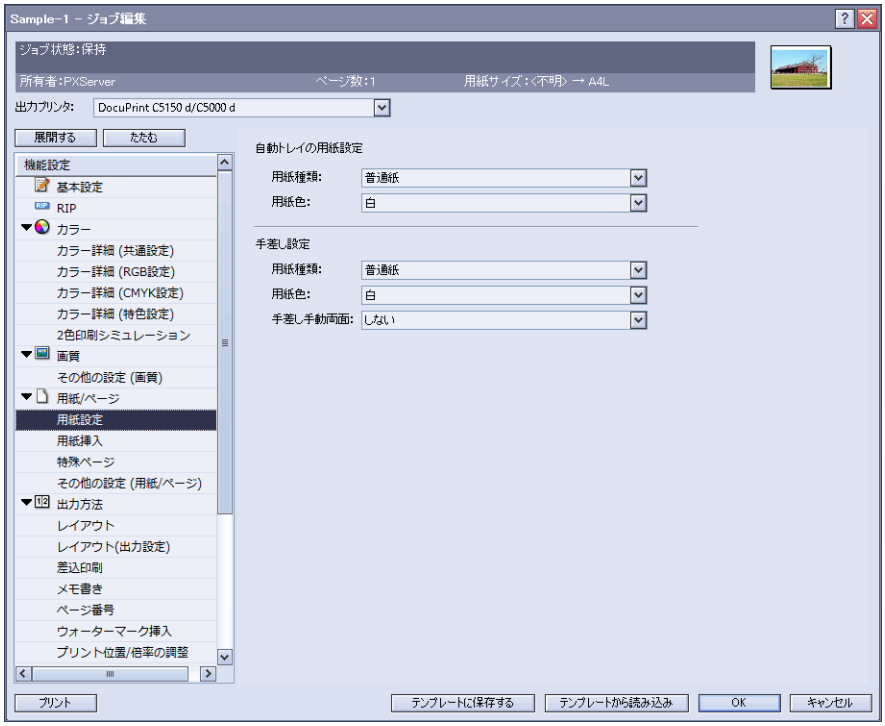
● 原稿の向き

プリントするときの原稿の向きを選択します。［ページ番号］、［ウォーターマーク挿入］、［プリント位置/倍率の調整］の［調整の基準］、［排出/フィニッシング/両面］の［ホチキス］に反映されます。

・自動判別　・たて原稿　・よこ原稿

補足　PostScriptの設定と設定が異なる場合、この設定が優先されます。

用紙設定



■ 自動トレイの用紙設定

自動トレイの用紙設定は、［用紙トレイ］の設定が［自動選択］の場合、ここで設定されている項目と設定が一致する用紙トレイから給紙されます。

● 用紙種類

プリントに使用する用紙の種類を選択します。

・上質紙
・普通紙
・うら紙
・再生紙
・うす紙（55～59g/㎡）
・厚紙1（106～169g/㎡）
・厚紙1（106～169g/㎡）うら面
・厚紙1［A］（106～169g/㎡）
・厚紙1［A］（106～169g/㎡）うら面
・厚紙1［B］（106～169g/㎡）
・厚紙1［B］（106～169g/㎡）うら面
・厚紙1［C］（106～169g/㎡）
・厚紙1［C］（106～169g/㎡）うら面
・厚紙1［S］（106～169g/㎡）
・厚紙1［S］（106～169g/㎡）うら面
・厚紙2（170～256g/㎡）
・厚紙2（170～256g/㎡）うら面
・厚紙2［A］（170～256g/㎡）
・厚紙2［A］（170～256g/㎡）うら面
・厚紙2［B］（170～256g/㎡）
・厚紙2［B］（170～256g/㎡）うら面
・厚紙2［C］（170～256g/㎡）
・厚紙2［C］（170～256g/㎡）うら面
・厚紙2［D］（170～256g/㎡）
・厚紙2［D］（170～256g/㎡）うら面
・厚紙2［S］（170～256g/㎡）

・厚紙2［S］（170～256g/㎡）うら面
・ラベル紙
・コート紙1（106～169g/㎡）うら面
・コート紙2（170～256g/㎡）うら面
・OHPフィルム
・コート紙1（106～169g/㎡）
・コート紙2（170～256g/㎡）
・ユーザー定義1～5

補足　トレイによっては、選択できない用紙種類があります。

● 用紙色

プリントに使用する用紙の色を選択します。

・白　・青　・黄　・緑
・ピンク　・アイボリー　・グレー　・クリーム
・山吹　・赤　・オレンジ　・透明
・ユーザ定義色

■ 手差し設定

● 用紙種類

プリントに使用する用紙の種類を選択します。

・上質紙
・うら紙
・うす紙（55～59g/㎡）
・厚紙1（106～169g/㎡）うら面
・厚紙2（170～256g/㎡）うら面
・厚紙3（257～280g/㎡）うら面
・ラベル紙
・コート紙1（106～169g/㎡）うら面
・コート紙2（170～256g/㎡）うら面
・普通紙
・再生紙
・厚紙1（106～169g/㎡）
・厚紙2（170～256g/㎡）
・厚紙3（257～280g/㎡）
・OHPフィルム
・コート紙1（106～169g/㎡）
・コート紙2（170～256g/㎡）
・ユーザー定義1～5

● 用紙色

プリントに使用する用紙の色を選択します。

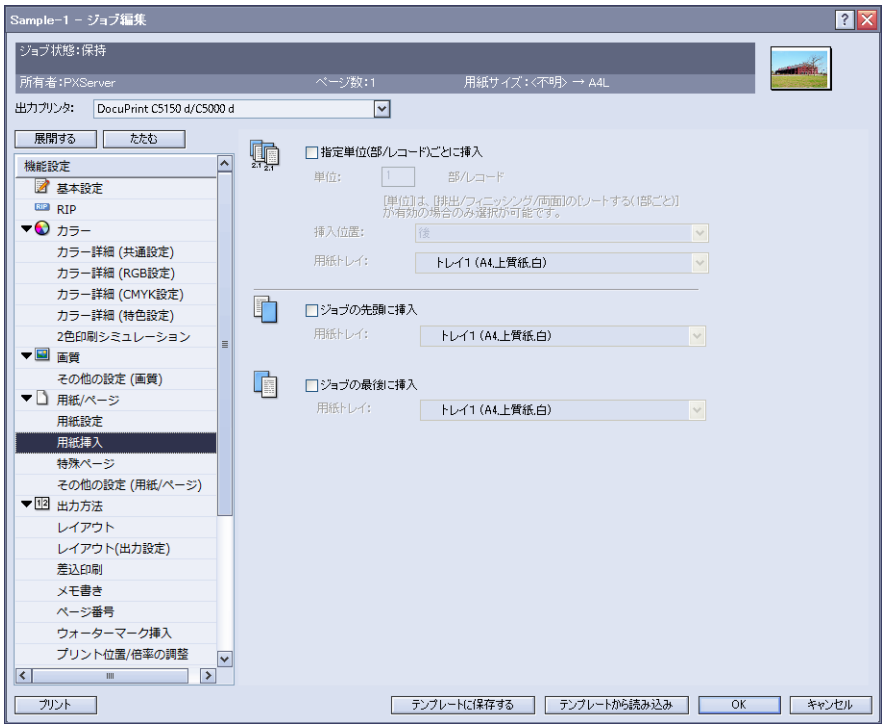
・白　・青　・黄　・緑
・ピンク　・アイボリー　・グレー　・クリーム
・山吹　・赤　・オレンジ　・透明
・ユーザ定義色

● 手差し手動両面

手差しトレイから手動で両面印刷する場合の印字面と、とじ方を設定します。

・しない　・おもて面（長辺とじ）　・おもて面（短辺とじ）
・うら面（長辺とじ）　・うら面（短辺とじ）

用紙挿入



- **指定単位（部/レコード）ごとに挿入**

  チェックマークを付けると、用紙が挿入されてプリントされます。チェックマークを付けたときは、以下の項目を設定します。

  単位

  ジョブを複数プリントするときに、用紙を挿入するタイミングを入力します。

  [排出/フィニッシング/両面] > [ソートする（1部ごと）] にチェックマークを付けた場合は、設定した部数がプリントされるごとに用紙が挿入されます。チェックマークが外れている場合は、ページの切り替わりで用紙が挿入されます。

  [レコード指定] にチェックマークを付けた場合は、レコード単位で用紙が挿入されます。

  挿入位置

  用紙を挿入する位置を選択します。ジョブの [前]、または [後] を選択します。

  用紙トレイ

  挿入用の用紙トレイを選択します。

- **ジョブの先頭に挿入、ジョブの最後に挿入**

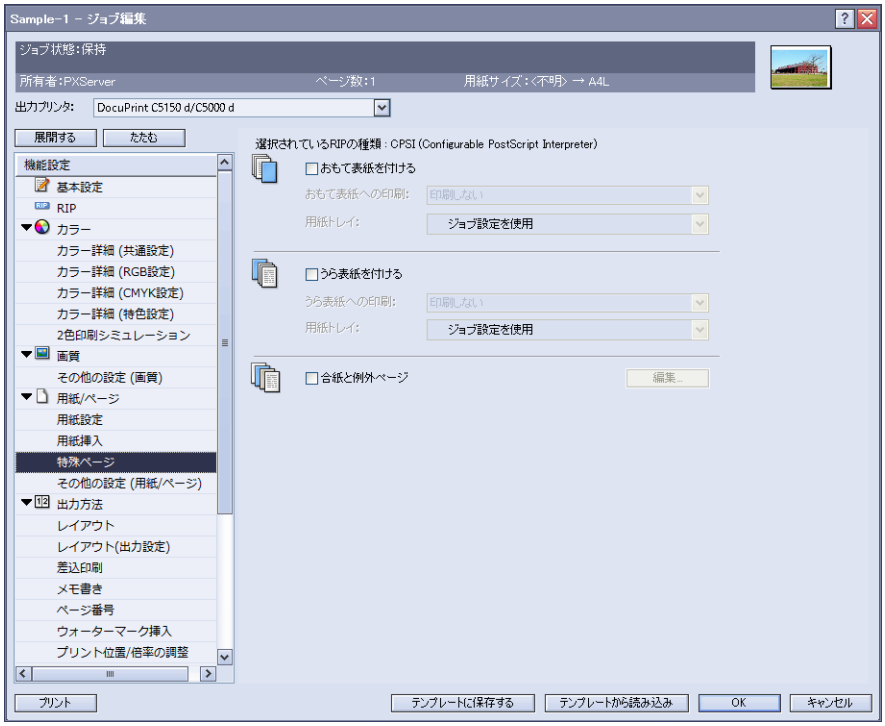
  チェックマークを付けると、ジョブの先頭、または最後に用紙が挿入されます。チェックマークを付けたときは、以下の項目を設定します。

  用紙トレイ

  挿入用の用紙トレイを選択します。

特殊ページ

表紙付け、合紙挿入、例外ページの設定ができます。



補足　この機能は、ブランクシートには適用されません。先頭ページがブランクシートの場合は、次のページに特殊ページの設定が適用されます。

■おもて表紙を付ける

チェックマークを付けると、おもて表紙が使用されます。チェックマークを付けたときは、以下の項目を設定します。

- **おもて表紙への印刷**
  - **印刷しない**
    表紙用の用紙には、ジョブがプリントされません。
  - **内側へ印刷する**
    表紙用の用紙のおもて面には何もプリントされず、うら面にジョブの最初のページがプリントされます。
  - **外側へ印刷する**
    表紙用の用紙のおもて面にジョブの最初のページがプリントされ、うら面には何もプリントされません。
  - **両面に印刷する**
    表紙用の用紙の両面にジョブの最初の2ページがプリントされます。
- **用紙トレイ**
  おもて表紙として使用する用紙トレイを選択します。[ジョブ設定を使用]の場合、ジョブに設定されているトレイが使用されます。

  補足　手差しトレイが選択された場合、用紙サイズはジョブの先頭ページの指定を使用します。ただし、分割出力用の用紙サイズの場合、複数枚がプリントされずに1枚だけプリントされます。

■うら表紙を付ける

チェックマークを付けると、うら表紙が使用されます。チェックマークを付けたときは、以下の項目を設定します。

- うら表紙への印刷
  - 印刷しない
    表紙用の用紙には、ジョブがプリントされません。
  - 内側へ印刷する
    表紙用の用紙のおもて面にジョブの最後のページがプリントされ、うら面には何もプリントされません。
  - 外側へ印刷する
    表紙用の用紙のおもて面には何もプリントされず、うら面にジョブの最後のページがプリントされます。
  - 両面に印刷する
    表紙用の用紙の両面にジョブの最後の2ページがプリントされます。
- 用紙トレイ
  うら表紙として使用する用紙トレイを選択します。[ジョブ設定を使用] の場合、ジョブに設定されているトレイが使用されます。

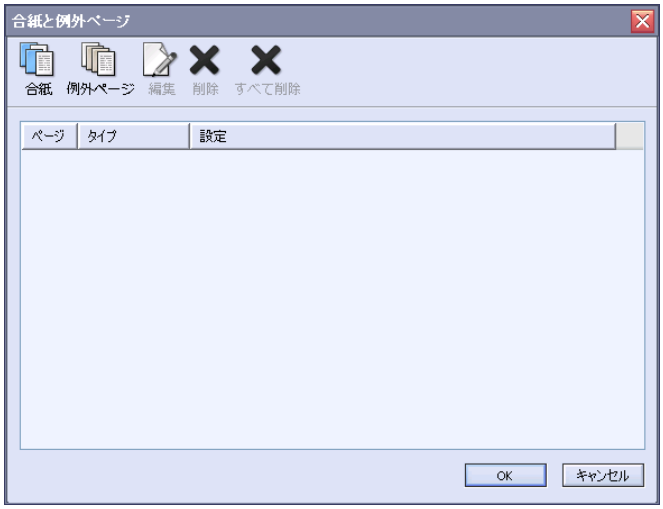
■合紙と例外ページ

チェックマークを付けると、以下の設定ができます。

・合紙

・例外ページ（ジョブの設定とは異なる設定をページ単位に行う）

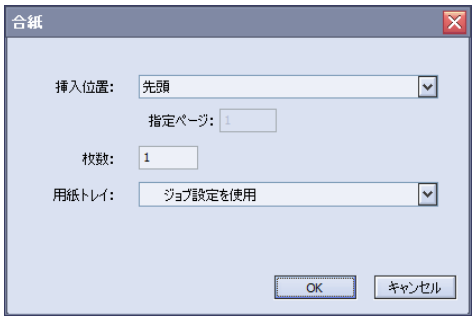
設定を変更する場合は、[編集] をクリックして、[合紙と例外ページ] ダイアログボックスで設定します。



- 合紙
  合紙の設定をします。
- 例外ページ
  例外ページの設定をします。
- 編集
  選択した設定を編集します。
- 削除
  選択した設定が削除されます。
- すべて削除
  すべての設定が削除されます。

[合紙] ダイアログボックス

以下の項目を設定できます。



- 挿入位置

  [先頭]、または［指定位置の後］を選択します。

- 指定ページ

  ［挿入位置］が［指定位置の後］の場合に、合紙を挿入するページを入力します。

- 枚数

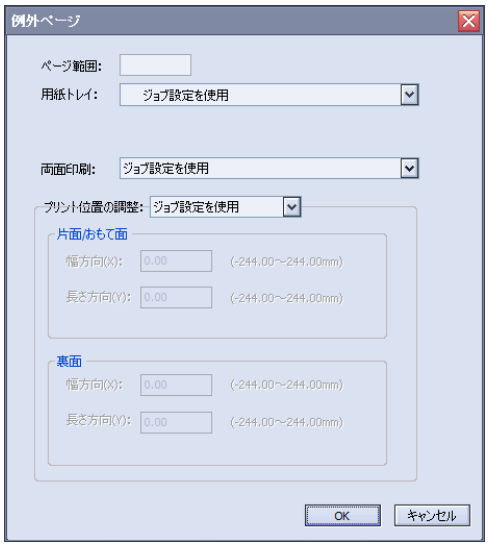
  合紙を挿入する枚数を入力します。入力範囲は、1～999です。

- 用紙トレイ

  合紙として使用する用紙トレイを選択します。[ジョブ設定を使用］の場合、ジョブに設定されているトレイが使用されます。

[例外ページ] ダイアログボックス

以下の項目を設定できます。



- ページ範囲

  例外ページとして扱うページを入力します。

  ページの区切りはカンマ「,」で、連続したページはハイフン「-」で入力します。
  「-5」は「1～5ページまで」、「5-」は「5ページ以降」です。

● 用紙トレイ

例外ページとして使用する用紙トレイを選択します。［ジョブ設定を使用］の場合、ジョブに設定されているトレイが使用されます。

● 両面印刷

・ジョブ設定を使用　・しない　・長辺とじ　・短辺とじ

［ジョブ設定を使用］の場合、ジョブの設定が適用されます。

● プリント位置の調整

・ジョブ設定を使用　・用紙基準　・原稿基準

［ジョブ設定を使用］の場合、ジョブの設定が適用されます。

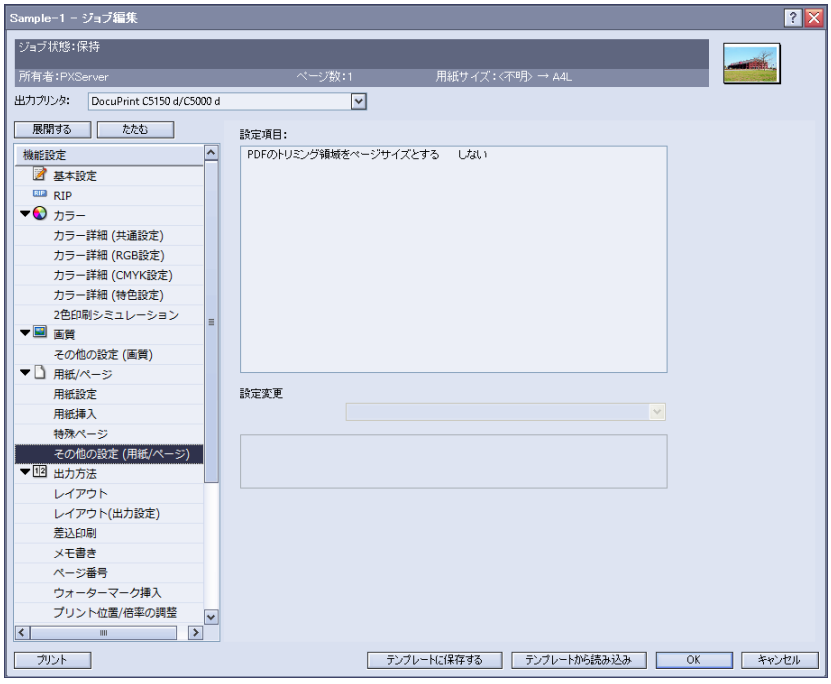
補足　よこ向き原稿の場合、おもて面の移動方向が異なる結果になることがあります。

● 片面/おもて面、裏面

［プリント位置の調整］が［用紙基準］、［原稿基準］の場合は、［幅方向］と［長さ方向］を入力します。入力範囲は、－244.00～＋244.00 mmです。

補足　・［幅方向］と［長さ方向］で入力した値は、プレビューには反映されないことがあります。
・APPEジョブでは、用紙出力に対してマイナス方向となる値を入力しても無効になります。

その他の設定（用紙/ページ）



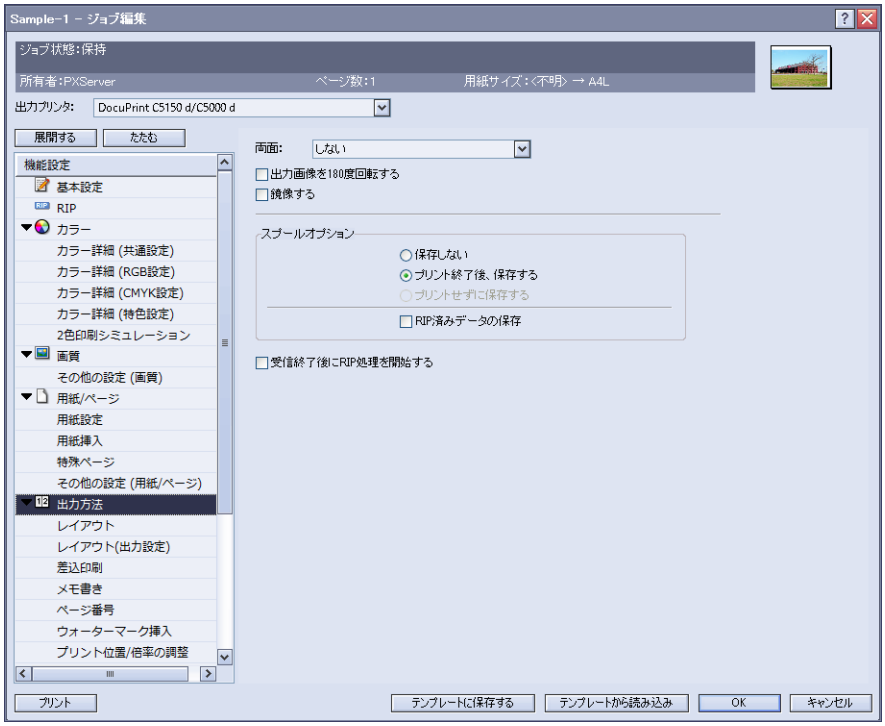
● PDFのトリミング領域をページサイズとする

［する］の場合、PDFのトリミング領域がページサイズになってプリントされます。
［しない］の場合、PDFのページサイズのままプリントされます。

補足　この機能は、［用紙トレイ］が［自動選択］の場合にだけ有効です。

4.1.7　出力方法

スプールやプリントなどに関する設定が表示されます。



- **両面**

  両面印刷の方法を選択します。

  補足　両面印刷を有効にすると、［最終ページから印刷］は無効になります。

  - しない
  - 長辺とじ

    用紙の長辺を軸に、おもて面とうら面にプリントされます。

    たて向き原稿の場合は、おもて面とうら面が同じ方向を上にして両面にプリントされ、よこ向き原稿の場合は、うら面のプリントイメージが180°回転されます。

    補足　［プリント位置/倍率の調整］の設定をしたRIP済みのジョブを、［長辺とじ］に変更した場合、再度RIP処理されます。

  - 短辺とじ

    用紙の短辺を軸に、おもて面とうら面にプリントされます。

    たて向き原稿の場合は、うら面のプリントイメージが 180° 回転され、よこ向き原稿の場合は、おもて面とうら面が同じ方向を上にして両面にプリントされます。

- **出力画像を180度回転する**

  チェックマークを付けると、イメージが180°回転します。

- **鏡像する**

  チェックマークを付けると、イメージが左右方向に鏡像化されます。

- **スプールオプション**

  送信されたジョブのプリント方法を選択します。

  - 保存しない

    プリントしたあと、ジョブが削除されます。

- **プリント終了後、保存する**
  プリントしたあと、Print Serverにジョブが保存されます。
- **プリントせずに保存する**
  プリントしないで、Print Serverにジョブが保存されます。

RIP済みデータの保存

チェックマークを付けると、RIP後のデータがPrint Serverに保存されます。

［スプールオプション］が［プリント終了後、保存する］、または［プリントせずに保存する］の場合にだけ有効です。

補足
- ［スプールオプション］で［保存しない］が選択されていると、RIP 済みデータは保存されません。
- ［RIP　済みデータの保存］と［プリフライト］＞［RIP　後のデータをファイルに保存］＞［TIFFで保存する］、または［PDFで保存する］の両方を選択している場合、TIFF（またはPDF）ファイルだけが作成され、RIP済みデータは作成されません。

- **受信終了後にRIP処理を開始する**

チェックマークを付けると、データをすべて受信し終わってからRIP処理が開始されます。

チェックマークを外すと、受信しながらRIP処理が行われます。

補足　チェックマークが外れている場合、RIP中のほかのデータがあると、そのデータのRIP処理が終わるまで、次のRIP処理は行われません。

レイアウト

小冊子作成、リピートプリントの設定ができます。

参照　レイアウトについては、「1.2.1 小冊子作成」（P.30）、「1.2.3 リピートプリント」（P.36）を参照してください。

レイアウト（出力設定）

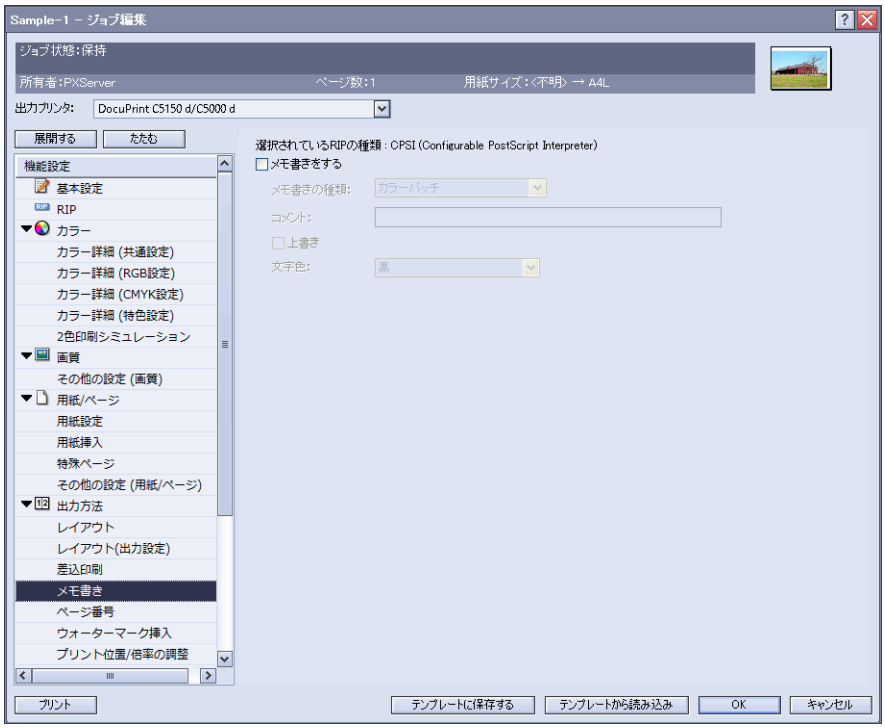
［レイアウト］で、［小冊子］を選択すると設定できます。

参照　レイアウト（出力設定）については、「1.2.1 小冊子作成」（P.30）を参照してください。

差込印刷

参照　差込印刷については、「1.2.4 差込印刷」（P.39）を参照してください。

メモ書き



■ メモ書きをする

チェックマークを付けると、ジョブにカラーパッチやコメントなどを重ねてプリントできます。チェックマークを付けたときは、以下の項目を設定します。

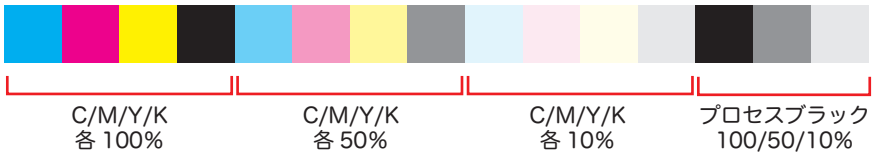
● メモ書きの種類

メモ書きされる種類を選択します。

カラーパッチ

CMYK、およびプロセスブラックについて、100%、50%、10%の3種類、計15パッチが各1×1cmの大きさで印字されます。

■カラーパッチ（1×1cm、計 15 パッチ）



参照 パッチの設定を変更できます。
詳細は、「7.1.10 メモ書きの変更」（P.329）を参照してください。

オプションメモ

プリントオプションの設定がプリントされます。

参照
- メモとして印字する項目は変更できます。
  詳細は、『ユーザーズガイド 導入編』の「1.5.2 ServerManagerの環境設定」の「オプションメモの設定」を参照してください。
- 使用するフォントなどを変更できます。
  詳細は、「7.1.10 メモ書きの変更」（P.329）を参照してください。

コメント

［コメント］に入力した文字列が印字されます。

カスタム＊（＊は1～10）

独自の形式のメモ書きを設定します。

参照　各 PostScript ファイルによってプリントされる要素や設定の方法は、「7.1.10 メモ書きの変更」（P.329）を参照してください。

- CPSIジョブ

「custommemo ＊.ps」（＊は1～10を示す）の各ファイルの設定によって、ジョブごとにRIP開始日時やカンプ番号などの要素がプリントされます。

［カスタム1］を選択してRIPカウンターをメモ書きに出力する場合、複数部数、または複数ページのファイルでは、すべてのページに同じ番号がプリントされます。RIP カウンターの値は、RIP 処理のたびに、また、キャンセル、エラー、およびWindowsからのフォントダウンロードのときにも、カウントアップされます。

この番号は、カンプ番号を想定したものです。複数部のプリントを行い、出力先と遠隔地、または複数部署で校正する場合、編集や修正によるバージョンの不整合が発生しないように、この番号で確認できます。

補足　プリントの向きにかかわらず、RIP開始日時と番号はよこ向きにした用紙の左下角の位置にプリントされます。この位置は、プリンターの特性を考慮して設定されているので、変更はできません。

- APPEジョブ

「custommemo ＊ .pdf」（＊は1 ～ 10を示す）の内容がプリントされます。RIP開始日時やカンプ番号などはプリントされません。

- コメント

［メモ書きの種類］が［コメント］の場合に、印字する文字列を64バイト以内で入力します。

- 上書き

チェックマークを付けると、ジョブの上にメモが重なってプリントされます。

チェックマークを外すと、メモの上にジョブが重なってプリントされます。

補足　APPEジョブでは、常にジョブの上にメモが重なってプリントされます。

- 文字色

メモ書きの文字色を選択します。［メモ書きの種類］が［カラーパッチ］以外の場合に選択します。

・黒	・白	・赤	・緑
・青	・シアン	・マゼンタ	・イエロー

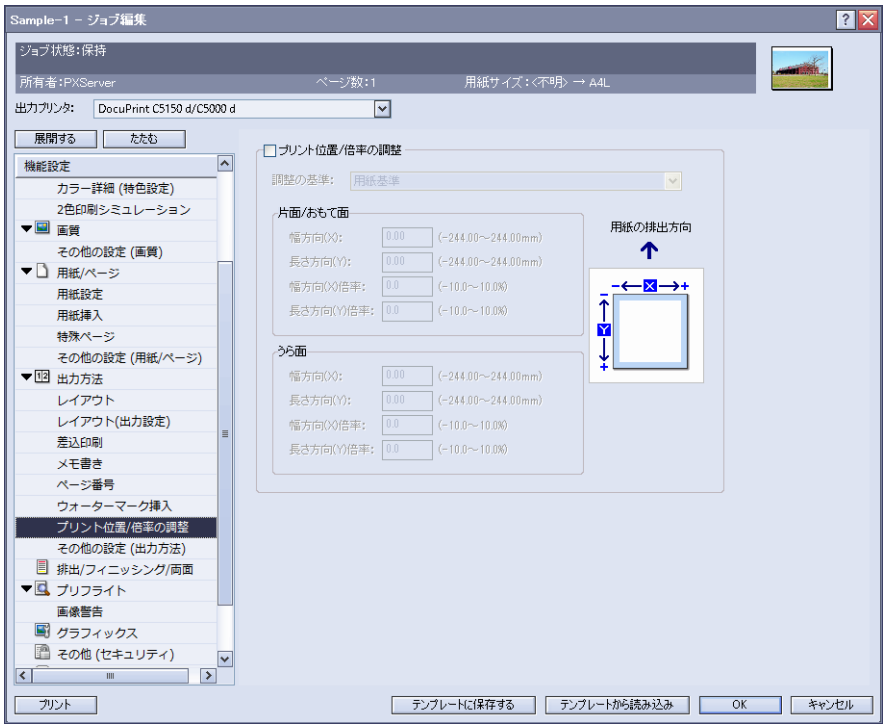
ページ番号

参照　ページ番号については、「4.3.3 ページ番号設定ファイル」（P.242）を参照してください。

ウォーターマーク挿入

参照　ウォーターマーク挿入については、「4.3.2 ウォーターマークの設定」（P.239）を参照してください。

プリント位置/倍率の調整



■プリント位置/倍率の調整

チェックマークを付けると、プリント位置/倍率を調整できます。チェックマークを付けたときは、以下の項目を設定します。

● 調整の基準

調整する場合の基準を選択します。

用紙基準

原稿の向きにかかわらず用紙の排出方向が基準とされます。

原稿基準

原稿の左上を基準として用紙の排出方向にかかわらず同じ位置に移動します。

● 片面/おもて面、うら面

調整をする場合の調整量を入力します。

補足

・ウォーターマークを設定している場合、ウォーターマークのプリント開始位置はマイナス方向には移動されません。また、ウォーターマークには倍率の設定は適用されません。

・リピートプリントをした場合、プリント開始位置はマイナス方向には移動されません。また、倍率の設定は無効になります。

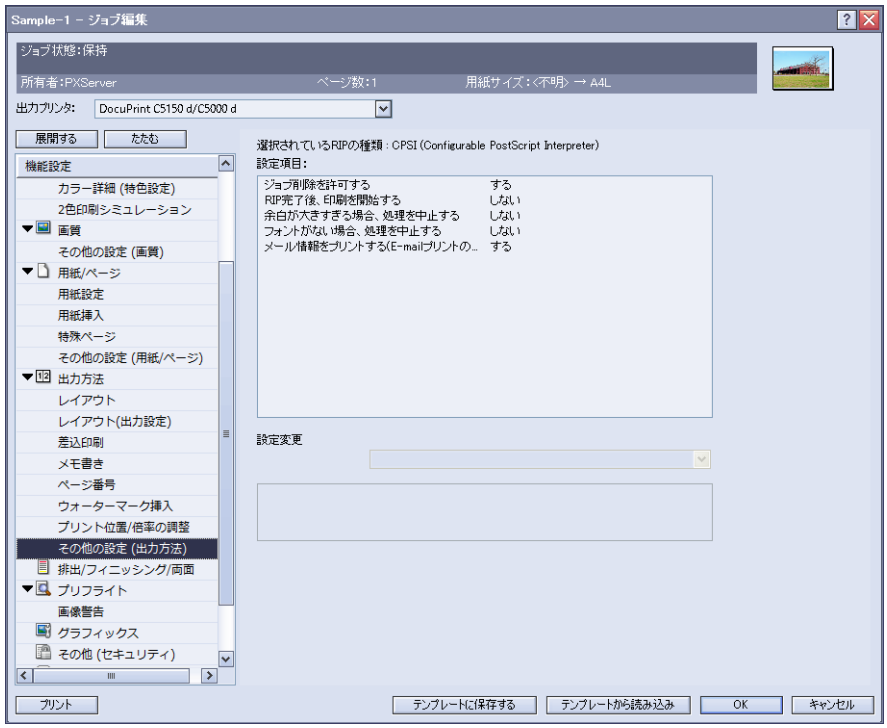
幅方向、長さ方向

入力範囲は、－244.00～＋244.00 mmです。

幅方向倍率、長さ方向倍率

入力範囲は、－10.0～＋10.0%です。

その他の設定（出力方法）



- **ジョブ削除を許可する**

  ［しない］の場合、Print Serverでのジョブの削除が許可されません。

- **RIP完了後、印刷を開始する**

  プリント開始のタイミングを設定します。

  ［する］の場合、すべてのRIP処理完了後にプリントデータの送信が開始されます。

  ［しない］の場合、ただちにプリントデータの送信が開始されます。

- **余白が大きすぎる場合、処理を中止する**

  ［する］の場合、プリントデータのページサイズが用紙サイズよりも幅方向、長さ方向ともに20 mm以上小さい場合に、プリントが中止されてジョブがエラーリストに移動します。

  ［しない］の場合、そのままプリントされます。

- **フォントがない場合、処理を中止する**

  ［する］の場合、PostScriptファイルのプリント時に該当するフォントがない場合に、プリントが中止されてジョブがエラーリストに移動します。

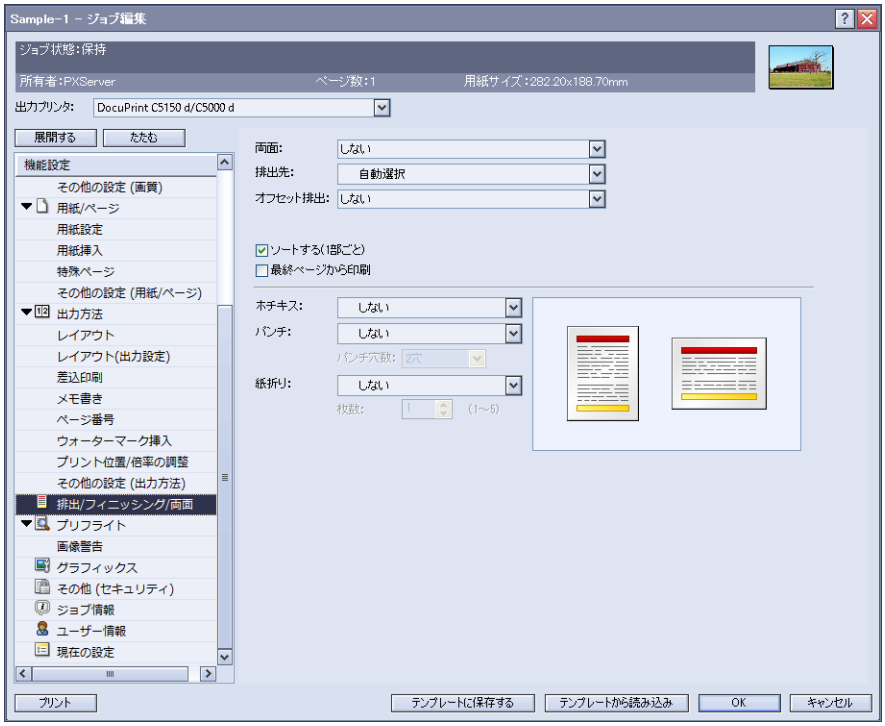
  ［しない］の場合、代替フォントでプリントされます。

- **メール情報をプリントする（E-mailプリントのみ）**

  ［する］の場合、メールのヘッダー情報がプリントされます。

4.1.8 排出/フィニッシング/両面

用紙の排出に関する設定が表示されます。



- **両面**

  両面印刷の方法を選択します。

  補足 両面印刷を有効にすると、[最終ページから印刷]は無効になります。

  - しない
  - 長辺とじ

    用紙の長辺を軸に、おもて面とうら面にプリントされます。

    たて向き原稿の場合は、おもて面とうら面が同じ方向を上にして両面にプリントされ、よこ向き原稿の場合は、うら面のプリントイメージが180°回転されます。

    補足 [プリント位置/倍率の調整]の設定をしたRIP済みのジョブを、[長辺とじ]に変更した場合、再度RIP処理されます。

  - 短辺とじ

    用紙の短辺を軸に、おもて面とうら面にプリントされます。

    たて向き原稿の場合は、うら面のプリントイメージが 180° 回転され、よこ向き原稿の場合は、おもて面とうら面が同じ方向を上にして両面にプリントされます。

- **排出先**

  プリントされた用紙の排出先を選択します。

  ・自動選択　・インナー排出トレイ　・サイドトレイ
  ・フィニッシャートレイ　・フィニッシャー排出トレイ

  補足
  - オプション装置のインナー排出トレイが装着されている場合にだけ、インナー排出トレイに排出できます。
  - オプション装置のサイドトレイが装着されている場合にだけ、サイドトレイに排出できます。
  - オプション装置のフィニッシャーが装着されている場合にだけ、フィニッシャートレイ、またはフィニッシャー排出トレイに排出できます。

● オフセット排出

排出される用紙をずらす方法を選択します。

しない

オフセット排出をしません。

1部ごと（レコードごと）

1部ごとにずらして排出されます。

ジョブごと

ジョブ単位でずらして排出されます。

● ソートする（1部ごと）

チェックマークを付けると、複数ページのファイルを複数部数プリントするときに、部単位でまとめてプリントされます。

● 最終ページから印刷

チェックマークを付けると、最後のページからプリントされます。

● ホチキス

ホチキスどめする位置を選択します。

・しない	・左上1ヵ所	・右上1ヵ所	・左下1ヵ所
・右下1ヵ所	・上2ヵ所	・下2ヵ所	・左2ヵ所
・右2ヵ所	・中とじ	・中とじ（開始面が内側）	・中とじ（開始面が外側）
・上4ヵ所	・下4ヵ所	・左4ヵ所	・右4ヵ所

補足
- ・オプション装置のフィニッシャーを装着している場合にだけ、ホチキスどめができます。
- ・オプション装置の中とじフィニッシャー C1 が装着されている場合にだけ、［中とじ］、［中とじ（開始面が内側）］、または［中とじ（開始面が外側）］でホチキスどめができます。
- ・［中とじ（開始面が内側）］、または［中とじ（開始面が外側）］の場合、［最終ページから印刷］は設定できません。

● パンチ

パンチする位置を選択します。

・しない　・左　・右　・上　・下

補足
オプション装置のフィニッシャー C1、または中とじフィニッシャー C1 を装着している場合にだけ、パンチができます。

パンチ穴数

［パンチ］が［しない］以外の場合、パンチの穴数を選択します。

・2穴　・4穴　・3穴

補足
オプション装置のフィニッシャー C1、または中とじフィニッシャー C1 を装着している場合にだけ、パンチができます。

● 紙折り

紙折りの設定を選択します。

・しない　・二つ折り

補足
オプション装置のフィニッシャー C1、または中とじフィニッシャー C1 が装着されている場合にだけ、紙折りができます。

枚数

紙折りの枚数を入力します。入力範囲は、1～5です。

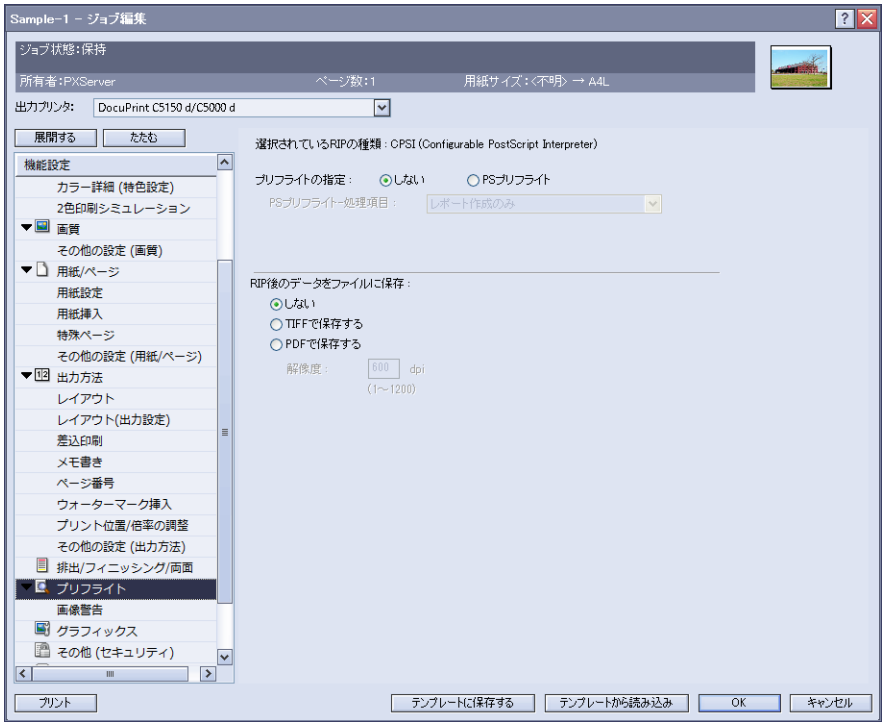
［紙折り］が［二つ折り］の場合に入力します。

補足
ジョブの総ページ数、［部数］、および［ソートする（1 部ごと）］の設定によって、入力した枚数で紙折りがされないことがあります。

4.1.9 プリフライト

プリント前にジョブを確認するための機能の設定が表示されます。

参照 プリンタードライバーの［詳細設定］ダイアログボックスや WebManager では、さらに PS プリフライトレポートについて、しない/レポート作成/レポート印刷の選択ができます。
PSプリフライトレポートについては、「プリフライトレポート」（P.26）を参照してください。



■プリフライトの指定

参照 プリフライトの指定については、「1.1.4 プリフライト」（P.25）を参照してください。

■RIP後のデータをファイルに保存

［TIFF で保存する］、または［PDF で保存する］を選択すると、ジョブの RIP 後のイメージが TIFF、または PDF ファイルとして Print Server に保存されます。

保存されたファイルは、プリント結果をプレビューで確認する場合に使用できます。

Windows クライアントからは共有フォルダを使用して、Macintosh クライアントからは AppleShare を使用して、ファイルを取り出すこともできます。

補足
- ［出力方法］＞［RIP 済みデータの保存］と［TIFF で保存する］、または［PDF で保存する］の両方を選択している場合、TIFF（または PDF）ファイルだけが作成され、RIP 済みデータは作成されません。
- ［レイアウト］＞［小冊子］が選択されているときは、無効になります。
- 保存したファイルをプリントしないでください。プリントした場合は、保証の範囲外になります。

参照 ファイルの取り出し方法については、「1.1.5 ファイルの保存とイメージの確認」（P.27）を参照してください。

● TIFF で保存する

TIFF ファイルは、1 ページにつき 1 ファイルが作成され、ファイルが複数ページある場合は、ページ数と同じだけの TIFF ファイルが作成されます。

作成される TIFF ファイルのファイル名は、「ジョブ名.p＊.tif」（＊はページ番号）です。

● PDFで保存する

補足　この機能はオプションです。DTP機能拡張キットのライセンスを有効にしていない場合、RIP後のデータをPDFファイルで保存することはできません。
ライセンスの設定については、『ユーザーズガイド 導入編』の「1.5.2 ServerManager の環境設定」の「ライセンスの設定」を参照してください。

PDFファイルは、1ジョブで1ファイル（ただし1,000ページまで）作成されます。

作成されるPDFファイルのファイル名は、は「ジョブ名＋_ripped_＊.pdf」（＊はページ番号）です。

● 解像度

解像度を入力します。入力範囲は、1～1,200 dpiです。

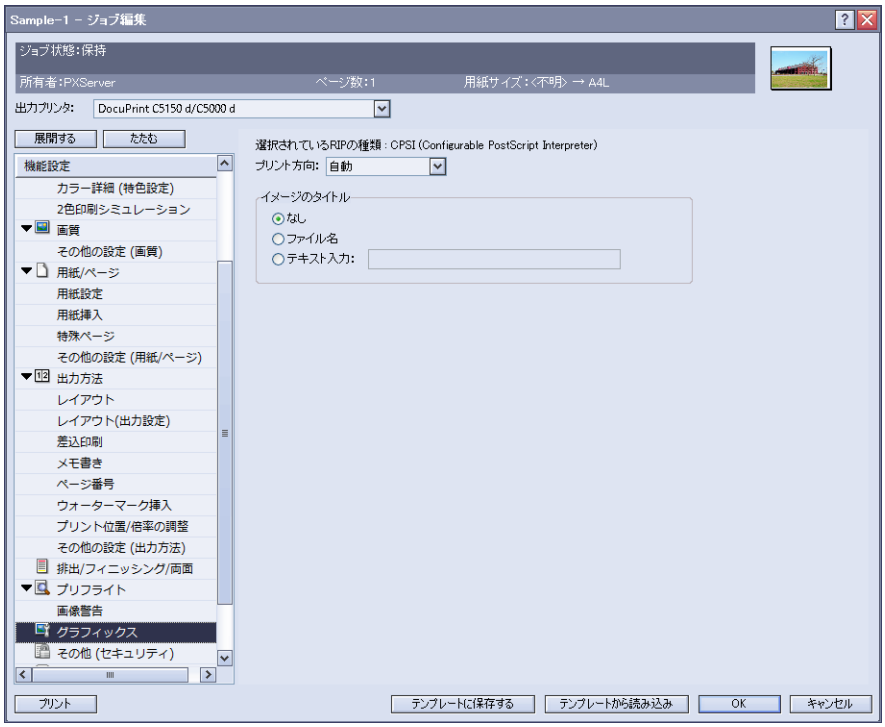
画像警告

参照　画像警告については、「1.1.3 画像警告機能」（P.19）を参照してください。

4.1.10　グラフィックス

EPS、TIFF、JPEGファイルをプリントするときのイメージの設定が表示されます。

補足　［グラフィックス］は、DropUtility、ServerManager、WebManagerでEPS、TIFF、JPEGファイルをプリントするときに設定できます。プリンタードライバーの［詳細設定］ダイアログボックスからは設定できません。



● プリント方向

イメージファイル（画像）がプリントされる向きを選択します。イメージは用紙の中心になるようにプリントされます。

自動

イメージの長辺と用紙の長辺を平行にします。

・たて原稿の場合、たて長のイメージはそのまま、よこ長のイメージは90°回転してプリントされます。

・よこ原稿の場合、たて長のイメージは90°回転して、よこ長のイメージはそのままプリントされます。

縦

イメージの天が用紙の短辺を向くようにします。

・たて原稿の場合、イメージはそのままプリントされます。

・よこ原稿の場合、イメージは90°回転してプリントされます。

横

イメージの天が用紙の長辺を向くようにします。

・たて原稿の場合、イメージは90°回転してプリントされます。

・よこ原稿の場合、イメージはそのままプリントされます。

● イメージのタイトル

ファイル名、または［テキスト入力］に入力した文字列とイメージを一緒にプリントする場合に選択します。

なし

タイトルなしでファイルがプリントされます。

ファイル名

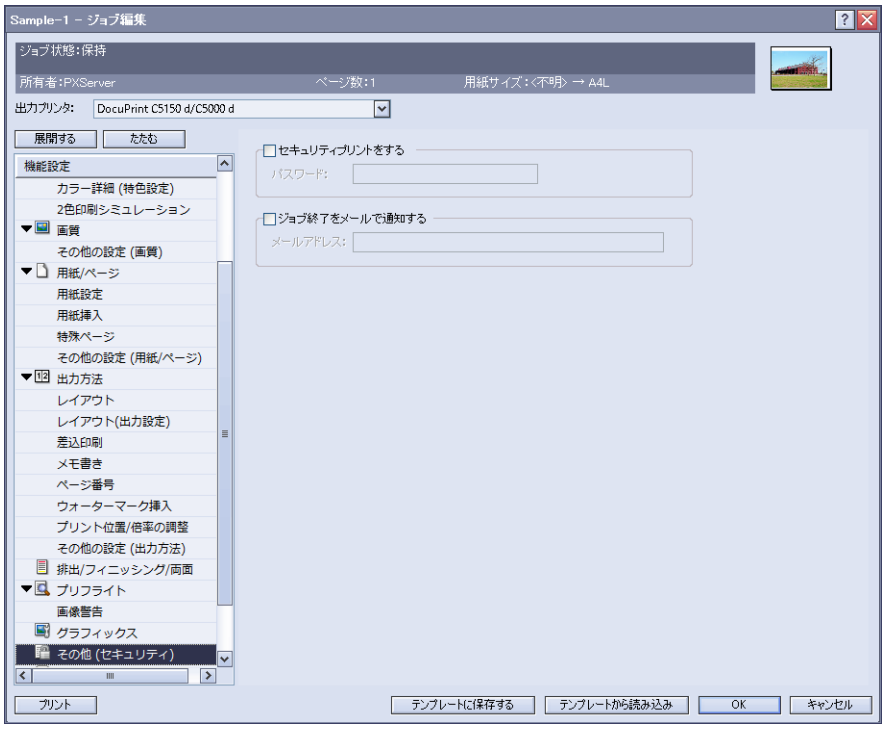
イメージのファイル名がタイトルとしてプリントされます。

テキスト入力

入力した文字列がタイトルとしてプリントされます。31バイト以内で入力します。

4.1.11　その他（セキュリティ）

ジョブの付帯情報に関する設定が表示されます。



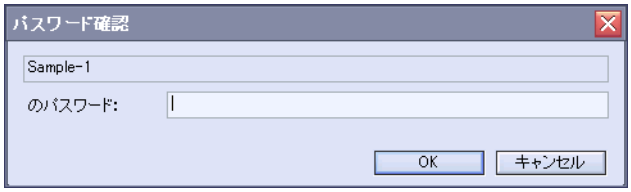
● セキュリティプリントをする

セキュリティプリントとは、ファイルにパスワードを設定し、ServerManager や WebManager での第三者によるジョブの操作を制限する機能です。機密性の高いファイルをプリントする場合に設定します。

セキュリティプリントを設定したファイルは、ログオフ時、および一般ユーザーモードでは、ServerManagerで選択してもプレビュー表示されません。



また、一般ユーザーモードで、そのファイルに対してジョブの操作をしようとすると、[パスワード確認]ダイアログボックスが表示され、ファイルに設定されているパスワードを入力する必要があります。



補足　ServerManagerに管理者モードでログインしている場合は、プレビュー表示されます。また、パスワードを入力しないで操作できます。

チェックマークを付けると、ファイルにパスワードによる保護がかかります。

セキュリティプリントが設定されているファイルは、ServerManagerでパスワードを入力しないと操作ができなくなります。ただし、管理者モードでログインした場合は、操作できます。

パスワード

[セキュリティプリントをする]にチェックマークを付けた場合に、パスワードを半角英数字5～31バイトで入力します。

- ジョブ終了をメールで通知する

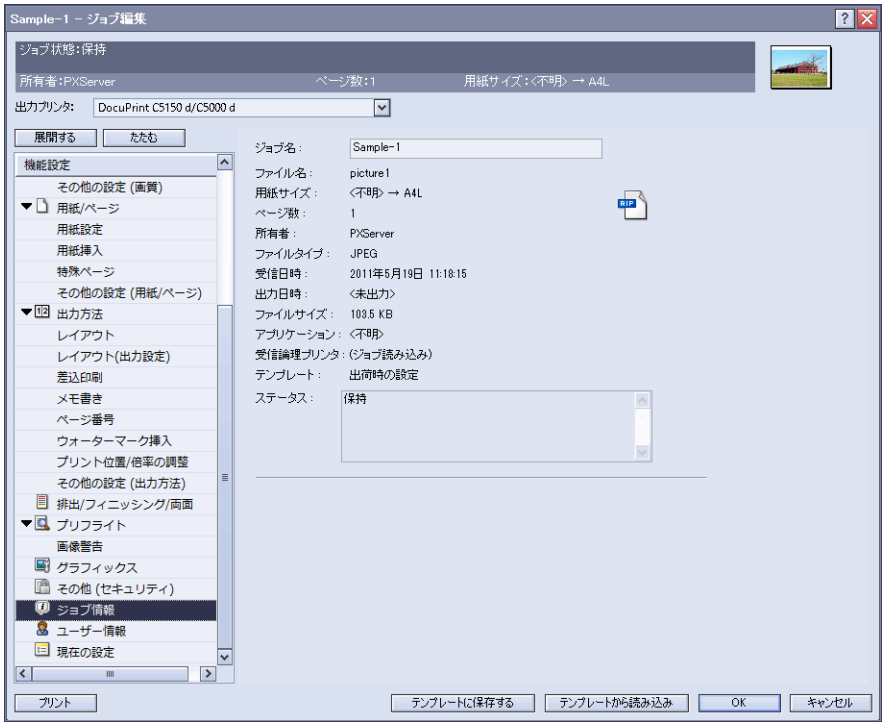
チェックマークを付けると、ジョブが終了、またはエラーが発生した場合に、設定したアドレスにメールで通知されます。

メールアドレス

[ジョブ終了をメールで通知する]にチェックマークを付けた場合に、メールアドレスを128バイト以内で入力します。128バイト以内なら、複数のメールアドレスを入力できます。メールアドレスとメールアドレスの間は、スペース、またはセミコロン「;」で区切ります。

4.1.12　ジョブ情報

ジョブ名や受信日時などのプロパティ情報が表示されます。



- **ジョブ名**

  クライアントコンピューターから送信されたジョブのファイル名が表示されます。

  ジョブリストに表示されるジョブ名を変更できます。

- **ファイル名**

  ファイル名が表示されます。

- **用紙サイズ**

  プリントオプションで設定したファイルの用紙サイズが表示されます。

  RIP処理をした場合は、もとの用紙サイズと最後のイメージサイズが「もとの用紙サイズ→最後にRIP処理したときのイメージサイズ」で表示されます。

  用紙サイズが設定されていない場合は、「不明」と表示されます。

- **ページ数**

  ファイルのページ数が表示されます。

- **所有者**

  ジョブを送信した所有者名が表示されます。所有者は、クライアントコンピューターごとに異なります。

  - **Macintosh**

    Macintoshクライアントの所有者名が表示されます。

  - **Windows**

    Windowsクライアントへのサインイン名が表示されます。

  - **ホットフォルダ**

    ファイルからユーザー名を取得できるPostScriptファイルの場合は、ユーザー名が表示されます。それ以外の場合は「不明」と表示されます。

  - **Lpr**

    ファイルからユーザー名を取得できるPostScriptファイルの場合は、そのユーザー名が表示されます。それ以外の場合は、「lprユーザー」と表示されます。

- DropUtility
  Macintoshクライアントの所有者名、またはWindowsクライアントへのサインイン名が表示されます。
- WebManager
  アップロードプリントの場合は、WebManager のログイン名が表示されます。WebManager にログインしていない場合は「Webユーザー」と表示されます。
- ジョブの読み込み
  ファイルからユーザー名を取得できるPostScriptファイルの場合は、そのユーザー名が表示されます。それ以外の場合はログイン名が表示されます。

- ファイルタイプ
  ファイルのフォーマットが表示されます。ファイルタイプには、以下の種類があります。
  ・PostScript　・PDF　・EPS　・TIFF
  ・JPEG　・ビルドジョブ　・不明
- 受信日時
  Print Serverがファイルを受信した日時が表示されます。
- 出力日時
  ファイルをプリントした日時が表示されます。
- ファイルサイズ
  ファイルのファイルサイズが表示されます。
- アプリケーション
  ファイルを作成したアプリケーションが表示されます。アプリケーションによっては、プリンタードライバーの名称などが表示されることがあります。
- 受信論理プリンタ
  ジョブの受信プロトコルが表示されます。
- テンプレート
  最後に適用されたプリントオプションテンプレートの名称が表示されます。
- ステータス
  ジョブの処理状況や、エラーメッセージが表示されます。
  RIPエラー、PostScriptエラーの場合は、右側に表示されている［詳細］をクリックすると、エラーの詳細が記述されたダイアログボックスが表示されます。

参照　エラーメッセージの内容と対処方法については、「6.3　エラージョブメッセージについて」（P.300）を参照してください。

- プレビュー画像
  ジョブがプレビューを保存している場合は、右上に1ページ目の画像が表示されます。

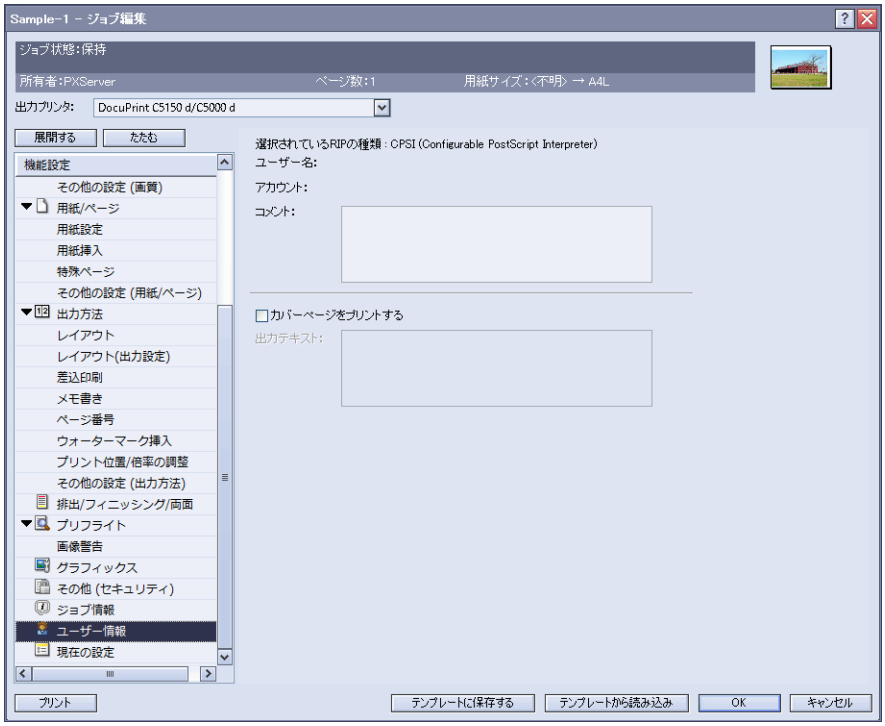
参照　プレビュー画像については、「①プレビューエリア」（P.121）を参照してください。

- 保持データ
  ジョブがデータを保持している場合は、右側にアイコンが表示されます。アイコンには、以下の種類があります。

アイコン	説明
	PSプリフライトレポートを保持しています。
	RIP済みデータを保持しています。
	TIFFファイルを保持しています。

4.1.13　ユーザー情報

ユーザー名やアカウントなどの情報が表示されます。



- **ユーザー名**

  プリンタードライバーなどで入力したユーザー名が表示されます。

  補足
  - プリンタードライバーでは、ジョブのオーナー名を31バイト以内で入力します。制御文字（Windowsでファイル名として使用できない文字、* ? ¥ / : " < > |など）以外の文字を使用してください。
  - 入力したオーナー名は、ジョブの所有者として表示され、プリント履歴にも記録されます。

- **アカウント**

  プリンタードライバーなどで入力したアカウントが表示されます。

  補足
  - プリンタードライバーでは、アカウント情報を31バイト以内で入力します。制御文字（Windowsでファイル名として使用できない文字、* ? ¥ / : " < > |など）以外の文字を使用してください。
  - 入力した情報はプリント履歴に記録されます。

- **コメント**

  ジョブに関する追加情報を255バイト以内で入力します。（改行はできません）
  制御文字（Windowsでファイル名として使用できない文字、* ? ¥ / : " < > |など）以外の文字列を使用します。

  コメントは、プリント履歴に記録されます。

- **カバーページをプリントする**

  チェックマークを付けると、ジョブの最後に、[出力テキスト] に入力した文字列が印字されたカバーページがプリントされます。

  出力テキスト

  [カバーページをプリントする] にチェックマークを付けた場合に、印字する文字列を 512 バイト以内（Mac OS Classicでは255バイト以内で改行はできません）で入力します。

4.2 プリントオプション項目について

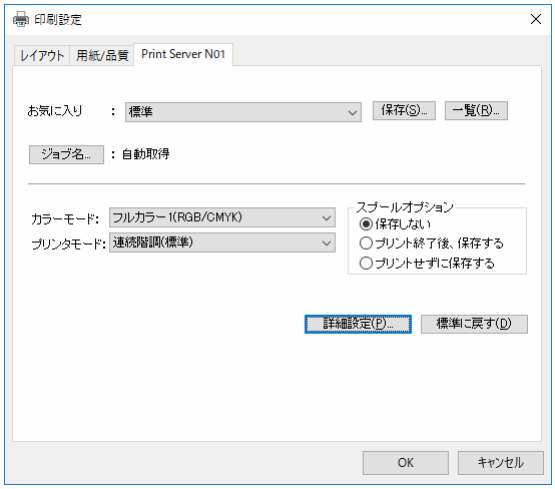
4.2.1　プリンタードライバーのプリントオプション

プリンタードライバーで表示される独自の項目について説明します。

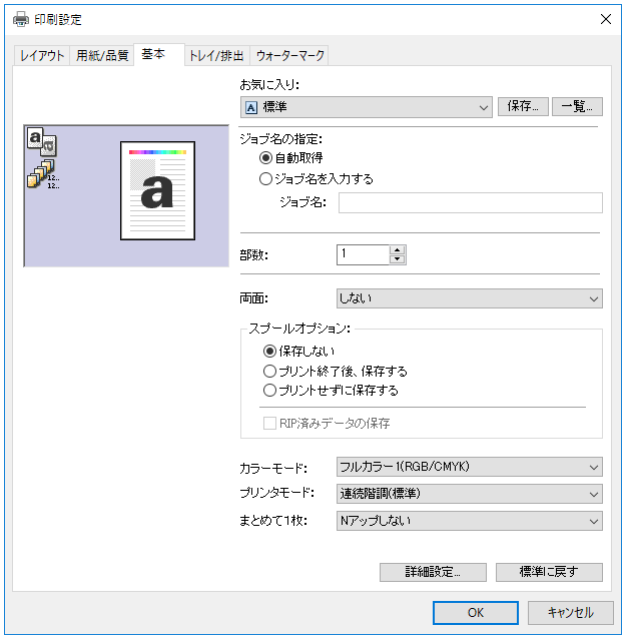
補足　プリンタードライバーでは設定できないプリントオプション項目（［ジョブ編集］だけで設定可能な項目）があります。

参照　プリントオプションについては、「4.1　ジョブを編集する（プリントオプション項目）」（P.190）の該当する箇所を参照してください。

■プリンタードライバーの［Print Server N01］タブ



■PDFプリンタードライバーの［基本］タブ



● お気に入り

［Print Server N01］タブ（PDFプリンタードライバーでは［基本］タブ）に表示されます。

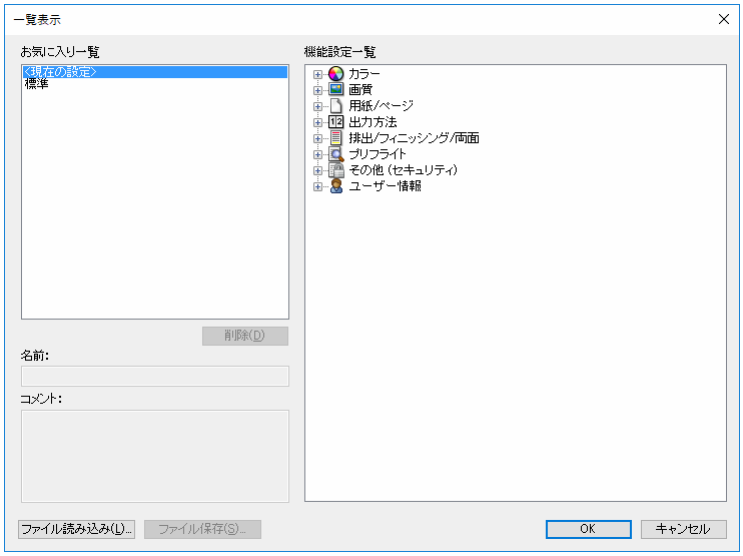
プリントの設定をお気に入りとして保存し、保存したお気に入りの設定を選択できます。

保存

クリックすると、現在のプリントの設定が名前を付けて保存されます。名前を37 バイト以内で入力します。ファイルの拡張子は、「.pfj」（PDFプリンタードライバーでは「.sfj」）です。

一覧

クリックすると、保存されているプリント設定が表示されます。



補足

・プリント設定を読み込むときは、［ファイル読み込み］をクリックし、読み込むプリント設定を選択します。

・プリント設定を削除するときは、プリント設定を選択し、［削除］をクリックします。ただし、「標準」は削除できません。

● ジョブ名

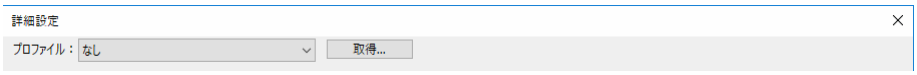
通常は、自動で取得されます。ジョブの名称を指定するときは、クリックしたあと、［ジョブ名を入力する］を選択し、名称を入力します。

● 詳細設定

クリックすると、プリントオプションが表示され、プリントに関する詳細な設定ができます。

プロファイル

［取得］をクリックすると、プロファイルを取得するダイアログボックスが表示されるので、プロファイル名と取得先サーバーのコンピューター名（またはIPアドレス）を入力し、［OK］をクリックします。



補足

・プロファイルの設定をダウンロードすると、ServerManagerで設定したCMYKシミュレーションの割り当て情報などをクライアントコンピューターのプリンタードライバーに表示できます。
詳細は、「プロファイル設定のダウンロード」（P.275）を参照してください。

● 標準に戻す

クリックすると、デフォルトの設定に戻ります。

4.3 プリント時に使用する各種設定を登録する

プリントする前にあらかじめ登録しておくと便利な項目について説明します。

4.3.1　通信設定、表示単位の変更

クライアントコンピューターからPrint Serverへの接続に関する設定を行います。

サーバーの通信設定

1. ServerManagerの［システム］→［初期設定］→［サーバーの通信設定］を選択します。
2. 各項目を設定し、［OK］をクリックします。



- **ポート番号**

  クライアントコンピューターから接続するポート番号を入力します。入力範囲は、49152～65535です。

- **最大接続クライアント数**

  Print Serverに、同時に接続できるクライアントコンピューター数を入力します。入力範囲は、0～20です。

- **アドレス制限**

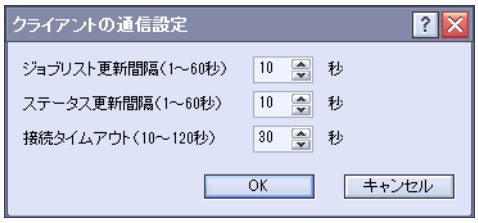
  チェックマークを付けると、クライアントコンピューターのServerManagerからの使用が制限されます。チェックマークを付けた場合は、接続を許可するアドレスを入力します。

  補足
  - チェックマークを付けた場合、アドレスを入力しない（空欄）と、すべてのクライアントコンピューターから接続できません。
  - 複数のアドレスを入力する場合は、カンマ「,」、セミコロン「;」、または改行で区切ります。
  - 設定を有効にするには、Print Serverの再起動が必要です。

クライアントの通信設定

補足　クライアントコンピューターのServerManagerにだけ表示されます。

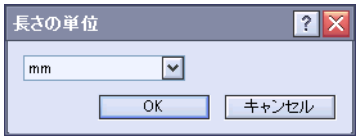
1. ServerManagerの［システム］→［初期設定］→［クライアントの通信設定］を選択します。
2. 各項目を設定し、［OK］をクリックします。



- ジョブリスト更新間隔
  ジョブリストの更新間隔を入力します。入力範囲は、1～60秒です。
- ステータス更新間隔
  ステータスの更新間隔を入力します。入力範囲は、1～60秒です。
- 接続タイムアウト
  Print Serverへの接続タイムアウト時間を入力します。入力範囲は、10～120秒です。

長さの単位系

1. ServerManagerの［システム］→［長さの単位］を選択します。
2. 長さの単位を選択し、［OK］をクリックします。



長さの単位には、以下の種類があります。

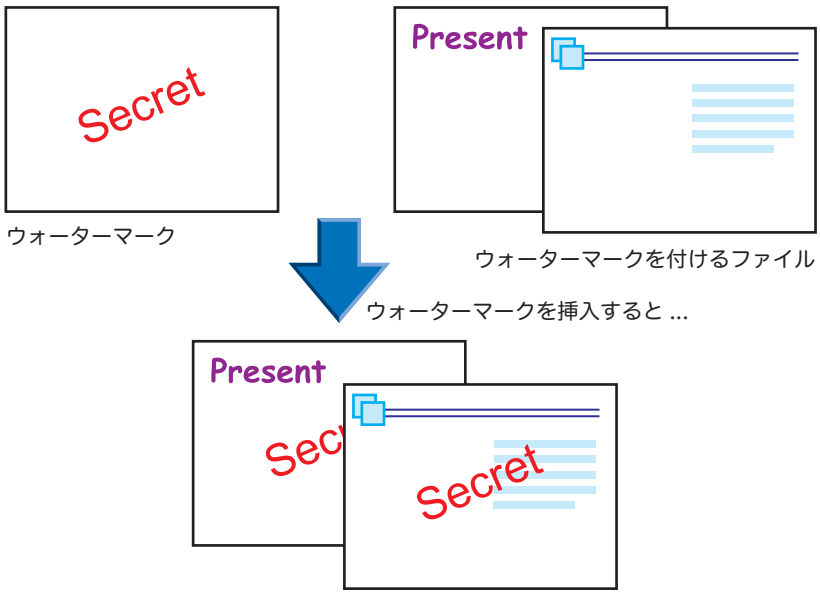
・mm　・pt　・inch　・級

補足　プリントオプションの［プリフライト］>［画像警告］>［ヘアライン警告］>［警告幅］は、単位の設定にかかわらず、pt表示です。

4.3.2　ウォーターマークの設定

ウォーターマークとは、ジョブの前面、または背面にプリントされる文字とグラフィックです。100個まで登録できます。

ウォーターマークを作成して登録しておくと、簡単な操作だけでウォーターマークを入れてプリントできます。



補足　ウォーターマークは、管理者モードのときに操作できます。一般ユーザーモードでは、閲覧だけできます。

ウォーターマークの作成

1. ServerManagerの［管理］→［ウォーターマーク管理］を選択します。

［ウォーターマーク管理］ダイアログボックスが表示されます。



① 上段のリスト

ウォーターマークが一覧で表示され、番号、ウォーターマーク名、カラーが表示されます。

新規に作成したウォーターマークには、RIP 済みデータの作成が必要なことを示す「*」が表示されます。

ウォーターマークをダブルクリックすると、[名前]（変更可能）、[作成に使ったジョブの名前]、[用紙サイズ]、[カラー] の情報が表示されます。



② 下段のリスト

ServerManagerの保持、およびエラーリストにあるジョブが表示されます。

補足　APPEのジョブやビルドジョブは表示されません。

③ 右側のプレビューエリア

上段、および下段のリストで選択されたウォーターマーク、およびジョブの 1 ページ目のプレビューが表示されます。

利用ジョブの一覧表示

上段のリストで選択したウォーターマークを使用しているジョブの一覧が表示されます。



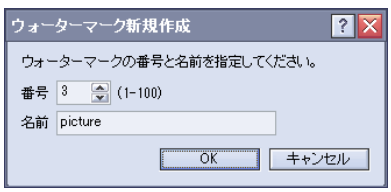
削除

上段のリストで選択したウォーターマークが削除されます。

2. 下段のリストからウォーターマークとして登録するジョブを選択し、[新規作成] をクリックします。

補足　ジョブを上段のリストの登録する番号にドラッグ＆ドロップしても、ウォーターマークとして登録できます。

3. [番号] にウォーターマーク番号、[名前] にウォーターマーク名を入力し、[OK] をクリックします。



- 番号

  入力範囲は1～100です。

- 名前

  255バイト以内で入力します。

4. ［ウォーターマーク管理］ダイアログボックスで、［OK］をクリックします。

   ウォーターマークのRIP済みデータの作成が開始されます。

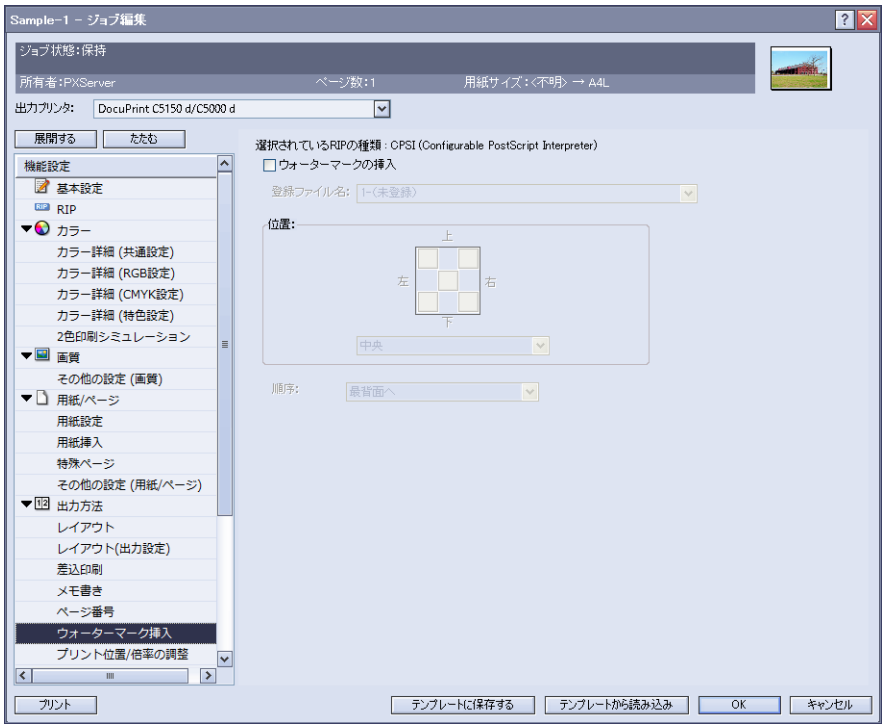
   補足　ウォーターマークは、0°、90°、180°、270°の4種類が作成され、挿入するジョブのプリントオプションによって使用するウォーターマークが自動で決まります。

ウォーターマークの設定

1. プリントオプションを表示させます。

   プリントオプションは、ServerManagerにあるジョブから［ジョブ編集］ダイアログボックスを開くか、クライアントコンピューターのファイルから［印刷］（または［プリント］）→［Print Server N01］→［詳細設定］をクリックするなどして表示させます。

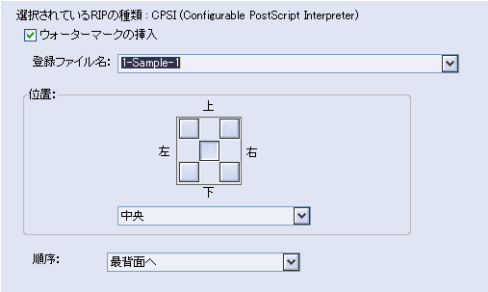
2. 左側の機能設定ツリーから［ウォーターマーク挿入］を選択します。



   設定項目が表示されます。

3. ［ウォーターマークの挿入］にチェックマークを付けます。

プリントオプションの設定（ウォーターマーク挿入）



■ ウォーターマークの挿入

チェックマークを付けると、ウォーターマークを挿入してプリントされます。チェックマークを付けたときは、以下の項目を設定します。

- **登録ファイル名**

  登録済みのウォーターマークを選択します。

- **位置**

  ウォーターマークを挿入する位置を選択します。位置のボタンをクリックしても選択できます。

  ・左上　・右上　・左下　・右下　・中央

- **順序**

  ウォーターマークを重ねる順序を選択します。

  ・最背面へ　・最前面へ（画像領域は除く）　・最前面へ

補足　プリントオプションの［プリント位置 / 倍率の調整］で「＋」の方向に調整しても、ウォーターマークは移動されません。

4.3.3　ページ番号設定ファイル

ページ番号を各ページに挿入できます。

ページ番号の位置やサイズを登録しておくと、簡単な操作だけでページ番号を入れてプリントできます。

補足
- ページ番号設定ファイルは、管理者モードのときに操作できます。一般ユーザーモードでは、閲覧だけできます。
- TIFF、およびJPEGファイルにページ番号を挿入する場合、意図していた位置とは異なる位置に、ページ番号が印字されることがあります。これは、たてとよこの長さで自動でイメージの向きが判別されるためです。この場合、プリントオプションの［用紙 / ページ］>［原稿の向き］で［たて原稿］、または［よこ原稿］を選択し、原稿の向きを設定してください。

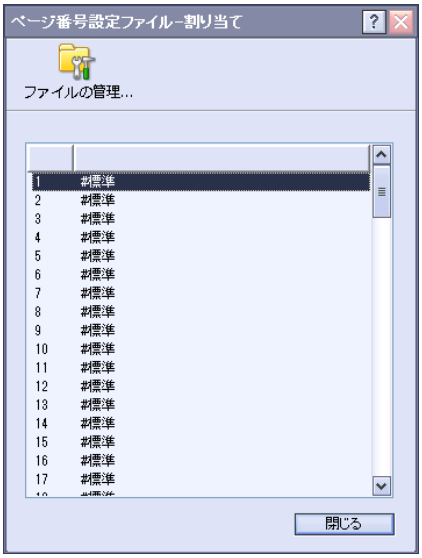
ページ番号設定ファイルの作成

プリントに適用するページ番号設定ファイルを作成し、読み込みと割り当てを行います。

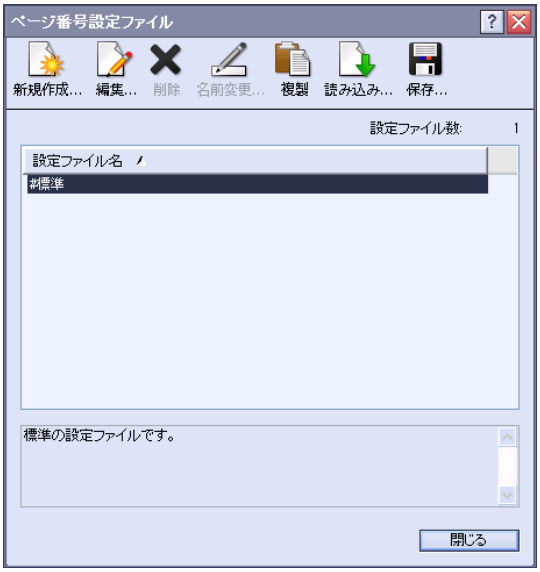
読み込んだページ番号設定ファイルをPrint Serverに登録すると、プリント時にプリントオプションから選択できます。

1. ServerManagerの［管理］→［ページ番号設定ファイルの管理］を選択します。

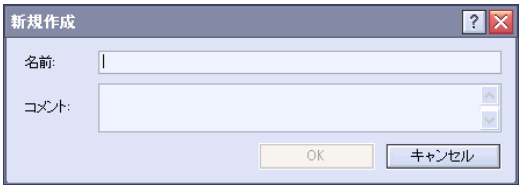
2. ［ファイルの管理］をクリックします。



3. ［新規作成］をクリックします。



4. ［名前］と必要に応じて［コメント］を入力し、［OK］をクリックします。



- 名前

  31バイト以内で入力します。

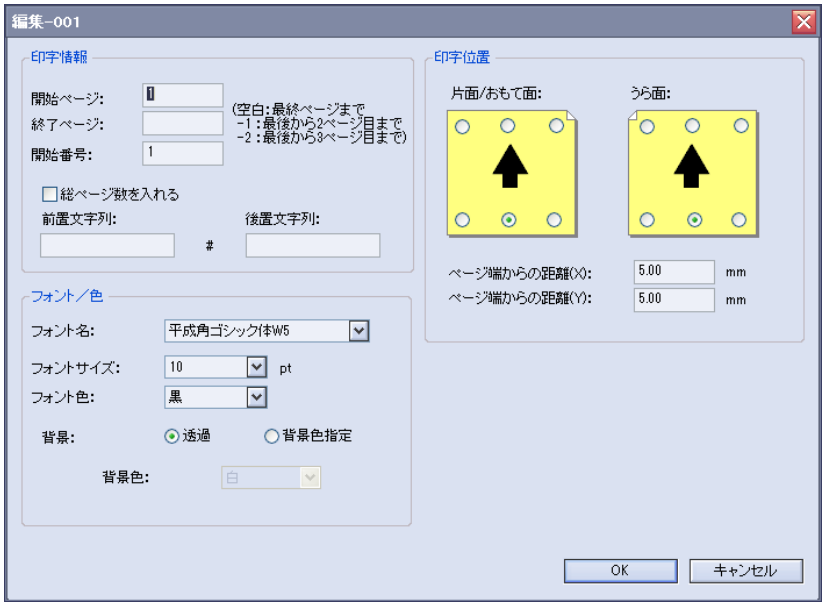
- コメント

  1,024バイト以内で入力します。

5. 各項目を設定し、［OK］をクリックします。

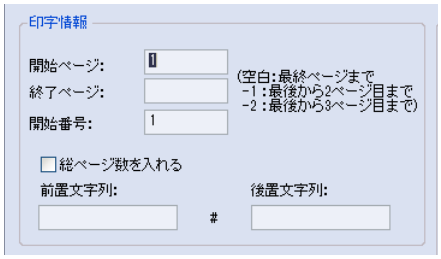
[編集-{設定ファイル名}] ダイアログボックス（ページ番号）

以下の項目を設定できます。

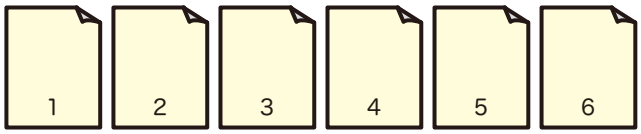


■印字情報

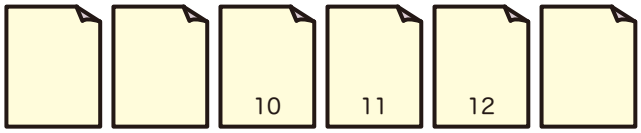
ページ番号、追加文字列などの印字情報を設定します。



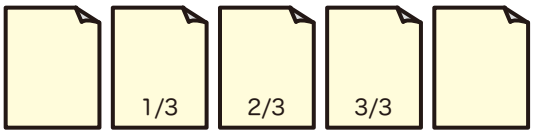
例1）ファイルのページ数6、開始ページ［1］、終了ページ［空白］、開始番号［1］



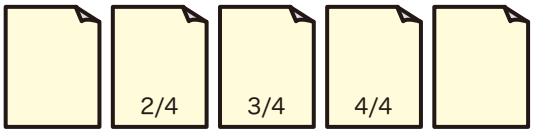
例2）ファイルのページ数6、開始ページ［3］、終了ページ［5］、開始番号［10］



例3）ファイルのページ数5、開始ページ［2］、終了ページ［4］、開始番号［1］、［総ページ数を入れる］にチェックマークあり



例4）ファイルのページ数5、開始ページ［2］、終了ページ［4］、開始番号［2］、［総ページ数を入れる］にチェックマークあり



● 開始ページ

ページ番号の印字を開始するページを入力します。

指定した終了ページよりも後ろのページを、開始ページとして入力した場合、ページ番号は印字されません。

補足　設定した値がファイルのページ数よりも大きい場合、ページ番号は印字されません。

● 終了ページ

ページ番号の印字を終了するページを入力します。

空白の場合はファイルの最終ページまでページ番号が印字されます。

「-1」、「-2」を入力した場合はそれぞれ、ファイルの最後から2ページ目まで、ファイルの最後から3ページ目まで、ページ番号が印字されます。

指定した開始ページよりも前のページを、終了ページとして入力した場合、ページ番号は印字されません。

補足　設定した値がファイルのページ数よりも大きい場合、ページ番号は印字されません。

● 開始番号

［開始ページ］に印字するページ番号を入力します。

● 総ページ数を入れる

チェックマークを付けると、「ページ番号 / 総ページ数」の形でページ番号が印字されます。総ページ数は、ファイルのページ数ではなく、［終了ページ］に印字されるページ番号と一致するように割り振られます。

● 前置文字列

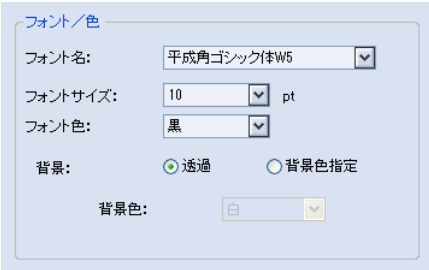
ページ番号の前に印字する文字列を62バイト以内で入力します。

● 後置文字列

ページ番号の後ろに印字する文字列を62バイト以内で入力します。

■ フォント／色

ページ番号に使用するフォントや色を設定します。



● フォント名

ページ番号に使用するフォントを選択します。

● フォントサイズ

使用するフォントのサイズを6～32の14項目から選択します。

● フォント色

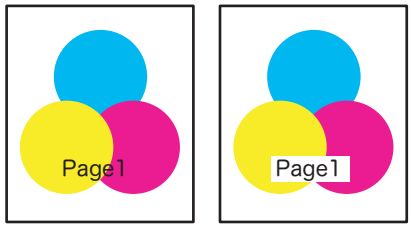
ページ番号に使用する色を選択します。

・白　・黒　・赤　・緑
・青　・シアン　・マゼンタ　・イエロー

補足　プリントオプションの［カラー］>［カラーモード］が［グレースケール（K)］の場合は、グレースケールでプリントされます。

● 背景

ページ番号の背景を選択します。



透過　背景色指定（背景は「白」）

● 透過

ファイルにページ番号が印字されます。

● 背景色指定

［背景色］で選択した色の上にページ番号が印字されます。

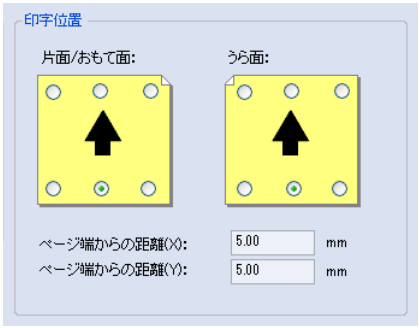
背景色

［背景］を［背景色指定］にした場合、使用する色を選択します。

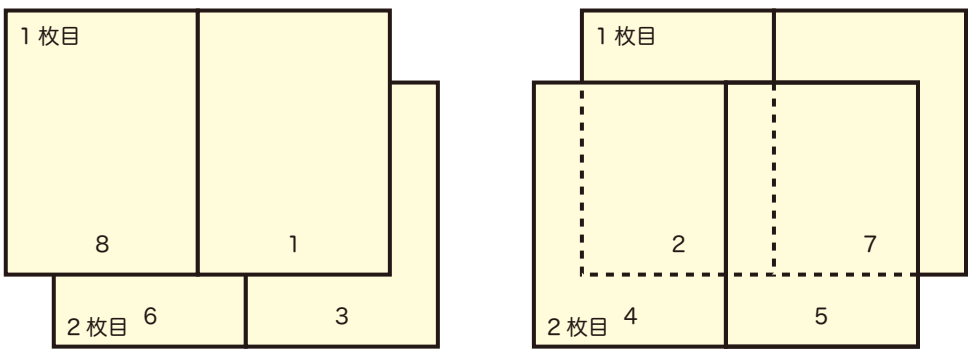
・白　・黒　・赤　・緑
・青　・シアン　・マゼンタ　・イエロー

■ 印字位置

ページ番号の印字位置を設定します。

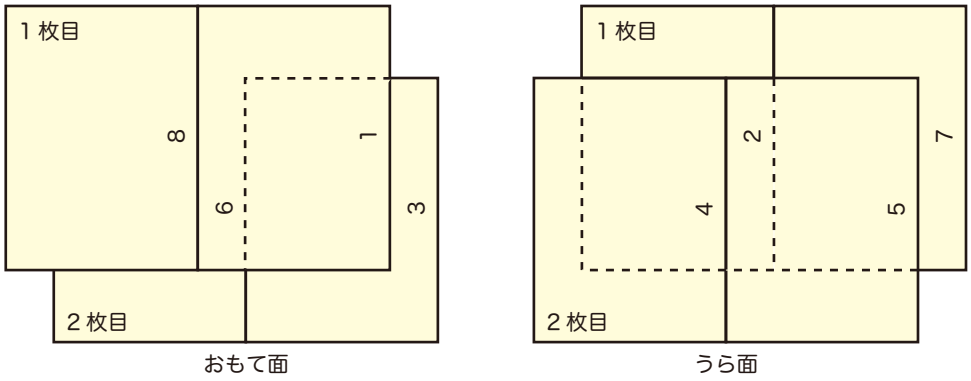


● 小冊子作成（左とじ)、仕上がりがたてのファイルに印字する場合

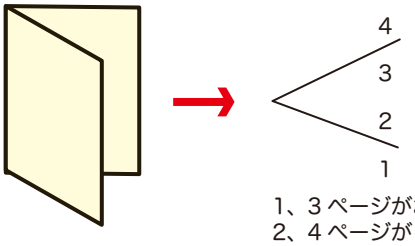


おもて面　うら面

● 小冊子作成（左とじ）、仕上がりがよこのファイルに印字する場合



● 小冊子作成（2×1 中とじ）のファイルに印字する場合



1、3 ページがおもて面
2、4 ページがうら面

● 片面/おもて面

折りや断裁後に表側になる面に印字するページ番号の位置を選択します。

・左上　・中央上　・右上　・左下　・中央下　・右下

● うら面

折りや断裁後に裏側になる面に印字するページ番号の位置を選択します。

・左上　・中央上　・右上　・左下　・中央下　・右下

ジョブが片面印刷の場合、この設定は無効になります。

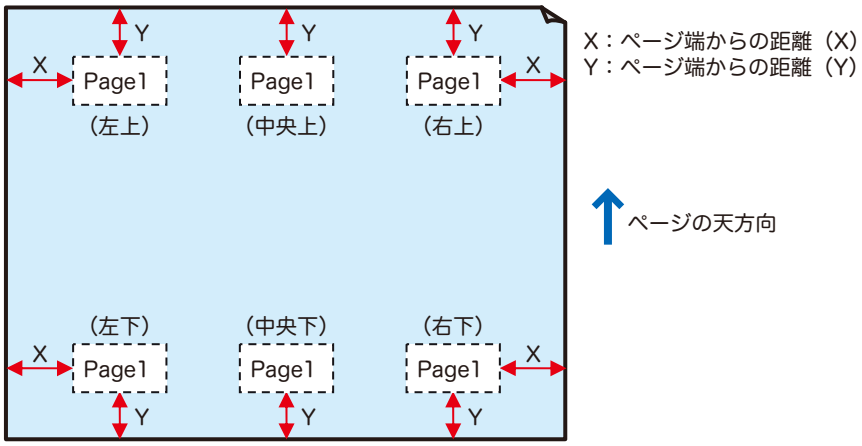
印字の仕方はおもて面と同じです。

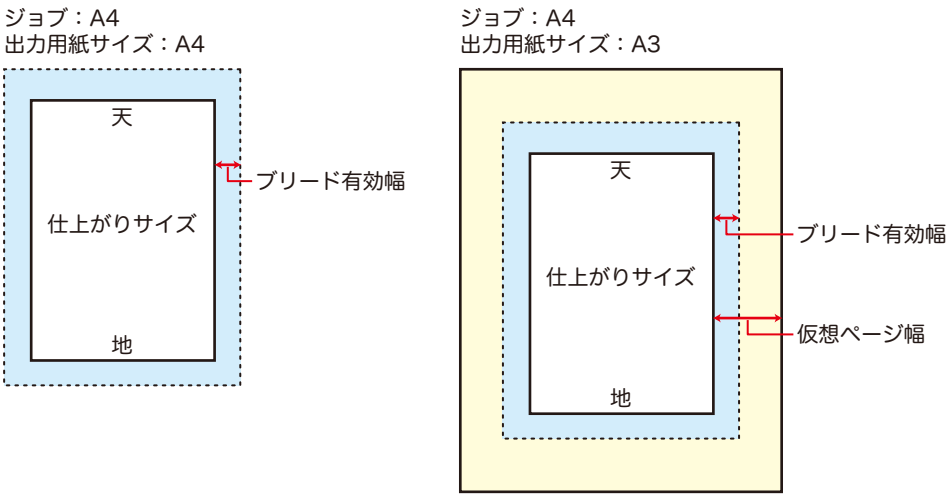
● ページ端からの距離（X、Y）

ページ番号を印字する位置を用紙サイズの端からの距離で入力します。

[ページ端からの距離（X）] はページ左右の端からの距離を入力します。ページ番号の印字位置が中央上、または中央下の場合、この設定は無効になります。

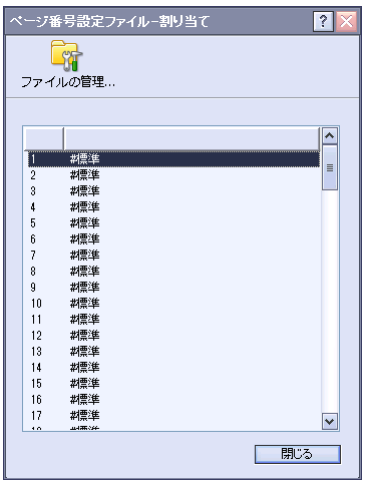
[ページ端からの距離（Y）] はページの上下の端からの距離を入力します。



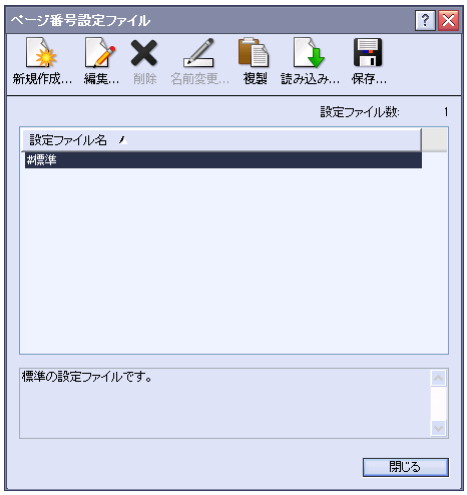


ページ番号設定ファイルの割り当て

[ページ番号設定ファイル-割り当て] ダイアログボックスで、割り当てる設定ファイルを選択し、[閉じる] をクリックします。



ページ番号設定ファイルの編集



1. [ページ番号設定ファイル] ダイアログボックスで、編集するページ番号設定ファイルを選択し、[編集] をクリックします。
2. [編集-{設定ファイル名}] ダイアログボックスで、作成と同様に項目を編集します。

ページ番号設定ファイルの削除

1. [ページ番号設定ファイル] ダイアログボックスで、削除するページ番号設定ファイルを選択し、[削除] をクリックします。
2. 確認のダイアログボックスで、[はい] をクリックします。

ページ番号設定ファイルの名前変更

1. [ページ番号設定ファイル] ダイアログボックスで、名前を変更するページ番号設定ファイルを選択し、[名前変更] をクリックします。
2. [名前変更] ダイアログボックスで新しい名前を入力し、[OK] をクリックします。

ページ番号設定ファイルの複製

[ページ番号設定ファイル] ダイアログボックスで、複製するページ番号設定ファイルを選択し、[複製] をクリックします。

ページ番号設定ファイルの読み込み

1. [ページ番号設定ファイル] ダイアログボックスで、[読み込み] をクリックします。
2. [設定ファイル読み込み] ダイアログボックスで、ファイルを選択し、[開く] をクリックします。

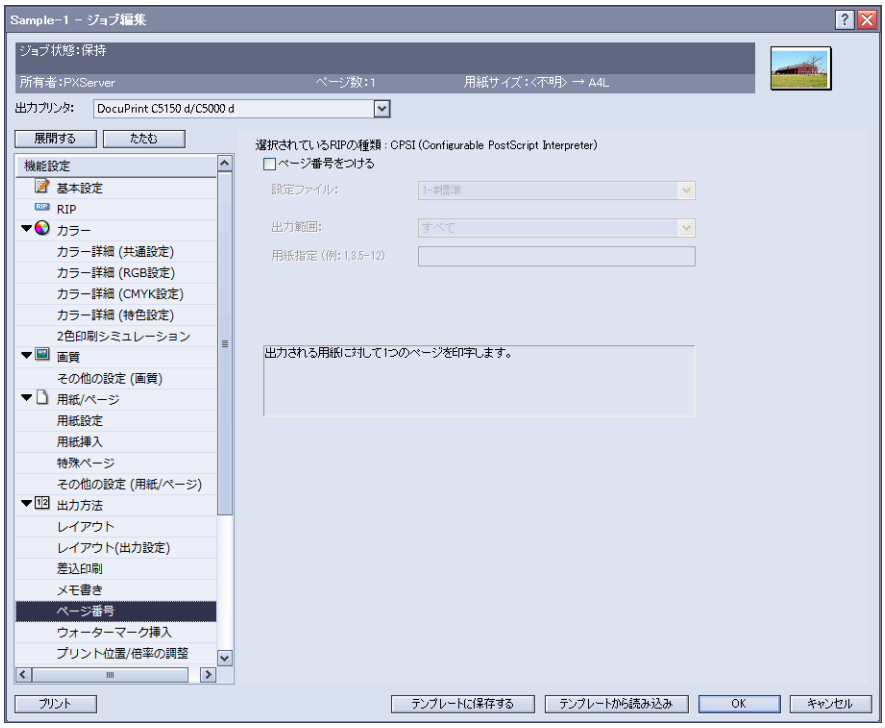
ページ番号設定ファイルの保存

1. ［ページ番号設定ファイル］ダイアログボックスで、保存するページ番号設定ファイルを選択し、［保存］をクリックします。
2. ［設定ファイル保存］ダイアログボックスで、［保存］をクリックします。

ページ番号の設定

1. プリントオプションを表示させます。

   プリントオプションは、ServerManagerにあるジョブから［ジョブ編集］ダイアログボックスを開くか、クライアントコンピューターのファイルから［印刷］（または［プリント］）→［Print Server N01］→［詳細設定］をクリックするなどして表示させます。
2. 左側の機能設定ツリーから［出力方法］＞［ページ番号］を選択します。



   設定項目が表示されます。
3. ［ページ番号をつける］にチェックマークを付けます。

プリントオプションの設定（ページ番号）



■ページ番号をつける

チェックマークを付けると、ページ番号を印字してプリントされます。チェックマークを付けたときは、以下の項目を設定します。

- **設定ファイル**

  登録済みのページ番号設定ファイルを選択します。

- **出力範囲**

  プリントする用紙の範囲を選択します。

  用紙指定

  ［出力範囲］が［用紙指定］の場合に入力します。

  用紙の区切りはカンマ「,」で、連続した用紙はハイフン「-」で入力します。「-5」は「1～5枚目まで」、「5-」は「5枚目以降」です。

5

Print Serverのソフトウェア

アプリケーションを開かないでプリントできるDropUtility、クライアントコンピューターのWebブラウザーでジョブの管理ができるWebManagerなどについて説明しています。

5.1 DropUtility 254
5.1.1 DropUtilityの操作（Macintoshクライアント）..... 255
5.1.2 DropUtilityの操作（Windowsクライアント）..... 257
5.1.3 DropUtilityの設定..... 259
5.2 WebManager 265
5.2.1 ［状態］タブ..... 266
5.2.2 ［ジョブと履歴］タブ..... 267
5.2.3 ［ログイン］タブ..... 271
5.2.4 ［プリファレンス］タブ 272
5.2.5 ［アップロード］タブ..... 273
5.2.6 ［ダウンロード］タブ..... 275
5.3 Easy Magnifier..... 278
5.4 Printer Status Monitor 281
5.4.1 Print Serverへの接続..... 281
5.4.2 Printer Status Monitorのメニュー 282
5.4.3 Printer Status Monitorのウィンドウ..... 283

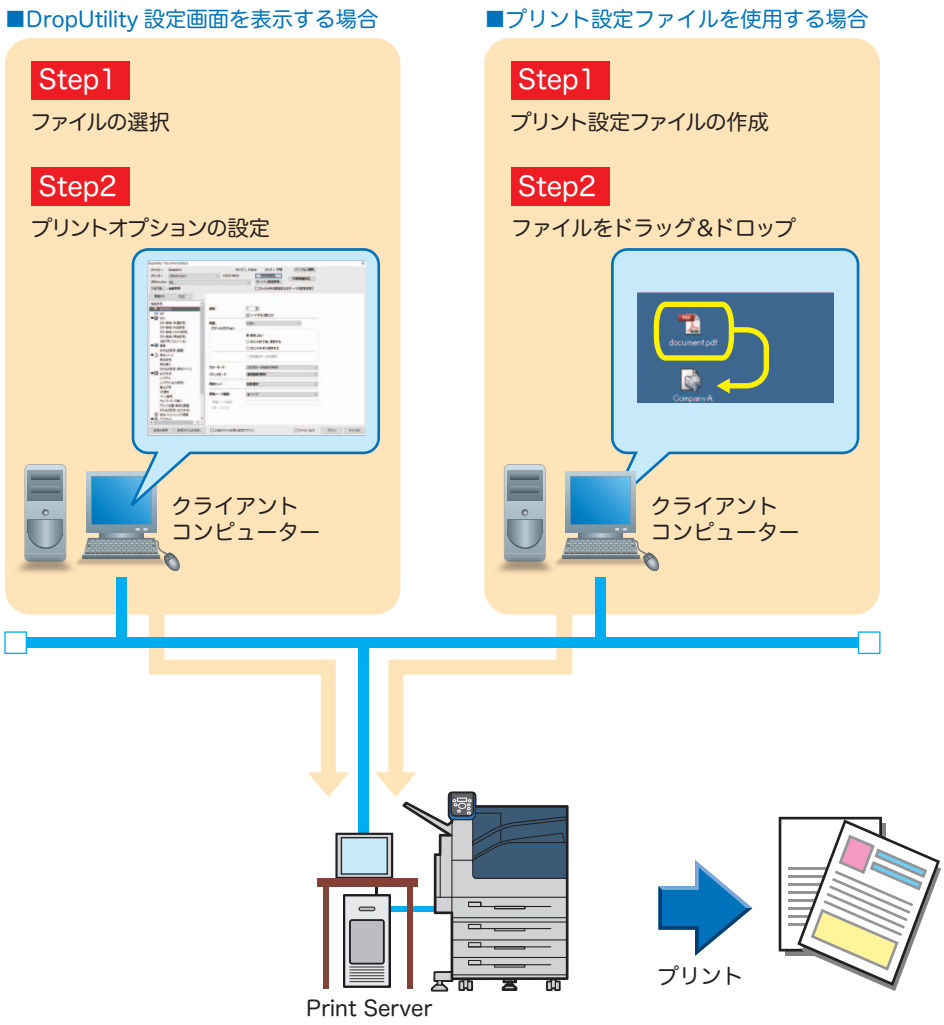
5.1 DropUtility

DropUtility とは、ファイルを作成したアプリケーションを開かずにジョブを Print Server に送信してプリントするための、クライアントコンピューターで使うソフトウェアです。

ファイルを作成したアプリケーションがなくても、DropUtilityを使用するとプリントできます。また、プリントオプションの設定が同じジョブが複数ある場合は、ジョブごとにプリントの指示をしなくても1回の指示でプリントできるので、時間が短縮できます。

DropUtilityを使用してプリントできるファイルフォーマットは、以下のとおりです。

・PostScript ・EPS ・PDF ・TIFF ・JPEG



参照 DropUtilityのインストールについては、『ユーザーズガイド 導入編』の「2.3 ソフトウェアをインストールする」を参照してください。

MacintoshクライアントとWindowsクライアントでは、操作の手順が異なります。

◆ DropUtilityの操作（Macintoshクライアント）.....255
◆ DropUtilityの操作（Windowsクライアント）.....257

5.1.1 DropUtilityの操作（Macintoshクライアント）

MacintoshクライアントのDropUtilityから、Print Serverにジョブを送信する手順を説明します。

補足 Macintoshクライアント用DropUtilityは、macOSクライアント専用です。

1. ［アプリケーション］→［Fuji Xerox］→［Print Server PX］を開きます。

   補足 「Fuji Xerox」フォルダーは、インストール時に作成されます。

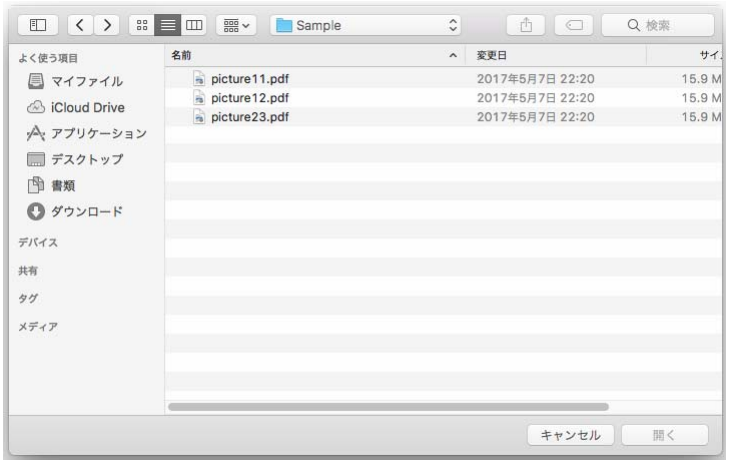
2. ［FX DropUtility for DPC5150d］をダブルクリックします。

   DropUtilityが起動します。

   補足 プリントするファイルを DropUtility のアプリケーションアイコンにドラッグ＆ドロップしても、起動できます。

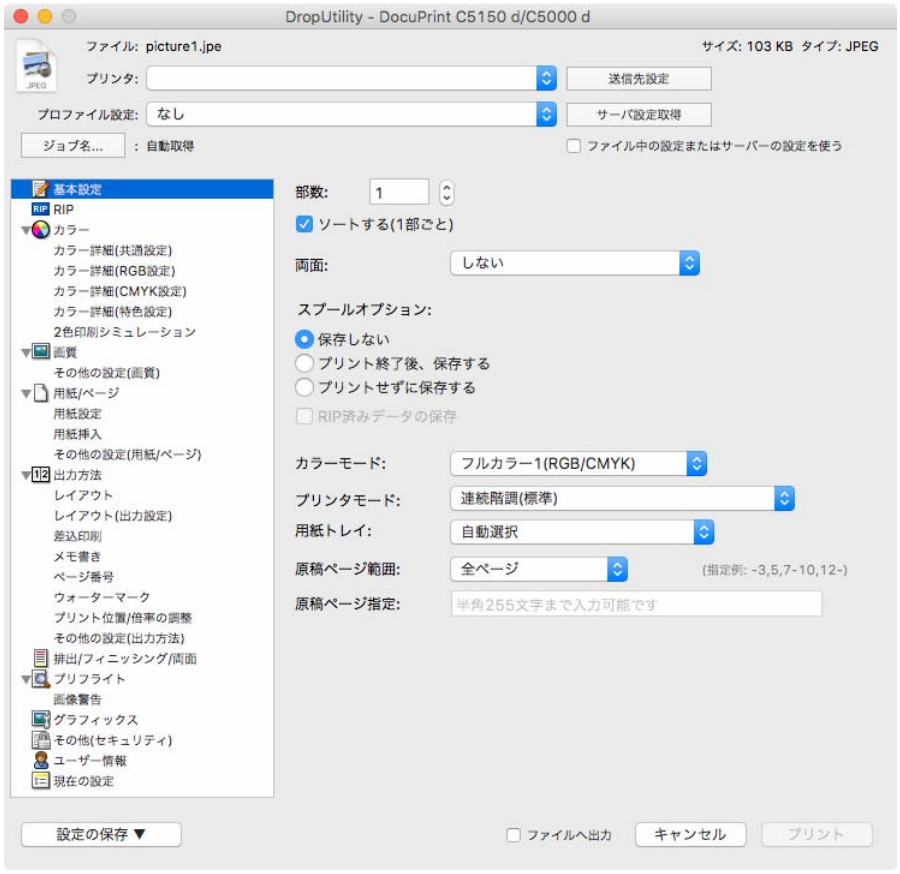
3. ［ファイル］→［開く］を選択します。

4. ファイルを選択し、［開く］をクリックします。



補足 ファイルタイプは自動で判別されます。

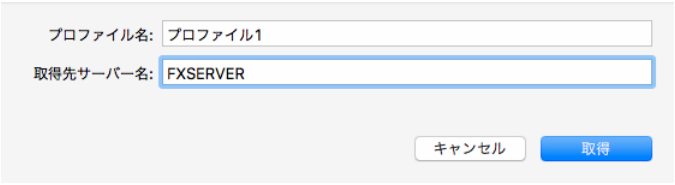
5. [プリンタ]で、送信先のPrint Serverを選択します。



補足
- [プリンタ]が選択できない場合は、「送信先の設定」(P.262)で送信先にPrint Serverを登録してください。
- 設定できない項目はグレー表示になっています。

6. 必要に応じて、プロファイルを取得します。

[サーバ設定取得]をクリックすると、プロファイルを取得するダイアログボックスが表示されるので、プロファイル名と取得先サーバーのコンピューター名(またはIPアドレス)を入力し、[取得]をクリックします。



補足
プロファイルの設定をダウンロードすると、ServerManager で設定した CMYK シミュレーションの割り当て情報などがクライアントコンピューターのプリンタードライバーに表示されます。
詳細は、「プロファイル設定のダウンロード」(P.275)を参照してください。

7. 必要に応じて、プリントオプションを設定します。

参照
- プリントオプションについては、「4.1 ジョブを編集する(プリントオプション項目)」(P.190)を参照してください。
- DropUtilityの設定については、「5.1.3 DropUtilityの設定」(P.259)を参照してください。

8. [プリント] をクリックします。

設定した内容で、ファイルがPrint Serverに送信されます。

DropUtilityを終了する場合は、[FX DropUtility for DPC5150d] メニューから [FX DropUtility for DPC5150dを終了] を選択します。〈command〉キーを押しながら〈Q〉キーを押しても終了します。

5.1.2 DropUtilityの操作（Windowsクライアント）

1. デスクトップの「DropUtility_DocuPrint C5150 d」アイコンをダブルクリックします。



起動ダイアログボックスが表示されます。

補足 [スタート] → [Fuji Xerox] → [Print Server PX] → [DropUtility for DocuPrint C5150 d (V6.0)] を選択しても、DropUtilityを起動できます。

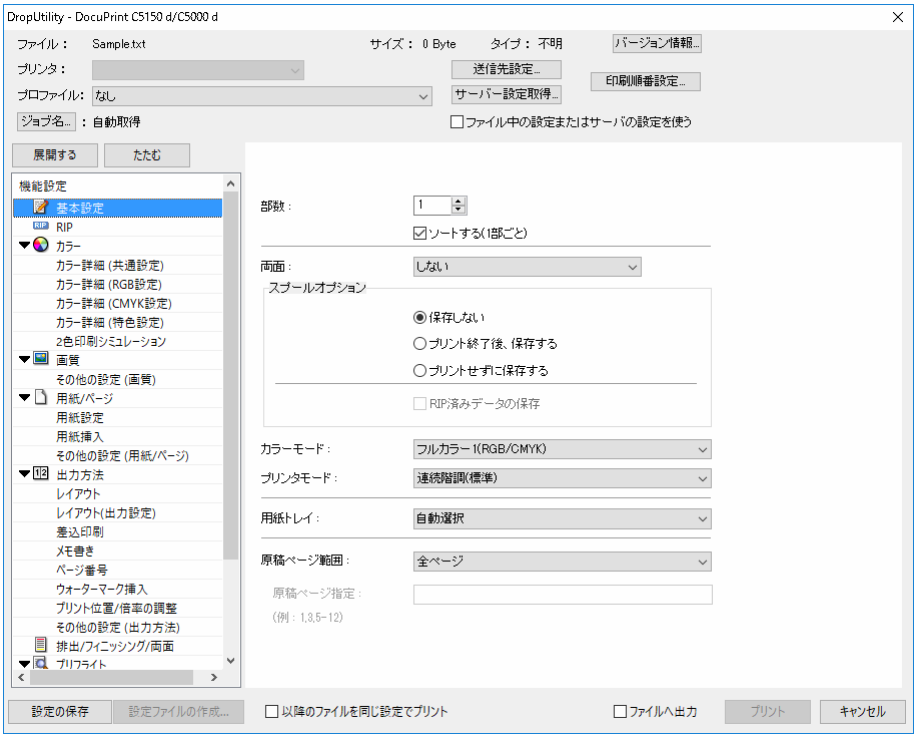
2. [ファイル選択] をクリックします。



補足 プリントするファイルを DropUtility の起動ダイアログボックスにドラッグ＆ドロップしても起動できます。

3. ファイルを選択し、[開く] をクリックします。

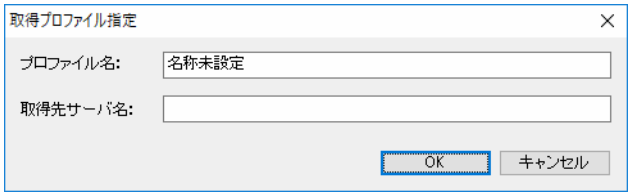
4. ［プリンタ］で、送信先のPrint Serverを選択します。



補足 ［プリンタ］が選択できない場合は、「送信先の設定」（P.262）で、送信先に Print Server を登録してください。

5. 必要に応じて、プロファイルを取得します。

［サーバー設定取得］をクリックすると、プロファイルを取得するダイアログボックスが表示されるので、プロファイル名と取得先サーバーのコンピューター名（または IP アドレス）を入力し、［OK］をクリックします。



補足 プロファイルの設定をダウンロードすると、ServerManager で設定した CMYK シミュレーションの割り当て情報などがクライアントコンピューターのプリンタードライバーに表示されます。
詳細は、「プロファイル設定のダウンロード」（P.275）を参照してください。

6. 必要に応じて、プリントオプションを設定します。

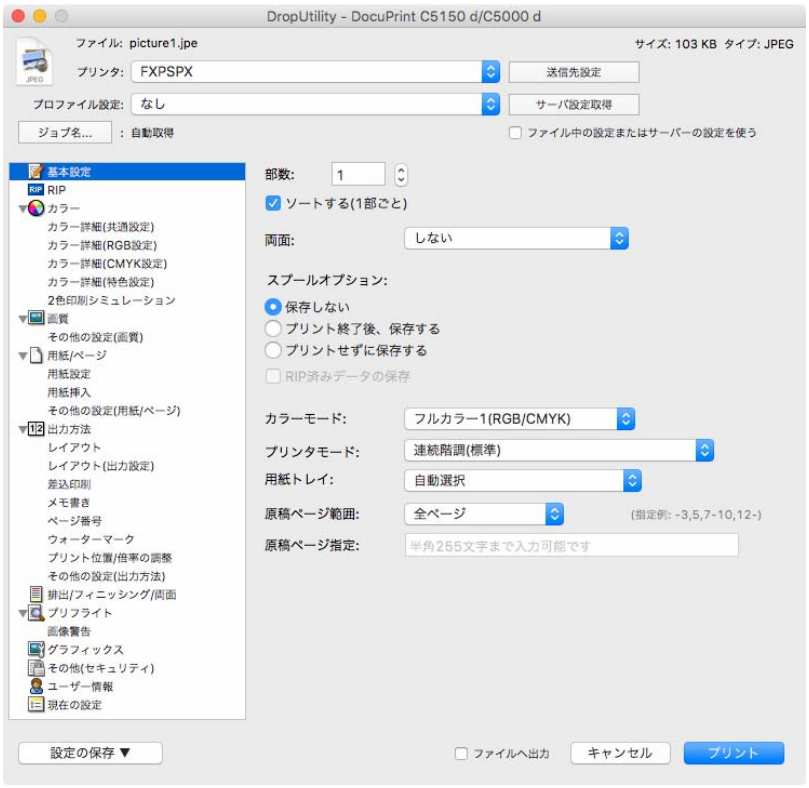
参照 ・プリントオプションについては、「4.1 ジョブを編集する（プリントオプション項目）」（P.190）を参照してください。
・DropUtilityの設定については、「5.1.3 DropUtilityの設定」（P.259）を参照してください。

7. ［プリント］をクリックします。

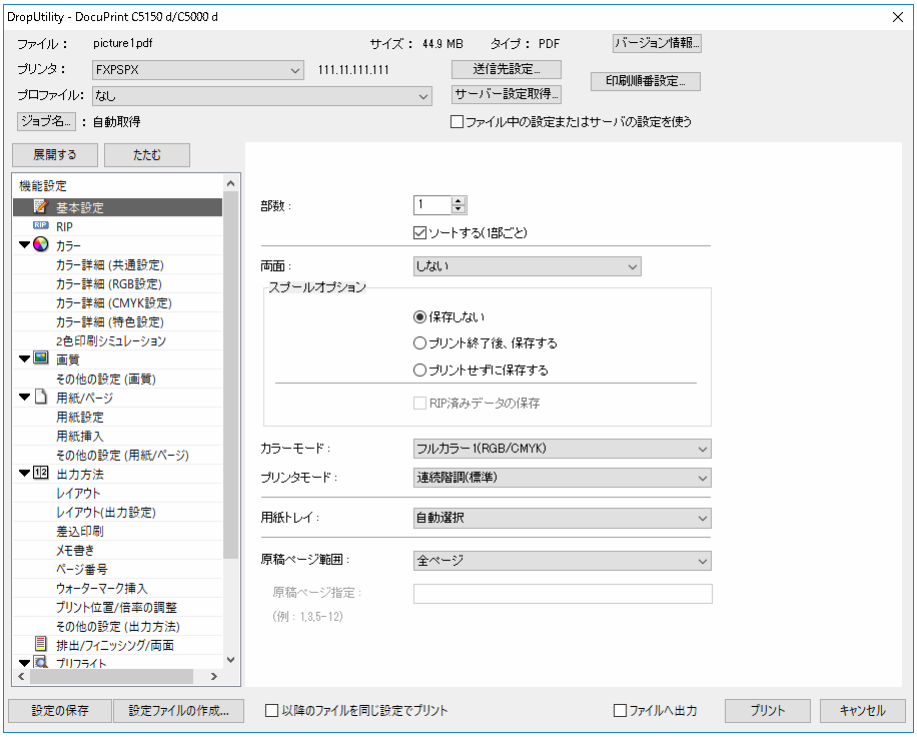
・設定した内容で、ファイルがPrint Serverに送信されます。
・DropUtilityを終了するときは、ダイアログボックスを閉じて、DropUtilityの起動ダイアログボックスで［終了］をクリックします。

5.1.3 DropUtilityの設定

■Macintoshクライアント



■Windowsクライアント



設定項目

- **プリンタ**

  選択したプリンターが表示されます。

- **プロファイル設定（Macintoshクライアント）**
  プロファイル（Windowsクライアント）

  選択したプロファイルが表示されます。

- **ジョブ名**

  ジョブ名を入力します。

- **ファイル中の設定またはサーバーの設定を使う（Macintoshクライアント）**
  ファイル中の設定またはサーバの設定を使う（Windowsクライアント）

  チェックマークを付けると、Print Serverのプリントオプションテンプレートの設定の値でプリントされます。プリントオプションを設定する必要がない場合に、チェックマークを付けます。

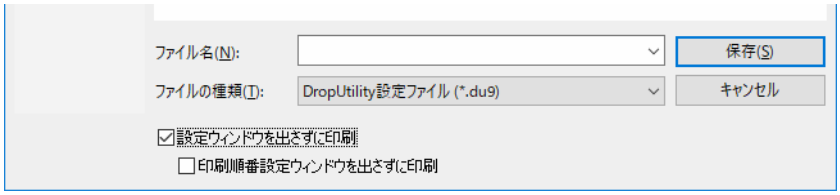
- **設定の保存**

  設定した内容がDropUtility設定画面のデフォルトとして保存されます。

  ［設定の保存］プルダウンメニューで［設定の保存］を選択（Macintoshクライアント）、または［設定の保存］をクリック（Windowsクライアント）したあとは、［キャンセル］をクリックしても、設定の内容をもとに戻すことはできません。

- **設定ファイルの作成（Windowsクライアント）**

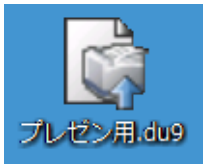
  プリントオプションを登録した設定ファイルを作成できます。表示されたダイアログボックスで、［保存］をクリックします。



設定ウィンドウを出さずに印刷

チェックマークを付けると、ファイルを以下のアイコンにドラッグ＆ドロップするだけで、DropUtility設定画面が表示されずにプリントできる設定ファイルを作成できます。

また、［印刷順番設定ウィンドウを出さずに印刷］にチェックマークを付けると、［印刷順番設定］ダイアログボックスも表示されません。



DropUtilityはPrint Serverにジョブを送信後、自動で終了します。

補足

- ファイル名の拡張子は、「.du9」です。
- 設定ファイルの設定内容を変更する場合は、DropUtility設定画面で項目を変更し、設定ファイルを再度作成してください。

- **ドロップレットの作成（Macintoshクライアント）**

  ［設定の保存］をプルダウンすると、プリントオプションを登録したドロップレットが作成されます。表示されたダイアログボックスで、［保存］をクリックします。



  設定ウィンドウを出さずに直接印刷

  チェックマークを付けると、ファイルを以下のアイコン（ドロップレット）にドラッグ＆ドロップするだけで、DropUtility設定画面が表示されずにプリントできるドロップレットが作成されます。

  また、［印刷順番設定ウィンドウを出さずに印刷］にチェックマークを付けると、［印刷順番設定］ダイアログボックスも表示されません。



  DropUtilityはPrint Serverにジョブを送信後、自動で終了します。

  補足　ドロップレットの設定内容を変更する場合は、DropUtility 設定画面で項目を変更し、ドロップレットを再度作成してください。

- **ファイルへ出力**

  ファイルをプリントする代わりに、ジョブとして保存します。チェックマークを付けると、［プリント］が［保存］に変わります。

  ［保存］をクリックして表示されたダイアログボックスで、保存する場所とファイル名を設定します。保存されるファイルの拡張子は、「.jbf」です。

- **プリント**

  ジョブがPrint Serverに送信され、プリント処理が行われます。

- **キャンセル**

  設定をキャンセルし、ダイアログボックスを閉じます。

複数のファイルのプリント

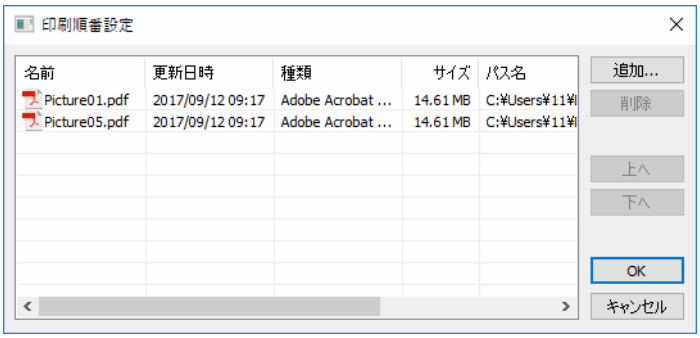
複数のファイルをまとめてプリントする場合は、「5.1.1 DropUtility の操作（Macintosh クライアント）」(P.255)、または「5.1.2 DropUtilityの操作（Windowsクライアント）」(P.257）の手順3で開いた［ファイルを開く］ダイアログボックスで、〈Ctrl〉キー（Macintoshクライアントは〈command〉キー）を押しながらファイルを選択します。

複数のファイルを選択してから［FX DropUtility］アプリケーションアイコンにドラッグ＆ドロップしても、複数のファイルをプリントできます。

以下の項目は、複数のファイルをまとめてプリントする場合にだけ表示されます。

● 印刷順番設定

クリックすると、表示されたダイアログボックスで、プリント順が設定できます。



[追加]（クリックしてファイルを追加します）、[上へ]、[下へ]をクリックしてプリント順を設定し、[OK]をクリックします。

補足

1回のDropUtilityへのドロップ操作、または選択された複数のファイルのプリントは、1ファイル1ジョブで、指定した順序で送信されます。ただし、受信中に、以下のジョブが間に入ることがあります。

- ほかの論理プリンタからのジョブ
- ほかのクライアントコンピューターからのジョブ
- 別に起動されたDropUtility、またはドロップ操作されたジョブ

● 以降のファイルを同じ設定でプリント

チェックマークを付けると、最初に設定した内容で、選択したすべてのファイルがPrint Serverに送信されます。ファイル数に相当する分のダイアログボックスは表示されません。

チェックマークを外すと、送信するファイルの数だけ、繰り返しダイアログボックスが表示されます。それぞれのファイルタイプに応じて、設定できる項目が異なります。

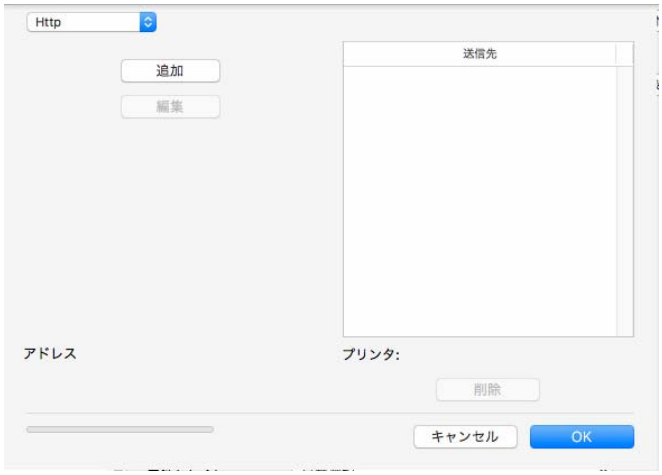
補足

[ファイル]には、「-」が表示されます。[タイプ]には、ファイルタイプが表示されます。ただし、異なるファイルタイプのファイルを同時に複数選択した場合は、「-」が表示されます。

送信先の設定

[送信先設定]をクリックすると、ジョブの送信先の追加、編集、および削除ができます。

■ Macintoshクライアント



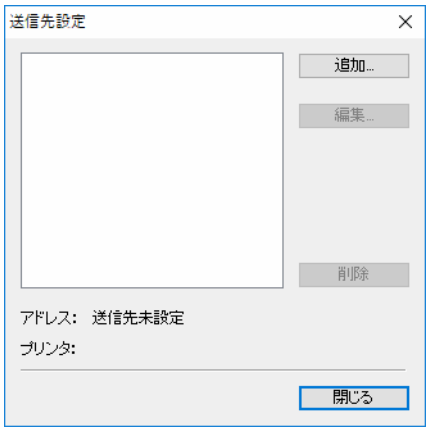
1. [追加]をクリックします。

2. [送信先追加] ダイアログボックスで、[送信先名称]、[サーバーアドレス] を入力し、[OK] をクリックします。
必要に応じて、プロキシサーバーの設定をします。

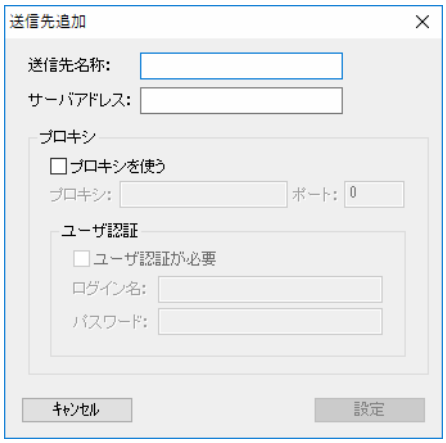
補足 [送信先名称] には、送信先を表示させるときの名前を入力してください。DropUtility設定画面の［プリンタ］の項目に、ここで入力した名前が表示されます。

■Windowsクライアント

1. [送信先設定] をクリックします。
2. [追加] をクリックします。



3. [送信先名称] と［サーバアドレス］を入力し、[設定] をクリックします。



[送信先設定] ダイアログボックスに戻ります。

補足
- プロキシサーバーは、HTTP1.0以降をサポートしている必要があります。
- [送信先名称] には、送信先を表示させるときの名前を入力してください。DropUtility設定画面の［プリンタ］の項目に、ここで入力した名前が表示されます。
- [サーバアドレス] には、Print ServerのIPアドレスを入力してください。

● プロキシを使う

チェックマークを付けると、プロキシサーバーが使用されます。プロキシサーバーは、HTTP1.0以降をサポートしている必要があります。

プロキシ

プロキシサーバーのアドレスを入力します。

ポート

プロキシサーバーのポート番号を入力します。

ユーザ認証が必要

チェックマークを付けると、プロキシサーバーに認証が必要になります。

ログイン名

プロキシサーバーでのユーザー認証のログイン名を入力します。

パスワード

プロキシサーバーでのユーザー認証のパスワードを入力します。

4. [閉じる]をクリックします。

5.2 WebManager

WebManagerとは、Print ServerとTCP/IP環境で接続している場合に、クライアントコンピューターのWebブラウザーを利用して、Print Serverの状態を確認したり、ジョブの設定を変更したりするためのソフトウェアです。

クライアントコンピューターからできる主な機能

- **ジョブを確認、操作する**

  Print Serverに送信したジョブの設定を確認したり、Print Serverに保存したジョブを削除したりできます。「Administrator」でログインすると、ほかのジョブに対する操作もできます。

  プリント履歴をCSVファイル形式でダウンロードできます。

- **Print Serverやプリンターの状態を確認する**

  Print Serverの状態、プリンターにセットされている用紙サイズや用紙の残量、およびトナー量などを確認できます。

  ユーザー調整カーブ、キャリブレーションデータ、およびカラープロファイルの設定情報なども確認できます。

- **WebManagerからファイルをプリントする**

  WebManager ウィンドウからファイル（PostScript、EPS、TIFF、PDF、JPEG）を選択して Print Serverに送信し、プリントできます。

- **プリンタードライバーなどをダウンロードする**

  クライアントコンピューターで使用するプリンタードライバー、各種ソフトウェアをダウンロードできます。

- **ファイルをダウンロードする**

  プリントオプションの［プリフライト］＞［RIP 後のデータをファイルに保存］＞［TIFF で保存する］、または［PDFで保存する］を選択して保存したファイルをダウンロードできます。

対応ブラウザー

Print Serverとの接続には、Webブラウザーを利用します。新しくソフトウェアをインストールしたり、ネットワークを設置したりする必要はありません。

◆Macintoshクライアント

Mac OS ClassicクライアントのWebブラウザーの対応バージョンは、以下のとおりです。

・Internet Explorer® 5.1.7

・Netscape® 7.0.2

macOSクライアントのWebブラウザーの対応バージョンは、以下のとおりです。

・Safari 10.0（10.10.5）

・Safari 11.0（10.11.6）

・Safari 12.0（10.12.6、10.13.6、10.14以降）

・Firefox® 65（10.10以降）

◆Windowsクライアント

Webブラウザーの対応バージョンは、以下のとおりです。

- Internet Explorer 9.0（Windows Server® 2008）
- Internet Explorer 10.0（Windows Server 2012）
- Internet Explorer 11.0（Windows 10、Windows 8.1、Windows 7、Windows Server 2019、Windows Server 2016、Windows Server 2012 R2、Windows Server 2008 R2）
- Firefox 65

WebManagerの起動方法

Windows 10でInternet Explorer 11.0を使用する場合を例に説明します。

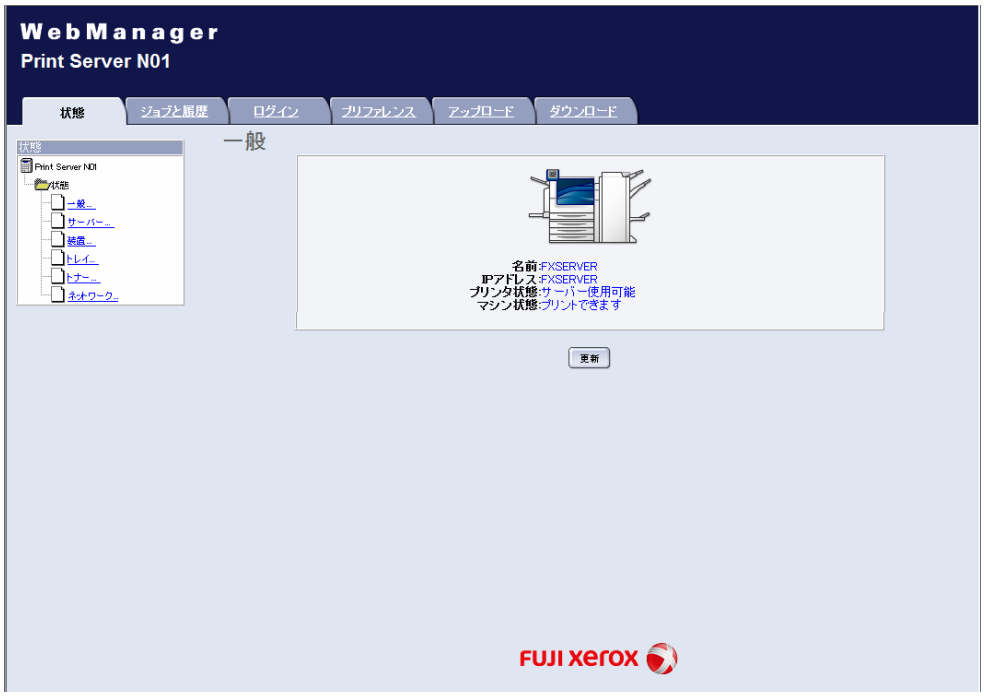
1. Internet Explorerを起動します。
2. アドレス欄にPrint ServerのIPアドレスを入力し、〈Enter〉キーを押します。

補足

- Webブラウザーの［戻る］をクリックして前のページに戻ったとき、前のページで設定していた項目が設定されていない状態に戻ることがあります。
- 複数のクライアントコンピューターで同時に接続すると、接続数の制約によって、一部のフレームが正しく表示されないことがあります。この場合、少し待ってから再度接続してください。
- Webブラウザーの［更新］をクリックしてジョブの表示を更新した場合、ジョブの表示が完了する前にほかの操作を行うと、それ以降の操作が正常に行えなくなることがあります。この場合、再度Webブラウザーの［更新］をクリックし、ジョブの表示が完了するまでお待ちください。

5.2.1 ［状態］タブ

［状態］タブには、Print Server とプリンターの概要、および ServerManager ウィンドウのステータスメッセージ、マシン消耗品状態エリア、ネットワーク状態エリアと同様の内容が表示されます。



参照 表示される項目については、「3.1.1 ServerManagerウィンドウ」（P.116）の該当する箇所を参照してください。

- **一般**
  Print Serverとプリンターの概要が表示されます。
- **サーバー**
  Print Serverの状態と現在のハードディスク残量が表示されます。
- **装置**
  接続しているプリンターの状態が表示されます。装置の状態には、以下のものがあります。
  ・プリントできます　・サイクルアップ中　・節電モード　・電源が入っていません
  ・プリントしています　・＊/＊＊（＊はプリント中のページ番号、＊＊は総ページ数）枚目プリント中
- **トレイ**
  各トレイにセットされている用紙サイズ、用紙残量、用紙の種類が表示されます。
- **トナー**
  各トナーの状態が表示されます。
- **ネットワーク**
  利用できるネットワークの種類、名称と状態が表示されます。

5.2.2 ［ジョブと履歴］タブ

［ジョブと履歴］タブには、ServerManagerの［ジョブ］メニューと同じ項目が表示されます。



補足
・一度に開くことができるウィンドウは1つだけです。複数の保持ジョブリストを開いてジョブを編集しようとすると、「ジョブを1つだけ選択してください」というメッセージが表示され、［ジョブ編集］ダイアログボックスが開かないことがあります。
・プリントボックスに多数のジョブがある場合、ジョブの表示に時間がかかることがあります。

操作ボタン

ボタンは、ServerManagerの［ジョブ］メニューと同じです。

補足
・選択したジョブや、ジョブの状態によって、使用できるボタンは異なります。
・セキュリティプリントが設定されているジョブは、WebManagerでは操作できません。

参照 操作ボタンの機能については、「3.1.5 ジョブメニュー」（P.131）を参照してください。

ジョブの状態に応じて、使用できる操作ボタンは、以下のとおりです。

ジョブの状態	使用できる操作ボタン
処理中	削除、停止、編集、プレビュー
保持	削除、RIP 済データを削除、RIP 済データを作成、処理開始、編集、プレビュー、PS プリフライト作成、PSプリフライト表示、PSプリフライト印刷、続きをプリント
プレビュー	削除、名前変更、プレビュー、ダウンロード
送信	削除、直ちに送信
受信	削除、プリントジョブに複製、プロパティ
エラー	削除、RIP 済データを削除、RIP 済データを作成、処理開始、編集、プレビュー、PS プリフライト作成、PSプリフライト表示、PSプリフライト印刷、続きをプリント

補足 APPEジョブでは、以下の操作はできません。
［PSプリフライト作成］、［PSプリフライト表示］、［PSプリフライト印刷］、［続きをプリント］

ServerManagerのメニューにない項目、またはServerManagerの機能と異なる項目は、以下の2つです。

- プレビュー

  選択したジョブのプレビュー画像が別のウィンドウで表示されます。

  補足 プレビュー画像が存在しない場合は、プレビュー画像がないことを表すウィンドウが表示されます。

- 編集

  プリントオプションの仕様と異なる項目は、以下のとおりです。

  ・［差込印刷］を［フォームとして登録］にして、［フォーム番号］を選択したフォームが登録済みである場合は、エラーメッセージが表示され、［差込印刷］が［しない］に変更されます。
  ・以下のエラーメッセージが表示された場合は、RIP済みデータを作成してください。
  -「フォームとして使うにはRIP済みデータを作成する必要があります」
  -「RIP済みデータを削除しました。RIP済みデータの作成を行ってください」
  ・［セキュリティプリント］、［特殊ページ］の設定はWebManagerからは編集できません。

プリント履歴

左側フレームから［プリント履歴］を選択すると、ジョブの履歴をCSVファイルに出力して、表示、または保存できます。プリンターを共有している場合、部門やユーザーごとにプリント履歴の確認ができるので、管理がしやすくなります。

補足
・Administratorでログインしているときだけの機能です。
・プリント履歴を記録するためには、ServerManagerでの設定が必要です。

参照
・プリント履歴については、「6.1.1 プリント履歴」（P.286）を参照してください。
・プリント履歴の設定については、『ユーザーズガイド 導入編』の「1.5.2 ServerManager の環境設定」の「ジョブ履歴の設定」を参照してください。

リストに表示される項目

右側エリアに表示される項目は、以下のとおりです。

・表示される項目は、「3.1.1 ServerManagerウィンドウ」（P.116）の該当する箇所を参照してください。
・プリンターエラー、RIPエラー、および受信時エラーについては、「6.3 エラージョブメッセージについて」（P.300）を参照してください。

項目	説明	
フォルダ名	保持リストのジョブが格納されているフォルダーのフォルダー名が表示されます。 フォルダー名をクリックすると、フォルダーに格納されているジョブが表示されます。	
ジョブ名	クライアントコンピューターからプリントされたジョブのファイル名が表示されます。 ジョブ名の前にはアイコンが表示されます。 「*」以外のアイコンは、ServerManagerのジョブリストと同じです。	
	*	複数のマークに該当している場合に表示されます。
RIP（処理中のみ）	RIPの表示は、ServerManagerのジョブリストと同じです。	
印刷（処理中のみ）	プリントの表示は、ServerManagerのジョブリストと同じです。	
ステータス （エラーのみ）	エラーの表示は、ServerManagerのジョブリストと同じです。 加えて、以下のエラーのレベルが表示されます。	
	E	ファイルの修正や再プリントが必要なエラーが発生している場合に、赤色で表示されます。
	W	プリントオプションの変更で再プリント可能なエラーが発生している場合に、マゼンタ色で表示されます。
	N	エラーを解除すると再プリントが可能な場合に、黒色で表示されます。
所有者	所有者の表示は、ServerManagerのジョブリストと同じです。	
受信時刻	Print Serverがクライアントコンピューターからジョブを受信した時刻が表示されます。	
ファイルサイズ	受信したジョブのファイルサイズが表示されます。	
受信プロトコル	ジョブの受信プロトコルが表示されます。	
RIPの種類	RIPの種類（CPSI、APPE）が表示されます。	

ファイルのダウンロード

プリントオプションの［プリフライト］＞［RIP後のデータをファイルに保存］＞［TIFFで保存する］、または［PDFで保存する］を選択して保存したファイルは、［プレビュー］ボックスからダウンロードできます。

■Macintoshクライアント

1. 左側フレームにある［ジョブと履歴］の［プレビュー］を選択します。
   右側フレームに、プレビューボックスの内容が表示されます。
2. プレビューを表示させるジョブをクリックします。
3. ダウンロードするファイルの前に付いている操作対象のチェックマークを付けます。
4. ［ダウンロード］をクリックします。
5. 表示されたダイアログボックスを確認し、［保存］をクリックします。
6. ダウンロード方法は、使用しているWebブラウザーによって異なります。

◆Safariの場合

Webブラウザーで選択したダウンロード用フォルダーにファイルが保存されます。

◆Firefoxの場合

1. [{ファイル名}を開く] ダイアログボックスが表示されるので、[ファイルを保存する] を選択し、[OK] をクリックすると［ダウンロードマネージャ］にファイル名が表示されます。
2. ダウンロードが完了したファイルを任意の場所にドラッグ＆ドロップします。

◆Internet Explorerの場合

［ダウンロードマネージャ］にファイル名が表示されます。ダウンロードが完了したファイルを任意の場所にドラッグ＆ドロップします。

◆Netscapeの場合

1. [{ファイル名}のダウンロード] ダイアログボックスが表示されるので、[このファイルをディスクに保存する] を選択して［OK］をクリックします。
［保存先のファイル名を入力してください］ダイアログボックスが表示されます。
2. ［保存］をクリックします。

■Windowsクライアント

1. 左側フレームにある［ジョブと履歴］の［プレビュー］を選択します。
右側フレームに、プレビューボックスの内容が表示されます。
2. プレビューを表示させるジョブをクリックします。
3. ダウンロードするファイルの前に付いている操作対象のチェックマークを付けます。
4. ［ダウンロード］をクリックします。
5. 表示されたダイアログボックスを確認し、［保存］をクリックします。
6. ダウンロード方法は、使用しているWebブラウザーによって異なります。

◆Internet Explorerの場合

［ファイルのダウンロード］ダイアログボックスが表示されるので、［保存］をクリックすると、［名前を付けて保存］ダイアログボックスが表示されます。

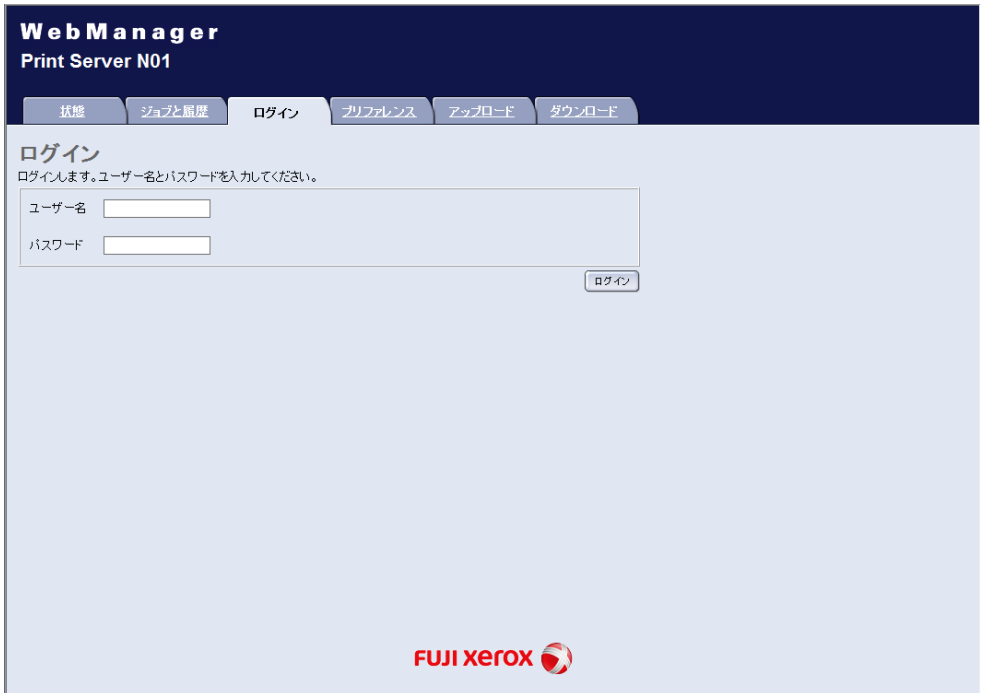
◆Firefoxの場合

[{ ファイル名 } を開く］ダイアログボックスが表示されるので、［ファイルを保存する］を選択し、［OK］をクリックすると、［保存ファイル名を入力してください］ダイアログボックスが表示されます。

7. 保存する場所を選択し、［OK］、または［保存］をクリックします。

5.2.3 ［ログイン］タブ

［ログイン］タブは、WebManagerにログインするときに使用します。



補足

・［ユーザー名］と［パスワード］は、大文字と小文字を区別します。
・ユーザーレベルは、ユーザー名、パスワードの入力状況に応じて、［ログイン］をクリックしたときに決定します。
・WebManagerにログインするためのユーザー名とパスワードは、ServerManagerで設定します。設定方法については、『ユーザーズガイド 導入編』の「1.2.2 ユーザー管理」を参照してください。

5.2.4 ［プリファレンス］タブ

［プリファレンス］タブには、ServerManagerで設定したキャリブレーションデータやカラープロファイルなどの設定内容を確認できます。



［プリファレンス］タブで確認できる項目は、以下のとおりです。

■ カラー調整

● キャリブレーション

各トレイに割り当てられているキャリブレーションデータとデータの作成日時を、キャリブレーションの種類別に確認できます。

● フルカラー 1、グレースケール

カラープロファイル

以下のカラープロファイルの割り当てが確認できます。

・RGB色補正プロファイル　・RGB出力プロファイル　・CMYKシミュレーション
・特色補正プロファイル　・カラー置換

● カラープロファイル共通

ユーザー調整カーブ

ユーザー調整に割り当てられている、ユーザー調整カーブのプロファイルを確認できます。

濃度調整

濃度調整に割り当てられている、濃度調整カーブのプロファイルを確認できます。

■ 差込印刷

以下の差込印刷用に登録されているフォームを確認できます。

・先頭ページのプレビュー　・フォーム番号　・フォーム名　・用紙サイズ
・ページ数　・所有者名　・受信日時　・ステータス

■ ウォーターマーク

以下のウォーターマークのフォームを確認できます。

・プレビュー　・ウォーターマーク番号　・ウォーターマーク名

■ページ番号

ページ番号設定ファイルの割り当てが確認できます。

■Internet Service

ジョブリストの自動更新間隔を設定できます。

- **自動更新間隔**

  デフォルト：「30」秒

  自動で更新する間隔を設定できます。入力範囲は、0～30秒です。「0」の場合は、自動で更新されません。

- **適用**

  設定が適用されます。

5.2.5 ［アップロード］タブ

［アップロード］タブでは、クライアントコンピューターにあるファイルを Print Server に送信してプリントできます。

設定できるプリントオプションの項目は、クライアントコンピューターから設定するプリントオプションや［ジョブ編集］ダイアログボックスに表示される項目と同様です。

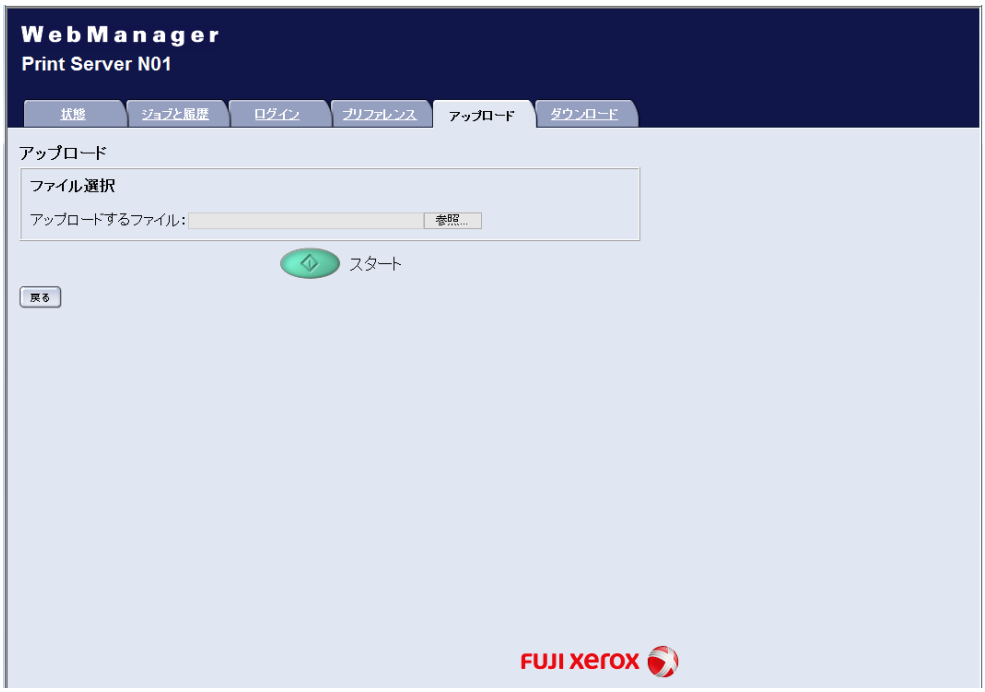
参照 プリントオプションの詳細は、「4.1 ジョブを編集する（プリントオプション項目）」（P.190）を参照してください。



1. ［アップロード］タブをクリックします。
2. 必要に応じて、プリントオプションを設定します。
   - **ファイル中の設定またはサーバーの設定を使う**

     ［有効］にチェックマークを付けると、Print Serverのプリントオプションテンプレートの設定の値でプリントされます。プリントオプションを設定する必要がない場合に、チェックマークを付けます。
3. ［アップロード］タブの、右側エリアの左上にある［次へ］をクリックします。

4. ［参照］をクリックしてファイルを選択し、［スタート］をクリックします。



5. ［OK］をクリックします。

Print Serverにファイルが送信され、処理中リストに表示されます。

補足

・アップロード終了のメッセージが表示されるまで、ほかのページに移動しないでください。アップロードが中断され、ファイルが正常に送信されません。

・「Content-Typeが正しくありません。このブラウザーではアップロードできません」というメッセージが表示され、ウィンドウが正しく表示されないことがあります。この場合、Webブラウザーを再起動してください。

5.2.6 ［ダウンロード］タブ

［ダウンロード］タブでは、クライアントコンピューターで使用するプリンタードライバー、各種ソフトウェアや、Print Serverのカラープロファイル、フォーム、ウォーターマークの割り当て情報などを入手できます。



ソフトウェアのダウンロード

WebManagerを使って、必要なソフトウェアをダウンロードできます。

参照 ソフトウェアのダウンロードについては、『ユーザーズガイド 導入編』の「2 クライアントコンピューターの設定」を参照してください。

プロファイル設定のダウンロード

プロファイルの設定をダウンロードすると、ServerManagerで設定したCMYKシミュレーションの割り当て情報などがクライアントコンピューターのプリンタードライバーに表示されます。

プロファイルは、クライアントコンピューターのプリンタードライバーで［取得］をクリックしても、ダウンロードできます。

Print Serverの設定情報が知りたいときは、クライアントコンピューターで確認できます。

ダウンロードできる設定情報は、以下のとおりです。

- RGB色補正プロファイル
- RGB出力プロファイル
- CMYKシミュレーション
- カラー置換設定ファイル
- ユーザー調整カーブ
- 特色補正プロファイル
- フォーム管理
- 濃度調整カーブ
- キャリブレーションファイル
- ウォーターマーク管理
- ページ番号設定ファイル
- ライセンスの設定
- カスタムペーパー名

■macOSクライアント

補足　プロファイル設定のダウンロードができるのは、macOSクライアントだけです。

1. ［共通］をクリックします。
   ［共通］に、［プロファイル設定のダウンロード］が表示されます。
2. ［プロファイル設定のダウンロード］をクリックします。
   ［「プロファイル設定」の利用方法］が表示されます。
3. プロファイル設定のダウンロード方法は、使用しているWebブラウザーによって異なります。

補足　［profile］フォルダーは、以下のフォルダーにあります。

ハードディスク：ユーザー /（各ユーザー別フォルダ）/ ライブラリ /Preferences/Fuji Xerox/Print Server PX/DPC5000d/

◆Safariの場合

1. ［プロファイル設定（DocuPrint C5150 d/C5000 d)］をクリックします。
   Webブラウザーで選択したダウンロード用フォルダーにファイルが保存されます。
2. ［Print Server PX］→［DPC5000d］→［profile］を選択し、開いたフォルダーにダウンロードが完了したファイルをドラッグ＆ドロップします。
   「profile」フォルダーにファイルが移動します。

◆Firefoxの場合

1. ［プロファイル設定（DocuPrint C5150 d/C5000 d)］をクリックします。
   ［{ファイル名}を開く］ダイアログボックスが表示されます。
2. ［ファイルを保存］をクリックします。
   Webブラウザーで選択したダウンロード用フォルダーにファイルが保存されます。
3. ［Print Server PX］→［DPC5000d］→［profile］を選択し、開いたフォルダーにダウンロードが完了したファイルをドラッグ＆ドロップします。
   「profile」フォルダーにファイルが移動します。

■Windowsクライアント

1. ［共通］をクリックします。
   ［共通］に、［プロファイル設定のダウンロード］が表示されます。
2. ［プロファイル設定のダウンロード］をクリックします。
   ［「プロファイル設定」の利用方法］が表示されます。
3. プロファイル設定のダウンロード方法は、使用しているWebブラウザーによって異なります。

補足
・ファイル名の拡張子が「.txt」になっている場合は、「.cps」に変更してください。
・「profile」フォルダーは、以下のフォルダーにあります。

{ドライブ名}:¥Users¥Public¥Documents¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥DPC5000d

◆Internet Explorerの場合

1. ［プロファイル設定（DocuPrint C5150 d/C5000 d)］をクリックします。
   ［ファイルのダウンロード］ダイアログボックスが表示されます。

2. ［保存］をクリックします。
［名前を付けて保存］ダイアログボックスが表示されます。
3. Windowsの［Print Server PX］→［DPC5000d］→［profile］を選択し、［OK］をクリックします。
ダウンロードしたファイルが「profile」フォルダーに保存されます。

◆Firefoxの場合

1. ［プロファイル設定（DocuPrint C5150 d/C5000 d)］をクリックします。
［{ファイル名}を開く］ダイアログボックスが表示されます。

補足 ［Macintosh（Classic）］のソフトウェア名やプロファイル設定をクリックしても、［{ファイル名}を開く］ダイアログボックスが表示されない場合は、ソフトウェア名やプロファイル設定を右クリックし、表示されたメニューで［名前を付けてリンク先を保存］を選択し、任意の場所に保存してください。

2. ［ファイルを保存する］を選択し、［OK］をクリックします。
［保存ファイル名を入力してください］ダイアログボックスが表示されます。
3. Windowsの［Print Server PX］→［DPC5000d］→［profile］を選択し、［OK］をクリックします。
ダウンロードしたファイルが「profile」フォルダーに保存されます。

ICCプロファイル

ICCプロファイルは、デバイスの色に関する特性が記述されているファイルです。

参照 ICCプロファイルの利用方法については、ICCプロファイルを使用するアプリケーションのマニュアルを参照してください。

WebManagerからダウンロードできるICCプロファイルが圧縮されているファイル名は、以下のとおりです。

◆Macintoshクライアント

FXPSPXICC.img.hqx

◆Windowsクライアント

FXPSPXICC.exe

解凍したファイルを、以下のフォルダーに格納してください。

◆Macintoshクライアントの例

ハードディスク/システムフォルダ/ColorSync特性

補足 Macintoshクライアントでは、ColorSyncのバージョンによって、フォルダー名が異なることがあります。

◆Windowsクライアントの例

{ドライブ名}:¥Windows¥system32¥spool¥drivers¥color

ICC プロファイルを使用してプリントする場合は、Photoshop などのアプリケーションで Print Server 用のICCプロファイルを選択してください。

5.3 Easy Magnifier

Easy Magnifierは、文字が小さくて操作しづらいときに、画面の一部を拡大して表示する拡大鏡ツールです。

参照 Easy Magnifierのインストールについては、『ユーザーズガイド 導入編』の「2.3 ソフトウェアをインストールする」を参照してください。

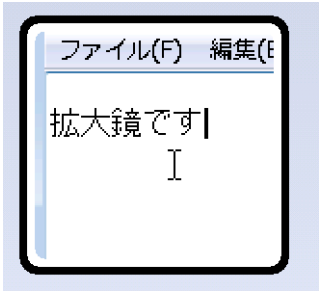
デスクトップの「Easy Magnifier」アイコンをダブルクリックします。



補足 Windowsの［スタート］→［Fuji Xerox］→［Print Server PX］→［Easy Magnifier］を選択しても、Easy Magnifierを起動できます。

Easy Magnifierが起動し、［拡大鏡］ウィンドウと［操作パネル］ウィンドウが表示されます。

［拡大鏡］ウィンドウ



拡大した対象が表示されます。

枠線のサイズは、枠線をドラッグ＆ドロップして変更します。

［操作パネル］ウィンドウ



補足
- ウィンドウ右上の「×」をクリックしても、［操作パネル］が閉じるだけで、Easy Magnifierは終了しません。
- ［操作パネル］を再度表示させるには、タスクトレイのアイコンをダブルクリックするか、右クリック→［操作パネルを開く］を選択します。

◆① 倍率変更

倍率を設定します。設定範囲は、100～900%です。

◆② モード変更

［拡大鏡］ウィンドウの表示方法を選択します。

全画面

ウィンドウ全体が拡大表示されます。

部分拡大（追従）

マウスポインタのある位置が拡大表示されます。マウスポインタの動きに合わせて［拡大鏡］ウィンドウが移動します。

部分拡大

マウスポインタのある位置が［拡大鏡］ウィンドウ内で拡大表示されます。

［拡大鏡］ウィンドウは、ドラッグ＆ドロップして任意の位置に移動したり、枠線をドラッグ＆ドロップしてサイズを変更したりします。

表示位置の設定

［全画面］を選択したとき、マウスを動かして、拡大表示される範囲をクリックします。

◆③ 詳細設定

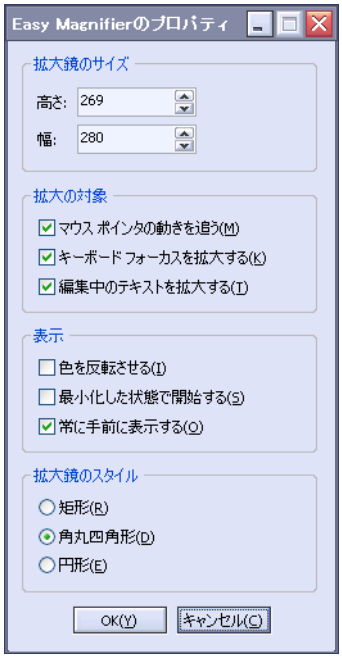
クリックすると、［プロパティ］ウィンドウが表示されます。

◆④ 終了

クリックすると、Easy Magnifierが終了します。

補足 ［全画面］が選択されているときは、〈Esc〉キーでも終了します。

［プロパティ］ウィンドウ



● 拡大鏡のサイズ

［拡大鏡］ウィンドウのサイズを変更します。

- **拡大の対象**

  モードが［部分拡大（追従）］以外の場合に、設定できます。

  チェックマークを付けた項目が、拡大表示する対象として設定されます。複数の項目にチェックマークを付けた場合は、最後にチェックマークを付けた項目が拡大表示する対象となります。

  マウスポインタの動きを追う

  モードが［部分拡大］の場合に設定できます。

  チェックマークを付けると、マウスポインタの動きに合わせて拡大表示される領域が移動します。

  キーボードフォーカスを拡大する

  チェックマークを付けると、キーボードフォーカスのある位置を中心とした領域が拡大表示されます。

  編集中のテキストを拡大する

  チェックマークを付けると、入力中の文字のある位置を中心とした領域が拡大表示されます。

- **表示**

  ウィンドウの表示方法を設定します。

  色を反転させる

  チェックマークを付けると、［拡大鏡］ウィンドウに表示される拡大画像の色が反転します。

  最小化した状態で開始する

  チェックマークを付けると、次回起動時に、［操作パネル］ウィンドウが閉じた状態で起動します。

  補足 ［操作パネル］ウィンドウを表示させるには、タスクトレイのアイコンをダブルクリックするか、右クリック→［操作パネルを開く］を選択します。

  常に手前に表示する

  チェックマークを付けると、［操作パネル］ウィンドウと［プロパティ］ウィンドウが常にデスクトップの最前面に表示されます。

- **拡大鏡のスタイル**

  ［拡大鏡］ウィンドウの枠線の形を選択します。

  ・矩形　・角丸四角形　・円形

タスクトレイのアイコン

・ダブルクリックすると、操作パネルが表示されます。すでに表示されているときは、タスクトレイの近くに移動します。

・右クリックすると、メニューを選択できます。

5.4 Printer Status Monitor

Printer Status Monitorは、接続した複数台のPrint Serverのジョブの状態や消耗品の状態を確認するためのソフトウェアです。



参照 Printer Status Monitorのインストールについては、『ユーザーズガイド 導入編』の「2.3 ソフトウェアをインストールする」を参照してください。

5.4.1 Print Serverへの接続

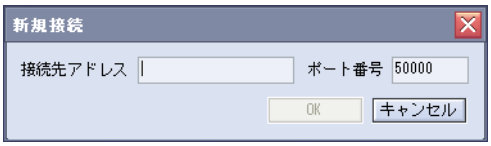
1. デスクトップの「Printer Status Monitor DPC5150d_60」アイコンをダブルクリックします。



Printer Status Monitorが起動します。

補足 Windowsの［スタート］→［Fuji Xerox］→［Print Server PX］→［Printer Status Monitor DPC5150d_60］を選択しても、Printer Status Monitorを起動できます。

2. ［システム］→［新規接続］を選択します。
3. 接続先アドレスとポート番号を入力し、［OK］をクリックします。

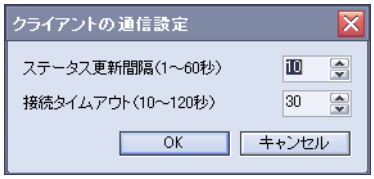


Print Serverに接続されます。

5.4.2 Printer Status Monitorのメニュー

[システム] メニュー

■ クライアントの通信設定



- **ステータス更新間隔**

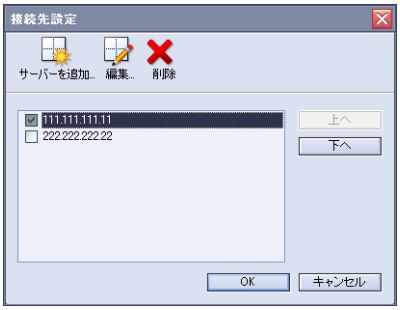
  ステータスの更新間隔を入力します。入力範囲は、1～60秒です。

- **接続タイムアウト**

  Print Serverへの接続タイムアウト時間を入力します。入力範囲は、10～120秒です。

■ 接続先設定

アドレスの左側にチェックマークを付けると、次回起動時に自動で接続されます。



- **サーバーを追加**

  接続するPrint Serverを追加します。クリックしたあと、接続先アドレスとポート番号を入力し、[OK] をクリックします。

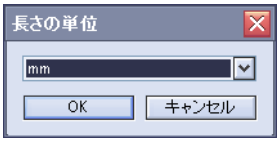
- **編集**

  接続するPrint Serverの接続先アドレスとポート番号を変更します。クリックしたあと、接続先アドレスとポート番号を入力し、[OK] をクリックします。

- **削除**

  接続先を選択し、クリックすると、接続先が削除されます。

■ 長さの単位



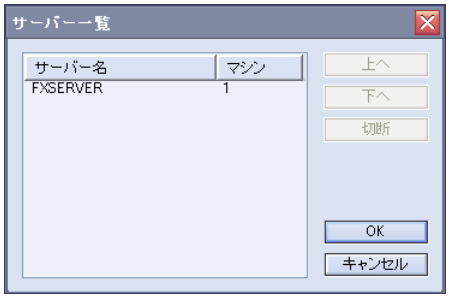
長さの単位を選択します。

・mm　・pt　・inch　・級

[表示] メニュー

■ サーバー一覧

接続中のPrint Serverの一覧が表示されます。

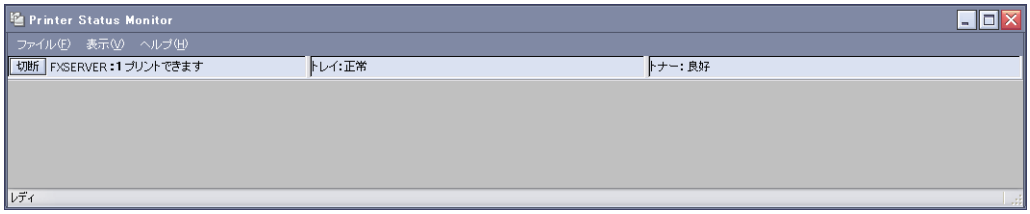


切断

表示されている接続先を選択し、[切断] をクリックすると、選択した接続先との接続が切断されます。

5.4.3 Printer Status Monitorのウィンドウ

■ 簡易表示モード



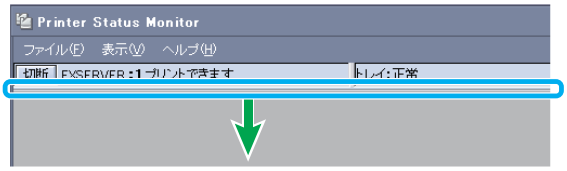
■ 詳細表示モード



モードの切り替え方

起動直後は簡易表示モードで起動します。

詳細表示モードにするには、ウィンドウ下枠のフレームをドラッグ＆ドロップして、下側に移動させます。



マシン状態表示エリア（左側の「プリントできます」が表示されている箇所）をダブルクリックしても、詳細表示モードに切り替わります。

参照 状態表示については、「3.1.1 ServerManagerウィンドウ」（P.116）を参照してください。

6

Print Serverの情報とエラー表示

Print Serverで確認できる情報、エラージョブメッセージについて説明しています。

6.1 Print Serverの情報を確認する 286
6.1.1 プリント履歴 286
6.1.2 フォント情報 288
6.1.3 スタートアップページ 294
6.1.4 エラー履歴の収集 295
6.1.5 ジョブ検索 295
6.1.6 データの完全消去 297
6.2 エラーダイアログボックスについて 299
6.3 エラージョブメッセージについて 300
6.3.1 RIPエラー 300
6.3.2 コントローラーボードエラー 309
6.3.3 プリンターエラー 309
6.3.4 データベースエラー 313
6.3.5 受信時エラー 315
6.3.6 メール送受信、ファイル転送時エラー 315

6.1 Print Serverの情報を確認する

Print Serverで確認できる情報について説明します。

6.1.1 プリント履歴

ジョブの履歴を表示させたり、プリントできます。また、CSVファイルに保存できます。プリンターを共有している場合、部門やユーザーごとにプリント履歴の確認ができるので、管理がしやすくなります。

補足
- プリント履歴を記録するためには、ServerManager の［システム］→［ジョブ履歴］→［設定］の［プリント履歴を記録する］にチェックマークが付いていることを確認してください。
- プリント履歴には、エラージョブとしてPrint Serverから自動削除されたジョブも含みます。

参照 プリント履歴の削除方法については、『ユーザーズガイド 導入編』の「1.5.2 ServerManagerの環境設定」の「ジョブ履歴の設定」を参照してください。

■プリント履歴の内容

ジョブごとに、以下の項目を確認できます。

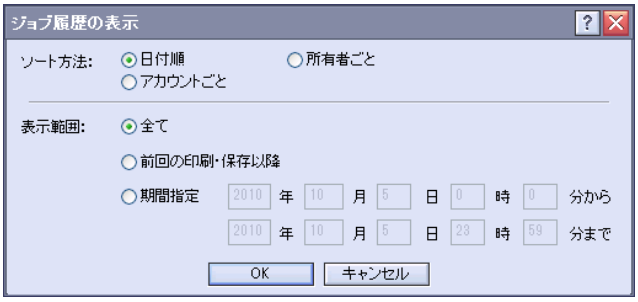
・所有者	・ドキュメント名	・アカウント	・ステータス
・受信開始日時	・RIP開始日時	・RIP経過時間	・印刷開始日時
・印刷経過時間	・カラーモード	・用紙種類	・用紙サイズ
・両面印刷	・部数	・ドキュメントページ数	・カラーページ数（4色）
・グレーページ数	・カバーページ	・コメント	・エラー内容

補足
- 「所有者」、「アカウント」、および「コメント」には、ファイル送信時に表示されるプリントオプションの［ユーザー情報］タブで設定した項目が表示されます。
- 「RIP開始日時」とは、実際にRIPが開始された時刻です。ジョブが処理中リストに移動した（RIP処理待ちになった）時刻ではありません。
- 「印刷開始日時」とは、1ページ目のデータのPCIボードへの転送が開始された時刻です。RIP済みデータの作成の場合は、保存が開始された時刻です。
- 「印刷経過時間」とは、「RIP開始日時」からプリントが終了するまでの時間です。RIP済みデータの作成の場合は、保存が完了するまでの時間です。
- 「エラー内容」は、プリントオプションの［ジョブ情報］に表示される［ステータス］と同じ内容です。
- 「用紙サイズ」は、プリントした用紙サイズです。。たとえば、ジョブの用紙サイズに A2Lを設定した場合はA3に、A4サイズの小冊子作成をした場合はA3です。
- 「ドキュメントページ数」の合計は、「カラーページ数」の合計＋「グレーページ数」の合計です。
- 「グレーページ数」には、PostScriptエラーシートを含みます。

プリント履歴の表示

1. ServerManagerの［システム］→［ジョブ履歴］→［表示］を選択します。

2. 各項目を設定し、[OK]をクリックします。



- **ソート方法**

  ・日付順　　・所有者ごと　　・アカウントごと

  補足 [日付順]の日時は、プリント用紙の排出が終了した日時です。また、エラージョブとしてPrint Serverから自動削除されたジョブについては、削除が終了した日時になります。

- **表示範囲**
  - **全て**

    すべてのジョブのプリント履歴が表示されます。
  - **前回の印刷・保存以降**

    前回の保存以降のプリント履歴が表示されます。
  - **期間指定**

    設定した期間のプリント履歴が表示されます。期間の西暦は、4桁の数値を入力します。

プリント履歴の保存

1. ServerManagerの[システム]→[ジョブ履歴]→[保存]を選択します。
2. 各項目を設定し、[OK]をクリックします。
3. ファイル名を入力するダイアログボックスで、[保存]をクリックします。

プリント履歴のプリント

1. ServerManagerの[システム]→[ジョブ履歴]→[印刷]を選択します。
2. 各項目を設定し、[OK]をクリックします。



プリント履歴のジョブがServerManagerの処理中リストに表示されます。

- ソート方法

  ・日付順　　・所有者ごと　　・アカウントごと

  補足　［日付順］の日時は、プリント用紙の排出が終了した日時です。また、エラージョブとしてPrint Serverから自動削除されたジョブについては、削除が終了した日時になります。

- 印刷範囲
  - 全て

    すべてのジョブのプリント履歴がプリントされます。
  - 前回の印刷・保存以降

    前回の保存以降のプリント履歴がプリントされます。
  - 期間指定

    設定した期間のプリント履歴がプリントされます。期間の西暦は、4桁の数値を入力します。
- 用紙トレイ

  プリントする用紙のある用紙トレイを選択します。

6.1.2　フォント情報

Print Serverにインストールされているすべてのフォント情報に関して、以下の項目を確認、および実行できます。

・フォント一覧の表示、およびプリント

・フォントのバックアップ、およびバックアップしたフォントの復元

・フォントディスクの作成、変更、および削除

・フォントのダウンロードの開始、および終了

安全のため、フォントを別のメディアにバックアップしておくことをお勧めします。万一トラブルが起きたときに、復旧作業の時間を短縮できます。

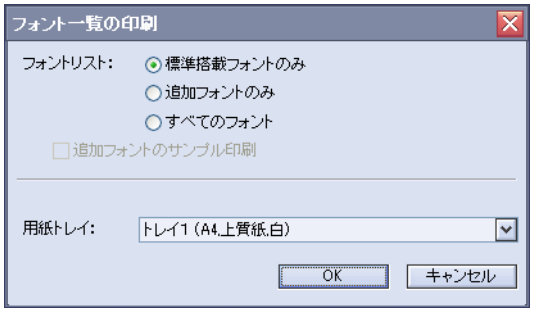
フォント一覧の表示

ServerManagerの［管理］→［フォントの管理］→［一覧表示］を選択します。



フォント一覧のプリント

1. ServerManagerの［管理］→［フォントの管理］→［一覧印刷］を選択します。
2. 各項目を設定し、［OK］をクリックします。

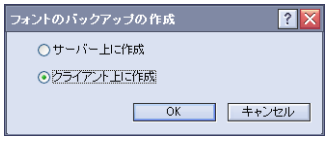


- フォントリスト
  - 標準搭載フォントのみ
    標準搭載フォントの書体名と印字サンプルがプリントされます。
  - 追加フォントのみ
  - すべてのフォント
- 追加フォントのサンプル印刷
  チェックマークを付けると、追加フォントの書体名と印字サンプルがプリントされます。
  チェックマークを外すと、追加フォントの書体名だけがプリントされます。
  ［追加フォントのみ］、または［すべてのフォント］の場合に選択します。

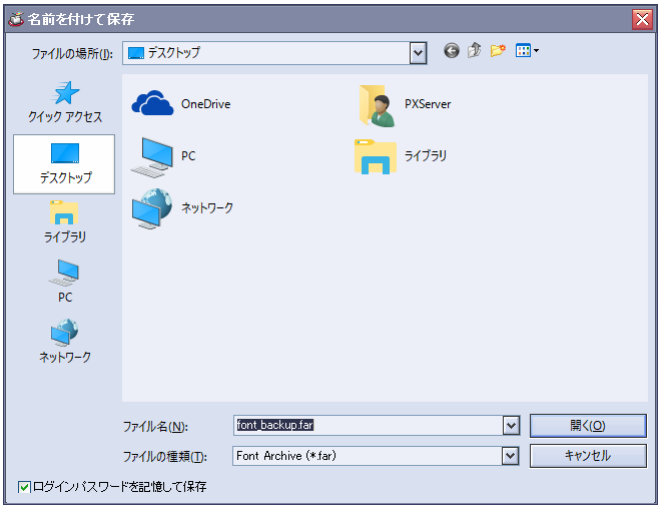
  補足 追加したフォントは、インストールをした順ではなく、アルファベット順に表示されます。
- 用紙トレイ
  プリントする用紙のある用紙トレイを選択します。

フォントのバックアップの作成

1. ServerManagerの［システム］→［バックアップ］→［フォントをバックアップ］を選択します。
   ・［パスワード確認］ダイアログボックスが表示された場合は、管理者用パスワードを入力し、［OK］をクリックします。
   ・クライアントコンピューターから指示した場合は、保存する場所を選択し、［OK］をクリックします。



2. [保存] をクリックします。



ファイルの拡張子は、「.far」です。
バックアップファイルは、100 MB 単位で分割して保存されます。ファイルが 100 MB を超える場合は、分割して作成されます。

補足 バックアップファイルが分割された場合、ファイル名は、以下のようになります。
例）ファイル名に「font_backup」と入力した場合
- 最初のファイル：font_backup.far
- 2番目のファイル：font_backup1.far
- 3番目のファイル：font_backup2.far

バックアップしたフォントの復元

補足 バックアップしたフォントを復元するには、すべてのバックアップファイルを同じフォルダーに保存してください。

1. ServerManagerの [システム] → [バックアップ] → [フォントをリストア] を選択します。
[パスワード確認] ダイアログボックスが表示された場合は、管理者用パスワードを入力し、[OK] をクリックします。

2. 復元するファイルを選択し、[開く] をクリックします。
ファイルの拡張子は、「.far」です。バックアップファイルが分割されている場合は、最初に作成されたバックアップファイルを選択します。

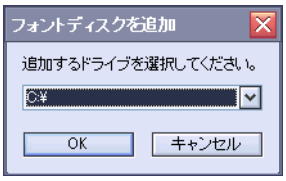
フォントディスクの追加

選択したドライブにフォントディスクを作成し、追加できます。

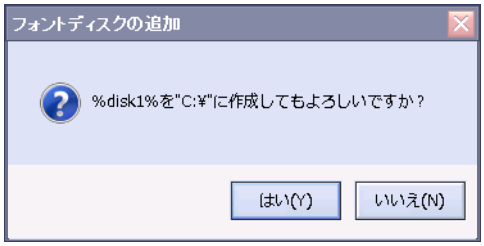
補足 ・フォントディスクは、市販フォントのインストール用ディスクスペースです。
・選択したドライブに、すでにフォントディスクが存在する場合は、作成できません。

1. ServerManagerの [管理] → [フォントの管理] → [フォントディスクを追加] を選択します。
[パスワード確認] ダイアログボックスが表示された場合は、管理者用パスワードを入力し、[OK] をクリックします。

2. フォントディスクを追加するドライブを選択し、[OK] をクリックします。



3. [はい] をクリックします。



フォントディスクの変更

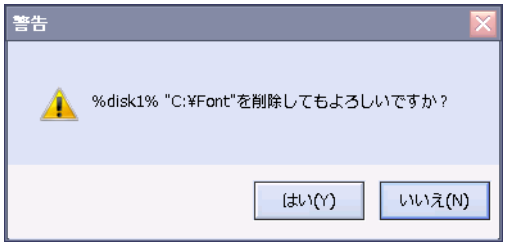
選択したドライブにフォントディスクを作成し、選択されたフォントディスクの内容が複製され、複製終了後にもとのフォントディスクが削除されます。

補足 選択したドライブに、すでにフォントディスクが存在する場合は、作成できません。

1. ServerManagerの[管理]→[フォントの管理]→[フォントディスクを変更]を選択します。
   [パスワード確認]ダイアログボックスが表示された場合は、管理者用パスワードを入力し、[OK]をクリックします。
2. フォントディスクを変更するドライブ、変更後に保存するドライブを選択し、[OK] をクリックします。



3. [はい] をクリックします。



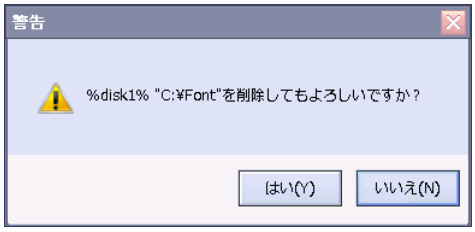
フォントディスクの削除

補足 Disk0は削除できません。削除を実行しても、フォントディスク番号は変更されません。

1. ServerManagerの[管理]→[フォントの管理]→[フォントディスクを削除]を選択します。
   [パスワード確認]ダイアログボックスが表示された場合は、管理者用パスワードを入力し、[OK]をクリックします。
2. フォントディスクを削除するドライブを選択し、[OK]をクリックします。



3. [はい]をクリックします。



フォントのダウンロード

Print Serverにフォントがダウンロードされ、ダウンロード用のプリンター名がAppleTalkに作成されます。
ダウンロードの間、ジョブは受信されますが、RIP処理は行われません。
フォントダウンロードの開始と終了は、メニューの選択によって切り替わります。

補足
- 市販のフォントをインストールする場合は、まずServerManagerの［管理］→［論理プリンタの管理］で、AppleTalkプリンターを作成し、そのあと、市販フォントをインストールしてください。
  AppleTalkプリンターの作成方法については、『ユーザーズガイド 導入編』の「1.3 AppleTalk設定ツールについて」と「1.4 論理プリンタを作成する」を参照してください。
- 新規にフォントをインストールし、［フォント更新］を実行した場合に、PostScript エラーが発生したときは、一度新規に追加したフォントをアンインストールし、再度インストールしてください。
- フォントがインストールできない場合や、フォントの更新時にエラーが発生する場合は、Print Server のネットワーク環境に応じて、NICの通信速度を10Base-Half、または100Base-Halfに固定した状態でフォントをインストールしてください。
- 欧文フォントのダウンロードには、製品に同梱されているPSTool 2.0Jを使用してください。

参照 フォントに関する制限については、「7.2.5 フォントに対する制限事項」(P.341）を参照してください。

1. ServerManagerの［管理］→［フォントの管理］→［フォントのダウンロードを開始］を選択します。

   補足 ［フォントのダウンロードを開始］を選択すると、［フォントのダウンロードを終了］を選択するまで、プリント処理は行われません。

2. セレクタ、またはプリントセンターで、フォントダウンロード用のプリンターに接続します。
   フォントダウンロード用のプリンター名は、「{AppleTalkプリンター名}-Font」です。

3. フォントメーカーのインストール手順に従い、インストールします。
4. インストールが完了したら、ServerManagerの［管理］→［フォントの管理］→［フォントのダウンロードを終了］を選択します。

補足　一度に複数のフォントをインストールしようとしても、インストールできなかった場合は、手順1～4を繰り返してフォントを1つずつインストールしてください。

5. ほかにもインストールするフォントがあるときは、手順1～4を繰り返します。
フォントメーカーによっては、一度に複数の書体をインストールできる場合もあります。各フォントメーカーのインストール手順に従ってください。
6. フォントのインストールがすべて完了したら、ServerManagerの［管理］→［フォントの管理］→［フォントを更新］を選択します。
    - フォントの更新をすると、MacintoshクライアントからのFontQueryに応答できるようになり、インストールされているフォントを使用してプリントできます。
    - Windowsクライアントからのプリントには影響しません。

代替フォントの設定

この機能を使うと、ファイルで使用しているフォントがプリンターにインストールされていないときに置き換えるフォントを設定できます。標準で設定されている代替フォントは、欧文が「Courier」、和文が「平成明朝体W3」です。

補足
- ファイルを編集する前に、オリジナルを複製してバックアップを作成しておくことをお勧めします。
- オリジナルのバックアップファイルをオリジナルと同じフォルダーに保存する場合は、拡張子を「.ps」以外に変更してください。拡張子が「.ps」の場合、編集した内容が反映されないことがあります。
例：オリジナルのファイル名が「aaa.ps」の場合は、「aaa.ps.org」などに変更
- オリジナルがあるフォルダーに、別のフォルダーを格納しないでください。編集した内容が反映されないことがあります。

1. ServerManagerの［システム］→［終了］を選択します。
2. 以下のファイルを、テキストエディターで開きます。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥Startup¥SubstituteFont.ps

3. 以下の箇所の（　）内を代替するフォント名に書き換えます。

```
%! PS

currentglobal true setglobal

FX_dict /RomanSubstFont (Courier) put
FX_dict /JapaneseSubstFont (HeiseiMin-W3) put
```

4. 編集したファイルを保存します。
5. Print Serverを再起動します。

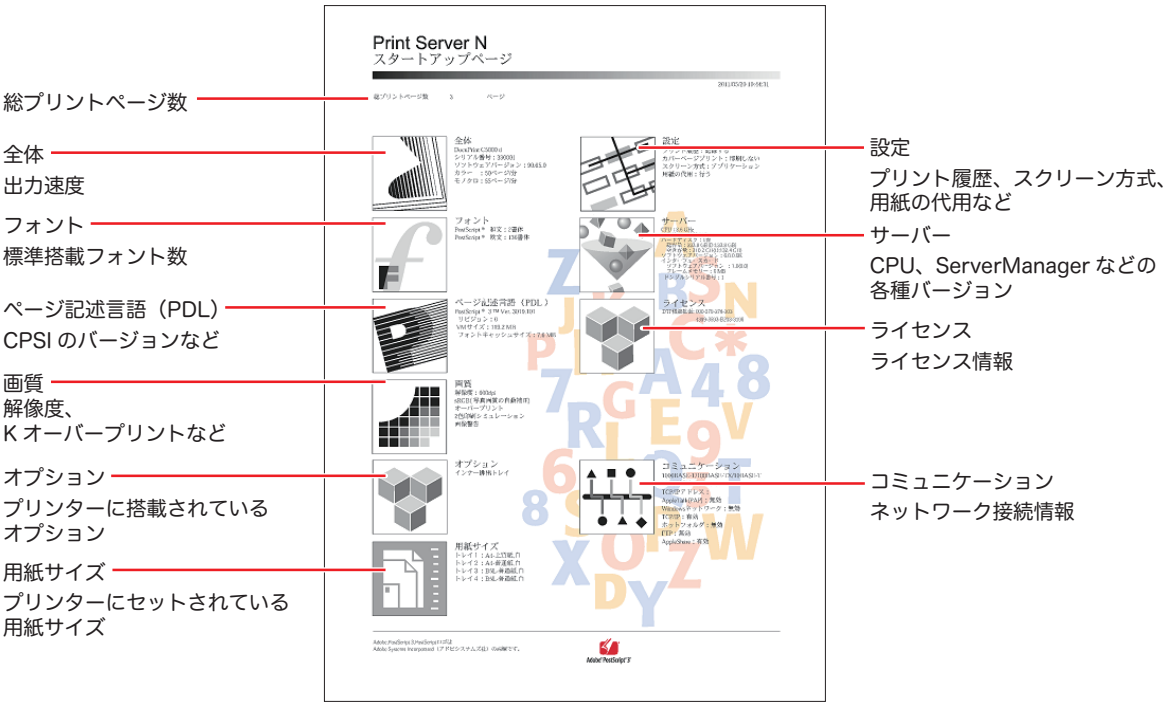
フォントの更新

補足　市販のフォントを追加したら、フォントの更新をしてください。フォントの更新をしないと、追加したフォントをPrint Serverが認識できません。

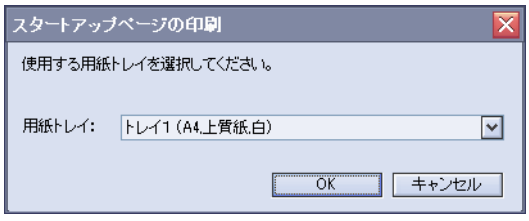
ServerManagerの［管理］→［フォントの管理］→［フォントを更新］を選択します。
処理中リストに、「フォントリストの再構築中」と表示されます。

6.1.3　スタートアップページ

スタートアップページで、Print Serverのシステム情報や設定情報を確認できます。
スタートアップページには、以下の項目がプリントされます。



1. ServerManagerの［システム］→［スタートアップページの印刷］を選択します。
2. ［OK］をクリックします。



- 用紙トレイ
  プリントする用紙のある用紙トレイを選択します。

6.1.4　エラー履歴の収集

ログと設定情報を収集できます。収集できるログは、以下のとおりです。

・イベントログ

・以下のフォルダー内のログ

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥Log

収集したログは、LHA形式の圧縮ファイルとして保存されます。ファイル名、および保存先は任意に設定できます。

補足　エラー履歴の収集は、管理者モードのときに操作できます。

1. ServerManagerの［システム］→［エラー履歴の収集］を選択します。
2. ファイル名、保存先を設定し、［OK］をクリックします。

   選択したフォルダーに、ログが保存されます。

6.1.5　ジョブ検索

Print Serverのすべてのリストに対して、条件を設定してジョブが検索できます。

検索結果は、ジョブリストの検索結果リストに表示されます。

検索されたジョブは、保持、エラーリストのジョブと同じ操作ができます。

1. ServerManagerの  ［ジョブ検索］をクリックします。

   補足　［ジョブ］→［ジョブ検索］を選択しても、［ジョブ検索］ダイアログボックスを表示できます。

2. 検索条件を設定します。



● 検索対象

・全て　・ビルドジョブ以外　・ビルドジョブ

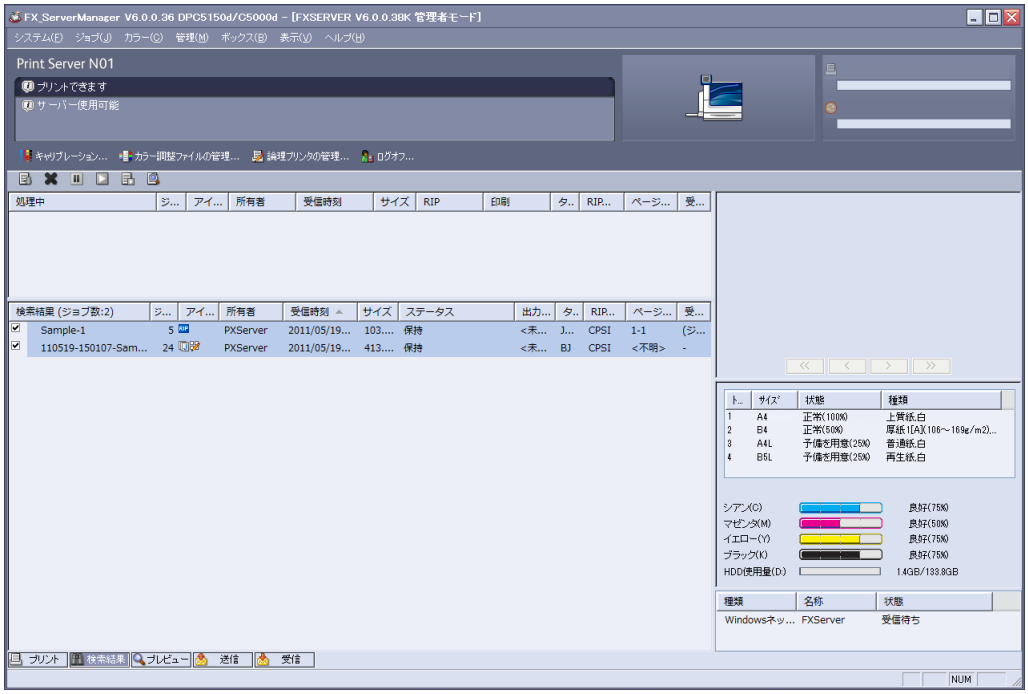
● 検索項目

チェックマークを付けて、条件を設定します。

・ジョブ名　・ファイル名　・用紙サイズ
・所有者　・ファイルタイプ　・受信日時
・出力日時　・アプリケーション　・アカウント
・コメント　・カラーモード　・小冊子作成
・ジョブ削除を許可する　・RIP済みデータの保存　・RIP後のデータをファイルに保存
・差込印刷　・メモ書き　・メモ書き-コメント
・大文字と小文字の区別

3. [OK]をクリックします。

検索結果ボックスに検索されたジョブが表示されます。



検索リストのクリア

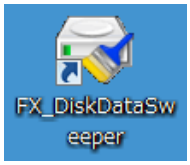
ServerManagerの［ジョブ］→［検索リストのクリア］を選択すると、検索リストがデフォルトに戻ります。

6.1.6 データの完全消去

ディスクデータスウィーパーを使用して、データ復元ソフトなどでも復元できないように、データを完全に消去できます。

補足
- ディスクデータスウィーパーは、削除済みのデータを完全に消去するものです。ごみ箱の中にあるデータは、完全消去されません。ごみ箱を空にしたうえで、データの完全消去を実施してください。
- データの完全消去には時間がかかります。また、完全消去中はServerManagerのサービスが停止され、プリントできなくなります。

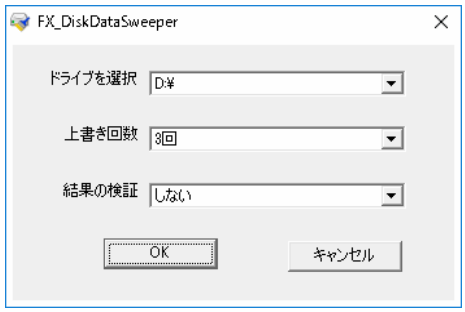
1. Print Serverデスクトップの「FX_DiskDataSweeper」アイコンをダブルクリックします。



ディスクデータスウィーパーが起動します。

補足 Windowsの［スタート］→［Fuji Xerox］→［FX_DiskDataSweeper］を選択しても、ディスクデータスウィーパーを起動できます。

2. 各項目を設定し、[OK]をクリックします。



- **ドライブを選択**

  完全消去するドライブを選択します。

  補足 ServerManagerのデータはDドライブにあります。ServerManagerで削除したデータだけを完全消去する場合は、[D]を選択してください。
  すべての削除データを完全消去する場合は、[すべてのドライブ]を選択してください。

- **上書き回数**

  データを上書きする回数を選択します。

  補足 ディスクデータスウィーパーは、ディスクの空き領域に別のデータを上書きして、元のデータを消去し、復元できないようにします。
  [上書き回数]に[3回]を選択した場合、それぞれ異なるデータを3回上書きします。

- **結果の検証**

  ハードディスクが正しく上書き消去されたことを検証します。

  - **しない**

    検証しません。

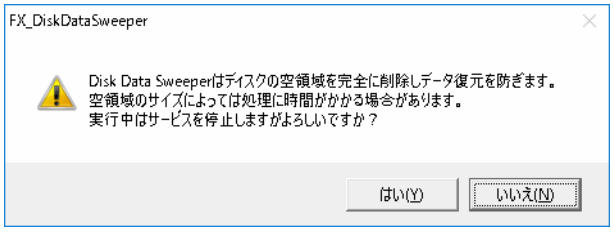
  - **10%検証**

    上書きしたデータの先頭10%だけを検証します。

  - **全て検証**

    上書きしたすべてのデータを検証します。

3. [はい]をクリックします。



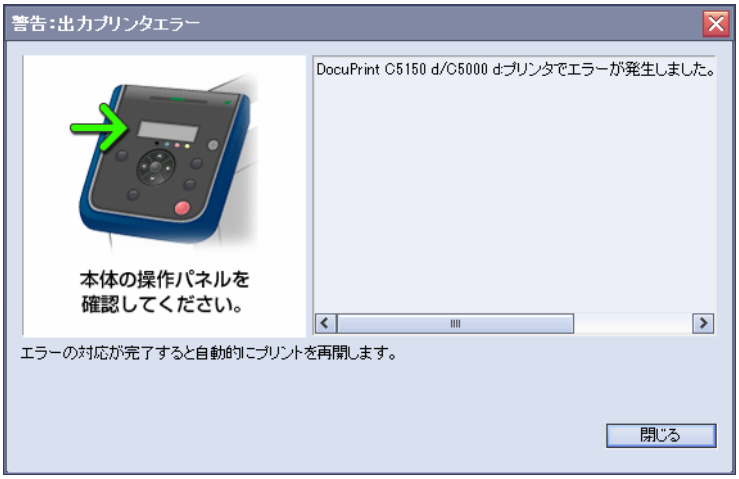
データの完全消去が開始されます。

補足
- すべてのアプリケーションを終了してから行ってください。また、消去中に対象のドライブにデータの書き込み、削除を行わないでください。
- 消去中にドライブの空き容量が減った場合、上書きに失敗します。逆に、消去中に空き容量が増えた場合、増えた分の上書きができません。

4. 処理の終了を知らせるダイアログボックスが表示されたら、[OK]をクリックします。

6.2 エラーダイアログボックスについて

プリンターを使用中に異常が発生すると、以下のエラーダイアログボックスが表示されます。表示されたダイアログボックスのメッセージに従って、対処してください。



対処方法に従って対処しても、問題が解決しない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店にご連絡ください。

6.3 エラージョブメッセージについて

エラーになったジョブに表示される、エラーメッセージについて説明します。

メッセージは、ServerManagerのエラーリストの「ステータス」や、プリントオプションの［ジョブ情報］の［ステータス］に表示されます。

6.3.1 RIPエラー

番号	エラーリストのステータス	［ジョブ情報］の［ステータス］	対処方法	レベル
1～6	RIPエラー	CPSI の内部でエラーが発生しました	通常の使用では発生しません。 Print Serverを再起動してください。	E
7	CPSI初期化エラー	CPSI の内部でエラーが発生しました。必要なファイルが見つかりません	通常の使用では発生しません。	E
8、9	RIPエラー	CPSI の内部でエラーが発生しました	通常の使用では発生しません。 Print Serverを再起動してください。	E
10	RIPエラー	RIPエラー	通常の使用では発生しません。 Print Serverを再起動してください。	E
11	VMエラー	CPSI のメモリが不足しています	Print Serverを再起動してください。 このエラーが何度も発生する場合は、弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店に連絡してください。	E
12	ディスク容量不足	ディスクの容量が不足しています	不要なジョブなどを削除して、ディスクの空き容量を増やしてから再プリントしてください。	W
13、14	RIPエラー	CPSI の内部でエラーが発生しました	通常の使用では発生しません。 Print Serverを再起動してください。	E
91	PDF印刷エラー	このPDFファイルは印刷を許可されていません	セキュリティーが設定されている PDF ファイルはプリントできません。	E
92～94	PDF変換エラー	PDF ファイルを変換するときにエラーが発生しました	Adobe Reader® などからプリントしてください。	E
100	ジョブ入力エラー	ジョブ読み込みに失敗しました	再度、ジョブをPrint Serverに送信してください。 このエラーが何度も発生する場合は、ディスク障害の可能性もあります。	E
101	ファイル出力エラー	ディスクへの書き込みに失敗しました	RIP直前データの保存に失敗しました。(通常の運用では使用されていません) 不要なジョブなどを削除して、ディスクの空き容量を増やしてから再プリントしてください。 空きがあるのに発生する場合は、ディスク障害の可能性もあります。	E
レベル	E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。			

番号	エラーリストのステータス	［ジョブ情報］の［ステータス］	対処方法	レベル
102	プリントオプションエラー	分版合成はカラーモード「グレースケール」ではできません	プリントオプションの［カラー］＞［カラーモード］＞［グレースケール（K）］と［画質］＞［その他の設定（画質）］＞［色分版の合成］を同時に設定してプリントしたために発生しました。（［色分版の合成］は、フルカラーモードのときに利用できる機能です） ［カラー］＞［カラーモード］を［グレースケール（K）］以外でプリントしてください。	W
103	プリントオプションエラー	このプリントオプションでは両面印刷できません	両面印刷ができる用紙サイズを設定して再プリントしてください。	W
104	プリンター電源オフ	プリンタの電源が入っていません	プリンターの電源を入れてから、エラーリストに入った該当するジョブを再開してください。	W
106	ラスター画像変換エラー	画像変換に失敗しました	TIFF画像などの変換に失敗しました。	E
107	PostScriptエラー	PostScriptエラーです	ファイルを確認してください。	E
	補足　Macintosh 版 QuarkXPress 6.5.1J でプリントしたときは［TrueType フォント送信方法］を［ビットマップフォント］、または［Type42 フォント］に変更してください。			
110	プリフライト出力エラー	プリフライトレポートの保存に失敗しました	ディスクの空き容量が不足しているため、プリフライトレポートをディスクに書き込めません。 不要なジョブなどを削除して、ディスクの空き容量を増やしてから再プリントしてください。 空きがあるのに起こる場合は、ディスク障害の可能性もあります。	E
111	TIFF ファイル出力エラー	TIFFファイルの保存に失敗しました	ディスクの空き容量が不足しているため、TIFFファイルをディスクに書き込めません。 不要なジョブなどを削除して、ディスクの空き容量を増やしてから再プリントしてください。 空きがあるのに発生する場合は、ディスク障害の可能性もあります。	E
112	ディスク容量不足	RIP 中にディスクの空き容量がなくなったため処理を中止しました	不要なジョブなどを削除して、ディスクの空き容量を増やしてから再プリントしてください。	W
114	RIP 済みデータ入力エラー	RIP 済みデータの読み込みに失敗しました	RIP 済みデータを削除して、再プリントしてください。	W
115	RIP 済みデータ出力エラー	RIP 済みデータの書き込みに失敗しました	ディスクの空き容量が不足しているため、RIP 済みデータをディスクに書き込めません。 不要なジョブなどを削除して、ディスクの空き容量を増やしてから再プリントしてください。 空きがあるのに発生する場合は、ディスク障害の可能性もあります。	W
117	ユーザ調整ファイルエラー	ユーザー調整用のファイルが見つかりません	ユーザー調整カーブの割り当て状態を確認してから、再プリントしてください。	W
118	キャリブレーションファイルエラー	キャリブレーション用のファイルが見つかりません	キャリブレーションの割り当て状態を確認してから、再プリントしてください。	W
レベル	E　：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W　：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N　：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。			

番号	エラーリストのステータス	［ジョブ情報］の［ステータス］	対処方法	レベル
120	分版合成エラー	色版の数が合わないため分版合成に失敗しました	プリントオプションの［画質］>［その他の設定（画質）］>［色分版の合成］を［QuarkXPress-3 Style］などにしてプリントしたときに色版の数が合っていません。 ［自動］にして、プリントしてください。	W
121	ディスク容量不足	ジョブデータがディスクに保存されていないため処理できません	ジョブが空きディスク容量不足でディスクに保存できなかった場合、再プリントやプリントオプションの［排出/フィニッシング/両面］>［ソートする（1部ごと）］などで発生します。 不要なジョブなどを削除して、ディスクの空き容量を増やしてから再度、ジョブを Print Serverに送信してください。	E
122	両面印刷サイズエラー	おもて面とうら面の用紙サイズが異なるため両面印刷できません	改ページの場所を調整するか、片面でプリントしてください。	W
123	プリントオプションエラー	用紙サイズ・プリンタモード・画質モードがフォームと異なります	フォーム、またはその上に重ねるジョブのどちらかのジョブを修正して、再度、差込印刷をしてください。	W
124	TIFFファイル名エラー	TIFFファイル名が重複するため処理できません	TIFF フォルダーから不要なファイルを削除して、再開してください。	E
125	プリントオプションエラー	RIP 済みデータの用紙サイズが不適当なため小冊子作成はできません	用紙サイズを確認し、RIP 済みデータを削除して再度小冊子作成をしてください。	W
126	プリントオプションエラー	指定された用紙種類では両面印刷できません	両面印刷ができる用紙を使用してください。	W
132	プリントオプションエラー	RGB 画像警告はカラーモード「グレースケール」ではできません	RGB 画像警告をする場合は、プリントオプションの［カラー］>［カラーモード］を［グレースケール（K)］以外にしてください。	W
133	メモリ不足エラー	メモリの確保に失敗しました	メモリー容量が不足しています。メモリー不足の問題を解決してから再プリントしてください。	E
134	プリントオプションエラー	分版合成しながら差込印刷することはできません	プリントオプションを設定し直してください。	W
139	用紙トレイなし	指定された用紙サイズ（RIP 済みデータの用紙サイズ（{用紙サイズ名 }）、用紙種類）に必要なトレイがありません	RIP 済みデータの用紙サイズをトレイにセットするか、RIP 済みデータを削除して、再度 RIP し直してください。	W
140	サイズエラー	EPS/TIFF/JPEG では、用紙サイズを「変更しない」にした場合、手差しトレイは指定できません	EPS、TIFF、およびJPEGファイルは、手差しトレイ以外の用紙トレイを指定してください。	W
141	サイズエラー	節電中にトレイの用紙サイズが変更されたため印刷できませんでした	用紙サイズを確認してください。	N
142	サイズエラー	SunRaster/XWD は指定用紙サイズに印刷できません	用紙サイズを確認してください。	W
143	RGB 色補正プロファイルエラー	RGB色補正プロファイルが見つかりません	プロファイルを確認してください。	W
レベル　E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。				

番号	エラーリストのステータス	［ジョブ情報］の［ステータス］	対処方法	レベル
144	RGB 出力プロファイルエラー	RGB出力プロファイルが見つかりません	プロファイルを確認してください。	W
145	フォーム登録エラー	指定した番号は使われていたため、フォームとして登録することができませんでした	未登録の番号を使用してください。	W
146	差込印刷エラー	差込印刷に使用するフォームが登録されていません	使用するフォームを登録してください。	W
147	差込印刷エラー	分版出力のジョブはフォームとして登録できません	プリントオプションを変更してください。	W
148	プリントオプションエラー	分版出力のジョブは差込印刷できません	プリントオプションを変更してください。	W
149	差込印刷エラー	フォームの RIP 済みデータがないため差込印刷できません	RIP済みデータを作成してください。	W
150	RIP 済みデータ入力エラー	フォームの RIP 済みデータの読み込みに失敗しました	再度RIP済みデータを読み込んでください。	W
151	プリントオプションエラー	差込印刷できない用紙サイズです	用紙サイズを確認してください。	W
152	RIPエラー	CMYK 色補正に問題（＊）があります	＊に表示される番号を書き留めたうえで、弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店に連絡してください。	E
153	RIPエラー	トナー制限に問題（＊）があります	＊に表示される番号を書き留めたうえで、弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店に連絡してください。	E
154	RIPエラー	RGB画像警告に問題（＊）があります	＊に表示される番号を書き留めたうえで、弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店に連絡してください。	E
155	RIPエラー	ユーザー調整・TRC・キャリブレーションに問題（＊）があります	＊に表示される番号を書き留めたうえで、弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店に連絡してください。	E
157	プリントオプションエラー	範囲指定したページがありません	ページ範囲の設定を確認してください。	W
158	差込印刷エラー	指定されたフォームには既にセキュリティ指定のジョブが登録されています	未登録の番号を使用してください。	W
159	プリントオプションエラー	RIP 済みデータの用紙サイズが不適当なため 2 アップできません	用紙サイズを確認し、RIP 済みデータを削除して再度2アッププリントをしてください。	W
161	プリントオプションエラー	2 色印刷シミュレーションで使用する色版が指定されていません	使用する色版を設定してください。	W
162	差込印刷エラー	指定されたフォームにはセキュリティが指定されています	フォームのセキュリティー設定を解除するか、下地ジョブにも、フォームと同様のセキュリティーの設定をしてください。	W
163	差込印刷エラー	フォームとデータのパスワードが違います	フォームと下地ジョブには、同じパスワードを設定してください。	W
166	プリントオプションエラー	用紙サイズ / イメージサイズが不適当なため小冊子作成できません	用紙サイズ / イメージサイズを確認してください。	W

レベル　E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。
W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。
N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。

番号	エラーリストのステータス	[ジョブ情報]の[ステータス]	対処方法	レベル
167	プリントオプションエラー	用紙サイズ / イメージサイズが不適当なため 2 アップできません	用紙サイズ / イメージサイズを確認してください。	W
170	小冊子作成エラー	指定された用紙種類では小冊子作成ができません	用紙種類を変更してください。	W
186	サイズエラー	指定された用紙サイズはサポート範囲外です	設定された用紙サイズが定型サイズ、カスタムサイズ範囲外です。 変更してください。	W
188	パンチ不可	指定された位置にパンチはできません	パンチ位置を確認してください。	W
190	ビルドジョブエラー	指定されたビルドジョブには個々のジョブが含まれていません	空のビルドジョブをプリントしようとしました。 ビルドジョブを確認してください。	E
191	小冊子エラー	コンポジット分解指定のジョブは小冊子作成ができません	プリントオプションの［画質］>［その他の設定（画質）］>［色分版の合成］が［コンポジット分解］になっていますので、変更してください。	W
193	2アップエラー	画質モード、またはプリンタモードが混在しているため、2アップ印刷ができません	異なる画質モード、またはプリンタモードのジョブを組み合わせて（ビルド）2 アップにしています。 画質モード、またはプリンタモードを合わせてください。	W
198	プリントオプションエラー	指定された用紙サイズは出力イメージサイズよりも小さいためプリントできません	プリントできる用紙サイズを設定してください。	W
199	RIPエラー	RIPエラー	弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店に連絡してください。	E
200	プリントオプションエラー	フォームジョブとデータジョブの RIP サイズが異なるため、差込印刷ができません	小冊子作成のフォームジョブとデータジョブのRIPサイズを合わせてください。	W
201	用紙トレイなし	イメージサイズ(＊×＊＊＊mm)以上、用紙の種類の用紙がありません	小冊子作成時のイメージサイズ（RIPサイズ、とじしろ量、ずらし量）を印字できる用紙サイズがトレイにセットされていません。 設定を変更してください。	W
	補足 選択した用紙サイズのトレイがセットされているときは、選択した用紙種類がトレイにセットされていることを確認してください。			
202	イメージサイズエラー	イメージサイズ（＊×＊＊＊mm）はサポート用紙サイズを超えています	小冊子作成時のイメージサイズ（RIPサイズ、とじしろ量、ずらし量）がプリンターでサポートされている用紙サイズを超えています。（＊は出力イメージの幅、＊＊は出力イメージの長さ） 設定を変更してください。	W
203	プリントオプションエラー	小冊子作成オプションの設定がフォームとデータで異なります	フォームとデータの小冊子作成オプションの設定を確認してください。	W
206	プリントオプションエラー	小冊子作成オプションが正しくないため、小冊子作成できません	小冊子作成オプションの設定を確認してください。	W
レベル	E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。			

番号	エラーリストのステータス	［ジョブ情報］の［ステータス］	対処方法	レベル
207	プリントオプションエラー	指定された用紙サイズではリピートできないためプリントできません	用紙サイズ確認してください。	W
208	プリントオプションエラー	連続階調（アンチエイリアス）の時は差込印刷ができません	プリントオプションを変更してください。	W
209	プリントオプションエラー	指定された用紙サイズはプリンタモード連続階調（アンチエイリアス）で処理できません	A2L、またはB3Lの用紙サイズが設定されています。 設定を変更してください。	W
211	プリントオプションエラー	連続階調（アンチエイリアス）の時はウォーターマーク挿入ができません	プリントオプションを変更してください。	W
212	プリントオプションエラー	ウォーターマーク挿入できない用紙サイズです	用紙サイズを確認してください。	W
213	プリントオプションエラー	分版出力のジョブはウォーターマーク挿入できません	プリントオプションを変更してください。	W
214	プリントオプションエラー	ウォーターマーク挿入に使用するフォームが登録されていません	ウォーターマーク挿入に使用するフォームを登録してください。	W
215	プリントオプションエラー	カラーモードが異なるため、ウォーターマーク挿入ができません	ウォーターマークのカラーモードを変更してください。	W
219	イメージサイズエラー	イメージサイズが、用紙サイズより幅方向と長さ方向の両方向共に設定値以上小さいためプリントできません	プリントオプションの［出力方法］>［その他の設定（出力方法）］>［余白が大きすぎる場合、処理を中止する］が［する］の場合に、プリントするデータのページサイズが用紙サイズよりも幅方向と長さ方向がともに設定値以上小さいことを検知しました。 データを変更する、または［余白が大きすぎる場合、処理を中止する］を［しない］にしてください。	W
220	小冊子エラー	用紙トレイと出力用紙サイズが違うため、小冊子作成ができません	表紙用トレイとプリント用紙サイズが異なっています。 用紙トレイを確認してください。	W
221	小冊子エラー	1 枚目の用紙トレイと 2 枚目以降の用紙トレイのサイズが違うため、小冊子作成ができません	表紙用トレイとプリント用紙サイズが異なっています。 用紙トレイを確認してください。	W
222	差込印刷エラー	フォームのパスワードが違います	フォームに設定されているパスワードを確認してください。	W
223	濃度調整ファイルエラー	濃度調整ファイルが見つかりません	濃度調整ファイルの割り当て状態を確認してから、再プリントしてください。	W
226	RGB ソースプロファイルエラー	RGBソースプロファイルが見つかりません	RGB ソースプロファイルの割り当て状態を確認してから、再プリントしてください。	W
228	CMYK ソースプロファイルエラー	CMYK ソースプロファイルが見つかりません	CMYK ソースプロファイルの割り当て状態を確認してから、再プリントしてください。	W
230	トナー総量調整プロファイルエラー	トナー総量調整プロファイルが見つかりません	トナー総量調整プロファイルの割り当て状態を確認してから、再プリントしてください。	W
231	プリントオプションエラー	用紙サイズが不適当なためリピートプリントできません	用紙サイズを確認してください。	W

レベル　E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。
W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。
N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。

番号	エラーリストのステータス	［ジョブ情報］の［ステータス］	対処方法	レベル
232	小冊子エラー	イメージサイズが出力用紙サイズより大きいため、小冊子作成ができません	用紙サイズを確認してください。	W
235	プリフライトプロファイルエラー	プリフライトプロファイルが見つかりません	プリフライトプロファイルの割り当て状態を確認してから、再プリントしてください。	W
236	フォントなし	指定されたフォントがありません	PostScriptファイル、またはページ番号に設定されたフォントがデータやシステムにありません。 フォントを確認してください。	W
237	差込印刷エラー	指定されたファイルタイプでは差込印刷できません	EPS、TIFF、およびJPEGファイルは、差込印刷用フォームとして使用できません。 ファイルタイプを変更してください。	W
238	小冊子作成エラー	指定されたファイルタイプでは小冊子作成ができません	EPS、TIFF、およびJPEGファイルは、小冊子作成できません。 ファイルタイプを変更してください。	W
240	プリントオプションエラー	指定された用紙サイズでは片方を180度回転できません	プリントオプションを変更してください。	W
241	プリントオプションエラー	PDF/PS ではイメージサイズ「変更しない」を指定して、異なるサイズの用紙に合わせることはできません	プリントオプションを変更してください。	W
255	プリントオプションエラー	リピートプリントと小冊子作成は同時に設定できません	プリントオプションを変更してください。	W
260	プリントオプションエラー	小冊子作成とリピートプリントと面付けは同時に 2 つ以上設定できません	プリントオプションを変更してください。	W
271	プリントオプションエラー	指定された排出先は使用できません	プリントオプションを変更してください。	W
272	レコード分割エラー	レコード区切り情報がありません	プリントオプションを変更してください。	W
273	プリントオプションエラー	レコード分割と小冊子作成は同時に設定できません	プリントオプションを変更してください。	W
274	プリントオプションエラー	レコード分割とリピートプリントは同時に設定できません	プリントオプションを変更してください。	W
276	プリントオプションエラー	レコード分割と 2 アップ印刷は同時に設定できません	プリントオプションを変更してください。	W
277	ページ番号付けエラー	ページ番号付けで使う設定ファイルが見つかりません	［設定ファイルの管理］ダイアログボックスで、ページ番号付け設定ファイルが設定されていることを確認してください。	W
280	特色未登録エラー	ドキュメントに未登録の特色が使用されています	特色を登録してください。	W
281	特色処理エラー	ドキュメント内の特色の数が処理可能数を超えています	使用している特色の数を減らしてください。または、SetOverPrintWrn.psを編集し、扱える特色の数を増やしてください。 「7.1.7 コンポジットオーバープリントの設定」（P.327）を参照してください。	W
282	画像警告プリントオプションエラー	サーバーの環境設定により画像警告プリントオプションは設定できません	［プリントジョブの設定］→［画像警告指定］を［無視しない］にしてください。	W
レベル	E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。			

番号	エラーリストのステータス	［ジョブ情報］の［ステータス］	対処方法	レベル
284	プリントオプションエラー	特色にCMYK色調整を適用とコンポジット特色補正を同時にオフにできません	プリントオプションを変更してください。	W
285	中とじ・中折りエラー	用紙サイズが混在しているため、中とじ・中折りできません	用紙サイズを統一してください。	W
286	出力枚数超過エラー	出力可能な最大枚数を超えました	1 ジョブ（ビルドジョブの場合は、連結された1ジョブ単位）でプリントできる最大枚数は、65,535枚です。 プリント枚数が最大枚数を超えないように、プリントオプションを変更してください。	W
287	用紙種類設定エラー	指定した用紙種類と坪量が正しくありません	用紙トレイに対する用紙種類を正しく設定してください。	W
293	ホチキス不可	指定した針数のホチキスはできません	ホチキスの設定を確認してください。	W
294	パンチ不可	指定した穴数のパンチはできません	パンチ穴の設定を確認してください。	W
296	トレイ選択エラー	指定されたトレイからは印刷することはできません	用紙トレイの設定を確認してください。	W
297	プリントオプションエラー	小冊子作成と特殊ページは同時に設定できません	プリントオプションを変更してください。	W
299	プリントオプションエラー	リピートプリントと特殊ページは同時に設定できません	プリントオプションを変更してください。	W
301	ホチキス/紙折り不可	指定されたホチキスと紙折りはできません	プリントオプションを変更してください。	W
302	ホチキス/紙折り不可	指定されたホチキス位置と紙折りはできません	プリントオプションを変更してください。	W
303	パンチ/紙折り不可	指定されたパンチと紙折りはできません	プリントオプションを変更してください。	W
304	パンチ/紙折り不可	指定されたパンチ位置と紙折りはできません	プリントオプションを変更してください。	W
305	ホチキス/パンチ/紙折り不可	指定されたホチキスとパンチと紙折りはできません	プリントオプションを変更してください。	W
306	ホチキス/パンチ/紙折り不可	指定された位置のホチキス、パンチと紙折りはできません	プリントオプションを変更してください。	W
307	合紙挿入エラー	表紙の両面印刷指定時に表紙の外側と内側の間に合紙を挿入することはできません。	プリントオプションを変更してください。	W
308	レコード分割エラー	特殊ページで両面指定がされたおもて面とうら面をレコード分割することはできません	プリントオプションを変更してください。	W
309	プリントオプションエラー	特殊ページと 2 アップ印刷は同時に設定できません	プリントオプションを変更してください。	W
310	用紙サイズエラー	トレイの用紙サイズが設定されていません	プリントオプションを変更してください。	W
311	用紙トレイエラー	トレイが正しくセットされていません	プリントオプションを変更してください。	W
レベル	E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。			

番号	エラーリストのステータス	［ジョブ情報］の［ステータス］	対処方法	レベル
312	プリントオプションエラー	ソートする（一部ごと）がオフの時に、一組の枚数が指定された用紙を使用して複数部数出力することはできません	プリントオプションを変更してください。	W
313	ホチキス位置エラー	両面設定（長辺とじ/短辺とじ）では、指定された位置（短辺/長辺）にホチキスできません	プリントオプションを変更してください。	W
314	パンチ位置エラー	両面設定（長辺とじ/短辺とじ）では、指定された位置（短辺/長辺）にパンチできません	プリントオプションを変更してください。	W
315	プリントオプションエラー	手差し手動両面指定では、手差しトレイ以外の用紙トレイは指定できません	プリントオプションを変更してください。	W
318	ディスク容量不足	ディスクの空き容量がなくなったため処理を中止しました	不要なジョブなどを削除して、ディスクの空き容量を増やしてから再プリントしてください。	W
325	RIPエラー	RIP するページが見つかりません	RIP済みデータを再作成してください。	W
335	プリントオプションエラー	サムネール編集情報を保持したジョブはフォーム登録できません	プリントオプションを変更してください。	W
338	PDFエラー	PDFエラーが発生しました	PDFに問題がないか確認してください。	E
339	APPE内部エラー	APPE の内部でエラーが発生しました	ファイルを確認してください。	E
342	ライセンスエラー	RIP確認用PDFファイル保存オプションのライセンスが設定されていません	ライセンスを有効にしてください。	E
351	ライセンスエラー	トラッピングの自動指定オプションのライセンスが設定されていません	ライセンスを有効にしてください。	E
レベル	E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。			

6.3.2　コントローラーボードエラー

コントローラーボードエラーが発生すると、エラーリストには「コントローラボードエラー」と表示されます。
エラーコードには、以下のものがあります。

番号	［ジョブ情報］の［ステータス］	対処方法	レベル
1001～1004、1011～1015、100C～100E、1051、1052、1061、1500～1504、1506、1600～1602、2031	コントローラボードでエラーが発生しました	基本的にこのエラーコードでジョブがエラーになることはありません。 Print Serverを再起動してください。	E
1081	コントローラボードでエラーが発生しました	基本的にこのエラーコードでジョブがエラーになることはありません。 Print Serverを再起動してください。	N
1801	プリンターとの通信に失敗しました。 ネットワークの状態を確認してください。	ネットワークの状態を確認してください。	E
1802	プリンターのメモリー不足です。	ServerManager 以外のソフトウェアを実行しない状態で再実行、または拡張メモリーの追加をしてください。	E
2031	コントローラボードでエラーが発生しました	メモリー容量が不足しています。 ServerManager 以外のソフトウェアを実行しない状態で再実行、または拡張メモリーの追加をしてください。	W
レベル　E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。			

6.3.3　プリンターエラー

番号	エラーリストのステータス	［ジョブ情報］の［ステータス］	対処方法	レベル
1	プリンターエラー	プリンタが故障しています	弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店に連絡してください。	N
10	接続エラー	プリンターとの通信に失敗しました	接続を確認してください。	E
11	ジョブ履歴なし	プリンターにジョブ履歴がありません	ジョブ履歴を確認してください。	E
99	プリンターエラー	プリンタでエラーが発生しました。プリンタを確認してください	弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店に連絡してください。	N
101	トレイ1故障	トレイ1が故障しています	弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店に連絡してください。	N
102	トレイ2故障	トレイ2が故障しています	弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店に連絡してください。	N
103	トレイ3故障	トレイ3が故障しています	弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店に連絡してください。	N
レベル　E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。				

番号	エラーリストのステータス	［ジョブ情報］の［ステータス］	対処方法	レベル
104	トレイ4故障	トレイ4が故障しています	弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店に連絡してください。	N
105	手差しトレイ故障	手差しトレイが故障しています	弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店に連絡してください。	N
106	大容量トレイ故障	大容量トレイが故障しています	弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店に連絡してください。	N
110	フィニッシャー故障	フィニッシャーが故障しています	弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店に連絡してください。	N
201	カバーオープン	カバーを閉じてください	カバーを閉じてください。	N
202	カバーオープン	カバーを閉じてください	カバーを閉じてください。	N
204	カバーオープン	カバーを閉じてください	カバーを閉じてください。	N
205	カバーオープン	カバーを閉じてください	カバーを閉じてください。	N
206	カバーオープン	カバーを閉じてください	カバーを閉じてください。	N
207	カバーオープン	カバーを閉じてください	カバーを閉じてください。	N
208	トレイ用紙サイズエラー	トレイにサイズが正しくない用紙がセットされています	正しい用紙をセットしてください。	N
209	カバーオープン	カバーを閉じてください	カバーを閉じてください。	N
210	トレイセットエラー	トレイが正しくセットされていません	トレイを正しくセットしてください。	N
212	トレイ用紙サイズエラー	トレイの用紙サイズを確認してください	正しい用紙をセットしてください。	N
217	枠ありOHP検知	枠ありOHPを検出しました	正しい用紙をセットしてください。	N
221	トレイ1紙づまり	トレイ1が紙づまりです	詰まった用紙を取り除いてください。	N
222	トレイ2紙づまり	トレイ2が紙づまりです	詰まった用紙を取り除いてください。	N
223	トレイ3紙づまり	トレイ3が紙づまりです	詰まった用紙を取り除いてください。	N
224	トレイ4紙づまり	トレイ4が紙づまりです	詰まった用紙を取り除いてください。	N
225	手差しトレイ紙づまり	手差しトレイが紙づまりです	詰まった用紙を取り除いてください。	N
231	大容量トレイ紙づまり	大容量トレイが紙づまりです	詰まった用紙を取り除いてください。	N
232	紙づまり	紙づまりです	詰まった用紙を取り除いてください。	N
234	フィニッシャー紙づまり	フィニッシャーで紙づまりです	詰まった用紙を取り除いてください。	N
251	イエロートナーなし	イエロートナーがありません	イエローのトナーカートリッジを交換してください。	N
252	マゼンタトナーなし	マゼンタトナーがありません	マゼンタのトナーカートリッジを交換してください。	N
253	シアントナーなし	シアントナーがありません	シアンのトナーカートリッジを交換してください。	N
254	ブラックトナーなし	ブラックトナーがありません	ブラックのトナーカートリッジを交換してください。	N
266	トナー回収ボトルなし	トナー回収ボトルを確認してください	トナー回収ボトルを正しくセットしてください。	N
267	トナー回収ボトルフル	トナー回収ボトルを交換してください	トナー回収ボトルを交換してください。	N
273	ホチキスなし	ホチキスの針がありません	ホチキスの針を補給してください。	N

レベル　E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。
W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。
N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。

番号	エラーリストのステータス	［ジョブ情報］の［ステータス］	対処方法	レベル
274	ホチキス故障	ホチキスが故障しています	弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店に連絡してください。	N
278	フィニッシャー障害物検知	フィニッシャーが障害物を検知しました	障害物を取り除いてください。	N
279	中綴じ用ホチキス故障	中綴じ用ホチキスが故障しています	弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店に連絡してください。	N
281	トレイ1用紙なし	トレイ1に用紙がありません	用紙を補給してください。	N
282	トレイ2用紙なし	トレイ2に用紙がありません	用紙を補給してください。	N
283	トレイ3用紙なし	トレイ3に用紙がありません	用紙を補給してください。	N
284	トレイ4用紙なし	トレイ4に用紙がありません	用紙を補給してください。	N
285	手差しトレイ用紙なし	手差しトレイに用紙がありません	用紙を補給してください。	N
286	トレイ6用紙なし	手差しトレイに用紙がありません	用紙を補給してください。	N
300	排出トレイフル	トップトレイがいっぱいです	トップトレイから用紙を取り除いてください。	N
301	排出トレイフル	排出トレイがいっぱいです	排出トレイから用紙を取り除いてください。	N
322	排出トレイフル	排出トレイがいっぱいです	フィニッシャーの排出トレイから用紙を取り除いてください。	N
323	排出トレイフル	排出トレイがいっぱいです	フィニッシャーの排出トレイから用紙を取り除いてください。	N
330	プリンターエラー	イエロードラムを確認してください	イエロードラムが正しくセットされているか確認してください。	N
331	プリンターエラー	マゼンタドラムを確認してください	マゼンタドラムが正しくセットされているか確認してください。	N
332	プリンターエラー	シアンドラムを確認してください	シアンドラムが正しくセットされているか確認してください。	N
333	プリンターエラー	ブラックドラムを確認してください	ブラックドラムが正しくセットされているか確認してください。	N
334	プリンターエラー	イエロードラムが故障しています	弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店に連絡してください。	N
335	プリンターエラー	マゼンタドラムが故障しています	弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店に連絡してください。	N
336	プリンターエラー	シアンドラムが故障しています	弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店に連絡してください。	N
337	プリンターエラー	ブラックドラムが故障しています	弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店に連絡してください。	N
338	プリンターエラー	イエロードラムのタイプを確認してください	正しいイエロードラムをセットしてください。	N
339	プリンターエラー	マゼンタドラムのタイプを確認してください	正しいマゼンタドラムをセットしてください。	N
340	プリンターエラー	シアンドラムのタイプを確認してください	正しいシアンドラムをセットしてください。	N
341	プリンターエラー	ブラックドラムのタイプを確認してください	正しいブラックドラムをセットしてください。	N

レベル　E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。
W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。
N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。

番号	エラーリストのステータス	［ジョブ情報］の［ステータス］	対処方法	レベル
342	プリンターエラー	イエロードラムを交換してください	イエロードラムを交換してください。	N
343	プリンターエラー	マゼンタドラムを交換してください	マゼンタドラムを交換してください。	N
344	プリンターエラー	シアンドラムを交換してください	シアンドラムを交換してください。	N
345	プリンターエラー	ブラックドラムを交換してください	ブラックドラムを交換してください。	N
346	プリンターエラー	イエロートナーカートリッジがありません	イエローのトナーカートリッジを交換してください。	N
347	プリンターエラー	マゼンタトナーカートリッジがありません	マゼンタのトナーカートリッジを交換してください。	N
348	プリンターエラー	シアントナーカートリッジがありません	シアンのトナーカートリッジを交換してください。	N
349	プリンターエラー	ブラックトナーカートリッジがありません	ブラックのトナーカートリッジを交換してください。	N
351	プリンターエラー	イエロートナーが故障しています	弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店に連絡してください。	N
352	プリンターエラー	マゼンタトナーが故障しています	弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店に連絡してください。	N
353	プリンターエラー	シアントナーが故障しています	弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店に連絡してください。	N
354	プリンターエラー	ブラックトナーが故障しています	弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店に連絡してください。	N
356	プリンターエラー	イエロートナーのタイプを確認してください	正しいイエロートナーカートリッジをセットしてください。	N
357	プリンターエラー	マゼンタトナーのタイプを確認してください	正しいマゼンタトナーカートリッジをセットしてください。	N
358	プリンターエラー	シアントナーのタイプを確認してください	正しいシアントナーカートリッジをセットしてください。	N
359	プリンターエラー	ブラックトナーのタイプを確認してください	正しいブラックトナーカートリッジをセットしてください。	N
361	パンチボックスセットエラー	パンチボックスが正しくセットされていません	パンチボックスを正しくセットしてください。	N
362	ステープルダストフル	ステープルダストボックスがいっぱいです	ステープルダストボックスからゴミを取り除いてください。	N
363	ステープルボックスセットエラー	ステープルボックスを確認してください	弊社のテレフォンセンター、または販売店に連絡してください。	N
364	パンチダストフル	パンチダストボックスがいっぱいです	パンチダストボックスを空にしてください。	N
372	HCFトレイエラー	HCFの用紙サイズが正しくありません	正しい用紙をセットしてください。	N
373	HCFトレイエラー	HCFのトレイ設定を確認してください	大容量給紙トレイのトレイ設定を確認してください。	N
399	プリンターエラー	プリンタでエラーが発生しました。プリンタを確認してください	プリンターを確認してください。	N

レベル　E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。
W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。
N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。

6.3.4　データベースエラー

番号	エラーリストのステータス	［ジョブ情報］の［ステータス］	対処方法	レベル
26	エラー終了	ジョブの処理が正常に行われていません	主に、Print Server 起動時にデータベースファイルのジョブ情報に不整合が見つかりました。 必要な作業はありません。自動で不整合を修復し、該当するジョブがエラージョブに移動します。	E
32	データベースエラー	内部エラー	パスワードを確認してください。	E
33	データベースエラー	この処理を行う権限がありません	権限を確認してください。	E
34	データベースエラー	「フォームのパスワード」が使用するフォームジョブのパスワードと異なります	フォームのパスワードと、フォームジョブのパスワードを同じにしてください。	E
35	データベースエラー	内部エラー	セキュリティジョブの設定を確認してください。	E
36	データベースエラー	セキュリティがかけられていたため保持リストに移動させました	セキュリティを解除してください。	E
37	データベースエラー	セキュリティがかけられていたためエラーリストに移動させました	セキュリティを解除してください。	E
38	データベースエラー	内部エラー	プリンターの電源を入れてください。	E
39	データベースエラー	内部エラー	ジョブ連結の順番を確認してください。	E
40	データベースエラー	内部エラー	ジョブの種類を確認してください。	E
41	データベースエラー	内部エラー	サムネール編集前にRIP処理を行ってください。	E
42	データベースエラー	削除不許可のジョブです	ジョブ削除を許可する設定に変更してください。	E
44	データベースエラー	内部エラー	フォームジョブの処理が完了してから、データジョブを再開してください。	E
45	データベースエラー	内部エラー	データジョブの処理が完了してから、フォームジョブを再開してください。	E
46	データベースエラー	内部エラー	これ以上は追加できません。	E
47	データベースエラー	内部エラー	サムネール編集前にプレビューを生成してください。	E
48	データベースエラー	内部エラー	フォントの削除に失敗しました。	E
52	プリントオプションエラー	"RIPの種類：APPE"と同時に指定できないオプションが指定されています	プリントオプションを確認してください。	W
55	キャンセルエラー	ジョブをキャンセルできません。	ジョブをキャンセルできません。	N
56	用紙種類ミスマッチ	ジョブの用紙種類と「用紙挿入」の「指定単位ごとに挿入」で設定されている用紙トレイの用紙種類が異なります。	プリントオプションを変更してください。	W
レベル　E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。				

番号	エラーリストのステータス	［ジョブ情報］の［ステータス］	対処方法	レベル
57	用紙種類ミスマッチ	ジョブの用紙種類と「用紙挿入」の「ジョブの先頭に挿入」で設定されている用紙トレイの用紙種類が異なります。	プリントオプションを変更してください。	W
58	用紙種類ミスマッチ	ジョブの用紙種類と「用紙挿入」の「ジョブの最後に挿入」で設定されている用紙トレイの用紙種類が異なります。	プリントオプションを変更してください。	W
59	用紙種類ミスマッチ	ジョブの用紙種類と「特殊ページ」の「おもて表紙を付ける」で設定されている用紙トレイの用紙種類が異なります。	プリントオプションを変更してください。	W
60	用紙種類ミスマッチ	ジョブの用紙種類と「特殊ページ」の「うら表紙を付ける」で設定されている用紙トレイの用紙種類が異なります。	プリントオプションを変更してください。	W
61	用紙種類ミスマッチ	ジョブの用紙種類と「特殊ページ」の「合紙」で設定されている用紙トレイの用紙種類が異なります。	プリントオプションを変更してください。	W
62	用紙種類ミスマッチ	ジョブの用紙種類と「特殊ページ」の「例外ページ」で設定されている用紙トレイの用紙種類が異なります。	プリントオプションを変更してください。	W
63	用紙種類ミスマッチ	「レイアウト（出力設定）」の「表紙用トレイ」と「本文用トレイ」で設定されている用紙トレイの用紙種類が異なります。	プリントオプションを変更してください。	W
64	用紙種類ミスマッチ	ジョブの用紙種類と「プリントジョブの設定」の「カバーページを印刷する」で設定されている用紙トレイの用紙種類が異なります。	プリントオプションを変更してください。	W
65	用紙種類ミスマッチ	ビルドジョブを構成する連結されたジョブごとの「用紙トレイ」で選択している「用紙種類」が異なります。	プリントオプションを変更してください。	W
66	用紙種類ミスマッチ	ビルドジョブを構成する連結されたジョブとサムネール編集で挿入されたブランクシートの「用紙トレイ」で選択している「用紙種類」が異なります。	プリントオプションを変更してください。	W
67	ライセンスエラー	トラッピングの自動指定オプションのライセンスが設定されていません。	ライセンスの設定を確認してください。	E
レベル	E ：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W ：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N ：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。			

6.3.5　受信時エラー

番号	エラーリストのステータス	［ジョブ情報］の［ステータス］	対処方法	レベル
1	ディスク容量不足	ディスクがいっぱいです	不要なジョブなどを削除して、ディスクの空き容量を増やしてください。	E
2	スプールファイル出力エラー	ファイルの書き込みに失敗しました	Print Serverを再起動してください。	E
3	スプールファイル作成エラー	ファイルの作成に失敗しました	Print Serverを再起動してください。	E
4、5	ジョブ受信エラー	受信時にエラーが発生しました	再度、ジョブをPrint Serverに送信してください。	E
6	ジョブ受信エラー	指定されたデバイスとは違うものが接続されています	接続を確認してください。	E
9	ジョブ受信エラー	TCP コネクションが切断されました	接続を確認してください。	E
16	イメージサイズエラー	TIFFファイルのイメージピクセル数がカスタムサイズ最小（w:944h:944 ピクセル）より小さい場合には処理できません。	データを変更してください。	E
レベル	E　：ファイルの修正や再プリントが必要。赤色で表示。 W　：プリントオプションの変更で再プリント可能。マゼンタ色で表示。 N　：エラーを解除すると再プリント可能。黒色で表示。			

6.3.6　メール送受信、ファイル転送時エラー

番号	メッセージ	対処方法
110	SMTPサーバーのIPアドレスが取得できませんでした	ボックスの設定で、SMTPサーバー名を確認してください。
111	SMTPサーバーに接続できませんでした	ネットワーク管理者にご確認ください。
112	SMTPサーバーとの接続が中断されました	ネットワークの状態を確認してください。
113	SMTPサーバーが送信者を拒否しました	ネットワーク管理者にご確認ください。
114	SMTPサーバーが宛先を拒否しました	送信先の設定を確認してください。
115	SMTP サーバーとの通信でエラーが発生しました	ネットワーク管理者にご確認ください。
120	ディスクの空き容量が不足しているため送信できませんでした	エラーメールや不要なファイルの削除、ServerManagerの不要なジョブなどを削除して、ディスクの空き容量を増やしてください。
121	ディスクエラーのため送信できませんでした	ディスク障害の可能性があります。 弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店に連絡してください。
130	送信最大ファイル数を超えています	送信ファイル数を確認してください。
210	POPサーバーのIPアドレスが取得できませんでした	ボックスの設定で、POP3サーバー名を確認してください。
211	POPサーバーに接続できませんでした	ネットワーク管理者に確認してください。
212	POPサーバーとの接続が中断されました	ネットワークの状態を確認してください。
213	POPサーバーに認証が拒否されました	ネットワーク管理者に確認してください。
214	POPサーバーのメールボックスにアクセスできませんでした	ネットワーク管理者に確認してください。

番号	メッセージ	対処方法
215	POPサーバーとの通信でエラーが発生しました	ネットワーク管理者に確認してください。
220	ディスク空き容量が不足しているため受信できませんでした	エラーメールや不要なファイルの削除、ServerManagerの不要なジョブなどを削除して、ディスクの空き容量を増やしてください。
221	ディスクエラーのため受信でませんでした	・ディスク障害の可能性があります。 ・弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店に連絡してください。
310	FTPサーバーにアクセスできません	ネットワーク管理者に確認してください。
320	Windowsサーバーにアクセスできません	ネットワーク管理者に確認してください。

7

Appendix

画像に対する警告値とメモ書きの設定などについて説明しています。

7.1 RIP処理に関する設定 318
7.1.1 グレースケールのシャドウ部の設定 318
7.1.2 RGB画像警告の設定 319
7.1.3 特色警告の設定 320
7.1.4 インキ総量警告の設定 321
7.1.5 ヘアライン警告色の設定 322
7.1.6 オーバープリント警告の設定 324
7.1.7 コンポジットオーバープリントの設定 327
7.1.8 Kオーバープリントの設定 328
7.1.9 EPS（JPEGエンコーディング）画像の扱い 329
7.1.10 メモ書きの変更 329
7.2 プリントに関する事項 333
7.2.1 TCP/IPからのプリント使用制限の設定 333
7.2.2 PDFプリンタードライバーに対する制限事項 334
7.2.3 アプリケーションに対する制限事項 336
7.2.4 RIPの種類に対する制限事項 340
7.2.5 フォントに対する制限事項 341
7.2.6 解消できるプリントエラー 342
7.2.7 カスタムサイズの用紙へのプリント 342
7.3 セキュリティーに関する設定 344
7.3.1 管理者のパスワード 344
7.3.2 フォルダーの共有 345
7.3.3 FTPの匿名アクセス 346
7.4 RGB画像警告機能 348
7.5 Q & A、用語集 351
7.5.1 Q & A 351
7.5.2 用語集 353

7.1 RIP処理に関する設定

ファイルのRGB画像、特色、インキ総量、ヘアライン、およびオーバープリントに対する警告機能やメモ書きなどの、さらに詳細な項目の設定について説明します。

ServerManager を終了し、設定ファイルをテキストエディターで開いて、以下の例に従って、下線部のとおりに設定を書き換えます。

■［RGB画像警告］の設定ファイルの例

```
% RGBWarning.ps
% Version: 1.0
% CreationDate: 2008/12/12

currentglobal true setglobal

FX_dict /RGBWarning true put
FX_dict /CIEWarning true put

setglobal
```

警告する画像の種類を変更する場合は、この部分を書き換えます

補足

- 書き換えた設定を有効にするには、Print Serverの再起動が必要です。
- ファイルを編集する前に、オリジナルのファイルを複製してバックアップを作成しておくことをお勧めします。
- オリジナルのバックアップファイルをオリジナルと同じフォルダーに保存する場合は、拡張子を「.ps」以外に変更してください。拡張子が「.ps」の場合、編集した内容が反映されないことがあります。
  例：オリジナルのファイル名が「{ファイル名}.ps」の場合は、「{ファイル名}.ps.org」などに変更
- オリジナルがあるフォルダーに、別のフォルダーを格納しないでください。編集した内容が反映されないことがあります。

7.1.1 グレースケールのシャドウ部の設定

カラーの原稿をプリントオプションの［カラー］>［カラーモード］>［グレースケール］でプリントすると、シャドウ部分がつぶれてプリントされることがありますが、このつぶれを軽減できます。

以下のファイルをテキストエディターで開き、書き換えます。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥bin¥FX_RIP.ini

2重下線部が変更箇所です。

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
GrayScaleMode=0
```

変更後：

```
GrayScaleMode=1
```

7.1.2　RGB画像警告の設定

プリントオプションの［画像警告］＞［RGB画像警告］の警告の対象を変更できます。

補足　RGB画像警告の警告色は変更できません。

RGB画像、またはCIE画像の警告

［RGB画像警告］で警告する画像を、RGBおよびCIEのどちらかだけに変更できます。
以下のファイルをテキストエディターで開き、書き換えます。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥Startup¥RGBWarning.ps

- 例）CIE画像の警告を行わない場合

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
FX_dict /CIEWarning true put
```

変更後：

```
FX_dict /CIEWarning false put
```

- 例）RGB画像の警告を行わない場合

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
FX_dict /RGBWarning true put
```

変更後：

```
FX_dict /RGBWarning false put
```

警告の対象になるアプリケーションの変更

Macintoshクライアントからのプリントで、［RGB画像警告］を有効とするアプリケーションを変更できます。
また、Windowsクライアントからのプリントに対してRGB画像警告を無効にできます。
以下のファイルをテキストエディターで開き、書き換えます。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥Startup¥RGBWarningApplications.ps

- 例）FreeHand®を追加する場合

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
/RGBWarningApplications[
(QuarkXPress)
(Illustrator)
(InDesign)
(PageMaker) %% For background print
]def
```

変更後：

```
/RGBWarningApplications[
(QuarkXPress)
(Illustrator)
(InDesign)
(PageMaker) %% For background print
(FreeHand)
]def
```

● 例）Windowsクライアントからのプリントに対して警告機能を常にオフにする場合

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
/RGBWarningWinUI true def
```

変更後：

```
/RGBWarningWinUI false def
```

補足

・UNIX®ワークステーションからのプリントにも適用されます。
・PageMakerを使用する場合の注意事項は、以下のとおりです。
- MacintoshクライアントのPageMakerからプリントするとき、バックグラウンドプリントでは、「警告の対象になるアプリケーションの変更」（/RGBWarningApplications）の設定が有効になります。
- フォアグラウンドプリントでは、「Windowsクライアントからのプリントに対して警告機能をオフにする場合」（/RGBWarningWinUI）の設定が有効になります。

7.1.3 特色警告の設定

プリントオプションの［画像警告］＞［特色警告］で使用する警告色などを変更できます。
以下のファイルをテキストエディターで開き、書き換えます。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥Startup¥SetSpotWrn.ps

カラーモード用警告色の設定

● 例）警告色をC=0%、M=50%、Y=0%、K=30%に変更する場合

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
FX_dict /FXSpotWrnColor [0 0 0 0.3] put
```

変更後：

```
FX_dict /FXSpotWrnColor [0 0.5 0 0.3] put
```

グレースケールモード用警告色の設定

● 例）警告色をK=100%に変更する場合

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
FX_dict /FXSpotWrnColorGrayPrint 0.3 put
```

変更後：

```
FX_dict /FXSpotWrnColorGrayPrint 1.0 put
```

チントが0%の特色を警告しない設定（コンポジットプリント）

チントが0%の特色が含まれている場合、CMYK版には影響はありませんが、通常、アプリケーションからは特色版がプリントされてしまいます。このため、デフォルトの設定では、警告を行うようになっています。

CMYK版には影響がないので、チント0%の特色は警告する必要がないなどの場合は、警告しないように書き換えます。

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
FX_dict /FXSpotWrnTint0Spot true put
```

変更後：

```
FX_dict /FXSpotWrnTint0Spot false put
```

チントが0%の特色も警告する設定（分版合成プリント）

分版プリントの場合では、特色版で、特色のチント0%のオブジェクトなのか、プロセス版オブジェクトのノックアウトのための0%の描画なのかが判定できずに、特色以外のオブジェクトも警告してプリントされることがあります。このため、デフォルトの設定では、チント0%の特色は警告されません。

チント0%の特色を警告するときは、以下のように書き換えます。

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
FX_dict /FXSpotWrnTint0Spot_SEP false put
```

変更後：

```
FX_dict /FXSpotWrnTint0Spot_SEP true put
```

7.1.4　インキ総量警告の設定

プリントオプションの［画像警告］>［インキ総量警告］で使用する警告色などを変更できます。

以下のファイルをテキストエディターで開き、書き換えます。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥Startup¥SetInkWrn.ps

警告色の設定

- 例）警告色をC=70%、M=40%、Y=30%、K=20%に変更する場合

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
FX_dict /FXInkWrnColor [0 1 0 0] put
```

変更後：

```
FX_dict /FXInkWrnColor [0.7 0.4 0.3 0.2] put
```

Separationカラースペース Allに関する設定

トンボやレジストレーションカラーの設定で使用されることのある、Separationカラースペース Allの警告の有無を設定できます。デフォルトの設定では警告するようになっています。

Separationカラースペース Allを警告しない場合は、以下のように書き換えます。

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
FX_dict /FXInkWrnSepAlt true put
```

変更後：

```
FX_dict /FXInkWrnSepAlt false put
```

7.1.5 ヘアライン警告色の設定

プリントオプションの［画像警告］>［ヘアライン警告］で使用する警告色と幅などを変更できます。
以下のファイルをテキストエディターで開き、書き換えます。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥Startup¥SetHairLineWrn.ps

ヘアライン警告対象の設定

- **Illustrator 5.5～8.0で、パターンの線を細かい図形で表現している場合**

  細かい図形がヘアラインとして、抽出されることがあります。

  パターンの線を細線では表現していない場合は、細かい図形が抽出されないように、以下のように書き換えます。

  変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

  ```
  FX_dict /FXHLAI8PatternWrn true put
  ```

  変更後：

  ```
  FX_dict /FXHLAI8PatternWrn false put
  ```

  補足 Illustrator 9.0 以降では、「false」にしても、パターンカラースペースで線を引いてある場合は抽出されます。

- **グラデーションの細線を使用している場合**

  グラデーションが細線で描画されていると、処理に時間がかかったり、メモリー不足になったりすることがあります。

  グラデーションの細線を抽出しない場合は、以下のように書き換えます。

  変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

  ```
  FX_dict /FXHLGradationWrn true put
  ```

  変更後：

  ```
  FX_dict /FXHLGradationWrn false put
  ```

- **InDesignでグラデーションの図形を使用している場合**

  細線ではないグラデーションの図形がヘアラインとして、抽出されることがあります。

  グラデーションの線を細線では使用していない場合は、グラデーションの図形が抽出されないように、以下のように書き換えます。

  また、書き換えても、線だけで幅のない直線fillは、抽出できます。

  変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

  ```
  FX_dict /FXHLOnlyGradationLine false put
  ```

  変更後：

  ```
  FX_dict /FXHLOnlyGradationLine true put
  ```

コンポジットプリント用の設定

- **例）警告色と幅をC=60%、M=70%、Y=80%、K=0%、幅=20 ptに変更する場合**

  変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

  ```
  FX_dict /FXHairLineWrnColor [0 1 0 0] put
  FX_dict /FXHairLineWrnWidth 3 put
  ```

  変更後：

  ```
  FX_dict /FXHairLineWrnColor [0.6 0.7 0.8 0] put
  FX_dict /FXHairLineWrnWidth 20 put
  ```

分版合成プリント、およびグレースケールモード用の設定

● 例）警告色と幅をK=20%、幅=30 ptに変更する場合

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
FX_dict /FXHairLineWrnColorGrayPrint 0.6 put
FX_dict /FXHairLineWrnWidthGrayPrint 20 put
```

変更後：

```
FX_dict /FXHairLineWrnColorGrayPrint 0.2 put
FX_dict /FXHairLineWrnWidthGrayPrint 30 put
```

補足

＜分版合成プリントの場合の警告色について＞
ヘアライン警告機能は分版合成の場合にも動作しますが、警告色は、以下のようになります。（「FXHairLineWrnColorGrayPrint」がデフォルトの0.6の場合）

- ヘアライン警告オブジェクトが、オーバープリント指定されている場合は、そのオブジェクトの色成分　C、M、Y、K　のうち、色の付いている　0％以外の成分に、「FXHairLineWrnColorGrayPrint」が適用された色になります。たとえば、C=60%、M=70%、Y=0%、K=0%の場合は、警告色は、C=60%、M=60%、Y=0%、K=0%になります。
- ヘアライン警告オブジェクトが、ノックアウト指定されている場合は、そのオブジェクトの色成分C、M、Y、Kのそれぞれに、「FXHairLineWrnColorGrayPrint」が適用された、C=60%、M=60%、Y=60%、K=60%の色になります。
- In-RIPセパレーションの場合は、オーバープリント指定のオン/オフにかかわらず、そのオブジェクトの色成分C、M、Y、Kのそれぞれに、「FXHairLineWrnColorGrayPrint」が適用された、C=60%、M=60%、Y=60%、K=60%の色になります。
- ［オーバープリント警告］が［抽出］の場合は、オーバープリントの抽出が優先され、ヘアライン警告は行われません。

＜モードと機能の組み合わせによって適用される警告色＞

色分解モード	オーバープリント警告オフ		オーバープリント警告－警告色オン	
	ノックアウト	オーバープリント	ノックアウト	オーバープリント
コンポジット	○	○	○	◇
分版合成	■	□	□*	□*
分版合成/In-RIPセパレーション	■	■	■*	■*

○：ヘアライン警告色
■：プロセス黒（C、M、Y、Kそれぞれに、グレースケールモード用の警告色を適用）
□：色成分色（C、M、Y、Kのうち色の付いている0%以外の成分に、グレースケールモード用の警告色を適用）
◇：オーバープリント警告色（線幅はヘアライン警告の幅）
＊：分版合成プリントのとき、オーバープリント警告機能はオフになります。

白いオブジェクト用の抽出の設定

■ カラーモード用

白いヘアラインオブジェクトは、そのままの色では抽出したことがわからないので、K=60% で描画されます。この色を変更できます。

● 例）警告色をK=70%に変更する場合

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
FX_dict /FXHLColorForWhite [0 0 0 0.6] put
```

変更後：

```
FX_dict /FXHLColorForWhite [0 0 0 0.7] put
```

■グレースケール用

白いヘアラインオブジェクトは、そのままの色では抽出したことがわからないので、K=60% で描画されます。この色を変更できます。

- 例）警告色をK=70%に変更する場合

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
FX_dict /FXHLColorForWhiteGrayPrint 0.6 put
```

変更後：

```
FX_dict /FXHLColorForWhiteGrayPrint 0.7 put
```

幅のない直線fillについて

IllustratorやInDesignでは、線のオブジェクトに対して、線と塗りつぶしの色を設定できます。たとえば、直線に色を付けないで塗りつぶしの色だけを設定すると、PostScript コードは、「1 デバイスピクセル幅で直線を描画する」という意味の、幅のない直線パス「fill」になります。このオブジェクトは、600 dpi のプリンターでは、600 dpiの1ピクセル幅（0.12 pt）でプリントされますが、2,400 dpiのイメージセッターでは、2,400 dpiの1ピクセル幅（0.03 pt）で印刷されるので、かすれて印刷されないことがあります。

ヘアライン警告機能は、「幅のない直線 fill」も警告できます。このとき、抽出と消去に関しては通常のヘアライン警告と同様ですが、警告色の場合は、デフォルトでは警告色と警告パターンで警告されます。この警告パターンを変更できます。

幅のない直線fillの警告方法を、警告色と警告パターンから、通常のヘアラインの警告と同様の警告色と警告幅にも変更できます。

- 例）警告パターンを三点鎖線から五点鎖線に変更する場合

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
FX_dict /FXHLnowidthfillWrnPattern [12 2 1 2 1 2 1 2] put
```

変更後：

```
FX_dict /FXHLnowidthfillWrnPattern [12 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2] put
```

- 例）「幅のない直線fill」の警告をしない場合

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
FX_dict /FXHLnowidthfillWrn get exec
```

変更後：

```
% FX_dict /FXHLnowidthfillWrn get exec
```

- 例）「幅のない直線fill」の警告方法を警告色と警告幅に変更する場合

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
FX_dict /FXHLUSEnowidthfillWrnPattern true put
```

変更後：

```
FX_dict /FXHLUSEnowidthfillWrnPattern false put
```

7.1.6　オーバープリント警告の設定

プリントオプションの［画像警告］>［オーバープリント警告］で使用する警告色などを変更できます。

以下のファイルをテキストエディターで開き、書き換えます。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥Startup¥SetOverPrintWrn.ps

白いオブジェクトも警告の対象にする場合

[オーバープリント警告]は、白いオブジェクトのオーバープリントやスプレッド指定のトラッピングを警告しません。なぜなら、白いオブジェクトにオーバープリント指定した場合としない場合では、効果は変わらないためです。

白いオブジェクトに対するスプレッド指定のトラッピングについても、設定した場合としない場合では、効果は変わりません。ただし、白いオブジェクトに対するチョーク指定のトラッピングについては、背景オブジェクトを広げる効果があります。

ファイルで白いオブジェクトにオーバープリント指定すると、分版プリントでは影響がなく、モニター、およびコンポジットプリンターのプリントではノックアウトされます。この差異が、イメージセッターなどへの分版出力のときに問題になることがあります。

白いオブジェクトのオーバープリントやスプレッド指定を警告の対象にする場合は、以下のように書き換えます。

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
FX_dict /IgnoreWhiteOP get exec
```

変更後：

```
%FX_dict /IgnoreWhiteOP get exec
```

QuarkXPress では、トラップパレットのデフォルト設定を変更しない限り、白いオブジェクトにオーバープリント指定されることはありません。また、背景にオブジェクトがある場合は、自動でノックアウトされます。

Illustrator など特定のアプリケーションでは、白いオブジェクトがオーバープリント警告の対象となります。白いオブジェクトを警告の対象から除外する場合は、以下のように書き換えます。

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
FX_dict /ProcessSeparationNoneAsWhite false put
```

変更後：

```
%FX_dict /ProcessSeparationNoneAsWhite true put
```

Kオーバープリントを警告の対象からはずす場合

Kのオーバープリントは必ず実施されるので、警告の対象から除外する場合は、以下のように書き換えます。

- 例）95%以上のKオーバープリントを警告の対象から除外する場合

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
FX_dict /IgnoreWhiteOP get exec
%FX_dict /BlackOPThreshold 95 put
%FX_dict /IgnoreWhiteAndBlackOP get exec
```

変更後：

```
%FX_dict /IgnoreWhiteOP get exec
FX_dict /BlackOPThreshold 95 put
FX_dict /IgnoreWhiteAndBlackOP get exec
```

これで、95%以上のKのオーバープリントは、警告の対象から除外されるようになります。

90%以上のKオーバープリントを警告の対象から除外する場合は、/BlackOPThresholdの部分の95を90に変更してください。

また、Separation Black、DeviceN Black の場合には、以上のように変更しても除外されません。この場合は、以下を追加すると警告の対象から除外されるようになります。

```
FX_dict /BlackOP_Sep true put
FX_dict /BlackOP_DevN ture put
```

コンポジットプリント用の設定

■警告色の変更

オーバープリント警告で使用する色を変更できます。

- 例）警告色をC=70%、M=40%、Y=30%、K=20%に変更する場合

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
FX_dict /FXOPWrnColor [0.3 0.7 0.3 0] put
```

変更後：

```
FX_dict /FXOPWrnColor [0.7 0.4 0.3 0.2] put
```

■白いオブジェクトを抽出する場合の警告色の変更

白いオーバープリントオブジェクトは、そのままの色では抽出したことがわからないので、K=20%で描画されます。

- 例）警告色をC=30%、M=20%、Y=10%、K=0%に変更する場合

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
FX_dict /FXOPColorForWhite [0 0 0 0.7] put
```

変更後：

```
FX_dict /FXOPColorForWhite [0.3 0.2 0.1 0] put
```

グレースケールモード用の設定

オーバープリント警告機能は、グレースケールモードでも動作します。

グレースケールモードの場合は、カラーモードとは別に、以下のように書き換えます。

- 例）警告色をK=80%に変更する場合

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
FX_dict /FXOPColorGrayPrint 0.7 put
```

変更後：

```
FX_dict /FXOPColorGrayPrint 0.8 put
```

- 例）白いオブジェクトを抽出する場合の警告色をK=80%に変更する場合

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
FX_dict /FXOPColorForWhiteGrayPrint 0.7 put
```

変更後：

```
FX_dict /FXOPColorForWhiteGrayPrint 0.8 put
```

7.1.7　コンポジットオーバープリントの設定

プリントオプションの［画質］＞［コンポジットオーバープリント］を［プロセス］、または［プロセスカラー＋特色］にした場合の動作を設定します。

以下のファイルをテキストエディターで開き、書き換えます。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥Startup¥SetOverPrintWrn.ps

コンポジットオーバープリントで扱える特色の数

［コンポジットオーバープリント］を［プロセスカラー＋特色］、または［プロセスカラー］にし、［カラー］＞［カラー詳細（特色設定）］＞［コンポジット特色補正］にチェックマークを付けると、特色のオーバープリントも再現できるようになります。

デフォルトでは、扱える特色の数は、1ページにつき、5色までです。1ページに5色を超える特色が使用された場合は、「特色処理エラー」が発生します。

扱える特色の数を増やす場合は、以下のように書き換えます。

- 例：8色にする場合

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
5 FX_dict /SetMaxSpotColorForOP known {FX_dict /SetMaxSpotColorForOP get exec}
{pop}ifelse
```

変更後：

```
8 FX_dict /SetMaxSpotColorForOP known {FX_dict /SetMaxSpotColorForOP get exec}
{pop}ifelse
```

白いオブジェクトにだけオーバープリントをかけない場合

コンポジットオーバープリント指定しても、白いオブジェクトにだけオーバープリントをかけない場合、以下のように書き換えます。

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
%FX_dict/IgnoreWhiteOPForPreview get exec
```

変更後：

```
FX_dict/IgnoreWhiteOPForPreview get exec
```

QuarkXPressのトラッピングの再現について（制約）

プリントオプションの［画質］＞［コンポジットオーバープリント］を［プロセス］、または［プロセスカラー＋特色］にした場合は、QuarkXPressの「文字」、「ベジェ画像ボックス（4.＊）」、「多角形画像ボックス（3.3）」に対して指定したトラッピング（チョーク）は、トラッピング（スプレッド）で再現されます。（これは、プリントオプションの制限で、分版合成プリントでは問題なくチョークで再現できます）

以下のように書き換えると、この場合のトラッピング（チョーク）をトラッピング（スプレッド）で再現しないで、ノックアウトで再現するように変更できます。

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
FX_dict /FXQXTrapChokeToSpread true put
```

変更後：

```
FX_dict /FXQXTrapChokeToSpread false put
```

以下のように書き換えると、トラッピング（スプレッド）もトラッピング（チョーク）もともに、ノックアウトで再現するように変更できます。なお、PageMakerからのプリントには、制限なく再現できます。

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
FX_dict /FXQXTrapSimulation true put
```

変更後：

```
FX_dict /FXQXTrapSimulation false put
```

7.1.8 Kオーバープリントの設定

Kオーバープリント機能は、DTPのデータ入稿確認のためではなく、Print Serverからの黒のオブジェクトの見栄えを向上させるのが主な目的です。

Kオーバープリント機能の動作の変更は、以下のファイルをテキストエディターで開き、書き換えます。



D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥Startup¥OverprintLimit.ps

Kオーバープリントを開始する値

Kオーバープリントのデフォルトでは、ブラック100%（K=100%）のオブジェクトにオーバープリントがかかります。以下のように書き換えると、設定したKの値以上のオブジェクトにオーバープリントがかかるように変更できます。

- 例）K=95%以上のオブジェクトにオーバープリントをかける場合

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
FX_dict /OverprintLimit 1.0 put
```

変更後：

```
FX_dict /OverprintLimit 0.95 put
```

Kオーバープリント時のIE（輪郭補正）制御

通常、この設定を変更する必要はありませんが、K=100%が薄いCMYKプロファイルを選択している場合は、K=100%の文字がプリンターではK=100%ではなく薄くなるので、ぼやけて見えることがあります。プリンターのK=100%でないと、IE（輪郭補正）機能が働かないので、文字などを精細にプリントできなくなります。

このような場合、以下のように書き換えると、K=100%の文字などのオブジェクトを見栄えよくプリントできます。

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
FX_dict /OverprintIE false put
```

変更後：

```
FX_dict /OverprintIE true put
```

また、この設定を変更した場合は、プリントオプションの［画質］＞［その他の設定（画像）］＞［Image Enhancement/ 白抜き文字の強調］を［Image Enhancement］にしてください。ただし、K=100% が薄いCMYK プロファイルを選択している場合は、CMYK プロファイルが適用される K=99% と、プリンターのK=100%になるK=100%との差が顕著になる場合があるので、注意して使ってください。

7.1.9　EPS（JPEGエンコーディング）画像の扱い

EPS（JPEGエンコーディング）画像の扱いについて説明します。

InDesign 1.0/2.0、Illustrator 10.0 からのEPS（JPEG）画像

InDesign 1.0/2.0、Illustrator 10.0 の分版プリントは、ほかのアプリケーションの分版プリントのようにEPS（JPEG）画像が墨版（K）だけになってプリントされるのと異なり、EPS（JPEG）画像をカラーでプリントするようなコードを出力するようになっています。

したがって、分版プリントでは、プリントオプションの［画質］＞［その他の設定（画質）］＞［EPS（JPEG圧縮）のカラー出力］が［しない］の状態でも、EPS（JPEG）画像はカラーでプリントされます。コンポジットプリントでは、コンポジットオーバープリントが［プロセスカラー＋特色］、または［プロセスカラー］の場合に［EPS（JPEG圧縮）のカラー出力］の設定に従ってプリントされます。

InDesign 1.0/2.0、Illustrator 10.0 でEPS（JPEG）にトランスファーカーブがある場合

InDesign 1.0/2.0、Illustrator 10.0 の分版プリントは、EPS（JPEG）画像をカラーでプリントするコードを出力するようになっています。ただし、EPS（JPEG）画像にトランスファーカーブが適用されている場合は、そのEPS（JPEG）画像のC、M、Y、Kすべてに、Kのトランスファーカーブを適用するコードになっています。

Print ServerのEPS（JPEG）をカラーにする機能は、EPS（JPEG）画像のC、M、Y、Kのそれぞれには C、M、Y、Kのトランスファーカーブをそれぞれ適用するようになっています。

たとえば、InDesign 1.0/2.0、Illustrator 10.0 と同様にC、M、Y、Kすべてに、Kのトランスファーカーブを適用するように変更する場合は、以下のファイルをテキストエディターで開き、書き換えます。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥Startup¥JpegEPSOpt.ps

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
FX_dict /IDTCSimulation false put
```

変更後：

```
FX_dict /IDTCSimulation true put
```

7.1.10　メモ書きの変更

プリントオプションの［メモ書き］で、プリントする内容を変更できます。

カラーパッチの設定

［メモ書きの種類］の［カラーパッチ］でプリントするパッチの内容を変更する場合は、Illustratorなどのアプリケーションで EPSファイルを作成し、以下のファイルを置き換えます。

- CPSIジョブ

  D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥colorpatch.ps

- APPEジョブ

  D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥fxparams¥appememo¥colorpatch.pdf

オプションメモ、およびコメントの設定

[メモ書きの種類]の[オプションメモ]、または[コメント]で印字させるフォントの種類や大きさを変更する場合は、以下のファイルをテキストエディターで開き、書き換えます。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥Startup¥memofont.ps

補足
- CPSIジョブだけ変更されます。
- オプションメモ、およびコメントのデフォルトフォントは中ゴシックBBBですが、中ゴシックBBBがPrint Serverにない場合は、代替フォントの平成明朝体W3が使用されます。

● 例）オプションメモのフォントを10 ptの平成明朝体W3に変更する場合

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
/MemoOptionFont
/JP  /GothicBBB-Medium-83pv-RKSJ-H findfont %% Japanese
/MemoOptionFontSize 8 def
```

変更後：

```
/MemoOptionFont
/JP  /HeiseiMin-W3-83pv-RKSJ-H findfont %% Japanese
/MemoOptionFontSize 10 def
```

● 例）コメントのフォントを10 ptの平成明朝体W3に変更する場合

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
/MemoCommentFont
/JP  /GothicBBB-Medium-83pv-RKSJ-H findfont %% Japanese
/MemoCommentFontSize 8 def
```

変更後：

```
/MemoCommentFont
/JP  /HeiseiMin-W3-83pv-RKSJ-H findfont %% Japanese
/MemoCommentFontSize 10 def
```

補足 オプションメモ、およびコメントのデフォルトフォントは中ゴシックBBBですが、中ゴシックBBBがPrint Serverにない場合は、代替フォントの平成明朝体W3が使用されます。

カスタムの設定

[メモ書きの種類]の[カスタム]でプリントされる内容を独自の内容にできます。APPEジョブでは、作成したPDF形式の画像に、CPSIジョブでは、ジョブ名、RIP開始日時やプリントオプションなどの情報を印字できます。

補足 APPEジョブでは、ジョブ名、RIP開始日時やプリントオプションなどの情報を印字できません。

■APPEジョブ

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥fxparams¥appememo¥custommemo＊.pdf

Illustratorなどのアプリケーションで PDF ファイルを作成し、ファイル（＊は1～10を示す）を置き換えます。

補足 作成したPDFファイルに特色が含まれていたとしても、特色補正されずに、代替色でプリントされます。

■CPSIジョブ

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥custommemo＊.ps

ファイルをテキストエディターで開き、書き換えます。

補足

デフォルトの「custommemo＊.ps」（＊は1～10を示す）は、ジョブごとに、以下の要素を印字するサンプルです。

複数部のプリントを行い、自分と先方、または複数部署で校正する場合に、編集や修正によるバージョンの不整合が発生しないようにこの番号で確認するという、カンプ番号を想定したものです。

・custommemo1.ps…RIPカウンター +RIP開始日時
・custommemo2.ps…ジョブ名
・custommemo3.ps…ファイル名
・custommemo4.ps…ジョブ名+RIP開始日時
・custommemo5.ps…ユーザー名
・custommemo6.ps…ユーザー名+ジョブ名+RIP開始日時
・custommemo7.ps…カラーモード+CMYK色補正
・custommemo8.ps…カラーモード+特色プロファイル+特色補正インテント（フルカラー 1のとき）
・custommemo9.ps…Print Serverシリアル番号
・custommemo10.ps…プリンター名

PostScript言語の知識が十分にある場合は、「custommemo＊」（＊は1～10を示す）をもとにプリントオプションなどの情報を含めたカスタムメモを独自に編集して作成できます。この場合、利用できる数値、および文字列の取得方法は、以下のとおりです。

FX_dict /GetRIPCounter get exec（整数値）
RIPカウンターが取得されます。この番号は、RIPするたびにカウントアップされます。キャンセル、エラー、Windows からのフォントダウンロードなどでもカウントアップされます。

FX_dict /DateTime get（文字列）
RIP開始日時を含む、文字列が取得されます。

serialnumber（整数値）
Print Server固有の番号が取得されます。

FX_dict /GetFileName get exec show
ジョブのファイル名が取得されます。

FX_dict /GetJobName get exec show
ジョブのジョブ名が取得されます。

FX_dict /GetUserName get exec show
ジョブの所有者名（ユーザー名）が取得されます。

FX_dict /GetPrinterName get exec show（文字列）
ジョブのエンジン名が取得されます。

/OptionDict FX_dict /GetProfileStrings get exec def
プリントオプションの内容を示す文字列を含む辞書が取得されます。たとえば、各オプションの内容を含む文字列を取得する場合は、「OptionDict /CMYKSimulation get」と入力します。
各キーで取得できる文字列の内容は、以下の表を参照してください。

キーワード	プリントオプション	値（文字列型）
/RGBColorCorrect	RGB色補正	()|(する)|(sRGB)|RGB 色補正プロファイル名
/RGBGamma	RGBガンマ補正	()|(より明るい)|(明るい)|(ふつう)|(暗い)|(より暗い)
/RGBWhitePoint	RGBホワイトポイント	()|(やや黄色い)|(ふつう)|(やや青い)
/RGBOutputProfile	RGB出力プロファイル	()|RGB出力プロファイル名
/RGBOutputIntent	RGB出力インテント	()|(サチュレーション)|(相対カラリメトリック)| (絶対カラリメトリック)
/CMYKSimulation	CMYKシミュレーション	()|CMYKプロファイル名
/SpotColorCorrectionProfile	特色補正プロファイル	()|特色補正プロファイル名

キーワード	プリントオプション	値（文字列型）
/UserCurve	ユーザー調整	()|ユーザー調整
/SpotColorCorrect	コンポジット特色補正	()|(特色補正)
/Smoothing	スムージング	()|(スムージング)
/DocumentType/ScreeningType	原稿タイプ	()|(写真)|(地図)
/Calibration	キャリブレーション-画像/文字	()|(標準)|キャリブレーション名
/DensityAdjustmentImage	濃度調整	()|濃度調整

補足

・GetRIPCounterで得られるカウント値は、再インストールではリセットされません。
・ハードウェア交換などで特定のカウント値に設定する場合は、以下のファイル内の数値をテキストエディターで編集してください。

C:¥WINDOWS¥FXSVR_RIPSum.dat

7.2 プリントに関する事項

プリントに関する制限事項について説明します。

7.2.1　TCP/IPからのプリント使用制限の設定

TCP/IP（LPR）を使用したプリントの制限アドレスを設定できます。

テキストエディターを使用して、以下のファイルを書き換えます。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥Pref¥Ip_limit.txt

デフォルトは、「＊.＊.＊.＊」になっていて、すべてのクライアントコンピューターにプリントを許可しています。

ファイルの記述方法

ファイルの記述ルールは、以下のとおりです。

・各行、1エントリーします。

・エントリーには、IPアドレスを使用できます。DNSを使用している場合は、DNS名も使用できます。

・IPアドレス、およびDNS名の入力には、ワイルドカードとして「＊」（半角）も使用できます。
記述例は、以下のとおりです。
192.168.100.＊
＊.example.com

・プリントを許可しない場合は、行の先頭に「-」を付けます。
記述例は、以下のとおりです。
-192.168.100.10
-hostA.example.com

・複数行を記述すると、先頭行から読み込んで判断されます。条件が矛盾した場合、あとに書かれた行が優先されます。

・以下のように記述すると、192.168.100 ネットのクライアントコンピューターにプリントを許可していますが、そのうち192.168.100.10のコンピューターだけは、プリントを許可しないという設定になります。
192.168.100.＊
-192.168.100.10

・以下のように記述した場合は、1行目で192.168.100.10のプリントを許可していませんが、2行目で192.168.100ネットのクライアントコンピューターにプリントを許可しているので、192.168.100.10でもプリントを許可する設定になります。
-192.168.100.10
192.168.100.＊

7.2.2 PDFプリンタードライバーに対する制限事項

■用紙に関する注意

・たて置きとよこ置きの用紙が混在している場合、よこ置きの用紙は、たて置きの用紙サイズでプリントされます。

・よこ置きの用紙でプリントする場合は、プリントオプションの［用紙/ページ］>［用紙サイズの変更］で、よこ置き用紙を選択してください。

■大量ページのデータをプリントする場合

・大量ページ（1,000ページ以上）のデータのプリントができないことがあります。この場合、以下の操作で解決することがあります。

- メモリー使用サイズを4,096 MB以上に設定してください。
- Windowsの［スタート］→［Windowsシステムツール］→［コントロールパネル］→［デバイスとプリンター］でプリンタードライバーを右クリックし、「プリンターのプロパティ」を表示させ、［詳細設定］タブを選択して、［印刷ドキュメントをスプールし、プログラムの印刷処理を高速に行う］の［全ページ分のデータをスプールしてから、印刷データをプリンタに送る］を選択してください。
- 1つのファイルを1,000ページ以下にしてください。

■クライアントコンピューターからプリントする場合

・クライアントコンピューターからのプリントができないことがあります。この場合、以下の操作で解決することがあります。

1. 以下のように操作します。

・Windows 7の場合

Windowsの［スタート］→［デバイスとプリンター］でプリンタードライバーを右クリックし、「プリンターのプロパティ」を表示させ、［ポート］タブで、ポートを［Standard TCP/IP Port］から［FILE:］に変更します。

・Windows 8.1の場合

Windowsの「デスクトップ」画面の右上隅、または右下隅にカーソルを合わせ、「チャーム」を表示させ、［設定］→［コントロールパネル］→［デバイスとプリンター］を選択します。プリンタードライバーを右クリックし、「プリンターのプロパティ」を表示させ、［ポート］タブで、ポートを［Standard TCP/IP Port］から［FILE:］に変更します。

・Windows 10の場合

Windowsの［スタート］→［Windowsシステムツール］→［コントロールパネル］→［デバイスとプリンター］でプリンタードライバーを右クリックし、「プリンターのプロパティ」を表示させ、［ポート］タブで、ポートを［Standard TCP/IP Port］から［FILE:］に変更します。

2. プリント時にファイル名を入力する画面が表示されたら、「{ファイル名}.jbf」で保存します。
3. 保存したファイルをPrint Serverのホットフォルダに複製します。
（あらかじめPrint Serverのホットフォルダに接続しておいてください）

■OS、アプリケーションのバージョンによる制限事項

・PDF プリンタードライバーは、印刷プレビューの再現性を向上させるものであり、再現性を保証するものではありません。特にOSのバージョンとアプリケーションのバージョンの組み合わせによっては、正しく再現できないことがあります。

・プリントできない場合、OSやアプリケーションを最新版にバージョンアップすることをお勧めします。

DocuWorks 7.2.2のエラー例

- 半透明アノテーションの設定が正しく再現できない。
ただし、DocuWorksに同梱されているPDF Creatorをインストールすると、プリントできます。

■パススルー方式に関する制限事項

・パススルー方式（PDFをパススルーモードで処理できるプリント方式）をサポートしているアプリケーションに対応しています。パススルー方式は、特定のアプリケーションがサポートしている機能です。

・以下のアプリケーションでのサポートを確認済みです。（2018年7月時点）
  - Adobe Acrobat® DC
  - Adobe Reader DC
  - Adobe InDesign CC 2014/2014.1/2014.2/2015/2015.2/2017
  - Adobe Illustrator CC 2017
・パススルー方式がサポートされているアプリケーションから、PDF プリンタードライバーを選択してプリントすると、パススルーモードで処理されます。ただし、以下の制限があります。
  - ［まとめて1枚］によるN-UP設定は無視されます。
  - アプリケーションで設定されている機能の一部が使用できません。これは、アプリケーションのパススルー方式の仕様に依存します。

使用できない機能の例
  - Acrobat、またはReaderの［印刷するページ］、および［ページサイズ処理］
  - InDesign の［プリント］ダイアログボックスのカラーマネージメント、色分解、およびグラフィックに関するオプション

・Acrobat XI、または Reader XI で、プリンター名に半角英数以外の文字が使用されていると、パススルーモードでの処理はできません。プリンター名は半角英数字で作成してください。
・［用紙 / 品質］タブで［白黒］を選択してもモノクロプリントはできません。モノクロプリントをするときは、［基本］タブの［カラーモード］で［グレースケール（K)］を選択してください。
・Acrobat XI、Reader XI、またはInDesign CC 2014で、［ジョブ名］に［自動取得］を選択してプリントした場合、ジョブ名は「Unknown_yyyymmddhhmmss」で送信されます。
（2017年1月2日3時4分5秒にプリントした場合、「Unknown_20170102030405」）
・パススルー方式をサポートしていないアプリケーションでプリントすると、以下の処理はできません。ジョブはエラー終了します。
  - ［PreRIP］＞［フォント埋め込み］＞［再埋め込み］
  - ［PreRIP］＞［ページ順を逆にする］

■その他の制限事項

・他機種へのプリントはサポートされていません。
・共有プリンターはサポートされていません。
・PDF プリンタードライバーのプリントオプション画面（［詳細設定］ウィンドウ）を表示させたあと、［キャンセル］、または設定を変更しないで［設定］で画面を閉じると、［トレイ/排出］タブ、［ウォーターマーク］タブの設定が変更されることがあります。
・Acrobat XI（InDesign CS6、Illustrator CC 2015）以前は、PDFのパススルー方式に対応していないため、Acrobat DC（InDesign CC 2014、Illustrator CC 2017）以降とは、色味が異なります。同じAcrobat（InDesign、Illustrator）のバージョンでプリントする、またはプリンタードライバーを使用してプリントしてください。

7.2.3　アプリケーションに対する制限事項

各アプリケーション共通

■Macintoshクライアント、Windowsクライアント共通

- Print Serverのプリントの設定が記憶されるアプリケーションがあります。
（次回プリント時に、別のプリンタードライバーを選択しても、Print Serverのプリントの設定が保持されている）
- ドロップシャドウのオブジェクトを含むジョブを出力すると、ほかのオブジェクトがイメージ化されることがあります。この場合、ヘアライン警告が効かないことがあります。
- PostScriptデータ中のカラースペースがDeviceNで設定されたオブジェクトは、正しくプリントされないことがあります。
- アプリケーションによって（たとえばAdobe Reader 7など）は、部数を入力すると、「部数×ページ数」分を1ジョブとしてプリンターに送るものがあるため、小冊子プリントを行っても、予想している小冊子を作成できないことがあります。この場合、アプリケーションでは部数を「1」にしてPrint Serverに送り、プリントオプションの［用紙/ページ］＞［部数］で部数を入力してください。
- アプリケーションによっては、ファイルの天と地を自動で判別できないものがあるため、意図した場所にホチキスやパンチがされないことがあります。この場合、ServerManagerウィンドウのプレビューエリアで確認してください。
- アプリケーションによっては、1つの元画像を分割してデータを作成することがあります。この場合、プリントオプションの［カラー］＞［カラー詳細（RGB設定）］＞［分割画像を合成］にチェックマークを付けていると、RGB画像が意図したプリント結果にならないことがあります。

■Macintoshクライアント特有

- 使用するアプリケーションのメモリー使用サイズが1 MB未満に設定されているとプリントできないことがありますので、メモリー使用サイズは、1 MB以上に設定してください。
- 分版プリント時に、「指定したプリンタのPPDファイルは、色分解のダイアログボックスで使用しているPPDファイルとは異なります。アートワークの一部がプリントされなかったり、プリントが適切に行われない場合があります。」というメッセージが表示されることがありますが、そのままプリントを続けてください。
- Mac OSにインストールされているフォントとプリントするファイルで使用しているフォントの組み合わせによっては、PostScriptエラーが発生することがあります。
- アプリケーションの用紙設定でプリンターを選択すると、PPD ファイル名が表示されますが、途中までしか表示されません。
- QuarkXPressやAdobe PageMakerなど、PostScriptコードを独自に生成するアプリケーションでは、プリントオプションダイアログボックスで設定した値は、［キャンセル］をクリックしてダイアログボックスを閉じても、次回プリント時に設定として使用されます。
また、異なるアプリケーション間でも、この設定は使用されます。［プリント］をクリックしてダイアログボックスを閉じると、設定が正しく反映されます。
- Mac OS Xでは、用紙サイズに「カスタム用紙サイズ」を選択した場合、正しくプリントできないことがあります。
- 用紙選択のダイアログボックスでは、用紙サイズが、B5は［B5（JIS）」］、B4は［B4（JIS）］、8.5×11"は［レター］、8.5×14"は［リーガル］と表示されます。
- Mac OS XでLpr経由のプリントをした場合、ジョブのファイル名が文字化けすることがあります。この場合、AppleTalk経由でプリントしてください。
- Mac OS Xの特定のアプリケーション（QuarkXPressなど）からのプリントで、ジョブのファイル名に2バイト文字が含まれていると、ファイル名が文字化けすることがあります。

・Mac OS Xからのプリントで、生成されるPostScriptコードが2 GBを超える場合、Mac OS Xで壊れたPostScriptデータがPrint Serverに送信され、PostScriptエラーが発生することがあります。PDFの場合は、DropUtility、WebManager、または共有フォルダ（ホットフォルダ）でプリントできます。アプリケーションデータの場合は、ページ範囲で複数に分けることで、生成される PostScript コードが2 GB未満になると、プリントできます。

■Windowsクライアント特有

・Windows 7からStandard TCP/IPを使用してプリントすると、時間がかかることがあります。この場合、SNPの設定を無効にすると改善されることがあります。

・Adobe InDesign、またはAdobe Illustratorで、プリンターにPrint Serverを選択しても、プリンターフォントをアプリケーションでは使用できません。これはアプリケーションの制限事項です。

・Windowsストアアプリ用のプリンタードライバー設定画面は提供していません。
Windows ストアアプリでプリンターの設定を変更したい場合は、以下の手順であらかじめ設定を変更したプリンターを選択して、プリントしてください。

1. 以下のように操作します。

・Windows 10の場合

［スタート］→［Windows システムツール］→［コントロールパネル］→［デバイスとプリンター］を選択します。

・Windows 8.1 の場合

「デスクトップ」画面の右上隅、または右下隅にカーソルを合わせ、「チャーム」を表示させ、［設定］→［コントロールパネル］→［デバイスとプリンター］を選択します。

2. プリントに使用するプリンターのアイコンを右クリックし、［印刷設定］を選択します。
3. 設定を変更し、［OK］をクリックします。

各アプリケーション固有

■Webブラウザー

・Internet Explorer 6.0 の印刷設定で、N アッププリントを設定すると、正しくプリントできないことがあります。これはアプリケーションの制限事項です。

■Microsoft Office

・Officeなどで作成したファイルに半透明、パターン、文字の変形などの効果を加えた場合は、PostScriptの制約によって、画面どおりに再現されないことがあります。

・Word 2007などのアプリケーションで、奇数ページのファイルを両面印刷すると、アプリケーションが自動でページ調整の白紙を挿入することがあります。この場合、アプリケーションが挿入する白紙出力はメーターカウントの対象になります。

・［印刷］ダイアログボックスの［部数］、［部単位で印刷］、［ソート］は、設定どおりにプリントされますが、［プロパティ］をクリックして表示させた［プロパティ］ダイアログボックスには、設定が反映されません。また、［プロパティ］ダイアログボックスを表示させ、［OK］をクリックすると、［印刷］ダイアログボックスの設定はデフォルトに戻ります。
［プロパティ］ダイアログボックスを表示させた場合は、［基本］タブで［部数］を、［トレイ/排出］タブで［ソートする（一部ごと）］をそれぞれ設定しなおしてください。

・Microsoft Excel® のオプション画面で、［A4 または 8.5 x 11 インチの用紙サイズに合わせて内容を調整する］にチェックマークが付いていると、プリンタードライバーでレターサイズ（8.5×11"）がA4 と認識されることがあります。指定した用紙サイズでプリントするときは、チェックマークを外してください。

● Macintoshクライアント特有

・Excel® X（Xはバージョンです）の印刷設定で、Nアッププリントを設定した場合、プリントオプションの［プリフライト］＞［画像警告］＞［ヘアライン警告］機能を有効にすると、正しくプリントされないことがあります。

・PowerPoint の印刷設定で、[用紙サイズに合わせる] を設定すると、画像が切れたり、印字サイズが変わってプリントされることがあります。
・Word 2004からミックスサイズ原稿をプリントする場合、Wordの［詳細オプション］→［印刷前にフィールドを更新する］にチェックマークを付けてプリントしてください。

● Windowsクライアント特有

・Word 2010で作成したLetterサイズのファイルをプリンタードライバーからプリントすると、A4サイズでプリントされることがあります。この場合、プリンタードライバーの［Wordのオプション］→［詳細設定］→［印刷］の［A4または8.5×11インチの用紙サイズに合わせて内容を調整する］のチェックマークを外してください。
・PowerPoint 2007からAdobe PDF Makerで作成したPDFをPrint Serverに読み込んでプリントすると、設定したページサイズでプリントされないことがあります。この場合、プリントオプションの［用紙/ページ］>［PDFのトリミング領域をページサイズとする］にチェックマークを付けてください。

■ Adobe Acrobat/Adobe Reader （PDF）

・印刷設定を［用紙サイズにあわせてページを縮小］、または［用紙サイズに合わせてページを拡大］にしてプリントすると、プリントオプションの［用紙/ページ］>［用紙サイズに合わせる］を［しない］にしても、プリントされる用紙サイズに合わせてイメージが拡大/縮小されます。
・アプリケーションでPDFを作成し、Readerでプリントすると、画面どおりに再現されないことがあります。なお、Distiller® で作成したPDFは、正しくプリントされます。
・PDFダイレクトプリントで文字抜けする場合は、Readerでプリントしてください。
・カタログプリントをすると、正しくプリントされないことがありますので、プリントオプションの［出力方法］>［レイアウト］>［小冊子］の［カタログ印刷］機能でプリントしてください。
・PDFのジョブがエラーになった場合は、PDFのプロパティを確認してください。
・仕様によって、和文書体の埋め込みは、常にサブセットになります。
・プリントしたとき、一部のフォントが抜けたり、PostScriptエラーが発生したりする場合は、［プリント］ダイアログボックスの［詳細設定］→［PostScript オプション］→［フォントとリソースのポリシー］を、[開始時に送信] または [使用範囲ごとに送信] から、[ページごとに送信] に変更してください。

● Macintoshクライアント特有

・Mac OS 9.2.2、プリンタードライバーがAdobePS 8.7.2の場合、Acrobat 5.0の［プリント］ダイアログボックスでは、正しく表示されません。
・Mac OS XのReaderの印刷設定で、Nアッププリントを設定すると、PostScriptエラーが発生することがあります。この場合、［プリント方向］に［ポートレート］を選択するか、［フォントとリソースのポリシー］で［ページごとに送信］を選択してください。

■ Adobe Illustrator

・8.0でオブジェクトに［塗りにオーバープリント］を設定し、PDFで保存すると、白色に対してもオーバープリントが適用されます。これはアプリケーションの仕様です。
・9.0でRGBカラーを適用したEPSファイルを、RGBカラーがサポートされていないアプリケーションでプリントする場合は、［CMYK ポストスクリプト］オプションを「オン」にしてください。［CMYK ポストスクリプト］オプションを「オフ」にすると、正しくプリントされないことがあります。
・10.0からのプリントは、プリントオプションの［排出/フィニッシング/両面］>［ソートする（1部ごと）］、または［最終ページから印刷］にチェックマークを付けても、正しくプリントされません。これはアプリケーションの制限事項です。
・10.0 の印刷設定で、N アッププリントを設定すると、縮小されずにプリントされるため、正しくプリントできないことがあります。これはアプリケーションの制限事項です。

● Macintoshクライアント特有

・Mac OS 9.2.2、プリンタードライバーがAdobePS 8.8で、10.0の［書類設定］→［アートボード］で設定している用紙サイズと、プリンタードライバーで設定している用紙サイズが異なる場合、そのファイルを再度開くと、プリンタードライバーで設定している用紙サイズが、［その他］に変更されることがあります。
また、［書類設定］→［アートボード］と、プリンタードライバーで設定している用紙サイズが同じ場合でも、プリンタードライバーで設定している用紙サイズが、［その他］に変更されることがあります。

・10.0の印刷設定で、Nアッププリントを設定した場合や、プリントオプションの［排出/フィニッシング/両面］＞［ソートする（1部ごと）］、［最終ページから印刷］にチェックマークを付けた場合、正しくプリントされないことがあります。

■ Adobe InDesign

● Macintoshクライアント特有

・グレースケールのEPS画像をファイルに貼り付けて分版プリントする場合は、Photoshopなどで［ポストスクリプトカラー管理］を「オフ」に設定し、EPS形式で保存した画像を使用してください。［ポストスクリプトカラー管理］が「オン」に設定されている EPS ファイルを使用すると、正しく分版プリントされないことがあります。

・2.0 の印刷設定で、N アッププリントを設定すると、正しくプリントされないことがあります。また、Nアッププリント、または拡大・縮小を設定した場合、プリントオプションの［プリフライト］＞［画像警告］＞［ヘアライン警告］機能を有効にすると、警告対象でない部分を警告したり、画像の一部が消えたりすることがあります。

・Mac OS XのOSのバージョンによっては、大容量のファイルをプリントした場合、PostScriptエラーになることがあります。これは、PPD ファイルの ScreenFreq の値（Print Server ではプリント画質を考慮し、「200」に設定されています）を参照してPSファイルが生成されるためです。（ページを分割してプリントすると、回避できます）
送信可能なファイル容量は、4 GBです。
上記の容量以上のデータを送信する場合、プリンターのPPDファイルの「*ScreenFreq」の値を「200」から少ない値に変更してプリンターを再作成する、またはInDesignの印刷設定で、［グラフィック］→［画像］→［解像度］を［サンプリングを最適化する］に設定してください。（印刷設定を変更すると、PSファイルのサイズが小さくなりますが、画質が落ちますのでご注意ください）

■ Adobe PageMaker

・［カラー］をクリックして表示される［プリント-カラー］ダイアログボックスで、［カラー］を選択しても、ServerManagerの［管理］→［プリントオプションテンプレートの編集］の［カラー］＞［カラーモード］を［グレースケール（K）］にしていると、グレースケールでプリントされます。この場合、PageMakerの［プリント］ダイアログボックスで［プリンタ特性］をクリックして表示される［プリント-特性］ダイアログボックスの［カラーモード］で［カラー（CMYK）］を選択してください。

・印刷設定で、［後ろのページから］を選択して両面印刷をすると、正しい順序でプリントされません。両面印刷をする場合は、［後ろのページから］を選択しないでください。

・カスタムサイズのジョブをプリントする場合は、プリントオプションの［用紙/ページ］＞［用紙トレイ］で、使用する給紙トレイを選択してください。［用紙 / ページ］＞［用紙トレイ］で給紙トレイを選択しないでプリントすると、エラーが発生することがあります。

・印刷設定で、カスタムサイズの用紙を選択した場合、トレイ設定は無効になってプリントされます。トレイは、Print Serverのプリントオプションで選択してください。

● Macintoshクライアント特有

・Mac OS 9.2.2でプリントする場合は、プリンタードライバーにLaserWriterを使用してください。AdobePSドライバーを使用すると、プリントするときの設定表示は「オフ」でも、前回のプリント時の設定のままプリントされることがあります。

■ Adobe Photoshop

・プリントオプションの［プリフライト］＞［RIP後のデータをファイルに保存］＞［TIFFで保存する］、または［PDF で保存する］を選択し、［画質］＞［プリンタモード］を［スクリーン（標準）］にした場合、作成したファイルを開くと、正しく表示されないことがあります。

・7.0の印刷設定で、Nアッププリントを設定すると、縮小されずにプリントされるため、正しくプリントできないことがあります。これはアプリケーションの制限事項です。

・印刷設定のプリンターリストの名称が途中で切れて表示されることがあります。

■ Macromedia FreeHand

● Macintoshクライアント特有

- 10.0Jの印刷設定で、Nアッププリント、または拡大・縮小を設定した場合、偶数ページだけがプリントされたり、1枚に全ページが重なってプリントされ、正しくプリントできないことがあります。これはアプリケーションの制限事項です。
- 10.0Jからのプリントでは、Print Serverでジョブ名が正しく表示されないことがあります。
- 10.0J で OpenType® フォントが入力されたテキストを含むファイルをプリントすると PostScript エラーが発生することがあります。

● Windowsクライアント特有

- 9.0J の印刷設定で、3 ページのファイルに 4Up を設定すると、全ページとも標準レイアウトでプリントされることがあります。

■ QuarkXPress

● Windowsクライアント特有

- 4.0J でオブジェクトの線幅を 0 pt に設定すると、ヘアライン機能が適用され、自動で線幅が設定されます。このときに設定された線幅が、プリントオプションの［プリフライト］>［画像警告］>［ヘアライン警告］で設定したヘアライン警告幅よりも太い場合、警告されません。
- 4.1Jの印刷設定で、3ページのファイルに4Upを設定すると、3ページ目だけがプリントされることがあります。
- 4.1Jの印刷設定で、Nアッププリントを設定すると、正しくプリントできないことがあります。これはアプリケーションの制限事項です。

7.2.4　RIPの種類に対する制限事項

■ CPSIジョブ

- ファイル内に使用されている特色数が多いときは、プリントに時間がかかることがあります。
（処理できる特色数は最大100です。デフォルトは5です）
- オブジェクトに透明指定されているファイルや、プロファイルが埋め込まれているファイルをプリントすると、色の差が生じることがあります。
- 透過設定されているオブジェクトが正常にプリントされないときは、PDFで保存し、APPEジョブでプリントしてください。また、プリントオプションの［画質］>［その他の設定（画質）］>［トラッピングの自動処理］が［する］の場合、トラッピング設定ファイルの［トラップ設定］タブにある［画像間でトラップ］にチェックマークを付けていると、正常にプリントされないことがあります。
- PDF をプリントすると、カラースペースが DeviceN のオブジェクトに対し、正しく色再現されないことがあります。この場合、プリントオプションの［画質］>［コンポジットオーバープリント］で［プロセスカラー＋特色］を選択すると、問題が解消されることがあります。
- 「グリーン」、「ブルー」、「レッド」、「赤」、「青」、「緑」、「レジストレーションカラー」は特色として認識されないため、プリフライト時に特色として検出されません。

■ APPEジョブ

- ファイル内に使用されている特色数が多いときは、プリントに時間がかかることがあります。
（処理できる特色数は最大27です。デフォルトも27です）
- グラデーションにトーンジャンプが発生するときは、プリントオプションの［画質］>［コンポジットオーバープリント］で［プロセスカラー］を選択する、または［カラー］>［ラスター色補正モード］にチェックマークを付けると、問題が解消します。
- グラデーションが青みがかることがありますが、この青みがかっている部分は、特色の「特白」が指定されています。
「特白」（代替CMYK値=0,0,0,0）は、Print ServerにはLabで登録されています。そのため、「特白」はLab=（99.22,-2.00,-2.00）になっていて、これは白ではないため、当該部分が青みがかった色になります。
この場合、特色の登録値をLab=（100,0,0）に変更してください。

・PDFがカスタム用紙サイズのとき、CPSIジョブとはイメージの向きが異なるプリント結果になる場合があります。
・APPE ジョブを読み込んでプリントすると、PDF の注釈はプリントされません。（Adobe Acrobat の［ツール］→［出力プレビュー］で表示されているものと同じプリント結果になります）
・特色警告の警告色がCPSIジョブと異なるように見えます。CPSIジョブと同等の結果を得るには、プリントオプションの［カラー］＞［カラー詳細（CMYK設定）］＞［CMYK色補正］のチェックマークを外してください。
・特色はインキ総量警告の対象外のため、特色のオブジェクトに対するインキ総量警告の結果が CPSI ジョブとは異なります。
・レジストレーションカラーはインキ総量警告の対象になりません。警告の対象にするには、プリントオプションの［カラー］＞［ラスター色補正モード］にチェックマークを付けてください。
・プリントオプションの［プリフライト］＞［画像警告］で、［インキ総量警告］の［警告総量］を「100」にして、オーバープリント警告をすると、K100％のオブジェクトが警告されません。警告の対象にするには、［カラー］＞［ラスター色補正モード］にチェックマークを付けてください。
・ページ番号は、以下の設定で固定されます。
  - ［背景］：透過
  - ［フォント名］：小塚ゴシック
  - ［フォントサイズ］：8 pt
  - ［フォント色］：黒
・プリントオプションの［用紙/ページ］＞［合紙と例外ページ］にチェックマークを付けたときは、以下の制限があります。
  - 全ページのRIP済みデータを作成したあとに、1ページ目のプリントが開始されます。
  - 用紙出力に対してマイナス方向となる値を入力しても無効になります。
・用紙トレイを選択してプリントするときは、ドキュメントと用紙の短辺同士が合うように回転してプリントされるため、CPSIジョブとはプリントの向きが90°異なることがあります。
・プリントオプションの［画質］＞［コンポジットオーバープリント］＞［プロセスカラー］を指定しても、［プロセスカラー＋特色］を指定した場合と同じ結果になります。

7.2.5　フォントに対する制限事項

・フォントワークス株式会社製品のフォントをインストールする場合、2回目からはインストール先が「disk0」に固定され、プリンターの選択ができません。これは、フォントワークスのインストーラーの制限事項です。
・エヌフォー株式会社製品のフォントをインストールする場合は、エヌフォー提供のインストーラーver.2.1を使用してください。
・株式会社ニィスのフォント「字識人®JTCウイン®M1」をインストールし、フォントの更新をするとエラーシートがプリントされますが、このフォントを使用してのプリントには問題ありません。
・株式会社モリサワのフォント「新正楷書体CBSK1」をインストール済みの環境で、このフォントを使用してプリントする場合は、フォアグラウンドにするか、［ダウンロード可能フォントの制限なし］を「オン」にしてください。

■NewCIDフォント

Mac OS 9.2.2で、株式会社モリサワのNewCIDフォントを使用すると、フォントがLaserWriterドライバーからプリンターに正しくダウンロードされずに、ビットマップフォントでプリントされることがあります。これは、モリサワのNewCIDフォントが複数のフォント名を持っているため、プリンターに誤ったフォント名が伝えられ、プリンターでフォントがないと認識されるためです。

この場合、以下の操作で解決することがあります。

- ［用紙設定］のPostScriptオプションを選択し、［ダウンロード可能フォントの制限なし］を「オン」にする
- PDFで保存し、デスクトッププリンターにドラッグする
- AdobePSドライバーを使用する

- ATM™ フォントをインストールする

7.2.6 解消できるプリントエラー

・現象によっては、プリントオプションを変更すると、正しくプリントできることがあります。
  ・イメージとテキストが重なった（半透明）部分が正しくプリントされない（まだらにプリントされるなど）場合は、［画質］＞［原稿タイプ］を変更してください。
  ・グラデーションが滑らかにプリントされない場合は、［画質］＞［その他の設定（画質）］＞［Image Enhancement/白抜き文字の強調］を［しない］にしてください。
  ・カラー図形が隣接したデザインのドキュメントをプリントすると、カラー図形の境界に白い線を視認することがあります。この場合、［画質］＞［その他の設定（画質）］＞［トラッピングの自動処理］を［する］にすると、軽減させることができます。
・フォントが抜けたり、別のフォントに置き換わってプリントされる場合は、フォントキャッシュの設定を変更してください。
以下のファイルをテキストエディターで開き、書き換えます。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥bin¥FX_RIP.ini

● 例）ジョブごとにフォントキャッシュをクリアする場合

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
PurgeFontCache=0
```

変更後：

```
PurgeFontCache=1
```

● 例）常にフォントキャッシュを無効にする場合

変更前（デフォルト）：2重下線部が変更箇所

```
PurgeFontCache=0
```

変更後：

```
PurgeFontCache=2
```

7.2.7 カスタムサイズの用紙へのプリント

Mac OS Classic の PageMaker、QuarkXPress などからカスタムサイズの用紙にプリントするには、PPD ファイルを書き換える必要があります。

その他のアプリケーションでは、AdobePS の「用紙設定」→「カスタムページ設定」でもカスタムサイズの設定ができます。

補足 編集したPPDファイルを使ってプリントした場合に、うまくプリントできなかったり、プリンタードライバーの画面が正しく表示されなかったりするときは、PPDファイルを再インストールしてください。

1. 定義するカスタム用紙サイズの単位をポイントに変換します。

1 mmは、2.8346 ptになります。定義できる用紙のサイズは、たては100～333 mm（283～943 pt）、よこは148～488 mm（419～1383 pt）です。

以下に例を示します。

◆199×229 mmの場合

・199×2.8346 ≒ 564 pt
・229×2.8346 ≒ 649 pt

2. テキストエディターでPPDファイルを開き、下線部を書き換えます。

```
*DefaultPageSize: A4L
*PageSize Custom1: "
%FX_PrintOption: PageSize
<</PageSize [564 649] /ImageBBox null>> setpagedevice
"
*End

*DefaultPageRegion: A4L
*PageRegion Custom1: "
%FX_PrintOption: PageRegion
<</PageSize [564 649] /ImageBBox null>> setpagedevice
"
*End

*DefaultImageableArea: A4L
*ImageableArea Custom1: "11.40 11.40 552.6 637.6"

*DefaultPaperDimension: A4L
*PaperDimension Custom1: "564 649"
```

- Custom{任意の文字列}

  任意の文字列を入力します。ここで入力した文字列が、プリンタードライバーの用紙設定に表示されます。

- ImageableArea

  プリントできる範囲を設定します。

  プリンターでは、用紙の端から11.4 ptは印字不可能領域になります。そのため、用紙サイズから11.4 pt引いた値をここで定義します。

- PaperDimension

  用紙サイズを設定します。

  ここで設定する用紙サイズは、手順1で計算したpt単位で入力します。

7.3 セキュリティーに関する設定

セキュリティーに関する設定について説明します。

7.3.1 管理者のパスワード

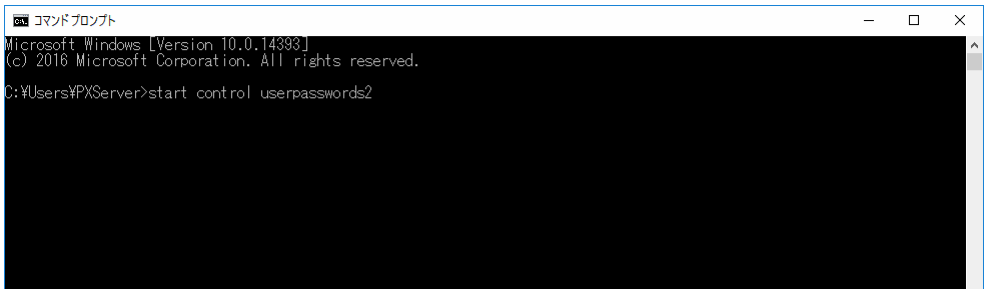
管理者権限のあるユーザーにパスワードを設定していない場合、または簡単なパスワードを設定している場合は、コンピューターウイルスなどに感染するおそれがあります。

Print Serverは、デフォルトで自動ログイン機能が有効になっています。

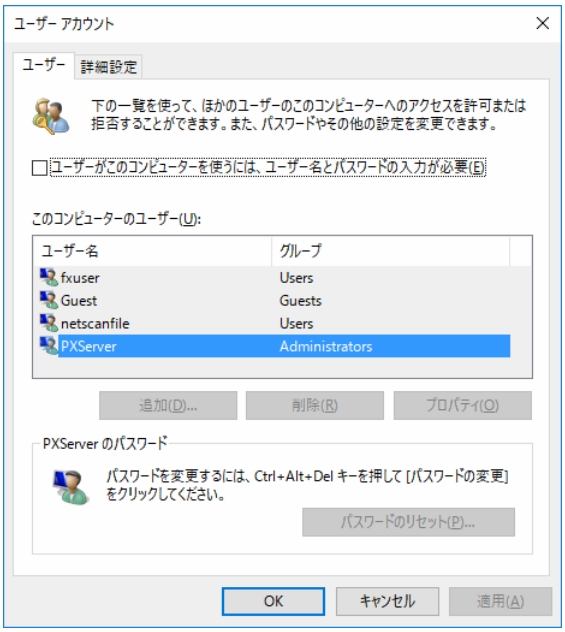
補足 ログインユーザー名は「PXServer」、パスワードは「n01_printserver」に設定されています。

自動ログイン機能の解除

1. Windowsの［スタート］→［Windowsシステムツール］→［コマンドプロンプト］を選択します。
2. 「start control userpasswords2」と入力し、〈Enter〉キーを押します。



3. ［ユーザーがこのコンピューターを使うには、ユーザー名とパスワードの入力が必要］にチェックマークを付けて、［OK］をクリックします。



管理者権限のあるユーザーのパスワード変更

1. 〈Ctrl〉キーと〈Alt〉キーを同時に押しながら、〈Delete〉キーを押します。
2. ［パスワードの変更］をクリックします。
   ［パスワードの変更］ダイアログボックスが表示されます。
3. ［新しいパスワード］に「PXServer」アカウントのパスワードを入力し、確認のため［新しいパスワードの確認入力］に同じパスワードを入力します。

   補足　Windowsの「PXServer」アカウントのパスワードは、「n01_printserver」に設定されています。

   参照　パスワード変更の詳細は、Windowsのオンラインヘルプを参照してください。
4. ［OK］をクリックします。

7.3.2　フォルダーの共有

プリントオプションの［プリフライト］＞［RIP 後のデータをファイルに保存］＞［TIFF で保存する］、または［PDF で保存する］を選択すると、プリントイメージをファイルとして保存できます。

Print Server のボックス内に作成されたファイルを Windows クライアントから取得する場合、ファイルが格納されている以下のフォルダー（デフォルトの場合）に、Microsoft ネットワーク共有機能を設定する必要があります。

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥work¥Tiff

ホットフォルダを Windows クライアントから使用する場合も、Microsoft ネットワーク共有機能を設定する必要があります。

Microsoft ネットワーク共有機能を使用した場合、適正なアクセス権とパスワードを設定しないとコンピューターウイルスに感染するおそれがあります。

補足　デフォルトでは、AFP over TCP で使用するポート番号「548」は閉じています。
AFP over TCPを使用する場合は、Windowsに管理者権限のあるユーザーでサインインし、Windowsの［スタート］→［Windows システムツール］→［コントロールパネル］→［Windows ファイアウォール］→［Windowsファイアウォールを介したアプリまたは機能を許可］で、［設定の変更］をクリックし、［ファイルとプリンターの共有］と［Fuji Xerox AFP Service］の［プライベート］にチェックマークを付けてください。

参照　Windowsクライアントからのファイルの取得については、「1.1.5 ファイルの保存とイメージの確認」（P.27）を参照してください。

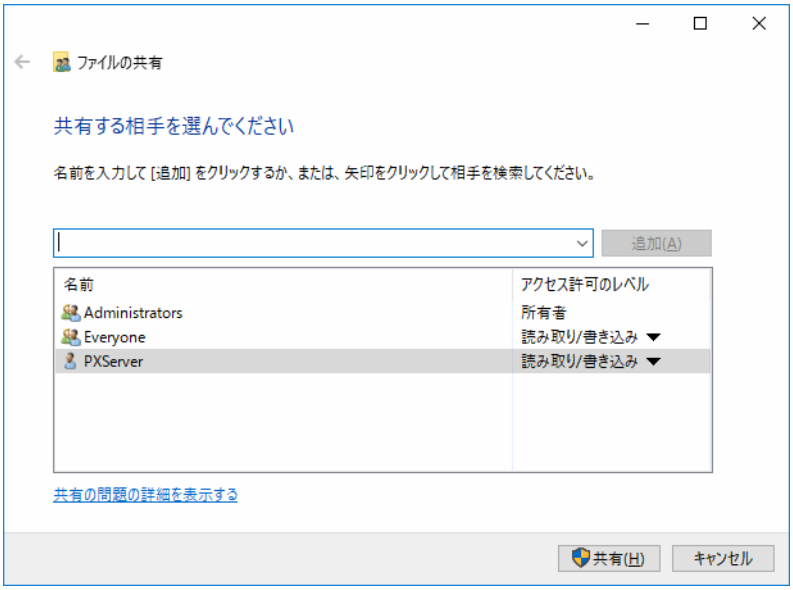
共有設定は、以下の手順で設定します。

例としてTIFFフォルダーの設定手順を説明します。ホットフォルダの場合も同様の手順で設定します。

1. ファイルが格納されている以下のフォルダー（デフォルトの場合）を右クリックし、表示されたメニューで［共有］→［特定のユーザー］を選択します。

   D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥work¥Tiff

2. 名前の入力欄から［Everyone］を選択し、［追加］をクリックします。



3. ［共有］をクリックします。
4. ［終了］をクリックします。

参照 アクセス権の設定など、詳細な共有機能の設定方法については、Windows のオンラインヘルプを参照してください。

7.3.3 FTPの匿名アクセス

FTPで匿名アクセスを許可していると、コンピューターウイルスに感染するおそれがあります。そのため、FTPの匿名アクセスを許可しない設定にしてあります。

FTPに匿名アクセスを許可する場合は、インターネットインフォメーションサービスに設定をする必要があります。

参照 ホットフォルダを利用したFTPからのプリントについては、「1.3.1 ホットフォルダを使用したプリント」（P.44）を参照してください。

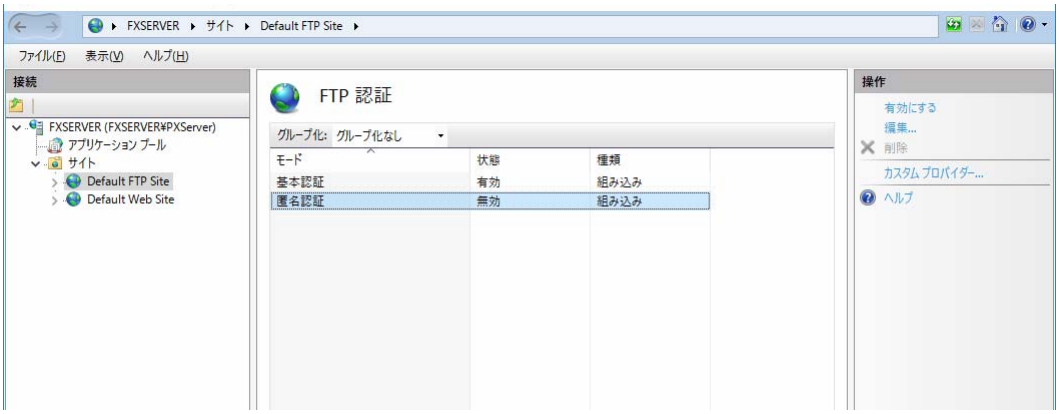
1. Windowsの［スタート］→［Windowsシステムツール］→［コントロールパネル］を選択します。
2. ［管理ツール］をダブルクリックします。
3. ［インターネット インフォメーション サービス（IIS）マネージャー］をダブルクリックします。

4. 左側のツリーから、Print Serverに設定したホスト名（デフォルトでは「FXSERVER」）をダブルクリックし、［サイト］→［Default FTP Site］を選択します。



5. ［FTP認証］をダブルクリックします。

6. ［匿名認証］を選択し、右側の［有効にする］をクリックします。



参照　詳細なインターネットインフォメーションサービスの設定方法については、Windows のオンラインヘルプを参照してください。

7.4 RGB画像警告機能

RGB画像警告機能を使用する場合の注意事項について説明します。

◆CIE画像警告

RGB 画像警告機能には、CIE 画像を検出する機能もあります。プリンターに送られてくる、PostScript コードに含まれるCIEカラースペースのコードを検出し、その画像をシアンで塗りつぶして警告します。

◆アプリケーションによるRGB画像の扱いの違い

アプリケーションやそのバージョンによっては、RGB 画像を CMYK データに色分解する機構を内蔵し、分版プリントでもカラー画像をプリントできます。アプリケーションやそのバージョンによって、RGB 画像のプリント結果は、以下のどちらかになります。

1. RGBデータをRGBカラースペースのままプリントするもの
2. RGBデータをCMYKに変換してからプリントするもの

・1.の場合は、オフセット印刷（分版出力）する場合に、RGB画像をK版だけの白黒画像になるようなプリントが行われます。
・2.の場合は、分版プリントでもCMYKに分版してカラー画像になるようにプリントされます。

アプリケーションで、RGB→CMYK変換を正しく行うには、アプリケーションのカラー環境を正しく設定する必要があります。代表的なアプリケーションとそのバージョンによる RGB 画像の取り扱いの違いは、以下のとおりです。ただし、これはアプリケーションの動作を保証するものではありません。仕様や動作の詳細に関しては、各アプリケーションメーカーにお問い合わせください。

● Adobe Illustrator

RGB 画像ファイルの扱いは、「バージョン」、「PostScript と EPS 出力」、「リンクと埋め込み」のそれぞれの違いで変化します。

バージョン	RGB 画像	出力方法			
		PostScript 出力		EPS 出力	
		EPS	TIFF*	EPS	TIFF*
5.5	リンク	RGB	—	RGB	—
7.0	リンク	RGB	—	RGB	—
	埋め込み	CMYK	—	RGB	—
8.0	リンク	RGB	CMYK	RGB	RGB
	埋め込み	CMYK	CMYK	RGB	RGB
9.0/10.0	リンク	RGB	CMYK	RGB	CMYK
	埋め込み	CMYK	CMYK	CMYK	CMYK
CS以降	リンク	RGB	CMYK	RGB	CMYK
	埋め込み	CMYK	CMYK	CMYK	CMYK

*：TIFF/JPEG/BITMAP/PICT/PSD

● QuarkXPress

バージョン 4.0 から RGB 画像を CMYK に変換できる機能があります。ただし、TIFF/JPEG/BITMAP/PICT画像フォーマットだけCMYKに変換でき、EPSファイルはRGBのまま処理されます。

バージョン	出力方法			
	PostScript 出力		EPS 出力	
	EPS	TIFF*	EPS	TIFF*
3.3	RGB	RGB	RGB	RGB
4.0/4.1	RGB	CMYK	RGB	CMYK
6.5	RGB	CMYK	RGB	CMYK

*：TIFF/JPEG/BITMAP/PICT/PSD

● Adobe InDesign

RGBをCMYKに変換できる機能があります。ただし、TIFF/JPEG/BITMAP/PICT/PSD画像フォーマットだけCMYKに変換でき、EPSファイルはRGBのまま処理されます。

2.0以前

出力方法			
PostScript 出力		EPS 出力	
EPS	TIFF*1	EPS	TIFF*1
RGB	CMYK/CIE*2	RGB	CMYK

*1：TIFF/JPEG/BITMAP/PICT/PSD
*2：アプリケーションのカラー設定によって、動作が変わります。

CS以降

出力設定	出力方法					
	PostScript 出力			EPS 出力		
	Illustrator の EPS*3	Photoshop の EPS*3	TIFF など *1	Illustrator の EPS*3	Photoshop の EPS*3	TIFF など *1
コンポジットCMYK（デフォルト）	RGB	CMYK/CIE*2	CMYK/CIE*2	RGB	CMYK/CIE*2	CMYK/CIE*2
コンポジットの変更なし	RGB	RGB	RGB	RGB	RGB	RGB

*1：TIFF/JPEG/BITMAP/PICT/PSD
*2：アプリケーションのカラー設定によって、動作が変わります。
*3：Illustratorは8.0.1、Photoshopは7.0で生成したEPSを使用します。

● Macromedia FreeHand

［ファイル］メニューのプリントオプションに、［RGB をプロセスカラーに変換］という項目があり、コンポジットプリント、およびEPSファイル作成時のTIFF画像の扱いを切り替えることができます。ただし、分版出力する場合は必ずCMYK画像に変換して処理されます。

バージョン	出力方法					
	PostScript 出力		EPS 出力		PostScript 分版出力	
	EPS	TIFF*	EPS	TIFF*	EPS	TIFF*
8.0	RGB	RGB/CMYK	RGB	RGB/CMYK	RGB	CMYK

*：TIFF/JPEG/BITMAP/PICT

Adobe PageMaker

PageMaker では、環境設定にある CMS 設定のカラーマネージメントを OFF/ON すると、RGB 画像を RGB画像のまま処理するか、RGB画像をCMYKに変換してから処理するかを選択できます。なお、EPS ファイルは、RGBのまま処理されます。

バージョン	出力方法			
	PostScript 出力		EPS 出力	
	EPS	TIFF など	EPS	TIFF など
6.5	RGB	RGB/CMYK*1	RGB	RGB/CMYK*1
7.0	RGB	RGB/CMYK*2	RGB	RGB/CMYK*2

*1：TIFF/JPEG/BITMAP/PICT
*2：TIFF/JPEG/BITMAP/PICT/PSD

7.5 Q & A、用語集

よくあるお問い合わせとそれに対する回答、またPrint Serverに関連する用語について説明します。

7.5.1 Q & A

カラーに関する事例

Q CMYKのうち、特定の版だけをプリントすることはできるか。

A プリントオプションの［カラー］>［2色印刷シミュレーション］で、プリントする色版だけを選択してください。

参照 詳細は、「1.1.2 2色印刷シミュレーション」（P.16）を参照してください。

Q コンポジット特色補正機能が対応している、PANTONEカラー、DICカラー、東洋インキカラーとは何か。

A PANTONEカラーは、PANTONE+Solid Coated、およびPANTONE+Solid Uncoatedです。なお、DICと東洋インキはCoatedに対応しています。
DICカラーは、DICカラーガイドのパート1（DIC 1p～654p）、パート2（DIC 2001p～2638p）、日本の伝統色（N701 ～ N1000）、フランスの伝統色（F1 ～ F322）、および中国の伝統色（C1 ～ C320）です。
東洋インキカラーは、TOYO COLOR FINDER 1050です。

補足 フランスの伝統色に、「F140」はありません。このため、「F 140」のデータは搭載されていません。

参照 詳細は、「4.1.4 カラー」（P.195）を参照してください。

Q プリントオプションの［カラー］>［カラーモード］で、［フルカラー 1（RGB/CMYK）］を選択してプリントしたとき、画面の RGB の文字やグラフィックスの色味が異なる色になった。また、RGB画像の色味がぼやけた。

A プリントオプションの［カラー］>［カラー詳細（RGB設定）］>［RGB色補正］を［する］にして、プリントしてください。
［RGB色補正］のデフォルトは、［sRGB］です。

参照 詳細は、「4.1.4 カラー」（P.195）を参照してください。

Q ユーザー調整カーブや濃度調整カーブでK100%未満に設定したのに、反映されない。

A プリントオプションの［画質］>［その他の設定（画質）］>［Image Enhancement/白抜き文字の強調］を［しない］にして、プリントしてください。

参照 詳細は、「4.1.5 画質」（P.205）を参照してください。

ServerManagerの設定に関する事例

Q ServerManagerのパスワードを変更したい。

A ServerManagerの［管理］→［ユーザー管理］を選択し、変更してください。

参照 詳細は、『ユーザーズガイド 導入編』の「1.2.2 ユーザー管理」を参照してください。

Q Windowsのアカウントを管理したい。

A コマンドプロンプトを使用してください。

参照 詳細は、『ユーザーズガイド 導入編』の「1.1 Print Serverの設定をする」を参照してください。

Q ServerManagerに、管理者モードでログインして起動したい。

A ServerManager の［システム］→［初期設定］→［その他の設定］で、［ログインモードの設定］の［自動ログインする］にチェックマークを付けてください。

参照 詳細は、『ユーザーズガイド 導入編』の「1.2.2 ユーザー管理」を参照してください。

Q WebManagerからアップロードプリントをしたとき、エラーになった。

A WebManagerを使用してプリントするときは、プロキシサーバーを経由しないで、直接Print Serverに接続してプリントしてください。

PostScriptに関する事例

Q EPSファイルをプリントしたとき、ジョブが消えてしまった。

A ServerManagerの［システム］→［プリントジョブの設定］の［EPSをPostScriptとして扱う］にチェックマークが付いていることが考えられます。
showpageコマンドが付いていないEPSファイルをプリントした場合に、この機能がオンになっていると、showpageコマンド自動付加が抑制されてジョブが消えることがあります。

参照 詳細は、『ユーザーズガイド 導入編』の「1.5.2 ServerManager の環境設定」の「プリントジョブの設定」を参照してください。

Q 保持ジョブでページ設定をしてプリントしたとき、PostScriptエラーになる。

A ServerManagerの［システム］→［プリントジョブの設定］の［ページ指定のプリントを高速化］にチェックマークが付いていることが考えられます。
この機能をオフにすると、先頭ページからRIP処理されるため、現象を回避できます。

参照 詳細は、『ユーザーズガイド 導入編』の「1.5.2 ServerManager の環境設定」の「プリントジョブの設定」を参照してください。

Q QuarkXPress 4.1からプリントしたとき、用紙サイズ設定が反映されず、PostScriptエラーになる。

A PPDの記載内容によるためです。
QuarkXPressの印刷設定で、[設定]＞[プリンタ記述]＞[カラー一般]を選択して、プリントしてください。

Q QuarkXPressから分版プリントしたとき、EPS画像が抜けた。

A Illustrator 8.0のEPSファイルだけに起こる現象です。
Illustratorの保存形式を8.0以外にするか、またはプロセスカラーのスウォッチの［個別に適用］にチェックマークを付けてください。また、QuarkXPressからコンポジットプリントすると、エラーを回避できます。

7.5.2　用語集

Print Serverに関連する用語は、印刷用語をはじめ編集用語やDTP用語など、多岐に渡ります。

Print Serverの機能を理解し、本文を読み進むうえでの参考にしてください。

APPE［エー・ピー・ピー・イー］

Adobe PDF Print Engineの略。

PDFファイルのRIP処理のときに、PostScriptに変換しないで、そのままレンダリングできるRIP用ソフトウェア。透明効果やレイヤー機能などの情報が欠落することなく、高速で高品質な出力ができます。

CIEbased［シー・アイ・イー・ベースド］

CIEが発表しているデバイスに依存しないカラーモデルをもとに、色再現することをいいます。（CIEは、commission Internationale de l'Eclariageの略で、国際照明委員会のこと）

CPSI［シー・ピー・エス・アイ］

Configurable PostScript Interpreterの略。

PDFファイルのRIP処理のときに、いったんPostScriptファイルに変換して、透明部分やレイヤー部分を分割、統合するため、出力イメージにずれが発生することがあります。

DeviceCMYK［デバイス・シー・エム・ワイ・ケイ］

CMYKの%が指定されたカラー定義です。

シアンだけのデータでも、ほかの3色（MYK）に「0」という数値が定義されます。

DeviceN［デバイス・エヌ］

Adobe PostScript 3、およびPDF1.3以降で使われるようになったカラー定義で、色数は決まっていません。

CMYKと特色を同じように扱い、多色印刷にも対応しているカラー定義です。

GCR［ジー・シー・アール］

Gray-Component Replacementの略。

カラー画像のグレーの部分からCMYの成分を取り除き、Kの濃淡に置き換えることをいいます。

画像を変換するときに、GCRの値を調整できるアプリケーションもあります。

ICCプロファイル［アイ・シー・シー・プロファイル］

International Color Consortiumの略。

各デバイスの色再現に関する情報が記述されているファイルのことをいいます。

IE［アイ・イー］

Image Enhancementの略。文字の輪郭などをくっきり見せることをいいます。

In-RIPセパレーション［イン・リップ・セパレーション］

一般的なカラー分解は、アプリケーション、またはプリンタードライバーによって、CMYKの分解データが作成されます。しかし、Adobe PostScript 3対応のRIP（In-RIPセパレーション）を使用すると、RIP内部で製版に必要なセパレーションやトラッピングができます。

IT8［アイ・ティー・エイト］

デバイスのキャリブレーションを行うための標準チャートのことをいいます。

L*a*b*［エル・エー・ビー］

「L（Luminance）」は明度、それに直交する平面の「a」軸はRed～Green、「b」軸はYellow～Blueを表しています。CIE XYZを視覚的に理解しやすくする目的で考案された表色系で、RGBやCMYKとは異なり、人間の視覚（明度レベル）と近似しています。

OPI［オー・ピー・アイ］

Open Prepress Interfaceの略。

同一のソースから低解像度と高解像度の画像を作成しておくことで、低解像度（軽い）画像でアプリケーション作業をし、出力時に高解像度画像と自動で差し替えることをいいます。

PPDファイル［ピー・ピー・ディー・ファイル］

PostScript Printer Description Fileの略。

ポストスクリプトプリンターの設定情報が記述されているファイルのことをいいます。

RIP［リップ］

Raster Image Processorの略。

ポストスクリプトデータをビットマップに展開することをいいます。

Separationカラースペース［セパレーション・カラースペース］

通常、特色に使用されるカラー定義で、基本的に1色しか扱えません。

DeviceCMYKがCMYK4色しか定義できないため、特色を定義するために必要なカラー定義ですが、実際には特色だけでなく、CMYKのうちの1色を定義する場合にも使用されます。

UCR［ユー・シー・アール］

Under Color Removalの略。

カラー画像の黒色の部分からCMYの成分を取り除き、Kの濃淡に置き換えることをいいます。

RGBモードからCMYKモードに画像を変換するときに、UCRの値を調整できるアプリケーションもあります。

網点［あみてん］

印刷で色の濃淡が置き換えられる大小の点のことで、ハーフトーンともいいます。

色分版［いろぶんぱん］

RGB画像をプロセス印刷で使用する4色のインキに対応したCMYKの画像に分けることをいいます。

オーバープリント

オブジェクト同士が重なり合う場合に、上下の色を重ねてプリントすることをいいます。プリントのずれで白地がでることを防ぎます。

ブラックの文字はすべてオーバープリントするように、デフォルト設定されているアプリケーションもあります。

ガンマ補正［ガンマほせい］

感光材の感光特性を表すカーブのことをガンマといい、プリンターのガンマ値に応じた最適のカーブに補正することをガンマ補正といいます。

Print ServerやPhotoshopは、画像のガンマ補正をしてコントラストや明暗を調整できます。

キャリブレーション

色の経時変化を補正して、デバイスの色再現性を標準状態に維持することをいいます。

コンポジットプリント

一般的なカラーのプリントの方法で、オフセット印刷と異なり、ファイルで使用されているすべての色が1つの版にプリントされるようにデータが処理されます。

Print Server の分版合成プリントでは、一度分版したあと合成しているので、コンポジットプリントとは、プリント結果が異なります。

スクリーン線数［スクリーンせんすう］

画像をプリントするときに使われる、網点の列、または線の数をいいます。

出力解像度とスクリーン線数の組み合わせで、画像のきめ細かさが変化します。フィルム出力で使うスクリーン線数は、イメージセッターの解像度や印刷方法、および用紙によって異なります。

墨版保持［すみはんほじ］

CMYKデータをプリントする場合に、色再現で重要な役割を持つK（墨）版の情報を保持するしくみのことをいいます。

特色［とくしょく］

あらかじめ色を混ぜ合わせた、さまざまな色のインキのことです。特色インキは、会社のロゴなど、色を正確に再現するときに使われます。スポットカラーともいいます。

抜き合わせ［ぬきあわせ］
　オブジェクト同士が重なり合う場合に、下になる色を上の形で白く抜くことで、ノックアウトともいいます。
　半透明の印刷インキを使うときに、色が重なって別の色になることを防ぎます。

のど
　プリントされる部分と本の背になる部分との間の空間をいいます。

プリフライト
　ファイルが正しくプリントされるのを確認することをいいます。

プロセスカラー
　CMYKの網点を重ね合わせて、さまざまな色を擬似的に再現する半透明のインキのことです。

プロファイル
　プリンターごとのカラー属性を定義したファイルのことをいいます。

分版出力［ぶんぱんしゅつりょく］
　印刷に使用するインキごとに、色の要素を分けてフィルムに出力します。
　プロセスカラー印刷では、各ページがCMYKの４枚のフィルムになります。

ヘアライン
　小さな文字や極細線のことをいいます。

ホワイトポイント
　画像内のもっとも明るい位置のことで、白点ともいいます。

レジストレーションカラー
　全版100%（C：100%、M：100%、Y：100%、K:100%）の色のことです。

連続階調［れんぞくかいちょう］
　写真のように、色と色がなめらかに変化していることをいいます。

Index

記号・英数

2アッププリント....35
2色印刷シミュレーション....16
APPE（Adobe PDF Print Engine）....194
CMYK色補正....202
CMYKシミュレーション....202
CMYKプロファイル....86, 91
CPSI（Configurable PostScript Interpreter）....194
DropUtility....254
Easy Magnifier....278
EPS（JPEG圧縮）のカラー出力....209
EPS（JPEGエンコーディング）画像....329
FTPサーバーの追加....185
i1_Reader....67
ICCプロファイル....78
Image Enhancement/白抜き文字の強調....209
Kオーバープリント....207, 328
PDF/Xの出力インテントを使用する....202
PDFで保存する....229
PDFのトリミング領域をページサイズとする....219
POP before SMTP....168
Printer Status Monitor....281
PSプリフライト....26
QRコード検出....22
Raster Image Viewer....154
RGB色補正....199
RGB色補正プロファイル....78
RGB画像警告....19, 319, 348
RGBガンマ補正....200
RGBグレーをKに置換....210
RGB黒をKに置換....209
RGB出力インテント....201
RGB出力プロファイル....81, 201
RGB入力プロファイル....82
RGBホワイトポイント....200
RIP....194
RIP後のデータをファイルに保存....228
RIPサイズ....32, 37
RIP済みデータの保存....221
ServerManager....116
SMTP認証....168
TCP/IPからのプリント使用制限の設定....333
TIFFで保存する....228
WebManager....265
Windowsネットワークの追加....186

あ

合紙....217
明るさ調整....197
アップロードタブ....273
アドレス制限....237
アドレス帳....179

い

イメージの回転を許可する....38
イメージのタイトル....230
色分版の合成....14
インキ総量警告....20, 321
印字位置....246
印字情報....244

う

ウォーターマークの設定....239
うら表紙....216

え

エラージョブメッセージ....300
エラーダイアログボックス....299
エラーリスト....117
エラー履歴の収集....295

お

オーバープリント警告....22, 324
オプションメモ....222
オフセット排出....227
おもて表紙....216

か

開始原点....38
開封確認を要求する....169
画質....205
画像警告....19
画像品質....209
片方を180度回転....38
カタログ印刷....32
カバーページをプリントする....234
紙折り....227
カラー....195
カラー詳細
　CMYK設定....202
　RGB設定....199
　共通設定....198
　特色設定....203
カラー置換....198
カラー置換設定ファイル....112
カラーマネージメント....49
カラーマネージメントのワークフロー....50
カラー（メニュー）....128
カラーモード....50, 196
管理（メニュー）....128

き

基本設定 193
キャリブレーション 53, 207
キャリブレーションターゲット 56
キャリブレーションターゲットファイル 64
キャリブレーションチャート 54
キャリブレーションファイル 55, 59
強制上書き 43
鏡像する 220

く

クライアントの通信設定 238
グラデーション 209
グラフィックス 229

け

原稿タイプ 207
原稿の向き 213
原稿ページ範囲 211
現在の設定 192
検索結果（ボックス） 116

こ

コントラスト 201
コンポジットオーバープリント 206
コンポジット特色補正 203

さ

最終ページから印刷 227
細線調整 209
最大合計送信サイズ 169
最大接続クライアント数 237
彩度 201
差込印刷 39
サーバー情報 167
サーバーの通信設定 237
サーバーのポート番号 167
サムネール編集 137

し

時刻指定ジョブの最大値 169
システム（メニュー） 126, 130
指定単位（部/レコード）ごとに挿入 215
自動トレイの用紙設定 213
自動ホワイトバランス調整 200
写真画質の自動補正 200
写真の種類 200
シャープネス調整 207
受信終了後にRIP処理を開始する 221
受信ドメイン制限 170
受信（ボックス） 117
出力画像を180度回転する 220
出力範囲 34
出力プロファイル精度 83
出力方法 220
出力用紙サイズ 34, 38
小冊子作成 30
状態タブ 266
ジョブ検索 295
ジョブ情報 232
ジョブと履歴タブ 267
ジョブの最後に挿入 215
ジョブの先頭に挿入 215
ジョブの編集（プリントオプション項目） 190
ジョブ（メニュー） 127, 131
ジョブリスト 117
ジョブリスト更新間隔 238
処理中リスト 117
白のオブジェクトをノックアウトする 207

す

スタートアップページ 294
ステータス更新間隔 238
ステータスメッセージ 120
スプールオプション 220
スムージング 209
ずらし量 33

せ

セキュリティーに関する設定 344
セキュリティプリントをする 230
接続タイムアウト 238

そ

送信（ボックス） 117
送信先の設定 262
挿入位置 215
測色器 67
測色データ 87
ソートする（1部ごと） 227
その他（セキュリティ） 230
その他の設定（画質） 208
その他の設定（出力方法） 225
その他の設定（用紙/ページ） 219
ソフトウェアのダウンロード 275

た

代替フォントの設定 293

ダウンロードタブ 275
ターゲット色 48
単位 215

つ

通信履歴 175

て

ディスクデータスウィーパー 297
手差し手動両面 214
手差し設定 214
手差しのおもて面/うら面指定 35

と

特殊ページ 216
特色 103
特色警告 20, 320
特色チャート 109
特色透過率 208
特色パレット 106
特色補正インテント 203
特色補正プロファイル 93, 203
匿名アクセス 346
とじ方 32
とじしろ量 32
トナー総量調整 198
トナー量 122
トラッピングの自動処理 208
トラップ指定を無視する 209
トレイ情報 122

な

長さの単位 238
中とじ/中折り 33

ね

ネットワーク状態エリア 122

の

ノイズの軽減 210
濃度調整 197
濃度調整カーブ 99

は

排出先 226
排出/フィニッシング/両面 226
倍率の調整 224
パスワード 344
パターン画像セット 87
ハードディスク使用量 122
パンチ 227

ひ

人肌補正 201
表紙付け 216
表示（メニュー） 129, 136
標準に戻す 169
表紙用トレイ 34
ビルドジョブ 143

ふ

ファイルの受信 172
ファイルの送信 171
ファイルの転送 183
フォーム管理 40
フォームの登録 40
フォルダー（ジョブフォルダー） 119
フォルダーの共有 345
フォント情報 288
フォントディスク 290
フォントの更新 294
フォントのダウンロード 292
フォントのバックアップ 289
部数 210
プリファレンスタブ 272
プリフライト 228
プリンタードライバー 235
プリンタの特性設定 82
プリンタモード 206
プリント位置 224
プリントオプション項目 190
プリント方向 229
プリント（ボックス） 116
プリント履歴 286
プレビュー（ボックス） 116
プレビューエリア 121
プロファイルの取得 236
分割画像を合成 200
分割ファイルサイズ 168
分冊 33

へ

ヘアライン警告 21, 322
ページ数 212
ページ番号設定ファイル 242
ページ番号設定ファイルの管理 242
ページを自動縮小する 33
ヘルプ（メニュー） 130, 136

ほ

保持リスト 117
ホチキス 227
ボックス 116
ボックスの設定 166
ボックス（メニュー） 129
ホットフォルダ 44
ポート番号 237
本文用トレイ 35

ま

マージン 38
マシン消耗品状態エリア 122

め

明度 201
メモ書き 222, 329
メールサーバーのタイムアウト 168
メール受信 172
メール添付 171

ゆ

ユーザー情報 234
ユーザー調整 197
ユーザー調整カーブ 95, 158

よ

用紙サイズに合わせる 212
用紙サイズの変更 212
用紙種類 213, 214
用紙色 214
用紙設定 213
用紙挿入 215
用紙トレイ 211, 215
用紙の中心にプリント 212
用紙/ページ 210
余白を均等に配置する 38

ら

ラスター色補正モード 196

り

リピートプリント 36
両面 220, 226

れ

レイアウト 221
例外ページ 217
レコード指定 212
レコード番号 212
レコード分割 211

ろ

ログイン情報 167
ログインタブ 271

商品のお問い合わせ先について

この商品の保守、操作、修理(内容、期間、費用)のお問い合わせ、および消耗品をご購入される場合は、商品に貼られている保守サポートの問い合わせ先カードの裏面に記載のあるカストマーコンタクトセンター、または販売店にお問い合わせください。



表 面



裏 面

お問い合わせ先が不明の場合は、富士ゼロックス プリンターサポートデスクにお問い合わせください。

フリーダイヤル:0120-66-2209（フジゼロックス）　FAX:0120-14-1046

フリーダイヤル受付時間：土、日、祝日、および弊社指定休業日を除く 9 時～ 17 時 30 分
フリーダイヤルは、携帯電話・PHS および海外からはご利用いただけません。また、一部の IP 電話からはつながらない場合があります。
お話の内容を正確に把握するため、また後に対応状況を確認するため、通話を録音させていただくことがあります。

本機を廃却する場合は、お買い上げいただいた富士ゼロックス、各販売会社の担当営業にお問い合わせいただき、お申し込みください。
担当営業が不明な場合には、プリンター回収センターで受付します。
TEL：0120-88-8641　FAX：0120-22-6993
受付時間：9 時～ 12 時、13 時～ 17 時

弊社へのお問い合わせの際には、機種名と機械番号を確認させていただきます。
保守サポートの問い合わせ先カードの裏面の「機種」「機械 No.」、もしくは商品の背面、または側面の銀色のシールに記載されている「商品名」「商品コード」「SER#」を事前にご確認ください。

ご意見やご相談の受付窓口：お客様相談センター

電話：0120-27-4100（通話料無料）
FAX：0120-05-5035（通話料無料）

フリーダイヤル受付時間：土、日、祝日、および弊社指定休業日を除く 9 時～12 時、13 時～ 17 時
フリーダイヤルは、海外からはご利用いただけません。また、一部の IP 電話からはつながらない場合があります。
お話の内容を正確に把握するため、また後に対応状況を確認するため、通話を録音させていただくことがあります。

公式サイト：http://www.fujixerox.co.jp/
商品全般に関する情報、最新ソフトウェアなどを提供しています。

Print Server N01 ユーザーズガイド 運用編

著作者　―富士ゼロックス株式会社
発行者　―富士ゼロックス株式会社

発行年月 ―2019年2月　第1版

ME5443J1-4